

末日聖徒イエス・キリスト教会・2006年5月号

# リアホナ

総大会特集号





### 「シティークリーク」アル・ラウンズ画

中心に描かれているのは、神殿の北東に位置するシティークリークの4つの水車のうちのひとつである。遠景には1893年ごろのソルトレーク神殿が見える。この水車は、ユタ州セントジョージの聖徒たちから送られて来る絹を処理加工するのに使われた。プリガム・ヤング大管長は、服地の生産のために、家内工業として養蚕を奨励した。

# リアホナ

2 第176回年次総大会の概要

●土曜午前の部会

4 思いのままに行動する——  
選択の自由という賜物と祝福  
十二使徒定員会 ロバート・D・ヘイルズ

8 「思いやりの心と助けの手」  
管理監督 H・デビッド・バートン

11 豊かに注がれる祝福  
中央若い女性第一副会長  
ジュリー・B・ベック

14 幼子のように  
十二使徒定員会 ヘンリー・B・アイリング

18 真理を守り  
第一副管長 トーマス・S・モンソン

●土曜午後の部会

22 教会役員への支持  
第一副管長 トーマス・S・モンソン

23 2005年度教会監査部報告  
教会監査部実務運営ディレクター  
ロバート・W・キャントウエル

24 2005年度統計報告  
大管長秘書 F・マイケル・ワトソン

25 「主なるわたしはもう〔あなたの罪を〕  
思い起こさない。」  
十二使徒定員会会長代理 ボイド・K・バックナー

28 いつも主の御霊を受けられるように  
十二使徒定員会 デビッド・A・ベドナー

32 あなたの伝道がすべてを変える  
七十人 デビッド・F・エバンズ

34 選択の自由の賜物  
七十人 ウォルフガング・H・ポール

36 結婚のきずなをはぐくむ  
十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン

39 聖餐にあずかるとき  
十二使徒定員会 L・トム・ペリー

●神権部会

42 初めから終わりを知る  
十二使徒定員会  
ディーター・F・ワークトドルフ

46 教会の若者たち  
七十人会長会  
ロナルド・A・ラズバンド

48 悔い改め——  
会員であることの祝福  
七十人  
リチャード・G・ヒンクレー

50 王国の神権者  
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト

54 聖なる神権の義務  
第一副管長 トーマス・S・モンソン

58 さらに親切になる必要性  
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

●日曜午前の部会

61 万物の回復  
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト

69 壊れたものを元どおりに  
十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホランド

72 偉大な幸福の計画  
七十人会長会 アール・C・ティンギー

74 成長して主の役に立つ  
中央扶助協会第二副会長  
アン・C・ピングリー

77 どこにいる人でもすべての人に  
十二使徒定員会 ダリン・H・オークス

81 「神の王国を求めなさい」  
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

●日曜午後の部会

84 福音を伝える家庭を築く  
十二使徒定員会 M・ラッセル・バラード

87 今こそ伝道に出る時です  
十二使徒定員会 リチャード・G・スコット

90 シオンをバビロンのうちに得る  
七十人 デビッド・R・ストーン

93 主の平安を広める器  
七十人 ロバート・S・ウッド

96 祈りと信仰、家族——  
永遠の幸福への踏み石  
七十人 H・ブレース・ストゥーキ

99 豊かな人生  
十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワースリン

102 また会う日まで  
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

●中央若い女性集会

103 「あなたがたの掲げる光とは、わたしである。」  
中央若い女性会長 スーザン・W・タナー

106 高貴な生得権  
中央若い女性第一副会長  
ジュリー・B・ベック

109 顔に表れてくる  
中央若い女性第二副会長  
イレイン・S・ダルトン

111 あなたがたの光——  
もろもろの国民のための旗  
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト

64 末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

115 わたしたちの時代のための教え

116 指導者の言葉——  
大会の教えを生活に取り入れるために

118 アロン神権者および若い女性用  
リソースガイド

121 中央補助組織会長会

122 チャーチ・ニュース



# 第176回年次総大会の概要

## 2006年4月1日土曜午前、一般部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——ジェームズ・E・ファウスト副管長。開会の祈り——クラウディオ・R・M・コスタ長老。閉会の祈り——ニール・L・アンダーセン長老。音楽——タバナクル合唱団;指揮——クレーグ・ジェソップ, マック・ウィルバーク;オルガニスト——ジョン・ロングハースト, リチャード・エリオット。「夜明けだ, 朝明けだ」『賛美歌』1番; “Dearest Children, God Is Near You” 『賛美歌』(英語) 96番; 「部屋を出る前に」『賛美歌』78番, ウィルバーク編曲, ジャックマン刊; 「いざ救いの日を楽しまん」『賛美歌』5番; 「地は麗しく」『賛美歌』50番, ウィルバーク編曲, 未刊; “Consider the Lilies of the Field.” ホフマン, リオン編曲, ジャックマン刊; 「山の上に」『賛美歌』2番, ウィルバーク編曲, 未刊



## 2006年4月1日土曜午後、一般部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——トーマス・S・モンソン副管長。開会の祈り——セシル・O・サミュエルソン・ジュニア長老。閉会の祈り——グレン・L・ベイス長老。音楽——ブリガム・ヤング大学合同聖歌隊;指揮——ロザリンド・ホール;オルガニスト——ボニー・グッドリッフェ。“I Saw a Mighty Angel Fly” 『賛美歌』(英語) 15番, ルイス編曲, 未刊; 「今日われ善きことせしか」『賛美歌』137番, ザプリスキー編曲, プラム刊; 「来たれ, 主の子ら」『賛美歌』31番; 「われに来よ」『賛美歌』66番, マヌーキン編曲, ソノズ刊

## 2006年4月1日土曜夜、神権部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——トーマス・S・モンソン副管長。開会の祈り——ロナルド・T・ハルバーソン長老。閉会の祈り——ロバート・J・ホエットン長老。音楽——オレムおよびソルトレークインスティテュートの神権者による聖歌隊;指揮——ダグラス・ブレンチリー, ライアン・エジエツト;オルガニスト——リチャード・エリオット。“Awake, Ye Saints of God, Awake!” 『賛美歌』(英語) 17番, スターリー編曲, プラム刊; 「主はわが飼い手」『賛美歌』63番, ルース編曲, 未刊; 「感謝を神に捧げん」『賛美歌』11番; 「来ませ, 王の王」『賛美歌』29番

## 2006年4月2日土曜午前、一般部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——トーマス・S・モンソン副管長。開会の祈り——H・ブライアン・リチャーズ長老。閉会の祈り——マーリン・K・ジェンセン長老。音楽——タバナクル合唱団;指揮——クレーグ・ジェソップ, マック・ウィルバーク;オルガニスト——クレー・クリスチャンセン。「喜べ, 主を」『賛美歌』32番; 「主はみ子をつかわし」『子供の歌集』20-21, ブラッドフォード編曲, ネイチャー・シングズ刊; 「主イエスの愛に」『賛美歌』109番; 「イスラエルの救い主」『賛美歌』4番; “O Lord Most Holy” フランク, ロバートソンとシュレイナー編曲, 未刊; 「贖いの主」『賛美歌』73番, ウィルバーク編曲, 未刊

## 2006年4月2日土曜午後、一般部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——ジェームズ・E・ファウスト副管長。開会の祈り——ランス・B・ウィックマン長老。閉会の祈り——デニス・B・ノイエシユワンダー長老。音楽——タバナクル合唱団;指揮——クレーグ・ジェソップ, マック・ウィルバーク;オルガニスト——リンダ・マーゲッツ, ボニー・グッドリッフェ。“Sing Praise to Him” 『賛美歌』(英語) 70番, ウィルバーク編曲, 未刊; 「主イエスよ, 愛もて」

『賛美歌』57番, ウィルバーク編曲, 未刊; 「主のみ言葉は」『賛美歌』46番; 「主よ, われと共に」『賛美歌』94番, ゲーツ編曲, ジャックマン刊

## 2006年3月25日土曜夜、中央若い女性集会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——スーザン・W・タナー。開会の祈り——アネット・C・バーゲス。閉会の祈り——ジュシカ・バース。音楽——ユタ州オグデン地区の合同ステーク若い女性聖歌隊;指揮——メリリー・ウェッブ;オルガニスト——ボニー・グッドリッフェ。「主は光」『賛美歌』47番; “Shine the Light” モドレー, ハフ編曲, 未刊(「もっとかがやこう」『子供の歌集』96; 「光の中進もう」『子供の歌集』70-71; 「神の光受け」『賛美歌』191番); 「主は生けりと知る」『賛美歌』75番, ハフ編曲, 未刊(独唱: ヒラリー・ドッド); 「山の上に」『賛美歌』2番, ウェッブ編曲, 未刊

## 総大会の収録物の入手

総大会の各部会を収録したCDやDVDなどは、通常、教会管理本部配送センターから大会後2か月以内に多くの言語で入手できるようになっています。

## インターネット上での大会説教

インターネットにより、多くの言語で総大会説教にアクセスすることができます。アドレスは次のとおりです。——<http://www.lds.org> にアクセスし、“Gospel Library”, “General Conference” の順にクリックし、言語を選択してください。(訳注——日本語版の文字データを閲覧するには、<http://www.ldschurch.jp> にアクセスし、「ライブラリー」「大会説教」の順にクリックしてください。)

## ホームティーチングおよび家庭訪問

ホームティーチングまたは家庭訪問用のメッセージとしては、訪問する会員の必要性に最も適した総大会説教を一つ選んでください。

## 表紙の説明

表紙——写真/ウェルデン・C・アンダーセン。  
裏表紙——写真/クレーグ・ダイヤモンド

## 大会の写真

総大会の写真は以下のカメラマンによって撮影されました。ソルトレーク・シティー——クレーグ・ダイヤモンド, ウェルデン・C・アンダーセン, ジョン・ルーク, マシュー・ライアー, クリステイナ・スミス, レス・ニルソン, スコット・デービス, アンバー・クロウソン, ロッド・ボーム, ジョエル・レムケ, カンデラリア・アタラヤ。韓国——李 賢奎, 李 珉姫。メキシコ——クリスチャン・バラガン。フィリピン——アスレー・バーバ・グローリ。ウルグアイ——アベル・ゴメス。アメリカ合衆国ミズーリ州——ブレント・ジョーンズ。

リアホナ 2006年5月号

第8巻第5号(26985 300)

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー, トーマス・S・モンソン, ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー, L・トム・ベリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, ヘンリー・B・アイリング, ディーター・F・ウーグトルフ, デビッド・A・ベドナー

編集長:ジェイ・E・ゼンセン

顧問:モンティ・J・ブラフ, ゲーリー・J・コールマン, 菊地良彦

実務運営ディレクター:デビッド・フリッシュニク

編集ディレクター:ピクター・D・ケーブ

主任編集者:ラリー・ヒラー, リチャード・M・ロムニー

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーク

編集主幹:ピクター・D・ケーブ

編集主幹補佐:ジェニファー・L・グリーンウッド

副編集長:ライアン・カー, アダム・C・オルソン

編集補佐:スーザン・バレット

編集スタッフ:シャナ・バトラー, リンダ・ステール・クーパー, ラリー・ポーター, ガート, R・バル・ジョンソン, キャリー・カステン, メルビン・リービット, サリー・J・オドカーク, ジュディス・M・パーラー, ビビアン・ポールセン, サラ・R・ポーター, ジェニファー・ローズ, ドン・L・サール, レベッカ・M・テラー, ロジャー・テラー, ジャネット・トーマス, ボール・バンデンバーク, ジュリー・ワデル, キンバリー・ウェット

主任秘書:モニカ・L・ティッキンソン

編集インターン:ブリタニー・ジョーンズ・ビーム, ニュール・セイモア

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:カリ・R・アロヨ, コレット・ネベカー・オース, ハワード・G・ブラウン, ジュリー・バーテッド, トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステンセン, キャスリーン・ハワード, デニス・カービー, タッド・R・ピーターソン, ランドール・J・ピクストン,

印刷ディレクター:クレグ・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「[リアホナ]注文用紙」でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●[リアホナ]のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)

半年予約 1,200円(送料共)

普通号/大会号 200円

[リアホナ]への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。

Room 2420, 50 East North Temple Street,

Salt Lake City, UT 84150-3220, USA

電子メール:liahona@dschurch.org

[リアホナ](モルモン書)に出る言葉、「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語, アルバニア語, アルメニア語, イタリア語, インドネシア語, ウクライナ語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア語, キリシタ語, クロアチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, スペイン語, スロベニア語, セブア語, タイ語, タガログ語, タミル語, タミル語, 中国語, チェコ語, デルグ語, デンマーク語, ドイツ語, トンガ語, 日本語, ルウウェー語, ハイチ語, ハンガリー語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ブルガリア語, ベトナム語, ポーランド語, ポルトガル語, マーシャル語, マダガスカル語, モンゴル語, ヨトバ語, リトアニア語, ルーマニア語, ロシア語, (発行頻度は言語により異なります。)

©2006 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本 [リアホナ]に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月 原語—International Magazines May 2006. Japanese. 26985 300

[リアホナ]は、教会のホームページwww.lds.org(英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は世界地図をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:

May 2006 no. 5 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



話者リスト(50音順)

アイリング, ヘンリー・B, ……14  
 ウーグトルフ, ディーター・F, ……42  
 ウッド, ロバート・S, ……93  
 エバンズ, デビッド・F, ……32  
 オークス, ダリン・H, ……77  
 スコット, リチャード・G, ……87  
 ストゥーキ, H・ブルース, ……96  
 ストーン, デビッド・R, ……90  
 タナー, スーザン・W, ……103  
 ダルトン, イレイン・S, ……109  
 ティンギー, アール・C, ……72  
 ネルソン, ラッセル・M, ……36  
 バッカー, ボイド・K, ……25  
 バートン, H・デビッド, ……8  
 バラード, M・ラッセル, ……84  
 ビングリー, アン・C, ……74  
 ヒンクレー, ゴードン・B, ……58, 81, 102  
 ヒンクレー, リチャード・G, ……48  
 ファウスト, ジェームズ・E, ……50, 61, 111  
 ヘイルズ, ロバート・D, ……4  
 ベック, ジュリー・B, ……11, 106  
 ベドナー, デビッド・A, ……28  
 ベリー, L・トム, ……39  
 ポール, ウォルフガング・H, ……34  
 ホランド, ジェフリー・R, ……69  
 モンソン, トーマス・S, ……18, 22, 54  
 ラズバンド, ロナルド・A, ……46  
 ワースリン, ジョセフ・B, ……99

テーマ別索引

あ 愛 ……99, 103  
 証 ……50, 81, 87, 102  
 贖い ……25, 48, 72  
 アブラハムの聖約 ……106  
 アロン神権 ……39, 50  
 安全 ……14  
 イエス・キリスト 48, 69, 77, 102  
 一致 ……93  
 祈り ……96  
 思いやり ……26, 74, 91  
 か 改宗・改心 ……77  
 回復 ……54, 61  
 家族 ……36, 46, 96, 103  
 可能性 ……99  
 神の性質 ……111  
 感謝 ……81  
 寛容 ……58, 93  
 キリストの光 ……111  
 悔い改め ……25, 48, 69  
 結婚 ……36  
 幸福 ……32  
 子供 ……14  
 コミュニケーション(理解し合う) ……36  
 さ 恋愛 ……8  
 シオン ……90  
 死すべき状態 ……18  
 従順 ……34  
 祝福 ……11  
 祝福師の祝福 ……106  
 神権 ……11, 54  
 信仰 ……14, 74, 96, 102  
 人種差別 ……58

人道支援 ……8  
 救いの計画 ……34, 72  
 正義 ……109  
 聖餐 ……39  
 青少年 ……46  
 聖約 ……28, 39, 61  
 聖霊 ……4, 14, 28  
 責任 ……50  
 選択の自由 ……4, 34, 81  
 備え ……87, 111  
 た 知恵の言葉 ……18  
 伝道活動 ……32, 84, 87  
 は 背教 ……61  
 働き ……58  
 バプテスマ ……28  
 光 ……103, 106, 109  
 標準 ……42, 90  
 負債 ……18  
 ふさわしさ ……42  
 復活 ……72  
 平安 ……69, 93  
 奉仕 ……8, 32, 74, 103  
 ポルノグラフィー ……18  
 ま 物の見方 ……42  
 模範 ……46, 54, 84, 106, 109  
 モルモン書 ……77  
 や 友情 ……84  
 誘惑 ……4, 18  
 赦し ……25  
 預言者 ……96, 104  
 喜び ……99  
 5 霊性 ……74  
 霊的な賜物 ……11

# 思いのままに行動する ——選択の自由という たままもの 賜物と祝福

十二使徒定員会  
ロバート・D・ヘイルズ

選択の自由を義にかなって使うなら、光が闇を払いのけ、人は……喜びと幸福のうちに生き……ることができ……ます。



**預**言者、ゴードン・B・シンクレイ大管長の証に感謝します。大管長が主の靈感に従うことを選択し、モルモン書を読むように勧めてくれたことに対する感謝を、全世界の会員を代表して表明します。あの靈感された勧告により、わたしたちは豊かに祝福されました。モルモン書の最初の預言者である父リーハイも、主に従うことを選択しました。リーハイは「家族を連れて荒れ野へ出て

行くように」<sup>1</sup>命じられます。旅は過酷で、息子のレーマンとレムエルは不平を言いますが、リーハイは家族を約束の地へ導きました。しかし、そこは平安の地ではありませんでした。レーマンとレムエルが選択の自由を使って主に逆らったので、リーハイの「心は〔彼らを思って〕悲しみに押しつぶされ」<sup>2</sup>ました。リーハイは死ぬ前に子供たちを集め、祝福し、勧告を与えました。<sup>3</sup> 反抗的な息子たちには、悔い改めと誠実を熱心に説きました。「目を覚ましなさい、息子たちよ。……あなたがたを縛っている鎖を振り払い〔なさい。〕」<sup>4</sup>そして義にかなった息子ヤコブに、最後の、最も大切な教えを伝えました。

わたしたちの子や孫に、最も大切な教えの一つだけ残せるとしたら、何を教えるでしょうか。リーハイは、福音の栄えあるすべての原則の中から、救いの計画について、そして選択の自由という賜物について息子に教えることにしました。

リーハイは「人は善悪をわきまえることを十分に教えられている」<sup>5</sup>と教えました。この神聖な教えは、初めに天で教えられました。天の大いなる会議で御父は、わ



たしたちをこの死すべき世において試すため、「何であろうと、主なる〔わたしたち〕の神が命じられるすべてのことを〔わたしたち〕がなすかどうかを見〔る〕」<sup>6</sup>ために、選択の自由という賜物を存続させることになさいました。

しかし、サタンは神と神の計画に反対して言いました。「わたしは全人類を贖〔い〕ましよう。……ですから、わたしにあなたの誉れを与えてください。」<sup>7</sup>「サタンはわたしに背いて、主なる神であるわたしが与えた、人の選択の自由を損なおうとしたので、……わたしは……彼を投げ落とさせた。」<sup>8</sup>「そして、その日、多くの者が彼に従った。」<sup>9</sup> 確かに「天の衆群の三



分の一<sup>10</sup>は、選択の自由を使って神の計画を拒否しました。

あなたもわたしも、天の御父の計画、すなわち地上に来て、死すべき人生を歩み、成長するというその計画を受け入れるために、選択の自由を使った者の一人でした。「地上に来て肉体を受ける機会があるので……わたしたちは声を上げて喜びました。忠実であれば、わたしたちの父なる神のようになれる[と知っていたのです。]」<sup>11</sup>

今、わたしたちは地上にいます。ここでは選択の自由を使う機会がたくさんあります。なぜならここでは「すべての事物には反対のものが[ある]」<sup>12</sup>からです。反対のものに囲まれることは、人生の目的に

不可欠です。リーハイもまさに次のように説明しています。「人の行く末にかかわる永遠の目的を達するために……主なる神は思いのままに行動することを人に許された。しかし人は、一方に誘われるか他方に誘われるかでなければ、思いのままに行動することはできなかった。」<sup>13</sup>

アダムとエバは、神の子供たちの中で最初に誘惑を経験しました。全人類を惨めな状態にするため、「あらゆる偽りの父」<sup>14</sup>であるサタンはアダムとエバを誘惑しました。二人は「禁断の実を食べ[ることを選択したので]、エデンの園から追い出され、地を耕すことにな」<sup>15</sup>りました。その選択によって、彼らはまた「子供をもうけ、……全地

の家族をもたら」<sup>16</sup>すこととなり、この世は彼らと子孫にとって「試しの状態となり」<sup>17</sup>しました。だからリーハイはヤコブにこう教えたのです。「見よ、すべての物事は、万事を御存じである御方の知恵によって行われてきた。アダムが墮落したのは人が存在するためであり、人が存在するのは喜びを得るためである。」<sup>18</sup>

時々わたしたちは、天の御父がわたしたち一人一人にこの喜びを得てほしいと切望しておられるのを忘れてしまいます。その喜びが得られない唯一の原因は、誘惑や罪に負けることです。人が誘惑や罪に屈服することこそ、サタンが望んでいることなのです。



以前スパンサー・W・キンボール大管長に同行して遠い国へ行く機会がありました。周辺の名所旧跡に案内され、その中には、キリスト教の狂信者によって迫害された民が眠る地下埋葬所もありました。その暗くて狭い階段を上ったときに、キンボール大管長から忘れられない教えを受けました。大管長はわたしの上着のすそを引いて言いました。「主の御名を使って悪魔が行うことには、いつも心が痛みます。」そして言ったのです。「ロバート、わたしたちが罪を犯さないかぎり、悪魔は決して喜ばないんだよ。」

この言葉をよく考えながら聖文を研究すると、キンボール大管長が何を言おうとしていたのか分かるようになりました。モルモン書に記されている、地上に住むすべての人々に向けられた主の御言葉を思い出しました。「災いである、災いである、この民は災いである。全地の民は悔い改めなければ災いである。わたしの民の麗しい息子、娘たちが殺されたことを、悪魔は笑い、悪魔の使いは喜んでい。」<sup>19</sup> 悪魔は人の罪を見て笑います。悪魔は人の悲しみを見て喜ぶのです。

悪魔は確かに笑いますが、その力には限界があります。「悪魔がわたしにそうさせたんだ」とう古い決まり文句を覚えてい

る人もいます。今日わたしは、明確な言葉ではっきり言います。悪魔は人に何もさせることはできません。聖文にあるように、悪魔は確かに門口で待ち伏せていて、毎日わたしたちの後を追っています。<sup>20</sup> 家を出るときや、何かを決めるときはいつも、わたしたちは悪魔と救い主のどちらの方に近づくか選択しているのです。しかし、人が悪魔に立ち去れと言え、悪魔は立ち去ります。人が許さなければ、悪魔は人に影響を及ぼせません。悪魔はそれを知っています。悪魔が人の心と体、霊にさえ影響を及ぼせるのは、唯一、人がそれを許したときだけです。つまり、人は悪魔の誘惑に屈する必要はないのです。

わたしたちには選択の自由が与えられ、神権の祝福が与えられています。キリストの光と聖霊が与えられています。これには訳がありません。それは、この世で成長し、幸福になるため、そして次の世で永遠の命を受けるためです。今日、皆さんに尋ねます。皆さんは御霊を受けていますか。御霊に従って、神のみもとと永遠の命へ導く細くて狭い道を歩んでいますか。鉄の棒にすがっていますか。それともほかの道を歩んでいますか。道をそれずに歩むとは、永遠の目的地にたどり

着くまで、日々、感情と思考と行動を自分で正しく選択することであると証します。

さて、狭い道に常にとどまっている人はだれもいません。人は皆、過ちを犯します。ですからリーハイは——救い主が選択の自由を守り、取り戻してくださることを理解していたリーハイは——ヤコブに、そしてわたしたちに、こう教えたのです。「時が満ちると、人の子らを墮落から贖うためにメシヤが来られる。人の子らは墮落から贖われているので、すでにとしえに自由となり、善悪を知るようになっている。……思いのままに行動することができ、強いられることはないのである。」<sup>21</sup> これこそが鍵なのです。すなわち「思いのままに行動することができ、強いられることはない」のです。

末日に生きるわたしたちは、古代の人々の模範に従って、悪に作用されるのではなく悪を避ける行動を自ら起こさなければなりません。聖霊が促してください。ヨセフはポテパルの妻から逃げるよう促されました。アブラハムはウルの地から逃れよとの戒めに従いました。リーハイはエルサレムが滅ぼされる前に逃げるよう教えられました。マリヤとヨセフは、救い主の命を守るためにエジプトに逃れるよう促されました。

悪から逃れるようにと促してくださることから、天の御父がわたしたち一人一人の強さと弱さを御存じあることと、人生で遭遇する予期せぬ出来事に御父が気づいておられることが分かります。そのような促しは、普通、人の動きを力ずくで停止させるものではありません。なぜなら、神の御霊は雷のような声では語られないからです。それはささやくように優しい声で、何かを思いつかせたり、感じさせたりしてくださいませ。その静かな促しに注意を傾けることにより、罪の及ぼす破壊的な結果から守られるのです。

しかし、その促しを無視すると、御霊の光は消えていきます。選択の自由は制限されるか、または失われます。そして、行動する自信や能力を失います。「真昼に〔霊的な〕暗闇の中を歩〔く〕」<sup>22</sup> ことになります。そして、正しくない道に迷い込み、道を見失いやすくなります。リーハイが反抗的な息子たちに語った罪の鎖に、すぐに縛られてしまうのです。<sup>23</sup> 例えば、大きな負債を背負うことを選択すれば、欲しいものや必要なものを購入する選択の自由を失います。緊急時のために蓄えておくこともできません。法律を破ることを選択すれば、刑務所に入れられるかもしれません。そこでは選択の自由はないに等しく、行く所も、会う人も、行うことも選べません。霊の獄もそれと非常によく似ています。ですから、選択の自由を維持するために、日々、主なる救い主の光の中を歩み、従順の道をたどらなければなりません。それが天の御父のみもとへ戻る唯一の道なのです。

もしも不義な選択によって神のみもとへ続く道から外れてしまったら、与えられている選択の自由、もう一度行使できる選択の自由を、思い出す必要があります。特に、悪い習慣から抜け出せない人々に言います。もし、破壊的な習慣に縛られているとしたら、霊的なブラックホールに感じることでしょう。宇宙にあるほんとうのブラックホールのように、二度と光がさし込まないのではないかと思えるかもしれません。どうすれば抜け出せるのでしょうか。唯一の道は、あなたが前世

で雄々しく行使した選択の自由、あなたが与えないかぎり、悪魔によって決して奪われることのない、あの選択の自由を行使することであると証します。

どうすれば選択の自由を取り戻せるでしょうか。再び正しく使うにはどうすればよいでしょうか。信仰をもって従順に行動することを選ばなければなりません。今日からすぐに始められる基本的な選択をいくつか提案しましょう。

あなたは神の子で、神から愛され、神にはあなたを助ける力がおあります。それを受け入れること——心から受け入れることを選んでください。

神の御前まへにある聖壇に、すべてを——文字どおりすべてをささげることを選んでください。自分が神の子であることを信じてください。神に人生をささげ、神の御心こころを行うために選択の自由を使うと決意してください。このことは人生で何度も繰り返すことになるかもしれません。それでも、決して、決してあきらめないでください。

祈ることを通じて、聖文を学ぶことを通じて、教会の集会に出席しているときに、家庭にあるときに、人との健全な交わりを通じて、神の御霊を享受できる環境に身を置くことを選んでください。御霊の影響を感じる時、あなたは清められ始め、次第に強められていきます。光がさし込み始めます。そして、光が照らす所には、悪の暗闇はとどまることができないのです。

バプテスマの聖約をはじめとする聖約に従い、聖約を守ることを選んでください。ふさわしい状態で聖餐せいさんを取ることに、聖約を毎週新たにしてください。

ふさわしい状態で神殿に参入するように備え、神聖な聖約を交わし、また更新し、救いの儀式をすべて受け、福音の祝福をすべて享受することを選んでください。

最後に最も大切なこととして、イエス・キリストの贖いを信じることを選んでください。救い主の赦しを受け入れてください。そして自分を赦してください。主はあなたの犠牲となられたので、「もう〔あなたの罪〕を思い起こさない」<sup>24</sup> ことがおできになるのです。あなたも忘れなければなりません。

道に戻り、再び「自由に選択できる」よ

うになった後は、すでに悔い改めた罪を恥じる気持ちを捨て去ることを選択してください。過去に失望することなく、未来への希望をもって喜んでください。忘れないでください。サタンは人が「自分のように惨めになること」<sup>25</sup> を望んでいるのです。サタンに負けないほど強く幸福を望んでください。幸福でいてください。この世と永遠の世を通じてあなたを待つ、あなたの人生と、機会と、祝福について確信していてください。

最後に、選択の自由は自分のためだけにあるのではないことを忘れないでください。選択の自由は人のためにも使うべきものです。試練や苦難の中にいる人を助け、強めるのです。中には、誤った選択の結果、選択の自由を十分には使えなくなっている兄弟姉妹もいます。誘惑に身をさらさないようにしながら、イエス・キリストの福音の光を受け入れるよう人々を招く必要があります。友情と愛によって、従順の道を歩むように導いたり、選択の自由を使ってもう一度正しい選択をするように励ましたりすることができます。

父リーハイが家族に選択の自由という祝福について証したように、わたしも、愛する兄弟姉妹である世界中の皆さんと、わたしの家族に対して心から証します。選択の自由は天の会議において明らかにされ、わたしたちは天の御父の計画に従い、この試しの期間に死すべき世に来ることを選びました。選択の自由があるために、人は最後まで堪え忍んで、天の御父のみもとへ立派に帰ることができるかどうか試されます。選択の自由は、人の内側にある霊的な願望を、キリストのような行動によって外側に表すように促します。選択の自由のおかげで、人は忠実で従順な選択をして自分を強め、人を助け、強めることができます。選択の自由を義にならなくて使うなら、光が闇を払いのけ、人は現在を喜びと幸福のうちに生き、信仰をもって永遠へと続く未来を見ることができ、過去の出来事にとらわれることもなくなります。選択の自由をどう使うかで、現在と将来の自分が決まるのです。

選択の自由という天の祝福を享受した

いと望むすべての人に証します。選択の自由は信仰と従順によって強められます。選択の自由は行動を促します。見いだすために探すよう促し、御霊の導きを得るために求めるよう促し、霊的な光と最終的な救いに導かれるために門をたたくよう促すのです。救い主イエス・キリストはその光の源であり、まさに世の光であり命であられることを特別に証します。主に従って選択の自由を使うなら、主の光はわたしたちの内ですます輝きを増して、やがてわたしたちが永遠にわたって天の御父の御前に受け入れられるときには、真昼の光となることでしょう。<sup>26</sup> その神聖な栄えある目的のために選択の自由を使えますよう、イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。

注

1. 1ニーファイ2:2
2. 2ニーファイ1:17
3. 2ニーファイ1:14参照
4. 2ニーファイ1:23
5. 2ニーファイ2:5
6. アブラハム3:24-25参照
7. モーセ4:1
8. モーセ4:3
9. アブラハム3:28
10. 教義と聖約29:36
11. ジョセフ・フィールドینگ・スミス, Man, His Origin and Destiny (1965年), 277
12. 2ニーファイ2:11
13. 2ニーファイ2:15-16
14. 2ニーファイ2:18
15. 2ニーファイ2:19
16. 2ニーファイ2:20
17. 2ニーファイ2:21
18. 2ニーファイ2:24-25
19. 3ニーファイ9:2
20. 創世4:7, モーセ5:23参照
21. 2ニーファイ2:26
22. 教義と聖約95:6
23. 2ニーファイ1:13参照
24. 教義と聖約58:42
25. 2ニーファイ2:27
26. 教義と聖約50:24参照

# 「思いやりの心と助けの手」

管理監督

H・デビッド・バートン

**思いやりの心と助けの手によって多くの人々の重荷を軽くしてきた一人一人に、心からの感謝をお伝えします。**



昨年、バートン姉妹とともに中華料理を楽しみました。わたしのフォーチュン・クッキー(訳注——中華料理で出される、おみくじ入りのクッキー)には、次のようなメッセージが書かれていました。「あなたの抱えているストレスは、まもなく解消するでしょう。」これは、もうすぐ成就しそうです。

ある日、男性たちが集まって預言者ジョセフ・スミスと話していました。町から遠い所に住む、ある貧しい男性の家が焼き払われたとの知らせが入ったのです。この出来事に、だれもが深い悲しみを表していました。預言者はしばらく耳を傾けてから、「ポケットからお金を出して言いました。『わたしがこの兄弟を気の毒に思う気持ちを、5ドルのお金で表そうと思います。皆さ

んはどのくらい彼のことを気の毒に思っていますか?』<sup>1</sup> ジョセフがすぐに対応したことはすばらしい模範です。昨年、何百万人もの皆さんが、金銭や思いやり、そして助けの手をささげて人々の悲しみを和らげようとしました。皆さんの惜しみなくささげる精神に感謝します。

思いやりは、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員の重要な特質です。預言者アルマはこう語りました。

「あなたがたは神の羊の群れに入って、神の民と呼ばれたいと願っており、重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合うことを望み、また、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることを望……んでいる。」<sup>2</sup>

救い主はわたしたちに、「弱い者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひざを強めなさい」<sup>3</sup>とお命じになりました。

わたしは恵まれて、末日聖徒やそうでない方々の献身ぶりをじかに見てきました。思いやりの心と助けの手を有する人々であり、「互いに重荷を負い合」<sup>4</sup>う人々です。わたしは、大規模な破壊を目にしたり、希望を失った被災者を訪問したりするときに、深い悲しみを感じてきました。

最近、大自然が、異常で強力な方法によって人類に報復し、力を誇示しています。2004年12月の下旬には、インドネシア沖で地震による大津波が発生し、多くの人命を奪い去りました。そして、生き残った人々の生活にも深いつめ跡を残してい

ました。教会は、地元の神権指導者や夫婦宣教師の指示の下、即座に行動を起こし、インドネシア、スリランカ、インド、タイの病院や救急隊、地域社会に緊急の援助を提供しました。

短時間のうちに、何人かの教会員は最も被害の大きかった地域の一つであるスマトラ北部のアチェ地区へ向かいました。インドネシアのジャカルタにいた地方部若い女性会長、バーサ・スラント姉妹は、仲間を連れて、支援物資を満載したトラックで被災地に乗りました。命を救い、多大な損失を被った人々を励ますためです。

バーサはこう語ります。「村に訪問するといつでも、人々がわたしたちを取り囲み、自分たちの食物もだれかに分けてあげてほしいと食料を差し出してきました。彼らにはほんの少しのお米や、海で捕らえた魚しかなかったにもかかわらずです。自治体の指導者はイスラム教の寺院からこうアナウンスしました。『イエスの教会からまた寄付が到着しました。』」

緊急の対応が一段落すると、長期のプロジェクトが始まりました。1,000をはるかに超える住居の建築や、病院、学校といった施設の修復を支援する計画が実施されました。村の人々には漁船や漁網が提供されました。また、家族が再び自立できるように織機やミシンが支給されました。

パキスタン北部とインドを、その地域では100年に1度という激しい地震が襲いました。多数の人命が奪われ、多くの人が住居を失いました。この地域では冬の寒さが非常に厳しいため、けが人だけでなく、家を失った人々にも懸念が広がりました。

地震の4日後、イスラム救援という団体が提供してくれたボーイング747型貨物輸送機は、監督の倉から差し出されたブランケットやテント、衛生用品、医療品、寝袋、コート、防水シートなどで瞬く間にいっぱいになりました。また、7万5,000人分の冬用テントやその他の物資が詰まった大きなコンテナが、空と陸と海から運び込まれました。

中央アメリカを洪水が襲ったときには、教会の集会所は被災者の一時的な避難場所として開放されました。車で行けない



地域では、悲嘆に暮れる人々の苦痛を取り除くために、教会員は救援物資を背負い、水浸しとなった危険な地域を歩いて渡りました。

スーダンでは紛争が続き、100万人以上が家を捨て、村を出て安全な場所を求めてさまよいました。その多くは、慣れない土地を何百キロも歩いて難民キャンプにたどり着き、そこで離れ離れになった家族を捜し、健康を取り戻そうとしました。

アトミットという、ビタミンを強化したおかゆが支給されました。アトミットは、飢えた子供や高齢者の命を守るのに有効なことが証明されています。また、医療品をはじめ、多くの衛生用品や新生児に必要な物品も支給されました。

教会は著名な慈善団体と協力して、はしか撲滅キャンペーンを推進し、何百万と

いうアフリカの子供たちに予防接種を受けさせてきました。アフリカの2,000人の信仰深い教会員は、無償で多くの時間を割いて、宣伝を行い、子供を集め、注射の際の手伝いをしました。

2005年のハリケーンの季節には、合衆国南部と西カリブ海地域での被害額と被災規模は史上最大となりました。嵐がホンジュラスからフロリダの住宅地や商業地区で猛威を振るいました。ハリケーンに襲われる度に、神権指導者の指揮の下で働くボランティアが何千人もやって来て、生活必需品を提供しました。衛生用品、食料、水、食器、シーツ、その他の必需品を支給して、被災者が住居を清掃し、仮の住まいを整えるのに役立ったのです。

マイケル・ケーグル兄弟は、自分の会社の備品や設備を積んだトラックの一団を率



二人の宣教師に支えられ、大会の衛星放送を見に来たウルグアイの姉妹。

いてミシシッピ州に行きました。毎週末、教会員ではない社員が大勢、ボランティアとしてこの兄弟に同行し、ハリケーン被災地で救援作業を行いました。移動中はトランシーバーを使って連絡を取り合いました。ケグル兄弟が所属する大祭司グループの指導者は小型トラックでこの集団に同行したのですが、皆がものすごいスピードで走るので胆をつぶしたと言っています。スピードを落としてもらおうとトランシーバーを取って言いました。「皆さん、今時速80マイル(約130キロ)ですよ。分かっていますか。」すると、トラック運転手の一人が返事をくれました。「分かっているんですけど、大型トラックっていうのはこういうものなんです。これ以上速くは走れません。」

教会には、感謝の手紙が多数寄せられています。ミシシッピ州の看護師の女性はこう書いています。「何と言えよいか。神がこんなにも早く祈りにこたえてくださったのでしょうか。形も大きさも様々なチェーンソーを抱えてヘルメットと長靴の男性たちが、がれきの向こうから現れたのを見たときには、涙があふれて頬を伝いました。人がこんなにまでだれかに尽くす偉大な姿を見るのは、絶対に、間違なく生まれて初めてです。」

無数の美しいブランケットを作ってくれた、器用な手の持ち主の皆さんに感謝しています。また、手先は昔ほど器用ではなくなったかもしれませんが、年配の姉妹たちには特に感謝しています。皆さんは、とても必要とされているキルトのブランケットを縫ってくれました。92歳という高齢で、ひ孫のいるある姉妹は、何百というブランケットを作ってくれました。この姉妹の場合、作り手と受け手の双方が祝福を受けています。息子が手作りの品の見事さを褒めると、彼女はこう尋ねました。「わたしのブランケットをだれか使ってくれと思うかい？」それに答えるかのような、ルイジアナ州の若い母親から受け取った手紙を紹介します。

「わたしはルイジアナに住んでいて、子供のために地元の保健施設によく行きます。そこで子供の洋服やおむつ、ウェットティッシュ、それにおくるみを2枚頂きました。1枚は裏が黄色で表には足形と手形の模様がついています。もう1枚は褐色のシマウマ柄です。どちらもとてもきれいです。4歳の子供はシマウマ柄がお気に入りです。7か月の子供は当然ですが感想はまだ言えません。皆さんと教会の助けに、ただただ感謝しています。皆さんとご家族のうえに神の祝福がありますように。」

フィリピンで最近起こった土砂崩れに対応して、地元の聖徒たちは衛生用品や食料を箱詰めにして、ブランケットとともに必要な人に支給しました。

世界各地で救援活動をする際には、労働と自立の原則が貫かれ、教えられています。2005年には、多くの村で新しい井戸からきれいな水をくむことができるようになりました。村人たちは井戸を掘り、ポンプを設置し、必要に応じて修繕する方法を学びました。

地元のボランティアや非常に熱心な夫婦宣教師たちが訓練し、設備を提供してくれたおかげで、栄養価の高い自家製の食材が家庭で食卓に上るようになってきました。

足の不自由な人たちが自立できるように、たくさんの車いすも提供されてきました。また、新生児の命を救うために、医療に携わる人たちが何千人も訓練を受けています。専門家の手で白内障の手術が行われ、多くの人が視力を取り戻してきました。末日聖徒ファミリーサービスは、世界中できめ細かなカウンセリングを行ってきています。

定評があり信頼できる機関と協力してきたことにより、教会は多くの国々で理解を得、尊重されてきました。

アフリカ人の元駐米大使、シンビ・ムバコ博士はこう語りました。「末日聖徒イエス・キリスト教会の働きは、教会員に限らず、異なる文化、異なる宗教のあらゆる人々を支援の対象としているので、なおさら深い感銘を与えます。〔彼らは〕すべての人々にイエス・キリストの姿を重ねて見ているのです。」

敬愛するゴードン・B・ヒンクレイ大管長は、この偉大な人道支援の働きを確立することに積極的です。大管長はこうに語っています。「わたしたちは全人類に手を差し伸べなければなりません。すべての人は永遠の父なる神の息子と娘であり、神はわたしたちが彼らに関して行うことに対して、いつか報告するよう求められます。……虐げられ、抑圧された人々を励まし、飢えた人々と貧しい人々に食べ物と衣服を与え、身近にいるこの教会の会員でない人々にも、愛と親切を示すことが

できますように。』<sup>5</sup>

現代の人道支援の働きは、奉仕する人々の魂の内に燃える慈愛を、すばらしい形で体現したものです。彼らは、思いやりにあふれた心と、いつでも奉仕できる用意のできた手を持っています。このような無私の奉仕は、キリストの純粋な愛を真の意味で行動によって表すものです。

奉仕に自らをささげる人に対して、救い主は大きな祝福を約束しておられます。「与えよ。そうすれば、自分にも与えられるであろう。……あなたがたの量るその量りで、自分にも量りかえられるであろうから。』<sup>6</sup>

わたしが今日紹介したことは、世界中の村や国で起きていることの100分の1にも満たないものです。わたしは行く先々で、深い感謝の言葉を頂きます。このような働きを指揮する責任を持つ大管長会、十二使徒定員会、そして教会福祉管理委員会に代わり、深い感謝と尊敬の念をお伝えします。

わたしの魂の内に燃える神聖な思いを十分に伝える言葉が見つかりません。ありがとうという簡潔な言葉も陳腐に感じられてしまいます。思いやりの心と助けの手によって多くの人々の重荷を軽くしてきた一人一人に、心からの感謝をお伝えします。これからも心が重く沈んでいる人、自分の手ではどうすることもできない人を心に留めるときに、主のえりすぐりの祝福が皆さんとご家族のうえにあるように心から願っています。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. アンドリュー・ワークマン, "Recollections of the Prophet Joseph Smith," Juvenile Instructor, 1892年10月15日付, 641
2. モーサヤ18:8-9
3. 教義と聖約81:5
4. ガラテヤ6:2
5. Conference Report, 2001年10月, 4-5; または「時満ちる時代に生きる」『リアホナ』2002年1月号, 6
6. ルカ6:38

# 豊かに注がれる祝福

中央若い女性第一副会長  
ジュリー・B・ベック

**忠実な会員は皆、神権の儀式を通して豊かに注がれる祝福によって、平等に祝福を受けるのです。**



カ ートランド神殿で、それまでにまだ授けられていなかった神権の鍵がすべて回復されたとき、主はこのように言われました。「これはわたしの民の頭に注がれる祝福の初めである。』<sup>1</sup> わたしは、神の神権を通してわたしたち一人一人に豊かに注がれる祝福に感謝しています。神権の力により、この世界と、すべての人を含む万物が創造されました。人が何者であるか、また以前はどのような状態であったかという点に、神権は深いかかわりを持っています。<sup>2</sup> 神の息子、娘として、わたしたちには独自の責任と役割があり、神権の祝福を通して、皆、対等のパートナーや、賜物、祝福を授けられます。

昨年の秋、いちばん上の孫娘がバプテスマを受け、教会員として確認されました。この孫が聖霊の賜物を受けると、この子のいちばん下の妹が祝福を受けて命名さ

れました。翌月にも、生まれたばかりの孫娘がもう一人命名され、祝福を受けました。それ以来わたしは、神の神権が回復されたおかげでこの幼い孫娘たちが享受できる特権について、しばしば深く考えるようになりました。

孫たちが大きくなるにつれて、神権が自分の生活と常に深くかかわっていると理解を深めてほしいと望んでいます。「男性にも女性にも同じように与えられ」<sup>3</sup> ている神権の祝福は、生活のあらゆる面に深くかかわっているのです。一人一人が神聖な儀式により祝福され、神権のおかげで霊的な賜物という祝福を享受できるのです。

主の教会の忠実な会員は皆、神権の儀式により平等に祝福されています。子供が人生で最初に受ける儀式<sup>4</sup>は普通、赤ちゃんのときに受ける命名と祝福です。責任を負う年齢に達すると、バプテスマを受けます。けれども性別によって独自の儀式を受けることはありません。同じバプテスマフォントで、男の子にも女の子にも同じ儀式が執行されます。確認を受けて聖霊を授けられると、同じ力が各自に与えられます。その聖なる力の助けを受ける資格は、本人の忠実さによるものであり、そのほかの方法はありません。

教会員としてわたしたちは、聖餐にあずかるとき、主の前に平等です。イエス・キリストを信じるわたしたちの信仰と、聖餐の儀式によって可能になる主の贖いの力を通して、わたしたちは皆、悔い改め、向上できます。

わたしたちは皆、病気のときや、生活の



部会中、カンファレンスセンターで賛美歌を歌う大管長会(前列右)と十二使徒定員会の3人の会員(前列左)、管理監督会(中列右)および七十人の会員。

中で主の特別な助けが必要なとき、神権の祝福にあずかる平等な特権に浴しています。祝福師の祝福を受けたいと望む若い女性は、同年代の若い男性と同じように、自分の血統と潜在的な能力を知る権利があります。アブラハムを通して男女ともに与えられる祝福は力強く、重要なものです。

すべての若い男性と女性が「先祖たちが受けていたものと同じ祝福を受け……神権の最高の祝福にあずかる権利が授けられる」<sup>5</sup>ように、神殿へ参入する準備をするよう、わたしたちは教えています。数か月前、めいが神殿で自身のエンダウメントを受けたとき、歓声を上げて言いました。「やっとならせたわ。これまでずっと神殿に入る準備をするように教えられてきたけど、ついに果たしたのよ。」

進んで主に仕える意志と神殿の推薦状を受ける資格のある男女は皆、従順と犠牲の聖約を交わします。皆、高い所から力を授かるのです。<sup>6</sup>

伝道の召しを受ける男女は皆、主の業

を行うように任命され、キリストの福音を宣べ伝える権能を与えられます。

神殿結婚の聖約により完全なパートナーとなる男女は、忠実であるならば、その聖約の祝福を平等に受けることができます。<sup>7</sup> 彼らの聖約はこの世の後にも効力があり、ともに権威と昇栄を約束されると主は言われています。<sup>8</sup>

エズラ・タフト・ベンソン大管長はこのように述べています。「子供たちは、主に従い、自分の祝福を受け、結婚の聖約を交わすために神殿に参入するとき、神が時の初めに父祖アダムに定められたと同じ『神権の位』に入ります。』<sup>9</sup>

ある家族を訪問したとき、神権の祝福の力を目にしました。年若い父親が亡くなって寝かされ、その周りには母親と美しい娘たちがいました。部屋の四方の壁にはそれぞれ、家族や神殿の写真が少なくとも1枚は飾ってあります。母親はこう言っています、家族が受けた祝福について証しました。「わたしたちは聖約によって力を受け、守られています。わたしたちの家族は永遠

に続きます。主が見守ってくださいます。孤独ではありません。」忠実な会員は皆、神権の儀式を通して豊かに注がれる祝福によって、平等に祝福を受けるのです。

神権が回復されたおかげで、人は皆、霊的な賜物の祝福も平等にあずかっています。わたしたちが益を受け、<sup>10</sup>互いに助け合うように、主は霊的な賜物を授けてくださっています。<sup>11</sup>

モロナイはこのように述べています。「これらの賜物の与えられ方は様々であるが、すべての人の中ですべての働きをされるのは同じ神である。これらの賜物は人を益するために、神の御霊の現れによって人に授けられるのである。

見よ、ある人には神の御霊によって、知恵の言葉を教える賜物が授けられ、

ある人には同じ御霊によって、知識の言葉を教える賜物、

ある人には非常に深い信仰、ある人には同じ御霊によって癒しの賜物……が授けられる。」<sup>12</sup>

わたしはスペイン語を習い、また(子供

のときに覚えた)ポルトガル語を思い出そうとしてきました。そしてこのような言葉を使うときには主の助けを祈り求めて、助けを感じてきました。また、教会の指導者や宣教師たちがわずかしか学んでいない言葉で力強い証をするのを聞くことがあります。信じる霊という霊的な賜物を与えられている人も知っています。福音を聞くと、心の中で福音が真実であると悟るのです。知恵の賜物や、義にかなった方法で知識を使う力を与えられた人もいます。奇跡を行う力のある人、癒しや偉大な識別の賜物を持つ人もいます。<sup>13</sup>

わたしは子供のころ、重い病気によくかかりました。父は自分が受けている神権の力を、わたしを祝福するためにいつも進んで使い、またそうするためのふさわしさを備えていました。でも、わたしが癒されたのは、母の特別な賜物のおかげでもあると感じていました。わたしの必要にこたえ、回復を助ける力を、母はほんとうに授かっていました。治療について答えを受けるように主が導いてくださるといふ母の深い信仰は、わたしに平安を与えてくれました。愛情を込めて霊的な賜物を使う両親を持ったわたしは、何と恵まれていたことでしょう。

ウィルフォード・ウッドラフ大管長はこのように述べています。「神の御霊である預言の霊を享受することは、この王国におけるすべての男女の特権です。それにより、忠実な者は、慰めを受けるのに必要な事柄を示され、日々の務めが果たせるように導かれるのです。」<sup>14</sup>

どのような職であれ、主の教会で奉仕する職に任命された人はすべて、神権の祝福により、「その職に関連した権能と責任、祝福」<sup>15</sup>を受けることができます。

霊的な賜物は数多く、様々であり、わたしたちが適切に求め使うときに授けられます。生活のあらゆる面で深くかかわっている聖霊の力によって、賜物を享受するのです。<sup>16</sup>

神権の祝福を通して、主は御自身が「人を偏り見ない者」<sup>17</sup>であることを示しておられます。各地を旅行すると、わたしは普通、会員の家を訪問します。とても質素



な家に住む家族もあります。最初わたしはこう自問していました。「この家族は家の近くに水もないのに、なぜわたしばかりが電気や水道のある家に住んでいるのかしら。主は彼らを等しく愛してはおられないのかしら。」

そしてある日、神殿でわたしは簡素な造りの家に住む姉妹の隣に座っていました。彼女のそばで過ごした2時間、彼女の美しい目の中に主の愛を見ました。神殿の奉仕を終えた後、わたしは心が強く打たれ、悟ることができました。永遠の祝福、最も重要な特権と機会において、わたしたちは平等なのだ。わたしは「悔い改めのためのバプテスマ」<sup>18</sup>を受けました。彼女もそうです。わたしは霊的な賜物を頂きました。彼女もそうです。わたしは悔い改める機会を頂きました。彼女もそうです。わたしは聖霊を授かりました。彼女もそうです。わたしは神殿で儀式を受けました。彼女もそうです。わたしたち二人がこの世を一緒に離れるとしたら、平等に祝福と力を受けて主の前に着くことになるでしょう。

神権の祝福にあつては、わたしたちは皆、平等です。年齢や性別、配偶者の有無を問わず、また財産や知識、名声のあるなしにかかわらず、平等に与えられるのです。

神の無限の公正さと愛を通して、すべての男女が神権の儀式と霊的な賜物によって、対等のパートナーや賜物、祝福、可能性を与えられていることに感謝します。生活のあらゆる面に深くかかわっている神権のおかげで、この世の務めを果たし、天の家へ戻るために必要なあらゆる力と聖約が、わたしたちの頭に注がれています。イエス・キリストの御名により、アーメン。

#### 注

1. 教義と聖約110:10
2. 教義と聖約88:36-45;アブラハム3章参照
3. ダリン・H・オークス「家庭と教会における神権の権能」『リアホナ』2005年11月号, 26
4. 「神権の儀式と祝福」『家族』(31180-300) 18参照
5. エズラ・タフト・ベンソン「神殿について子供たちに教える」『聖徒の道』1986年4月号, 6
6. 教義と聖約95:8参照
7. 教義と聖約131:1-2参照
8. 教義と聖約132:19-20参照
9. エズラ・タフト・ベンソン「神殿について子供たちに教える」『聖徒の道』1986年4月号, 6
10. 教義と聖約46:26参照
11. 教義と聖約46:12参照
12. モロナイ10:8-11, 16
13. 教義と聖約46:10-26参照
14. Deseret News, 1862年7月30日付, 33
15. ボイド・K・パッカー「すべての長老、そしてすべての女性が知っておくべきこと——神権政体の原則に関する手引き」『聖徒の道』1994年11月号, 20
16. モロナイ10:7-17参照
17. 教義と聖約38:16
18. アルマ9:27

# おさなご 幼子のよう

十二使徒定員会

ヘンリー・B・アイリング

**道徳的な危険に満ちた時代にあつて守られるために必要な力を得るには、わたしたちの性質を変えて、幼子のようにならなければなりません。**



**神**の預言者たちは現代を予見してきました。使徒パウロはテモテにこう書き送っています。「しかし、このことは知っておかねばならない。終りの時には、苦難の時代が来る。」<sup>1</sup> 時のしるしを見る目と預言者の言葉を聞く耳を持った人はだれでも、危険が大きいことを知っています。危険は悪の力から生じており、その力は増大しています。ですから、イエス・キリストの福音に従って生活するために交わさなくてはならない聖約を守ることは、これまでより容易にはではなく、困難になるでしょう。

自分や、家族、定員会、クラスの愛する人々を待ち受けるそのような将来について心配する人々は、嵐の中にあつても安全な場所が用意されているという主の約束に希望を見いだすことができます。その場所についての記述はこうです。皆さんもその場所について聖文で読んだこと

があるでしょう。生ける預言者たちによって繰り返し語られてきました。愛にあふれた父親が息子たちを強めて誘惑の嵐から守ろうと、彼らにこう語っています。

「わが子らよ、覚えておきなさい。あなたたちは、神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基を築かなければならないことを覚えておきなさい。そうすれば、悪魔が大風を、まことに旋風の中に悪魔の矢を送るときにも、まことに悪魔の雹と大嵐があなたたちを打つときにも、それが不幸と無窮の苦悩の淵にあなたたちを引きずり落とすことはない。なぜならば、あなたたちは堅固な基であるその岩の上に建てられており、人がその上に基を築くならば、倒れることなどあり得ないからである。」<sup>2</sup>

そのような堅固な基を足場とする方法を理解することは、現在、これまでになく重要となっています。わたしにとって、モルモン書に記されたベニヤミン王の最後の説教ほど参考になる箇所はほかにありません。皆さんも最近そこを読み直し、一度ならず深く考えたことでしょう。ベニヤミン王はわたしたちと子孫を予見し、わたしたちが何に直面するかを預言者の持つ力により予知していました。王は自身の経験から戦争の恐ろしさを知っていて、神の力に頼って戦う自分の民を守りました。わたしたちを誘惑し、打ち負かそうとするルシフェルの恐ろしい力を王ははっきりと予知していました。

ベニヤミン王は偉大で聖なる人でした。主の預言者たちが皆知っていたように、安全な岩の上に基を築くように人々に勧

める方法を知っていました。

王は説教の冒頭で、わたしたちは皆、霊的な危機から逃れるよう人々を助けなくてはならないと語りました。人々が安全を求めるためには、まず危険が本物であると信じなくてはなりません。危険を無視する結果を恐れなくてはなりません。王はわたしたちが直面する危険をはっきりと説明しました。わたしたちには善悪を選ぶ自由がありますが、その選択の結果は避けられないからです。警告に耳を貸さない人々に訪れる悲しみを知っていたので、王は単刀直入に厳しく語ったのです。

キリストの御霊の促しに従うか、わたしたちを誘惑し罪のわなに陥れようとするサタンの邪悪な言葉に従うか、その選択の結果について、王はこのように述べています。

「見よ、あの〔邪悪な〕霊に従おうとする者には、災いが宣言される。もしも悪霊に従うことを望んで、罪の中にとどまったまま死ぬならば、自分自身に罰の定めを招く。なぜならその人は、知っていながら神の律法に背き、その報いとして永遠の罰を受けるからである。……

そこで、その者がもしも悔い改めず、神の敵である状態で死ぬならば、神の正義の要求が、その者の不滅の霊に強烈な罪の意識を起こさせる。そして、その罪の意識のために、その者は主の御前からしりごみし、またその胸は罪悪感と心痛と苦しみに満たされる。その罪悪感と心痛と苦しきは、炎がとこしえにいつまでも立ち上る、消すことのできない火のようである。」

ベニヤミン王はさらに続けます。「おお、わたしの言葉を理解できるすべての年長いた人々よ、若い人々よ、幼い子供たちよ。わたしはあなたがたが理解できるように、分かりやすく語ってきた。わたしはあなたがたが目覚まして、神の律法に背いた者の受ける恐ろしい状態を思い起こすように祈っている。」<sup>3</sup>

わたしにとって、その警告の力はあまりに大きいので、死んだ後、各自が裁きを受けるために救い主の御前に立つときの情景が目に見えてきます。主の御前からしりごみすることについてベニヤミン王



がわたしに語る箇所では、恐怖を覚えません。裁きの日に、栄光に満ち復活された救い主の御前に立つ自分の姿を思い描くことができます。しりごみするのではなく、ほほえみながら、「良い忠実な僕よ、よくやった」<sup>4</sup>と仰ってくださる主を見上げることができるように心から望んでいます。

もしわたしたちがイエス・キリストの贖いを通して自分の性質を変える方法をこの世で見いだすなら、このような主の御言葉を聞くことを望めるのです。ベニヤミン王は、そのような望みを実現するにはどうしたらよいかを明らかにしています。それこそが、堅固な基を足場とし、誘惑の嵐のただ中であっても正義を固く守ることができる唯一の方法です。

ベニヤミン王はそのような変化を、美しい比喩を使って述べています。幼子のようにならなければならないという、何千年もの間、預言者により、また主御自身により使われた比喩です。

理解し、受け入れるのが難しい人もいます。たいていわたしたちは強くありたいと思っています。幼子のようになるというのは弱くなることだと考えるかもし

れません。ほとんどの親は子供にもっと大人になってほしいと思うことがあるでしょう。使徒パウロでさえ次のような言葉を用いて、慈愛、すなわちキリストの純粋な愛を生活に取り入れるように勧めています。「わたしたちが幼な子であった時には、幼な子らしく語り、幼な子らしく感じ、また、幼な子らしく考えていた。しかし、おとなとなった今は、幼な子らしいことを捨ててしまった。」<sup>5</sup>

しかし、強くて勇敢な人とはどのような人かをだれよりもよく理解していたベニヤミン王は、幼子のようになることは、子供っぽくなることではないことを明らかにしています。それは救い主のようになることです。救い主は、天の御父の御心を行える力を祈り求め、実際に御心を行われました。道徳的な危険に満ちた時代であって守られるために必要な力を得るには、わたしたちの性質を変えて、幼子のようにならなければなりません。

幼子のようになる変化とはどのようなもので、どうすれば幼子のようにになれるのかについて、ベニヤミン王は次のような感動的な言葉で語っています。

「生まれながらの人は神の敵であり、アダムの墮落以来そうであって、今後もそうである。また人は、聖なる御霊の勧めに従い、主なるキリストの贖罪により、生まれながらの人を捨てて聖徒となり、子供のように従順で、柔和で、謙遜で、忍耐強く、愛にあふれた者となり、子供が父に従うように、主がその人に負わせるのがふさわしいとされるすべてのことに喜んで従わないかぎり、とこしえにいつまでも神の敵となるであろう。」<sup>6</sup>

主への信仰を持ち、聖なる御霊の導きに従い、贖罪の力によって心を変えられるほど長く忠実に戒めを守るとき、わたしたちは、岩の上であって、すなわち救い主であって、安全です。心を変えられる経験により、愛と従順において幼子のようになる時、わたしたちは堅固な基の上に立っていることになるのです。

わたしたちは、そうした安全な場所へ導かれるためにできる事柄をベニヤミン王から学ぶことができます。しかし、忘れないでください。わたしたちが行う事柄は手段であって、達成すべき目標ではありません。それらはイエス・キリストの



贖いを通してわたしたちが目指す者になるための助けとなります。イエス・キリストに対する信仰により、わたしたちは悔い改め、主の戒めを守るようになります。聖霊の促しに従うことにより、従順になり、誘惑を退けます。やがて、わたしたちの性質は変化します。幼子のようになり、神に従い、愛が深まります。そのような変化は、それを保つために全力を尽くすなら、聖霊を通して与えられる賜物たまものを受けるふさわしさをもたらします。こうしてわたしたちは、唯一の堅固な岩の上であって安全でいられるのです。

わたしは皆さんと同様、ベニヤミン王が神の御前で幼子のようになれると言った言葉の真意を感じたことがあります。皆さんと同様、永遠に続く結果を生むような選択に迫られたときに、どうすべきかを祈り求めてきたのです。そして長い歳月をかけて分かったことは、そのような祈りへの答えがどのように与えられ、どのようにはっきりと分かるかについて、ある一定のパターンがあるということです。

あるときわたしは、朝になったら何を選択すべきかを知るために、一晩中祈りました。ほかの人とわたし自身の生活にそれほど大きな影響を及ぼす選択はほかにないことを知っていました。わたしにとって最も快適に思える選択は何なのか知って

いました。自分がどのような結果を望んでいるのかも知っていました。しかし、将来どうなるかは分かりませんでした。どの選択がどの結果を生じるのかも、分かりませんでした。ですから、間違った選択をする危険性があまりにも大きく思えたのです。

わたしは祈りましたが、数時間たっても答えがないように思えました。しかし、夜が明ける直前になって、ある気持ちに包まれました。子供のとき以来、初めて、自分のことを幼子のように感じました。わたしの心と精神はとても穏やかになりました。静かな心の内に平安が宿りました。

幾分驚いたことに、わたしは声に出してこう祈っていました。「天のお父様、自分の望みは問題ではありません。わたしの望みなど、もうどうでもよいのです。わたしはお父様の御心が行われることだけを願っています。それがわたしの望むすべてです。何をすべきかを教えてください。」

その瞬間、わたしはかつて感じたことのない穏やかさを感じました。そして、答えを受けました。どなたから来た答えかを確信しました。すべきことは明らかでした。結果については何の約束も受けませんでした。自分は、進むべき道を告げられ、主の望まれることは何でも行うように言われた子供である、という確信だけがありました。

その経験をはじめ、数え切れないほどの同様の経験から、「静かな細い声」という聖霊についての描写が真実であると分かりました。これは詩のような表現ですが、詩ではありません。わたしの心が穏やかで静かになり、幼子のように従順になるときにだけ、御霊の聲が心にはっきりと聞こえてくるのです。

ベニヤミン王は、このような瞬間がもっとしばしば、特に危険に直面しているときに訪れるにはどうしたらよいかを教えてください。そして、幼子のような心になるという祝福を招くために、わたしたちが行うことができ、また行わなければならない事柄がある、と述べています。

それらの事柄はすべて、イエス・キリストに対する信仰を深め、聖霊の助けを受けるにふさわしくなるために必要なことと関係があります。ベニヤミン王はその理由をこう述べています。

「さらにわたしはあなたに言う。全能の主であるキリストの御名のほか、またその御名を通じてでなければ、どのような名も道も方法も、人の子らに救いをもたらすことはできない。」<sup>7</sup>

必要なのは、キリストに対する信仰と愛です。主が生きておられることを、主がどのような御方かを知る必要があります。そうするとき、主を愛するようになるでしょう。ベニヤミン王は主を知る方法について、このような言葉で語っています。皆さんがよく耳にする聖句です。

「なぜならば、仕えたこともなく、見も知らぬ他人で、心の思いと志を異にしている主人を、どのようにして人は知ることができようか。」<sup>8</sup>

わたしたちは仕える人を愛するようになります。ごくわずかな信仰からであっても、主に仕えることを選ぶなら、主を知るようになります。わたしたちが主のために仕える人々に対して、主が持っておられる目的を知るようになります。仕えたいというわたしたちの申し出を人々が受け入れてくれないときでさえ、あきらめずに続けるなら、主が喜んでくださっている、と感じるでしょう。

あきらめずに続けるとき、聖霊の力を

求める必要を感じるでしょう。自分の力だけでは行えないからです。天の御父への謙遜な祈りに答えが与えられます。聖霊は、イエスがキリストであられることを証<sup>あかし</sup>するという主要な目的を持っておられます。仕えるための助けを願い求めるなら、聖霊が訪れ、わたしたちの主への信仰を強めてくださり、救い主に対するわたしたちの信仰が増します。そして、さらに主に仕え続けると、主を愛するようになります。奉仕の召しは、わたしたちが仕える主を愛するようになる召しです。わたしたちの性質を変化させる召しです。

そのような心の変化という祝福を保つには、強い決意と努力、信仰が必要です。ベニヤミン王は、必要な事柄を幾つか教えてくれました。日々罪<sup>ゆゑ</sup>の赦し<sup>ゆるし</sup>を絶えず受けるためには、飢えている人に食べさせ、着る物のない人に着せ、病人を見舞い、霊的にも物質的にも人々を助けなければならないと言っています。<sup>9</sup> また、心に生じる争いの気持ちにさえ気をつけなくてはならないと警告しました。<sup>10</sup> そして、贖いを通してわたしたちの心に生じる大いなる変化は、罪を犯さないように用心しないと消えてしまうことがある、と明言しました。主はこのような警告の言葉を述べておられます。「それゆえ、教会員は誘惑に陥らないように、用心して、常に祈りなさい。まことに、聖<sup>きよ</sup>められている人々でさえも用心しなさい。」<sup>11</sup>

賜物は、罪により失われることがあります。ベニヤミン王は、わたしたちには誘惑を拒むために必要な努力をする決意を固める責任がある、と教えています。そして、具体的な誘惑について民に警告しました。しかし、こうした警告の後、責任は民にあると述べました。わたしたちは誘惑に負けないよう、悪から救われるように祈りますが、自分についての責任は自分にあります。ベニヤミン王は次のように語りましたが、それは王自身の言葉ではなく、神の御言葉でした。

「最後に言うが、あなたがたが罪を犯すもとになることをすべて告げることはできない。その方法や手段はいろいろあって、数え上げられないほど多いからである。



しかし、これだけは言える。もし自分自身や自分の思い、言葉、行いに注意を払わず、神の戒めを守らず、主の来臨について聞いた事柄を生涯の最後まで信じ続けなければ、あなたがたは滅びるに違いない。おお、人々よ、覚えておきなさい。滅びてはならない。」<sup>12</sup>

聖霊の助けによって、わたしたちは自戒することができます。罪深い思いが浮かんだらすぐに気づき、それを拒めるように祈ることができます。人を傷つけたり悪にいざなったりする言葉を語らないようにという警告に気づけるように祈ることができます。そして、必要なときに、悔い改める謙遜さと信仰を祈り求めることができます。

わたしの言葉を聞いて、きっとこのように考える人もいるでしょう。「しかし、誘惑はわたしにはあまりにも大きい。できるかぎり拒んできたが、わたしにとって、戒めは厳しすぎる。標準が高すぎるのだ。」

そんなことはありません。救い主は御父に対するわたしたちの弁護者です。わたしたちの弱さを知っており、誘惑を受けた人を助ける方法を知っておられます。<sup>13</sup>

救い主は生きておられ、堅固な基であると証します。主に対する信仰に基づいて行動することにより、清められ、変えられて、幼子のように純粋で強くなれること

を知っています。聖霊がわたしたちを、真理へ近づき、罪から離れるように導いてくれることを証します。

ジョセフ・スミスは天の御父と愛する御子に会いました。モルモン書は神の御言葉であり、わたしたちの救い主であるイエス・キリストについての証です。この教会はまことの教会です。いかに危険な時代にあっても、わたしたちは永遠の命という約束された喜びを選ぶことができます。わたしはそのことを確信しています。

イエス・キリストの御名により、アーメン。

#### 注

1. 2テモテ3:1
2. ヒラマン5:12
3. モーサヤ2:33, 38, 40
4. マタイ25:21参照
5. 1コリント13:11
6. モーサヤ3:19
7. モーサヤ3:17
8. モーサヤ5:13
9. モーサヤ4:26参照
10. モーサヤ2:32参照
11. 教義と聖約20:33-34
12. モーサヤ4:29-30
13. 教義と聖約62:1参照

# 真理を守り

第一副管長

トーマス・S・モンソン

**全人類の御父のみもとへと続くまっすぐな道を進むことを、今ここで決意しようではありませんか。**



何年も前、割り当てを受けて美しいトンガの島々を訪れたとき、教会が運営するリアホナハイスクールを訪問する特権にあずかりました。そこでは、青少年が同じ信仰を持つ教師から心を訓練され、人生に備えることを教えられています。教室に入ったとき、わたしは子供たちが地元の教師に熱い視線を送っていることに気づきました。教師も生徒も教科書は机の上に閉じたままです。教師の手には、丸い石と大きな貝殻でできた、奇妙な形の釣り用のルアーがありました。これはマカフェケといって、タコを捕まえるルアーだとのことでした。トンガではタコはごちそうなのです。

その教師はトンガの漁師について教えてくれました。彼らは片手でアウトリガークヌーをこぎながらサンゴ礁の上を進み、もう片方の手でマカフェケを海にぶら下げます。するとタコが岩場の隠れ家から飛

び出し、ルアーを好物と勘違いして巻き付くのです。タコの力強い吸引力と、貴重なえさをあきらめようとしない本能のために、漁師はタコを簡単にカヌーに釣り上げることができます。

目を輝かせて熱心に聞き入る青少年にとって、この話は分かりやすい導入でした。悪しき者、すなわちサタンは、いわゆるマカフェケに身を包み、疑うことを知らない人々を陥れ、行く末に待っている受け継ぎをはぎ取るのです。

今日、わたしたちは悪しき者が仕掛けたマカフェケに取り巻かれています。悪しき者はそれで人を誘い、わなに掛けようとするのです。一度わなに掛かれば、それを手放すのは難しく、ほぼ不可能だと言えることさえあります。危険から身を守るには、何が危険かを認識し、それを何としても避けるという揺るぎない決意をする必要があります。

わたしたちの目の前には常に不品行というマカフェケがぶら下がっています。周囲を見回すと、かつては不品行とされていたものを今では問題がないと信じさせようとする人々がどこにでもいます。聖典にはこう記されています。「悪を善と呼び、善を悪と呼び、闇を光とし、光を闇と……する者は災いである。」<sup>1</sup> これこそ不品行というマカフェケです。モルモン書は、純潔と貞節がいかなるものよりも貴いことを思い起こさせてくれます。

誘惑に直面したときには、使徒パウロの思慮深い勧告を思い出してください。パウロはこう宣言しました。「あなたがたの会った試練で、世の常でないものはな

い。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に会わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。」<sup>2</sup>

悪しき者が仕掛けるもう一つのマカフェケは、ポルノグラフィーです。悪魔は、ポルノグラフィーを見てもだれも傷つかないと信じさせます。アレクサンダー・ポープの『人間論』は、何と的を射ていることでしょう。

悪徳は醜悪極まる風体の怪物、  
見るだけならば憎まれる運命にあるのに  
見ることが多ければその顔に慣れ、  
まずは辛抱、次いで哀れみ、  
果ては抱擁と来る。<sup>3</sup>

多くの出版社や印刷会社は、毎日何百万というポルノグラフィーを発行することで、自社の品性をおとしめています。費用を惜しむことなく、人々の目に確実に、繰り返し触れる商品を作っているのです。今日、最も簡単にポルノグラフィーに触れることができるのがインターネットです。コンピューターの電源を入れ、指先一つで簡単に、ポルノグラフィーを掲載している数え切れないほどのサイトにアクセスできます。ゴードン・B・シンクレイ大管長はこう言いました。「わたしは、こういうことが、ひょっとしたら皆さんの家の中に入り込んで来ていないかと心配しています。わいせつで不潔な悪徳です。魅惑的であり、習慣性があります。〔あなたを〕必ずや破滅におとしめるものです。搾取する者を富ませ、被害者を貧しくさせる、薄汚い低俗なものです。」<sup>4</sup>

同様に、ポルノグラフィーを助長する映画やテレビ番組の制作者、芸能人たちも腐敗させています。以前のような慎み深さはとうに失われてしまいました。人々の求めるいわゆる現実主義は、この不潔なものに取り巻かれる今日の環境を作り出しました。

ポルノグラフィーに類するものをすべて避けてください。それは御霊を感じにくくし、良心をまひさせます。教義と聖約にはこう



記されています。「人を教化しないものは、神から出てはおらず、暗闇である。」<sup>5</sup> ポルノグラフィーとはそのようなものです。

次は薬物というマカフェです。この中にはアルコールも含まれます。一度手を染めると、このマカフェを振り払うのはきわめて困難です。薬物やアルコールは思考力を低下させ、自制心を取り去ります。さらに、家族を壊し、夢を打ち砕き、寿命を短くします。それは誘惑に陥りやすい若人の行く手に意図的に置かれ、どこでも手に入れることができます。

わたしたちは一人一人、愛にあふれる天の御父から肉体を頂いており、それを大切にするように命じられています。その責任を放棄して、故意に体を乱用したり、傷つけたりしてよいのでしょうか。そうすべきではありません。使徒パウロは言っています。「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。……

神の宮は聖なるものであり、そして、あ

なたがたはその宮……である。」<sup>6</sup> わたしたちは神の宮である肉体を健全で清潔に保ち、肉体的、精神的、霊的な面での健康を妨げる有害な薬物を遠ざけなければなりません。

今日伝えたい最後のマカフェは、自尊心を破壊し、人間関係を損ない、人をきわめて困難な状況へと追いやるものです。それは、過度な借金というマカフェです。名声や威信をもたらすものを求めるのは人の常です。わたしたちは容易に借金ができる時代に生きており、クレジットカードを使ったり、ローンを組んだりして、欲しいものはほとんど何でも手に入れることができます。きわめてよく利用されているのは、家屋の純資産額と同額の貸し付けを受けられる住宅担保ローンです。しかし、多くの人はそれが第2の住宅ローンのようなものであることに気がつきません。収入以上の生活を繰り返すなら、いつかその結果と向き合わなければなりません。

兄弟姉妹、昨日のぜいたくが今日の必需品とならないようにしてください。自分で決めないかぎり、それは必需品ではないのです。多くの人が、長期の借金をしますが、途端に返済の当てが外れ、病気や就労不能、企業倒産や縮小、失業、天災などが降りかかってきます。いろいろな理由で、多額の借金が返済不能となります。そのとき、借金は頭上に光るダモクレスの剣となり、人を崩壊へと追いやる脅威となります。

収入の範囲内で生活するよう強く勧告します。収入以上の生活を送れば、支払い能力は失われてしまいます。収入の範囲内で生活するなら、不必要な借金の次の返済にいつも頭を悩ませているときよりも、もっと幸せになれると約束します。教義と聖約にはこう記されています。「契約によって生じた負債を支払いなさい。束縛から自らを解放しなさい。」<sup>7</sup>

当然のことながら、人を義の道からそらせる、悪しき者の仕掛けるマカフェは



ほかにもたくさんあります。しかし、天の御父はわたしたちに命をお授けになり、考え、判断し、愛する力を与えてくださいました。わたしたちはどのような誘惑も退ける力があり、行くべき道を決め、進むべき方向を選択することができます。わたしたちの目標は神の日の栄えの王国です。そのために、日の栄えの王国へと続く道を、それることなく進んで行くのです。

人生という道を歩むすべての人に対して、天の御父は、回り道や落とし穴、わなに気をつけるように警告を下さっています。狡猾に配置されたマカフェケは外観を偽って人を巧みに欺き、わたしたちがそれにしがみついても、最も大切な望みを手放すよう誘惑してきます。だまされてはいけません。時間を取って祈ってください。静かな細い声に耳を傾けましょう。わたしたちの心の奥底に「わたしに従ってきなさい」<sup>8</sup> という主の優しい招きを語りかけてくれます。主に従うことによって、破壊や死から逃れ、幸福と永遠に続く命を手に入れることができます。

耳を傾けない人もいます。また、不従順な人、悪しき者の誘惑に心奪われる人

や、手放すことのできないほどにマカフェケに取り付き、すべてを失ってしまう人もいます。権力を持った聖職者であったウルジー枢機卿を思い出します。多くの作品を世に出したウィリアム・シェークスピアは、ウルジー枢機卿が権力の頂点を極める姿を描きました。しかしそれは同時に、むなしい野望、利己心、名声や威信を求めることがどのように道義をむしばんでいったかを述べたものでもありました。そして悲劇的な凋落が訪れます。すべてを得、すべてを失った者の何とも深い悲しみです。

ウルジー枢機卿は忠実な僕クロムウェルにこう語ります。

それにしても、なあ、クロムウェル  
おれが陛下に仕えたせめて半分の熱意で  
神に仕えていたら、こんな年になって、  
素っ裸で敵の中に放り出されることは  
なかっただろう。<sup>9</sup>

ウルジー枢機卿を安全なところへと導くはずだった主の招きは、権力と名声、富と地位への野望によってないがしろにさ

れました。こうしてウルジー枢機卿は、先に人々がたどり、これからも多くの人がたどる同じ道を没落していったのです。

その昔、一人の神の僕が邪悪な王により試しを受けました。ダニエルは、天よりの導きを受けて、壁に書かれた文字をベルシャザル王に解き明かして見せました。褒美として王衣や金の首飾りを差し出されましたが、ダニエルはこう言いました。「あなたの賜物は、あなたご自身にとっておき、あなたの贈り物は、他人にお与えください。」<sup>10</sup>

後の王ダリヨスも、ダニエルを敬愛し、彼を国の最高職へと任命しました。それは群衆のうらやみや総督のねたみ、野心家の策謀を引き起こしました。

へつらいと策略にかかったダリヨス王は、「もし王をおいて、神または人に願った事をなす者があれば、すべてその者を、ししの穴に投げ入れる」という文書に署名してしまいました。祈ることが禁じられたのです。このような状況にあって、ダニエルはこの世の王ではなく、天と地の王である神の命に従いました。日課の祈りをしてきたダニエルは捕らえられ、王の前

に引き出されました。王はためらいながらも判決を下し、ダニエルはししの穴に投げ入れられたのです。

わたしは聖書の次の記述が好きです。

「こうして王は朝まだき起きて、ししの穴へ急いで行ったが、

ダニエルのいる穴に近づいたとき、悲しげな声をあげて呼ばわり、……言った、『……ダニエルよ、あなたが常に仕えている神はあなたを救って、ししの害を免れさせることができたか。』

ダニエルは王に言った、

『……わたしの神はその使をおくって、ししの口を閉ざされたので、ししはわたしを害しませんでした。』……

そこで王は大いに喜び、……ダニエルは穴の中から出されたが、その身になんの害をも受けていなかった。これは彼が自分の神を頼みとしていたからである。』<sup>11</sup>

真理と信仰に固く立つというダニエルの決意は、ほんとうに助けを必要とするときに、神の守りと安全な聖域をもたらしたのです。

歴史という時計は、砂時計のように、時の経過を刻んでいきます。地球上には新しい世代が生を受けており、今日の様々な問題は、途方もなく困難なものとして、わたしたちの前に立ちはだかっています。しかし、現代社会の難問に取り巻かれながらも、わたしたちは正しく賢明な進路を取ることができるよう、天に向かって確かな道を求めるのです。わたしたちの心からの願いに、天の御父がおこたえにならないはずがありません。

義になかった人について考えると、グスタフ・ワッカーと奥さんのマルガレーテをすぐに思い出します。二人のことを少し話しましょう。初めてワッカー夫妻に会ったのは、わたしが1959年にカナダ伝道部を管理する召しを受けたときでした。彼らは祖国ドイツから、カナダのオンタリオ州キングストンに移民していました。

ワッカー兄弟は理髪師として働いていました。収入は多くありませんでしたが、夫妻はいつも什分の一として10パーセント以上を献金していました。ワッカー兄弟は支部長として、宣教師基金への献金を



始めました。何か月も彼だけが献金を続けました。町に宣教師がいると、ワッカー夫妻は食事を与え、面倒を見ました。宣教師たちは伝道にも生活にも常に援助をもらい、ワッカー家から手ぶらで帰ることはありませんでした。

グスタフ・ワッカー兄弟とマルガレーテ・ワッカー姉妹の家庭はまさに天国でした。子供はいませんでした。父母のような愛でたくさんの方の教会の訪問者を歓迎しました。教養のある男女が、この無学でも謙虚な神の僕のもとへやって来て、1時間だけでも一緒にいられることを貴重に思いました。ワッカー夫妻の容姿はごく普通で、英語は片言で聞き取りにくく、自宅は質素でした。車やテレビは持っておらず、一般的な人が関心を持つようなことは何もありませんでした。それでも信仰を持つ人たちは、その場にある御霊を求めて彼らの家のドアをたたいたのです。

1982年3月、ワッカー兄弟姉妹はワシントンD.C.神殿における専任の儀式執行者に召されました。1983年6月29日、ワッカー兄弟姉妹がまだその任にあったとき、ワッカー兄弟は愛する妻に看取られて、

現世から永遠の世へと安らかに旅立ちました。まさに次の言葉がワッカー兄弟に当てはまります。「わたしを尊ぶ者を、わたしは尊ぶ」。<sup>12</sup>

兄弟姉妹、全人類の御父のみもとへと続くまっすぐな道を進むことを、今ここで決意しようではありませんか。永遠の命の賜物、すなわち御父のみもとでの生活を自分のものにするためです。変更や修正の必要があれば、すぐに取りかかるようお勧めします。

慣れ親しんだ賛美歌はこう歌います。

われら受けし信仰持ち、  
殉教者の持つ真理を信じ  
戒め守らん、  
手に心に霊にも<sup>13</sup>

わたしたちがこのとおりにできますよう、イエス・キリストの御名によってへりくだり祈ります。アーメン。

注

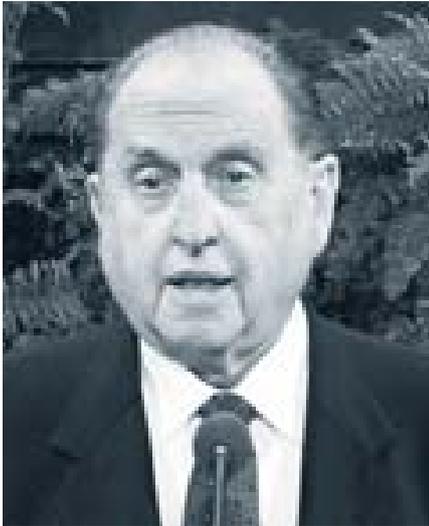
1. 2ニーファイ15:20。イザヤ5:20も参照
2. 1コリント10:13
3. 手紙2, 217-220; ジョン・パートレット, *Familiar Quotations*, 第14版 (1968年), 409
4. 『「あなたの子らの平安は深い。』』『リアホナ』2001年1月号, 62
5. 教義と聖約50:23
6. 1コリント3:16-17
7. 教義と聖約19:35
8. ルカ18:22
9. 「ヘンリー8世」第3幕第2場, 454-457行。筑摩書房『シェークスピア全集 5史劇Ⅱ』中野里皓史訳, 338
10. ダニエル5:17
11. ダニエル6:19-23
12. サムエル上2:30参照
13. 「シオンの若者, 真理を守り」『賛美歌』163番, 詞と曲:エバン・スティーブンス

●土曜午後の部会  
2006年4月1日

# 教会役員の支持

第一副管長

トーマス・S・モンソン



**兄** 弟姉妹の皆さん、ヒンクレー大管長の依頼により、これから、教会の中央幹部、地域七十人、ならびに中央補助組織会長会の名前を提議しますので、賛意の表明をお願いします。

預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてゴードン・ビトナー・ヒンクレーを支持してください、また、第一副管長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、第二副管長としてジェームズ・エスドラス・ファウストを支持してくださいよう提議します。

賛成の方は手を挙げてその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表してください。

十二使徒定員会会長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、十二使徒定員会会長代理としてボイド・ケネス・バックカーを、また十二使徒定員会会員として、ボイド・K・バックカー、L・トム・ペリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリ

ン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング、ディーター・F・ワークトドルフ、デビッド・A・ベドナーを支持してくださいよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。  
反対の方。

副管長、十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持してくださいよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、同様にその意を表してください。

2006年5月1日をもって、次の各長老を地域七十人から解任するよう提議します。

サルパドール・アグイレ、ホセ・C・アレソン、ダニエル・P・アルバレス、デビッド・S・バクスター、シェーン・M・ボーエン、ヤーティル・M・セザール、ロバート・M・コーワン、キース・R・エドワーズ、スタンレー・G・エリス、フランツ・R・ガーク、ダニエル・L・ジョンソン、ジョエル・H・マッキンノン、マーカス・B・ナッシュ、アルマンド・



A・シエラ, ジェフリー・C・スウィントン, リー  
マス・G・ビラレーテ。

感謝の意を表明してくださる方は、その意  
を表してください。ありがとうございます。

以下の人々を新たに七十人第一定員会  
会員として支持してくださるよう提議しま  
す。キース・K・ヒルビッグ, デビッド・S・バ  
クスター, シェーン・M・ポーエン, ダニエ  
ル・L・ジョンソン, マーカス・B・ナッシュ,  
アンソニー・D・パーキンズ。また、以下の  
人々を七十人第二定員会会員として支持  
してくださるよう提議いたします。クレ  
グ・A・カードン, ドン・R・クラーク, キ  
ース・R・エドワーズ, スタンレー・G・エリス,  
ラリー・W・ギボンズ。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、同様にその意を表  
してください。

次の人々を新たに地域七十人として支  
持してくださるよう提議します。

ホセ・L・アロンソ, プラジミロ・J・カンベ  
ロ, フアン・A・エチェガライ, エルナン・I・  
エレラ, デビッド・J・ホーア, セザール・H・  
フッカー, ハビエル・イバニェス, ダニエ  
ル・M・ジョーンズ, スティーブン・C・カー,  
ジョニ・L・コッホ, ダニエル・A・モレノ, ケ  
ント・H・マードック, J・ミシェル・パヤ, ス  
ティーブン・D・ポーシー, カルロス・F・リ  
バス, フアン・M・ロドリゲス, カルロス・ビ  
ラノーバ。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、同様にその意を表  
してください。

そのほかの中央幹部, 地域七十人, 中  
央補助組織会長会を現状のまま支持して  
くださるよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば、その意を表して  
ください。

ヒンクレイ大管長, 提議は、全員一致  
で賛意の表明が得られたようです。

兄弟姉妹の皆さんの信仰と祈りに感謝  
します。

新たに召された中央幹部は、壇上の席  
に座ってください。

# 2005年度教会監査部報告

教会監査部実務運営ディレクター

ロバート・W・キャントウェル提出

## 末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会に対して提示

**愛**する大管長会の皆さん。教義  
と聖約第120章の啓示に定めら  
れているように、教会基金の支  
出の承認は、<sup>しゅうふん</sup> 什分の一配分評議会が行い  
ます。同評議会は、大管長会, 十二使徒  
定員会および管理監督会で構成されてお  
り、教会の各部門と運営組織の予算を承  
認します。評議会により承認された後、

教会の各部門は、承認された予算のと  
おり、教会の方針と手続きに従って基金を  
使います。

教会監査部は、基金の収支と教会資産  
の保全が適切に管理されているかを監査  
するうえで必要なあらゆる記録やシステム  
から情報を入手する権利があります。教会  
監査部は、教会のほかのあらゆる部門や

運営組織から独立しており、監査を実施する人々は、  
公認会計士、公認内部監  
査人、公認情報システム監  
査人、そのほかの資格あ  
る専門家によって構成さ  
れています。

監査の結果、教会監査  
部では、2005年度におい  
て、教会のすべての資材、  
献金や寄付、支出、およ  
び教会資産は、適切な会  
計と承認された予算、お  
よび教会の方針と手続き  
に従って記録し、管理さ  
れているという見解に達  
しました。

以上、謹んでご報告い  
たします。

教会監査部  
実務運営ディレクター  
ロバート・W・キャントウェル



# 2005年度統計報告

## 大管長会秘書

F・マイケル・ワトソン提出

**兄** 弟姉妹の皆さん、大管長会は、2005年12月31日現在の会員数の増加と現況を示す以下のよう  
な記録を発表しました。

## 教会ユニット数

ステーク	2,701
伝道部	341
地方部	643
ワードと支部の合計	27,087

## 教会員数

教会員総数	12,560,869
記録上の子供数の増加	93,150
バプテスマを受けた改宗者	243,108

## 宣教師

専任宣教師数	52,060
--------	--------

## 神 殿

2005年に奉獻された神殿数	3
----------------	---

(テキサス州サンアントニオ神殿,  
ナイジェリア・アバ神殿,  
カリフォルニア州ニューポートビーチ神殿)  
2005年に再奉獻された神殿数 ……1  
(サモア・アピア神殿)  
儀式が執行されている神殿数 ……122

## 2005年4月以降に他界した 著名な教会員

レックス・C・リーブ長老(名誉中央幹部)  
F・アーサー・ケイ長老(元七十人会員)  
ヘルベシオ・マーティンズ長老(元七十人会員)  
アメリア・スミス・マッコンキー姉妹  
(元十二使徒定員会会員のブルース・R・マッコンキー長老夫人)  
ジェニエル・ジョンソン・クリステンセン姉妹(七十人のシャーリー・D・クリステンセン長老夫人)



# 「主なるわたしはもう 〔あなたの罪〕を 思い起こさない。」

十二使徒定員会会長代理  
ボイド・K・パッカー

御父の贖いの計画があるおかげで、つまり、倒れた者も「とこしえに捨てられ  
(ることは)ない」のです。



**あ**る父親と息子の話をします。父親であるアルマは預言者であり、息子のコリアントンは宣教師でした。

アルマの息子のうち、シブロンといちばん年下のコリアントンの二人はゾーラム人への伝道に従事していました。息子のコリアントンが宣教師の標準に従って生活していないために、アルマはひどく落胆しました。コリアントンは神の道を説く務めを放棄して、サイロンの地まで娼婦イザベルを追って行ったのです。(アルマ39:3参照)

「わが子よ、これはあなたにとって決して言い訳にはならない。あなたは自分に託された務めに心を注ぐべきであった。」

(アルマ39:4)

アルマは息子に、悪魔が惑わしたのだと言い(アルマ39:11参照)、不貞は「罪のない者の血を流すことや聖霊を否定することを除いて、どのような罪よりも非常に忌まわしい行為である」と告げました(アルマ39:5)。

そして、「あなたはそのような重大な罪を犯さなければよかったものを」と言ってこう語りました。「あなたの罪についてくどくどと述べてあなたをひどく苦しめることが、あなたのためにならないようであれば、わたしはそうはしなかったであろう。」

しかし見よ、あなたは自分の罪を神から隠すことはできない。」(アルマ39:7-8)

アルマは兄たちの忠告を受け入れるよう、コリアントンに厳しく命じました(アルマ39:10参照)。

アルマはまた、この息子の罪悪が非常に大きいのは、その罪悪のために求道者を主から離れさせてしまったからだと言っています。「彼らはあなたの行いを見て、わたしの言葉を信じなかった。」

それで、主の御霊はわたしに、『あなたの子供たちが多くの人の心を惑わして滅びに至らせることのないように、善を行うことを彼らに命じなさい』と言われる。したがって、わが子よ、わたしは神を畏れてあなたに命じる。罪悪から遠ざかりなさい。」(アルマ39:11-12)

この激しい叱責の後で、愛にあふれる父親アルマは、教師として息子に教え始めます。「御言葉を説き教えることは民に正しいことを行わせるのに大きな効果があり、まことにそれは、剣やそのほか、……どのようなことよりも民の心に力強い影響を及ぼす」ことを知っていたからです(アルマ31:5)。ですからアルマはコリアントンに教えを説いたのです。

アルマはまず、キリストのことを話します。「わが子よ、キリストの来臨についてあなたに少し述べておきたい。見よ、あなたに言う。キリストは確かに世の罪を取り除くために来られる。キリストは御自分の民に救いの喜びのおとずれを告げ知らせるために来られる。」(アルマ39:15)

コリアントンは、はるか未来に起こるキリストの来臨についてどうして分かるのかと尋ねました。

それに対し、アルマはこう答えました。「今の人はキリストが来られる時代の人と同じように、神にとって貴い存在ではないだろうか。」(アルマ39:17)

コリアントンは、「死者の復活について、……心を悩まして」いました(アルマ40:1)。

それまでに復活について神に尋ねたことのあるアルマは、最初の復活とそれ以降の復活についてコリアントンに話します。「すべての人が将来、死者の中から出て来る定められた時がある。」(アルマ40:4)

アルマは、「人が死んだ時から復活の定められた時に至るまで、どのようなことが人に起こる」のかについても、すでに神に尋ねていました(アルマ40:7)。

そこで、コリアントンに次のように話しました。「すべての人の霊は、この死すべき体を離れるやいなや、まことに、善い霊であろうと悪い霊であろうと、彼らに命を与えられた神のみもとへ連れ戻される。」(アルマ40:11)「義人の霊は……幸福な状態……に迎え入れられ」(アルマ40:12)、悪人の霊は「悪魔の意のままに捕らえられて連れ去られ……る。」(アルマ40:13) 義人は「自分たちの復活の時まで……パラダイスにとどまる。」(アルマ40:14)

「あなたがたはその恐ろしい危機に陥るときに、『わたしは悔い改めて神に立ち

返ろう」と言うことはできない。あなたがたはこのように言うことはできない。なぜならば、現世を去るときにあなたがたの肉体を所有しているその同じ霊が、あの永遠の世で、あなたがたの肉体を所有する力を持つからである。」(アルマ34:34)

アルマは息子に話します。「肉体の死と復活の間には時の隔りがある……。また、霊は幸福か不幸かいずれかの状態に置かれ、この状態は神が定められた時まで続く。その時が来ると、死者は出て来てその霊と体が再結合され、神の御前に連れ出されて立ち、自分の行いに応じて裁かれるのである。」(アルマ40:21)

「霊は体に回復され、体は霊に回復される。」(アルマ40:23)「これこそが預言者たちの口を通して語られてきた回復なのである。」(アルマ40:24)アルマは「ある人々は聖文を曲げて解釈し、このことについて大いに迷っている」と話しました(アルマ41:1)。

そして、こう続けます。「さて、わが子よ、今あなたの心を悩ませている、あなたの理解できないことがほかにも多少あることを、わたしは知っている。それは罪人を罰する神の公正についてである。あなたは罪人が不幸な状態に置かれるのは不当であると思っている。

さて見よ、わが子よ、このことをあなたに説明しよう。」(アルマ42:1-2)

アルマはコリアントンに、エデンの園とアダムとエバの墮落について教えます。「さて、これによって分かるように、わたしたちの始祖は、肉体的にも霊的にも主の御前から絶たれてしまった。このようにして、わたしたちが知っているように、彼らは自分の意志に従う者となったのである。」(アルマ42:7)

「人は死ぬものと定められた。」(アルマ42:6)

そして、なぜ死が絶対的に必要だったのかを説明します。「もし贖いの計画がなければ(それを捨てたらば)、人が死ぬとすぐに、その霊は主の御前から絶たれるので不幸な状態に陥ったであろう。」(アルマ42:11)

アルマは正義と憐れみについてコリア



ントンに教えます。「正義によれば、贖いの計画は……人々が悔い改めるという条件がなければ成し遂げられない。」(アルマ42:13)

アルマはこう説明しています。「憐れみの計画は、贖罪が行われなければ成し遂げることができなかった。したがって、神は憐れみの計画を成し遂げるため、正義の要求を満たすため、また御自分が完全に公正な神、憐れみ深い神であり続けるために、御自分で世の罪の贖いをされるのである。」(アルマ42:15)

アルマは変わることをない永遠の律法についてコリアントンに教えます(アルマ42:17-25参照)。

そして、なぜ罰が必要だったのかをきわめて単刀直入に説明しています。「さて、罰がなければ、人は悔い改めをすることができなかった。この罰も霊の命と同じように永遠のものであり、霊の命と同じように永遠である幸福の計画に相対して定められたのである。」(アルマ42:16)

アルマは自分で経験して罰の苦痛と悔い改めの喜びを知っていました。アルマもかつてコリアントンの祖父に当たる自分の父親をひどく落胆させたことがあったからです。反抗して、歩き回り、「神の教会を滅ぼそうとして」いました(アルマ36:6)。そして天使に打たれました。それは自分の行いの報いではなく、父親と民の祈りがこたえられたためでした(モーサヤ27:14参照)。

アルマは罪悪感からひどい苦痛を感じ

たことを話します。「苦痛に責めさいなまれていたときに、わたしは自分の多くの罪を思い出してひどく苦しみながら、見よ、かつて父がイエス・キリストという御方の来臨について民に預言するのを聞いたことを思い出した。イエス・キリストは神の御子であり、世の罪を贖うために来られるというのである。

心にこの思いがはっきりと浮かんできたとき、わたしは心の中で、『おお、神の御子イエスよ、苦汁の中におり、永遠の死の鎖に縛られているわたしを憐れんでください』と叫んだ。

さて見よ、このことを思ったとき、わたしはもはや苦痛を忘れることができた。まことに、わたしは二度と罪を思い出して苦しむことがなくなった。

おお、何という喜びであったことか。何という驚くべき光をわたしは見たことか。まことに、わたしは前に感じた苦痛に勝るほどの喜びに満たされたのである。

わが子よ、まことに、あなたに言うが、わたしはほかにあり得ないほど激しく、またつらい苦痛を味わった。また息子よ、わたしは言う。それとは反対に、わたしはほかにあり得ないほど麗しく、また快い喜びを味わった。……

また、そのときからまさに現在まで、わたしは絶えず働き続け、人々を悔い改めに導き、わたしが味わった非常な喜びを味わわせ、彼らも神から生まれ、聖霊に満たされるようにしてきた。」(アルマ36:17-21, 24)

「あなたは憐れみが正義から何を奪うことができると思うか」とアルマはコリアントンに問いかけ(アルマ42:25)、キリストの贖いのおかげで永遠の律法はこの両方を満たすことができるのだ、と説明しました。

「聖霊に感じ」て(教義と聖約121:43。アルマ39:12も参照)アルマはコリアントンを厳しく責めました。そして、これらの福音の基本原則を根気よく、そして分かりやすく説いた後で、豊かな愛を注ぎました。

預言者ジョセフ・スミスは啓示によって次のことを学びました。「いかなる力も影響力も、神権によって維持することはできない、あるいは維持すべきではない。



テンブルスクウェアのクリスタス像は、世の救い主というイエス・キリストの役割を伝えている。

ただ、説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛により、

優しさと純粋な知識による。これらは、偽善もなく、偽りもなしに、心を大いに広げるものである。

聖霊に感じたときは、そのときに厳しく責めなさい。そしてその後、あなたの責めた人があなたを敵視しないために、その人にいっそうの愛を示しなさい。

それは、あなたの誠実が死の縄目よりも強いことを、その人が知るためである。」(教義と聖約121:41-44)

アルマは言いました。「おお、わが子よ、あなたはこれからはもう、神の正義を否定しないようにしてもらいたい。神の正義を否定することによって、どんなささいなことでも罪の言い訳をしようとしてはならない。むしろ、神の正義と憐れみと寛容があなたの心の中で存分に力を振るえるようにし、そのためにへりくだって地にひれ伏すことができるようにしなさい。」(アルマ42:30)

同じくアルマという名前のコリアントンの祖父は、邪悪なノア王に仕える祭司の一人でしたが、預言者アビナダイがキリストに

ついて証するのを聞いて改心しました。そして命をねらわれたために悪い祭司のいる宮殿から逃げ出し、キリストについて教え始めました(モーサヤ17:1-4参照)。

今はその息子のアルマが、自分の息子コリアントンに向かって悔い改めを熱心に説いているのです。

息子を厳しく責め、福音の教義を根気よく教えた後で、愛にあふれた父親アルマはこう言います。「さて、わが子よ、あなたはこれからはもう、これらのことに思い悩まされることなく、ただ自分の罪にだけ心を悩まし、その悩みによって悔い改めに導かれるようにしてもらいたい。」(アルマ42:29)

苦しみと恥ずかしさのために、コリアントンは「へりくだって地にひれ伏す」に至りました(アルマ42:30)。

コリアントンの父であり神権指導者でもあるアルマは、コリアントンが悔い改めたことに満足しました。アルマは息子が背負っていた恐ろしい罪の重荷を降ろしてやった後で、再び彼を伝道地に送り返します。「さて、おお、わが子よ、あなたはこの民に御言葉を告げ知らせるために神

から召されている。……あなたの道を行き、誠実にまじめに御言葉を告げ知らせて、……神がまことにわたしの言葉のとおりになんかあなたにかなえてくださるように。」(アルマ42:31)

コリアントンは兄のヒラマンとシブロン、そして神権指導者たちとともに働くようになりました。20年後も、北方の地で福音にあって忠実に働いています(アルマ49:30;63:10参照)。

わたしたちが住む非常に邪悪な世の中で、子供たちは進むべき道を見いださなければなりません。ポルノグラフィや性の倒錯、不道德、児童虐待、薬物中毒など、問題は至る所にあります。こうした勢力から逃れる方法はありません。

好奇心から誘惑に乗り、少し試してみようとする人がいます。そして、中毒のわなに陥り、望みを失います。こうして、悪魔は獲物を捕らえ、縛りつけるのです。

サタンはわたしたちを欺く者であり、滅ぼす者ですが、その勝利は長くは続きません。

運命からは逃れられないのだから罪を犯し続けるしかないのだと、悪魔の使いたちに信じ込ませられている人がいます。

最もたちの悪い偽りの教えは、変わることも悔い改めることも不可能だとか、赦されるはずがないというものです。これが真実であるはずはありません。そのような教えを信じ込んでいる人々は、キリストの贖罪のことを忘れていてのです。

「見よ、主なるあなたがたの贖い主は、肉体において死を受けた。それによって、すべての人が悔い改めて自分のもとに来ることができるように、主はすべての人の苦を引き受けた。」(教義と聖約18:11)

キリストは創造主であり、癒してくださいる御方です。御自身がお造りになったものを、主は直すことができになります。イエス・キリストの福音は悔い改めと赦しの福音なのです。(2ニーファイ1:13;2 ニーファイ9:45;モルモン書ヤコブ3:11;アルマ26:13-14;モロナイ7:17-19参照)

「人の価値が神の目に大いなるものであることを覚えておきなさい。」(教義と聖約18:10)

イエス・キリストについてのもう一つの証であるモルモン書から引用した、この愛にあふれる父親と道をそれた息子の話は、現代にも当てはまる一つのパターンであり、実例です。

わたしたち一人一人は天の御父の息子です。御父の贖いの計画があるおかげで、つまずき、倒れた者も「とこしえに捨てられ[ることは]ない」のです(モルモン書、タイトルページ、第2段落)。

「人が悔い改めるとき、主の喜びはいかに大きいこと」でしょうか(教義と聖約18:13)。

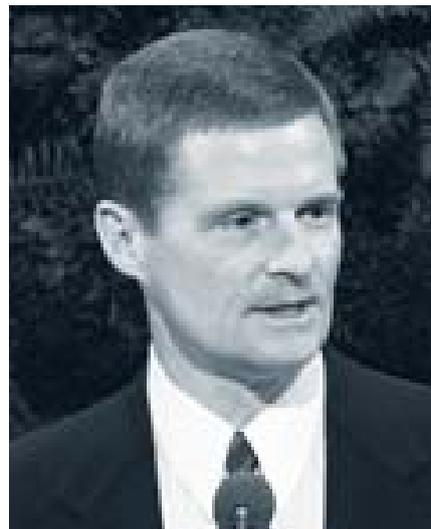
「主……は、ほんのわずかでも罪を見過ごしにすることはしない……。それでも、」(教義と聖約1:31-32)「自分の罪を悔い改めた者は赦され、主なるわたしはもうそれを思い起こさない」と主は言っておられます(教義と聖約58:42)。

この聖文以上にすばらしく、慰めを与える、希望に満ちた言葉がほかにあるでしょうか。「主なるわたしはもう[彼らの罪]を思い起こさない。」(教義と聖約58:42)これはモルモン書の証であり、わたしから皆さんへの証でもあります。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

# いつも主の御霊を受けられるように

十二使徒定員会  
デビッド・A・ベドナー

**わたしたちは自分が「主の御霊から身を引いて」いないかどうか吟味するよう努めるべきです。……自分を聖なる御霊から引き離すような選択や影響力に注意を払い、それらから学ばなければなりません。**



**今**日、わたしは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員である皆さんに注意を促し、訓戒するために話します。これからともに学ぶに当たって聖霊がわたしと皆さんを助けてくださるように祈っています。

罪の赦しのために水に沈めるバプテスマは、イエス・キリストの福音の最初の儀式です。バプテスマに先立って、救い主を信じる信仰と心からの完全な悔い改めがなければなりません。水のバプテスマの後に聖霊のバプテスマを受けることによって、バプテスマは完全なものとなります[『聖句ガイド』『バプテスマ』の項、207参照]。救い主がニコデモに教えられた

ように、「だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない」のです(ヨハネ3:5)。今日は聖霊のバプテスマと、聖霊を伴侶とすることで得られる祝福に焦点を当てて話します。

## バプテスマの儀式とそれに伴う聖約

バプテスマを受けたとき、わたしたちはそれぞれ天の御父と厳粛な聖約を交わしました。聖約とは神と地上にいる子供たちとの間の合意です。そして、福音の聖約はすべて神が条件を決められるということを理解することが大切です。皆さんやわたしが聖約の性質や内容を決めることはありません。むしろ、わたしたちは道徳的な選択の自由を行使して、永遠の御父が定められたとおりに聖約の条件と要求を受け入れるのです[『聖句ガイド』『聖約(契約)』の項、152参照]。

救いの儀式であるバプテスマは、ふさわしい権能を神から授けられた者によって執行されなければなりません。バプテスマの水の中で交わした聖約の基本的な条件は次のとおりです。すなわち、わたしたちは進んでイエス・キリストの御名を受け、いつも主を覚え、主の戒めを守ることを証明するというものです。そしてこの聖約を尊ぶときに、いつも主の御霊を受けられるという祝福が約束されています(教義と聖約20:77参照)。言い換えれば、水によるバプテスマ



によって、神会の第3の御方を常に伴侶とすることが認められるのです。

### 確認と聖霊のバプテスマ

バプテスマの後、わたしたちはそれぞれ神権の権能を持つ人によって頭の上に手を置かれ、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員に確認され、聖霊を授けられました(教義と聖約49:14参照)。確認の中で告げられた「聖霊を受けなさい」という言葉は、聖霊のバプテスマを受けるように努めなさいという指示です。

預言者ジョセフ・スミスは次のように教えています。「もしも罪の赦しと聖霊を受けることを考えずに、人にバプテスマを施すのであれば、砂の袋にバプテスマを施した方がよいでしょう。水によるバプテスマは、バプテスマの半分にすぎません。残りの半分、すなわち聖霊のバプテスマがなければ、何

の役にも立たないのです。」(History of the Church, 第5巻, 499) わたしたちは罪の赦しのために水に沈めるバプテスマを受けました。同様に主の御霊によるバプテスマも受けて、御霊の中に沈められなければならない、「そうすれば、火と聖霊によって罪の赦しが与えられる」のです(2ニーファイ31:17)。

聖霊について経験を得るにつれて、わたしたちは御霊の影響力を常に同じ強さで感じるものではないことを知ります。深く心に残る霊的で強い印象は、頻繁にはもたらされません。忠実で従順であるように努めているときでさえも、生活の中で御霊による導きや確信、平安を容易に認識できないときがあります。実際、モルモン書には、忠実なレーマン人が「火と聖霊によるバプテスマを受けた。しかし、彼らはそれを知らなかった」と述べられて

います(3ニーファイ9:20)。

聖霊の影響力は、聖文では「静かな細かい声」(列王上19:12。3ニーファイ11:3も参照)や「まったく優しい……声」(ヒラマン5:30)と表現されています。このように、主の御霊はたいてい静かな、繊細な、かすかな方法でわたしたちに語られます。

### 主の御霊から身を引く

個人で研究するときやクラスで教えるとき、わたしたちは主の御霊から受ける靈感や促しを認識することの大切さに度々重点を置きます。そのような学び方は正しくて有益なものです。わたしたちは導きを受けたときにそれを認識し、それに応じるように熱心に努めるべきです。しかし霊的な進歩に関して、聖霊によるバプテスマという大切な側面が見落とされていることが往々にしてあります。

わたしたちは自分が「主の御霊から身を引いて、祝福と繁栄と守りを得るための知恵の道に導く御霊を自分の内に宿さないように」していないかどうか吟味するよう努めるべきです(モーサヤ2:36)。いつも主の御霊を受けられるという祝福が約束されているのですから、自分を聖なる御霊から引き離すような選択や影響力に注意を払い、それらから学ばなければなりません。

標準は明らかです。もし何かを思ったり、見たり、聞いたり、行ったりすることが自分を聖霊から遠ざけるならば、それを思ったり、見たり、聞いたり、行ったりするのをやめるべきです。もし例えば娯楽を目的としたものがわたしたちを聖なる御霊から遠ざけるならば、そのような娯楽は確かにわたしたちにふさわしくありません。御霊は低俗なものや下品なもの、みだらなものに耐えることができないので、明らかにそのような事柄はわたしたちにふさわしくありません。避けるべきだと分かっている活動にかかわるとき、主の御霊を遠ざけます。ですからそのような事柄は確かにわたしたちにふさわしくありません。

わたしたちが死すべき世に住む墮落した者たちであって、毎日、毎時間、毎分、毎秒、聖霊とともにいることができないのは分かっています。それでも聖霊に、ほとんどの時間とまではいかななくても、多くの時間をともにいていただくことはできます。そして確かに、御霊を受けている時間を、受けていない時間よりも多くすることができるのです。絶えず主の御霊の中に沈められるようになるとともに、わたしたちは、導きを受けたときにそれを認識するように努め、また聖霊から身を引かせようような影響力や出来事についても認識するように努めるべきです。

「自分の導き手として聖なる御霊を受け[る]」ことは可能であって(教義と聖約45:57)、霊的に成長し、ますます邪悪になる世の中を生き抜くうえで欠かせません。末日聖徒であるわたしたちは時々、生活の中で聖霊の影響力を認識することが珍しい、あるいは例外的な出来事であるかのように語ったり振る舞ったりするこ

とがあります。しかし、聖約の約束がいつも主の御霊を受けられるという約束であることを覚えていなければなりません。この天の祝福は、バプテスマと確認と「聖霊を受けなさい」という指示を受けたすべての教会員に当てはまるものです。

## わたしたちの時代の予型および影としてのリアホナ

わたしたちの時代において、聖霊を常に伴侶として招く方法を学ぶために、最も頼るべき書物はモルモン書です。モルモン書にはリアホナ、すなわちリーハイと家族が荒野を旅したときに使った指示器または羅針盤についての記述がありますが、これはわたしたちの時代のための予型および影として、またきわめて重要な教訓として、特に記録に含まれました。この教訓のおかげで聖霊の祝福を享受するために何をしなければならぬかが分かるのです。

態度と行いを義にかなったものとするように努めるとき、聖霊は今日のわたしたちにとって、リーハイと家族にとってのリアホナのように変わります。リーハイのためにリアホナを働かせたのとまさに同じ要素が、聖霊をわたしたちの生活に招くこととなります。そして昔リアホナの働きを止めたのとまさに同じ要素が、今日わたしたちが聖霊から身を引く原因となるのです。

### リアホナ——目的と原則

リアホナの目的とそれが働くときの原則について研究し、深く考えるとき、わたしたちは自分と家族の状況と必要に合った靈感を受けることになるでしょう。わたしはそのことを証します。このようにして、わたしたちは聖霊から絶えず導きを受けるといふ祝福にあずかることができるのです。

リアホナは主によって用意され、リーハイが家族とエルサレムを去った後、荒野を旅していたときに与えられました(アルマ37:38および教義と聖約17:1参照)。この羅針盤または指示器は、リーハイと一行が進むべき方向を指し(1ニーファイ16:10参照)、それはまさに「約束の地に

至るまっすぐな道」でした(アルマ37:44)。リアホナの中にある指針は、旅をするリーハイたちの「信仰と熱意と注意力に応じて」働き(1ニーファイ16:28)、家族が争ったときや粗暴になったとき、怠惰になったとき、無頓着になったときに働かなくなりました(1ニーファイ18:12, 21; およびアルマ37:41, 43)。

また羅針盤はリーハイと家族が「主の道について……理解を」得るための手段も提供しました(1ニーファイ16:29)。このように、リアホナの主要な目的は、長く厳しい旅の間に導きと教えを与えることでした。この指示器は物理的な道具として、彼らの内なる霊の立場が神の前でどのようなものかを外に示しました。それは、信仰と熱意の原則に従って働きました。

昔リーハイが祝福を受けたように、今日のわたしたちにも、現世の旅において導きと教えを与えてくれる霊的な羅針盤がそれぞれに与えられています。バプテスマと確認によってこの世から救い主の教会に入ったとき、皆さんもわたしも聖霊を授かりました。聖なる神権の権能によって、教会の会員に確認され、「真理の御霊」を常に伴侶とすることを求めるように勧告を受けました。「この世はそれを見ようともせず、知ろうともしないので、それを受けることができない。あなたがたはそれを知っている。なぜなら、それはあなたがたと共におり、またあなたがたのうちにいるからである。」(ヨハネ14:17)

人生の道を進むとき、わたしたちはそれぞれが、リーハイがリアホナによって導かれたのと同じように、聖霊から導きを受けます。「見よ、わたしは、もう一度あなたがたに言うておく。あなたがたがその道によって入り、聖霊を受けるならば、聖霊は、あなたがたがなすべきことをすべてあなたがたに示されるであろう。」(2ニーファイ32:5)

リアホナがリーハイと家族のために働いたのとまったく同じように、聖霊は日々の生活の中で、わたしたちの信仰と熱意と注意力に応じて働かれます。

「絶えず徳でああなたの思いを飾るようにしなさい。そうするとき、神の前においてあなたの自信は増[す]……であろう。

聖霊は常にあなたの伴侶となり、あなたの<sup>しやく</sup>筋は義と真理の不変の筋となるであろう。】(教義と聖約121:45-46)

そして聖霊は今日わたしたちに、小さな、簡単なことによって、主の道についてさらなる理解を得るための手段を与えてくださいます。「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう。】(ヨハネ14:26)

主の御霊は現世の旅においてわたしたちの導き手となって、導きと教えと霊的な守りを与えてくださいます。わたしたちは個人と家族の有意義な祈りによって、またキリストの言葉をよく味わい、熱心で、完全に従順で、忠実であり、聖約を尊ぶことによって、そして徳と謙遜<sup>けんそん</sup>と奉仕によって、聖霊を自分の生活に招きます。そして聖霊から身を引かせるような慎みのないもの、粗野なもの、下品なもの、罪深いもの、邪悪なものを、確固として避けなければなりません。

また、毎週安息日にふさわしい状態で聖餐<sup>せいさん</sup>を受けるときに、わたしたちは聖霊を常に伴侶として招きます。「また、あなたは、世の汚れに染まらずに自らをさらに十分に清く保つために、わたしの聖日に祈りの家に行って、聖式をささげなければならぬ。】(教義と聖約59:9)

聖餐の儀式によって、わたしたちはバプテスマの聖約を更新し、罪の赦しを受けて保つことができます(モーサヤ4:12, 26参照)。さらに、いつも主の御霊を受けられるという約束を毎週思い起こすことができます。そしていつも清く、世の汚れに染まらないでいるよう努めるとき、わたしたちは主の御霊が常にとどまることのできるふさわしい器となるのです。

1847年2月、預言者ジョセフ・スミスは夢すなわち示現の中で、ブリガム・ヤングに現れました。ヤング会長は預言者ジョセフに、兄弟たちへの伝言がないか尋ねました。預言者ジョセフは次のように答えました。「皆さんに謙遜<sup>けんそん</sup>で忠実であるように、主の御霊<sup>みたま</sup>を保つように言ってください。それが皆さんを正しい道へと導くのです。



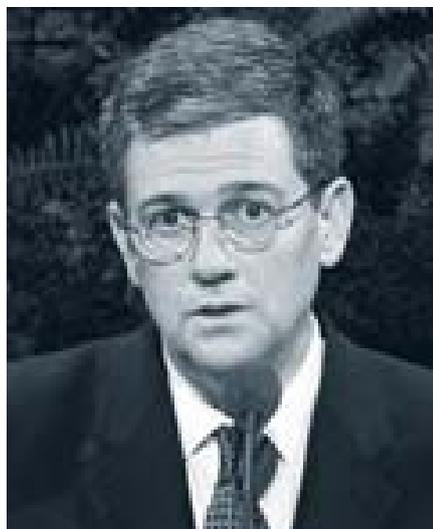
静かな細い声を退けてしまうことのないように注意してください。静かな細い声は何をすべきか、またどこへ行くべきかを教えてくれます。王国の実を授けてくれるのです。【『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』43】その神聖な機会にブリガム・ヤングに教えることができたであろうあらゆる真理の中で、預言者ジョセフが強調したのは、主の御霊を得て保つことの大切さでした。

愛する兄弟姉妹の皆さん、永遠の父なる神と、御子イエス・キリストと、聖霊とが実際に生きておられることを証します。わたしたちそれぞれがいつも主の御霊を受けられるように生活し、それによってこの末日に不可欠な導きと教えと守りという祝福を受ける資格を得ることができるようになります。イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。

# あなたの伝道が すべてを変える

七十人  
デビッド・F・エバンズ

来て、これまで世界に知られている最高の宣教師の世代に加わってください。



**わ**たしが総大会で支持を受けてからちょうど1年がたちました。この1年の間に経験したすべてのことに感謝しています。わたしは主を愛しており、主の犠牲と福音に心から感謝しています。ヒンクレー大管長を愛し、大管長を地上における主の預言者として支持しています。世界中の忠実な聖徒とともに、現代の預言者と使徒たちについて証し<sup>あかし</sup>、主の大義のために生涯をささげ<sup>あらし</sup>ることを誓います。

数年前に、わたしは宣教師たちと面接をしていました。彼らが到着するころには冬の嵐が吹き始め、一日中吹き荒れました。嵐の中、冷たい雨は雪に変わりました。嵐の中、また雨になりました。ある宣教師たちは、周辺の町々から列車に乗り、駅から教会

まで嵐の中を歩いて来ました。自転車で来た宣教師たちもいます。ほとんど例外なく、快活で、幸せそうでした。彼らは主の宣教師でした。状況に関係なく、主の御霊<sup>みたま</sup>を持ち、主の務めに携われることを喜んでいました。

同僚と自分の面接が済んだ者から順々に、嵐の中、福音を宣べ伝え、主から召された業を行うために再び外へ出て行く宣教師の姿を、わたしは決して忘れないでしょう。決意と献身が見て取れました。彼らが人々と主を愛していることを感じました。外へ出て行く宣教師を見ながら、彼らに対して、また彼らの働きに対して、あふれるばかりの愛情を感じました。

その夜、わたしは同じ町で開かれた神権会に出席しました。嵐は収まらず、ほとんど吹雪になっていました。開会の賛美歌のときに、伝道部一小さく、遠い支部の支部長が、副支部長を務める二人の宣教師、ワナー長老とカーボウィツ長老とともに礼拝堂に入って来ました。着席する前に、このすばらしい二人の宣教師は、防寒用の帽子と手袋を取り、コートを脱ぎました。それからその下に着ていた2枚目のコートも脱いで席に座りました。先ほどの宣教師たちのように、悪天候など物ともしない明るさでした。日々、主の御霊を感じていたのです。主の大義に仕えることを通して、言葉で表現し難い特別な愛とぬくもりと喜びを感じていました。

その夜、この若くて偉大な長老たちを

見ているうちに、驚くべき経験をしました。寒い夜に出て行く伝道部中の宣教師の姿が、わたしの心の目に映ったのです。ドアをノックし、イエス・キリストの福音を教えたいと告げ、拒絶される宣教師たち。家やアパートで、一人の人に、また家族に教えている宣教師たち。状況に関係なく、耳を傾けようとする人にイエス・キリストの福音を教えるために、彼らは最善を尽くし、しかも幸せでした。説明し難いある感情が込み上げてきました。

御霊の驚くべき賜物<sup>たまもの</sup>により、あらゆる地の忠実な宣教師に向けられている主の愛、キリストの純粋な愛を感じたわたしは、永遠に変わりました。主にとって一人一人の宣教師がどれほど大切であるかが分かりました。預言者たちの語った史上最高の宣教師とはどのような人たちなのかをかいま見たのです(M・ラッセル・バラード「最高の宣教師を輩出する時代に生きる若者たち」『リアホナ』2002年11月号、47参照)。準備やふさわしさの標準を引き上げて、主の御霊に付随する守りや導き、幸福を、世界中の宣教師が享受できるようにしなければならない理由が分かり始めました。教会の若人が伝道のもたらす祝福にふさわしくなれるよう——親、監督、ステーク会長、そのほかの指導者として——わたしたちが、なぜあらゆる支援の手を差し伸べなければならないのが分かり始めました。

ヒンクレー大管長は、自身の宣教師時代の経験を紹介し、主のために生き、働くことを決意する宣教師の心に生じる変化について説明しています。伝道に出たヒンクレー長老は、落胆していました。伝道はつらく、人々は聞く耳を持ちません。けれども、あるときを境に、落胆が決意に変わったのです。そのきっかけは父親から受け取った次のような手紙でした。「愛するゴードンへ。……おまえの手紙を読みました。わたしにできる忠告はただ一つ。自分を忘れて御業<sup>みわざ</sup>に励みなさい。」次に起きたことを大管長はこう述べています。「わたしはアパートの狭い寝室でひざまずいて、……自分を主にささげるよう努力することを誓約しました。



すると世界は一変しました。霧が晴れ、生活に日がさしてきました。新たな関心がわいてきました。この国の美しさと、人々のすばらしさに目が向きました。……わたしの人生で起きた良いことのすべては、あの狭いアパートで決意したことが基になっているのです。」(マイク・キャノン “Missionary Theme Was Pervasive during Visit of President Hinckley,” *Church News*, 1995年9月9日付, 4で引用)

ヒンクレー大管長はさらに述べています。「幸せになりたいですか。それなら、自分を忘れ、この大なる大義に没頭し、全力で人を助けてください。」(*Church News*, 1995年9月9日付, 4で引用)

すべての若い男性にお尋ねします。「幸せになりたいですか。」それなら、現在5万

2,000人以上、そしてさらに増え続ける宣教師に加わり、主のために隣人に仕えてください。あなたの人生の2年間を主にささげる決意をしてください。そうすればすべてが変わります。幸せになり、霧が晴れるでしょう。仕えるよう召された地域の人々と、その文化を愛するようになります。困難な仕事ですが、仕えているうちに大きな満足と喜びが得られます。伝道中も伝道後も忠実であるなら、人生を振り返るときに、ヒンクレー大管長のように言うことができるでしょう。「わたしの人生で起きた良いことのすべては、宣教師になり、生活を主にささげると決意したことが基になっているのです。」

「この祝福を享受できるのは若い長老に限られているわけではありません」とヒン

クレー大管長は述べています。夫婦宣教師はすばらしく、大いに必要とされています。若い姉妹には宣教師になる義務はありませんが、大管長はこう言っています。「わたしたちは幾らかの若い女性を必要としています。彼女たちは目覚ましい働きをします。」(「教会の監督たちへ」『世界指導者訓練集会』2004年6月19日, 27)中には健康その他の理由で伝道を正当に免除される人がいることをわたしたちは承知しています。彼らを愛しています。彼らもほかの方法で奉仕し、忠実に生活することを通して、天の御父から十分に祝福していただけるのです。

1年前、バラード長老は、両親、監督、支部長に、協力して一つのことを行うように求めました。各ワード・支部から、宣教

# 選択の自由の賜物

た ま も の

師になるために備えてきた人たちに加え、少なくとももう一人の若い男性を助け、ふさわしさを身に付けて召しが受けられるようにするという事です(「もう一人」『リアホナ』2005年5月号, 71)。多くの人がこの要請にこたえました。わたしたち指導者は決意を新たにして、この靈感された要請にこたえていく必要があります。

兄弟姉妹、多くの監督が、バラード長老の要請したことを長年実行しています。36年前、フランク・マスソン監督が我が家に電話をして、わたしを監督室へ招きました。当時は世界情勢が原因で、どのワードも限られた数の宣教師しか出せませんでした。しかし人員を増やすことが可能になり、監督は宣教師をあと一人推薦するよう要請されていたのです。監督は、副監督たちと何度も祈ったと言いました。そしてこう言いました。「主は今、君が伝道することを望んでおられる、とわたしは感じています。」わたしはびっくりしました。「主はあなたにこれこれを望んでおられる」と人から言われたのはそれが初めてでした。行くべきである、今行くべきである、と主の御霊が証するのを感じました。監督に言いました。「主がわたしに伝道をお望みなら、行きます。」

すべてが変わりました。確かに霧が晴れ、幸福と喜びが訪れました。いろいろな意味で、わたしの人生で起きた良いことのすべては、主と主の子供たちに仕え、人生の2年間を主の業にささげると決意したことが基になっています。

もう一度言います。「来て、わたしたちに加わってください。来て、清くなってください。来て、喜んでください。来て、人生のこの時期に主が『最も価値のあること』(教義と聖約15:6)と言われたことを経験してください。来て、これまで世界に知られている最高の宣教師の世代に加わってください。」

これは主の業です。天の御父は生きておられ、その御子イエス・キリストが現在のこの業を導いておられます。このことをイエス・キリストの御名によって証します。アーメン。

七十人  
ウォルフガング・H・ポール

**天の御父の戒めを守ると信仰は強まり、知恵と霊的な強さが増し、正しい選択をするのが容易になります。**



以前、車を運転していて赤信号で停車したとき、すぐ前に止まっていた車が目に留まりました。ステッカーにこう書いてありました。「したいことをするのさ。」

どうしてそのような言葉をわざわざ車にはろうと思うのか、不思議でした。一体何を伝えたかったのでしょうか。もしかするとこの車の運転手は、自分のしたいことをするだけで完全な自由を得たと公言したかったのかもしれませんが。そう考えると、皆が自分の好きなことだけをすれば、世の中は非常な混乱に陥ると思に至りました。

社会ではこの考え方について幾らか混乱していることは明らかです。様々な報道や広告、娯楽、そして至る所で、したいことができれば自由で幸福になれるという考えが広まっています。こうした考え方をする人は、ただ愉快で楽しく、自分の欲求を満たすかどうかだけを基準に物事を決めます。

天の御父はもっと良い考え方を教えてください。それは真の自由と幸福を与える、偉大な幸福の計画です。モルモン書にはこのようにあります。

「そして時が満ちると、人の子らを墮落から贖うためにメシヤが来られる。人の子らは墮落から贖われているので、すでにとこしえに自由となり、善悪を知るようになっていく。彼らは、神が下された戒めによって、大いなる終わりの日に律法に伴う罰を受けるほかは、思いのままに行動することができ、強いられることはないのである。」

そのため、人は肉においては自由であり、人のために必要なものはすべて与えられる。そして人は、すべての人の偉大な仲保者を通じて自由と永遠の命を選ぶことも、あるいは悪魔の束縛と力に応じて束縛と死を選ぶことも自由である。悪魔は、すべての人が自分のように惨めになることを求めているからである。』<sup>1</sup>

わたしたちはこの世に生まれたとき、選択の自由と呼ばれる、神が下さった賜物と特権を天の家から携えて来ました。選択の自由により、わたしたちには、決断し選ぶための権利と力が与えられています。選択の自由は永遠の律法です。プリガム・ヤング大管長は選択の自由についてこのように教えています。「これは永遠の過去から永遠の未来にわたって常に存在する律法です。すべて英知を有する生命は、選択する力を持たなければなりません。』<sup>2</sup>

ウィルフォード・ウッドラフ大管長は同じテーマについてこう語っています。「この選択の自由は常に、神の統治と政体の下

で人が受け継いできたものです。神は世界が存在する前に、もろもろの天の中の天において選択の自由を持っておられました。そしてルシフェルと彼の側についた者たちの攻撃から保持し守られたのです。この選択の自由があるため、皆さんもわたしも、全人類が責任を負う者、すなわち、自分の歩む道や生き方、行いに対して責任を負う者とされているのです。」<sup>3</sup>

主はアブラハムに霊の永遠の性質と、生まれる前からアブラハムが選ばれていたことを教えられ、この地上に来るおもな目的の一つについてこのように告げられました。「そして、わたしたちはこれによって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。」<sup>4</sup>

したがって選択の自由があるために、この地上の生涯は試しの期間になっているのです。もし選択の自由という素晴らしい賜物がなければ、天の御父が命じられるすべてのことを行うと証明することはできないでしょう。

選択の自由を使うためには、善悪をわきまえなければならぬし、自由に選べるようであればなりません。さらには選択の自由を使った後にその結果が伴わなければなりません。

天の御父の戒めを守ると信仰は強まり、知恵と霊的な強さが増し、正しい選択をするのが容易になることを、わたしは学んできました。

偉大な模範である主イエス・キリストは、選択の自由を使う方法について、すべての人に完全な模範を示されました。天におけるあの会議で、天の御父の計画が提示され、地上に来て肉体を受ける機会を授かると告げられたとき、初めから御父に愛され、選ばれた者である愛し子は御父に次のように言われました。「父よ、あなたの御心みこころが行われ、栄光はとこしえにあなたのものでありますように。」<sup>5</sup>

同様に、わたしたちも同じ基準で選択を行うべきです。「したいことをするのさ」と言う代わりに、「御父が望まれることを行う」というモットーを持つべきです。

そうするなら、主の祝福が注がれるこ



とを確信できるでしょう。中には、都合の悪いときに選択を迫られる場合も多々あるかもしれませんが。しかし、わたしに分かっているのは、自分の予定では都合が悪いときであっても正しい選択をするなら、そのときには方法が分からなくても、主が御自身の方法で面倒を見てくださるということです。

1989年にドイツ・ハンブルク伝道部からドレスデン伝道部を管理するために東ドイツに転任した当時は、わたしたち家族にとっては都合の悪い時期でした。子供たちはようやくハンブルクの新しい学校に慣れたところで、今度は東ドイツの社会主義的な学校制度に慣れることを余儀なくされました。しかも娘が一人、学校を卒業する必要があったので西ドイツに残ることになったのです。しかしこの経験から、初めは難しく思える選択でも、後には家族全員にとって祝福に転じることを学びました。だれの直面する課題を解決するにも、主には御自分の方法があるのです。

愛する兄弟姉妹の皆さん、わたしは天

の御父が与えてくださった選択の自由という素晴らしい賜物にほんとうに感謝しています。わたしたちが天の御父の子供であるという知識に感謝します。たくさんの個人的な経験から、天の御父がわたしたちを愛し、気にかけてくださっていることを知っています。また、イエスはキリストであり、神の御子、救い主、贖い主であられること、預言者ジョセフ・スミスが御父と御子にまみえた回復の預言者であること、ゴードン・B・ヒンクレー大管長が今日こんにちの預言者であることを知っています。

このことをイエス・キリストの御名みなによって証します、アーメン。

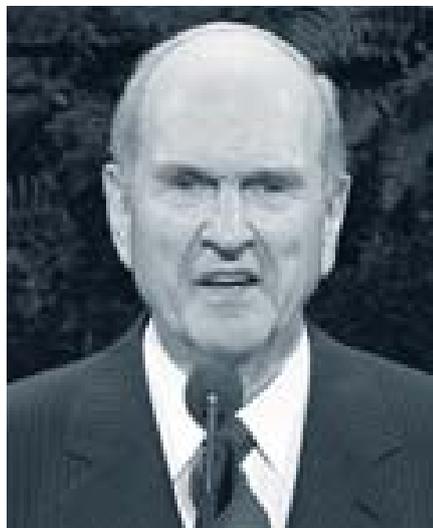
注

1. 2ニーファイ2:26-27
2. *Deseret News*, 1866年10月10日付, 355
3. *Millennial Star*, 1889年10月14日付, 642
4. アブラハム3:25
5. モーセ4:27

# 結婚のきずなを はぐくむ

十二使徒定員会  
ラッセル・M・ネルソン

もっと注意深くはぐくめば、結婚生活はさらに幸せなものになります。



**愛**する兄弟姉妹、皆さんが主と主の福音を愛していることに感謝しています。道徳が廃れ、結婚が地に落ちた現代にあって、皆さんは、どこに住んでいようと、義にかなった生活の模範です。

世界中を旅する幹部の兄弟たちは、時々気になる光景を見かけます。最近、飛行機で、ある夫婦の後ろに座りました。妻が夫を愛しているのは明らかでした。夫のうなじをなでる妻の指には結婚指輪がありました。妻は夫の気を引こうと、夫にもたれかかったり、頭を夫の肩の上に載せたりしていました。

しかし、夫は妻の存在を意に介していないようです。ひたすらコンピューターゲームをしていました。着陸するまでずっと、夫は小さなゲーム機に夢中でした。

妻に一度も目を向けず、話しかけることもなく、優しさを求める妻に、無関心でした。

そんな夫に、大声で言いたくなりました。「君、目を開けて！ 見えないのかい？ ほら、よく見て！ 奥さんは君を愛しているんだよ！ 君を必要としているんだ！」

この夫婦について、それ以外のことは何も知りません。あれ以来、会ったこともありません。わたしは心配しすぎなのかもしれません。そして、わたしの心配を知ったとしても、あの夫の目には、コンピューターゲームの遊び方を知らないわたしの方こそ、気の毒に映るのかもしれない。

しかし次のことは熟知しています。「男女の間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すもの」<sup>1</sup>であるということを、わたしは知っています。また、地球が創造され、主の教会が回復されたのは、家族が永遠に結び固められ、昇栄を受けるためであるということを、わたしは知っています。<sup>2</sup>そして、主の業の根幹を揺るがすために、サタンが巧妙な手段で、結婚と家族という神聖な制度を攻撃しているということ、わたしは知っています。

結婚には、どんな人間関係にも増して、大きな幸福をもたらす可能性があります。しかし、その幸福を十分享受していない夫婦もいます。そのような夫婦は、恋心が薄れ、互いの存在を当たり前と思い、ほかへの興味や無関心の影を放置しているため、結婚の本来の姿を見失っています。

もっと注意深くはぐくめば、結婚生活はさらに幸せなものになります。

成熟した独身の教会員が大勢いることを理解しています。自身に非はなくとも、彼らは人生の試練に一人で対処しています。忠実な聖徒には、主御自身の方法と時にならざるすべての祝福が与えられることを、皆が思い起こせますように。<sup>3</sup> 既婚者にも、これから結婚する人にも、喜びに満ちた結婚生活を送る二つのステップを紹介しましょう。

## I. 教義上の基礎

最初のステップは、結婚の教義上の基礎を理解することです。結婚とは一人の男性と一人の女性の合法的な結びつきであると主は宣言されました。「結婚は人のために神によって定められている……。

それゆえ、人が一人の妻を持つこと、また彼ら二人が一体となることは正当である。これはすべて、地がその創造の目的にかなうためである。」<sup>4</sup>

悲しいことに、世界は結婚に別の定義を与え、結婚制度を破壊する方向に進んでいます。そのような陰謀は、神の計画に反しています。

「それゆえに、人は父母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりの者は一体となるべきである」<sup>5</sup>と言われたのは神御自身なのです。

聖文は、さらにこう断言しています。「主にあっては、男なしには女はないし、女なしには男はない。」<sup>6</sup>

結婚とは、社会秩序を作り出す鑄造所、美徳の源泉、そして、永遠の昇栄への基盤です。結婚とは、永遠の聖約として神が定められたものです。<sup>7</sup> 結婚とは、聖い心で大切にし、敬うなら、聖められるものです。結婚のきずなは、夫婦だけのものではありません。神もそのきずなの中におられます。<sup>8</sup> 「夫婦は、互いに愛と関心を示し合う……厳粛な責任を負っています。」<sup>9</sup> そのきずなの下に生まれた子供は「神から賜わった嗣業」<sup>10</sup>です。家庭生活を花にたとえるなら、結婚はまだほんのつぼみで、花が咲くのは親になってからです。その花束は、孫に恵まれるときに、いっそう美しく咲き誇ります。家族は、神の王

国のように、永遠になり得るのです。<sup>11</sup>

結婚は、戒めでもあり、人を高める福音の原則でもあります。<sup>12</sup> 結婚は神が定められたので、伴侶がお互いに肉体的に愛を表現することは神聖なことです。しかしその賜物の神聖さが、あまりにも損なわれています。下品な言葉やポルノグラフィーで夫婦の性的関係を汚すなら、その聖なる賜物の価値を損なうだけでなく、創造主を不快にさせてしまいます。真の幸福は、自分の清さに懸かっています。<sup>13</sup> 聖文は「清くありなさい」<sup>14</sup>と命じています。結局のところ、結婚とは、夫婦を日の栄えの昇栄へと高めるための聖約なのです。

主は結婚を、死を越えて継続するものと定められました。主は家族を、神の王国において永遠に続くものとして計画されました。主は神殿を備え、生者と死者のために神殿で儀式を行うように計画されました。神殿で結び固められた夫婦は、神の業を完成させるために欠くことのできない、大いなるきずなを築き始めるのです。<sup>15</sup>

結婚に関する教義は、個人の選択の自由と責任にまで及びます。人は皆、自分の選択について説明する義務があります。子供に恵まれた夫婦は、子供にどれほど愛情を注いだか神に報告する義務があるのです。

神権指導者と面接するときに、わたしはよく、どのような優先順位で責任を果たしていますか、と尋ねます。すると彼らは普通、教会の重要な召しについて話します。家庭での責任について思い出す人はわずかです。しかし、神権の職も、鍵も、召しも、定員会も、家族を昇栄させるためにあるのです。<sup>16</sup> 神権の権能が回復されたのは、家族を永遠に結び固めるためです。ですから兄弟たち、神権者として最大の務めは、結婚に養いを与えること、すなわち妻を気遣い、敬い、たたえ、愛することです。妻と子供にとって祝福とさせていただきます。

## II. 夫婦のきずなを強める

以上の教義上の基礎を心に留め、第2のステップ、すなわち、夫婦のきずなを強める具体的な行いについて、一緒に考え



ましょう。これから幾つか提案をしますので、夫婦でよく考えて、自分たちの状況に応じて必要なものを取り入れてください。

わたしの提案は「感謝する」「理解し合う」「熟慮する」という、行為を表す3つの動詞から成ります。

「感謝する」つまり「愛しているよ」とか「ありがとう」と言うのは、難しいことではありません。しかし、このような愛と感謝の言葉は、優しい心遣いに礼を言う以上の何かを表します。それは優しい礼儀となります。伴侶が感謝の心をもって互いにそれぞれの長所を探し、真心から褒め合うようになると、妻も夫も、相手の褒め言葉にふさわしい人間になろうと努力するようになるのです。

二つ目の提案——伴侶とよく「理解し合う」こと——これもまた大切です。よく理解し合うとは、時間を取ってともに計画することでもあります。夫婦は、互いに意見を述べ、話し、相手が言うことに耳を傾けるために、二人だけの時間が必要です。協力し、同等のパートナーとして助け合う必要があります。肉体的にも、霊的にも、もっと親密になる必要があります。高め合い、励まし合うように努力する必要があります。互いに目標を理解したときに、夫婦はさらに一致します。祈りによっても相互理解が深められます。伴侶の善い行い（あるいは必要）について、具体的に祈るなら、夫婦のきずなが強められます。

3つ目の提案は「熟慮する」ことです。こ



の言葉の英語 *contemplate* には、深い意味があります。もとはラテン語で、*con* は「一緒に」、*templum* は「瞑想するための空間や場所」という意味です。「神殿」を意味する *temple* も同じ語源です。夫婦が度々一緒に神殿で熟慮するなら、神聖な聖約をもっとよく記憶し、守ることができるでしょう。神殿に度々参入し、家族で定期的に聖文研究をするなら、夫婦のきずなをはぐくみ、家族の信仰を強めることができます。熟慮することを通して、夫婦の思いが完全に一致し、また、主とも一致するようになります。熟慮することを通して、夫婦関係も、神の王国も発展します。主は言われました。「この世のものを求めないで、まず、神の王国を築き、神の義を打ち立てることを求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて添えて与えられるであろう。」<sup>17</sup>

既婚者一人一人がこの提案についてよく考え、きずなを強めるための具体的な目標を立てるように勧めます。まず心から望んでください。霊的な一致と目的を増すために必要な行動を見つけてください。何より、利己心を捨ててください！無私的心と寛容の精神を持ってください。比類ない賜物が天から与えられていることを、毎日ともに祝ってください。

ハロルド・B・リー大管長は言いました。「わたしたちが携わる主の業の中で最も重要なものは、わたしたち自身の家庭という囲いの中で行われるものである。」<sup>18</sup> また、デビッド・O・マッケイ大管長は宣言しました。「いかなる成功も家庭における失敗を償うことはできない。」<sup>19</sup>

夫と妻が、二人のきずなには神聖な目的があると悟ったとき、神がお互いを会わせてくださったのだと深く悟ることができたとき、皆さんの視界は広がり、理解が深まることでしょう。そのような思いが、わたしが長年愛唱している歌の歌詞の中に表されています。

君はぼくのもとに来た  
ただ愛だけを携えて  
君はぼくの手を握り、目を上げてと言った  
すると、広い世界と希望と喜びが見えた  
君が来てくれたから！

君はぼくに優しく語りかけた  
足もとにはバラが咲いていた  
涙と喜びを通り抜け、  
ぼくは君にたどり着いた  
君が語りかけてくれたから！

神は君をぼくに下さった

君を大切にすよ  
光と闇をくぐり抜け、いつまでも  
神の愛でぼくらの愛が聖められますように  
神が君をぼくに下さったから！<sup>20</sup>

すべての夫婦がきずなを強められますよう、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

#### 注

1. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号、49、第1段落
2. 聖文で「全地はことごとく荒廃するであろう」と警告されているとき、その警告は必ず、聖なる神殿で家族を結び固める神権の権能の必要性について言及している（教義と聖約2:3; 138:48; ジョセフ・スミス—歴史1:38参照）。
3. ジョセフ・フィールディング・スミス『救いの教義』ブルース・R・マッコスキー編、全3巻、第2巻、69参照
4. 教義と聖約49:15–16
5. マタイ19:5。マルコ10:7–8も参照
6. 1コリント11:11
7. 教義と聖約132:19参照
8. マタイ19:6参照
9. 「家族——世界への宣言」第6段落
10. 詩篇127:3
11. 教義と聖約132:19–20参照
12. ジョセフ・フィールディング・スミス、*“The Way to Perfection”* 第10版（1953年）、232–233参照
13. アルマ41:10参照
14. 教義と聖約38:42。イザヤ52:11;3 ニーファイ20:41;教義と聖約133:5も参照
15. 教義と聖約128:15–18参照
16. 教義と聖約23:3参照
17. ジョセフ・スミス訳マタイ6:38（マタイ6:33〔英文〕脚注 a）
18. *Stand Ye in Holy Places*（1974年）、255
19. J・E・マッカロック、*Home: The Savior of Civilization*（1924年）、42から引用；Conference Report、1935年4月、116
20. “Because”エドワード・テシュメーカー作

# せいさん 聖餐にあずかるとき

十二使徒定員会  
L・トム・ペリー

**聖餐を取ることで、聖なる場所で神聖な時間を過ごすことができます。**



昨年一昨年、ユタ州ローガンで開かれているインスティテュートを訪問しました。インスティテュートを行う建物は改築が終わったばかりでした。工事のとき作業員が礼拝堂から古い説教壇を移そうとしていると、長い間密封された棚が見つかったそうです。開けてみると、中には聖餐のトレイが入っていました。年代物のようでした。聖餐のカップとしてガラスのコップを使っていたのです。その一つがこのように台に載せられて、わたしに贈られました。恐らくカップの時代を知っている唯一の年寄りだからでしょう。

このコップを見て、楽しい記憶がよみがえりました。人生の重要な節目である12歳の誕生日を迎えるころ、聖餐式ではガラスのコップが使われていました。12歳の誕生日は日曜日でした。わたしは何年も、執事たちが聖餐を配るのを見ながら、自分

もアロン神権を受けてあのような光栄にあずかるのを楽しみにしていました。

いよいよその日を迎えたとき、わたしは教会に早く来て、第二副監督のアμβロズ・コール兄弟に会うようにと言われました。コール兄弟はわたしを教室に招き入れ、祈るように言いました。それからコール兄弟は聖典を開き、教義と聖約第13章をわたしに読んで聞かせてくれました。

「わたしと同じ僕であるあなたがたに、メシヤの御名によって、わたしはアロンの神権を受ける。これは天使の働きかぎの鍵と、悔い改めの福音の鍵と、罪の赦しゆるのために水に沈めるバプテスマの鍵を持つ。また、レビの子らが再び義をもってささげ物を主にささげるまで、これは決して再び地上から取り去られることはないであろう。」

コール兄弟から、この章について説明するように言われました。わたしはまとまりのない説明しかできませんでした。そこでコール兄弟は、聖なる神権を持つ意味について、時間をかけて説明してくれました。神権を持つふさわしさを保つなら、神が人に託しておられる力を行使する資格がわたしに与えられるのです。神権を保持するにふさわしい人は、神が人類の救いのために定めておられる儀式を、正当に執行することができます。この権能は、神権者の系譜を通して、救い主御自身から直接与えられます。

わたしはコール兄弟との面接になんとかパスしたようで、それから執事定員会の集会へ連れて行かれました。集会の中で、監督会の人たちがわたしの頭に手を置きました。そして監督が(実は当時の監督は

わたしの父でしたが)わたしにアロン神権を授け、執事の職に聖任してくれました。それから執事の兄弟たちは、わたしが神権定員会の一員になることを支持してくれました。

その日の夕方の聖餐会で、わたしは初めて神権を行使する機会を得ました。ワードの会員に聖餐を配ったのです。その日、わたしにとって聖餐は新たな意義を持ちました。聖餐のトレイが教会員の席を回っているのを見ながら、必ずしもすべての人が同じ態度で聖餐を受けているのではないことに気づきました。単なる習慣として聖餐を取っているように見える人もいましたが、非常に多くの人がとても敬虔な態度で取っていました。

皆さんと同じように、わたしも長年にわたって数多くの聖餐会に出席してきました。わたしにとって聖餐会はほかと比べられない集会です。聖餐を取ることで、聖なる場所で神聖な時間を過ごすことができます。聖餐を取る時、わたしたちは、主が教義と聖約第59章で与えられた戒めに従う必要があります。

「また、あなたは、世の汚れに染まらずに自らをさらに十分に清く保つために、わたしの聖日に祈りの家に行って、聖式をささげなければならない。」(9節)

初めから、すなわち世が組織される前から、神は計画を示されました。それにより、神は、戒めに対する従順さに応じて、御自身の子供たちを祝福されるのです。しかしながら、神はわたしたちがこの世のことで時々思い煩うことを御存じでした。神はまた、わたしたちが交わした聖約と神から頂いた約束を定期的に思い起こす必要があることも御存じでした。

アダムに与えられた最初の戒めの一つは、主を礼拝し、主へのささげ物として群れの初子をささげることでした。この儀式が与えられたのは、イエス・キリストがこの世に来て、最終的に御自身を犠牲としてささげられることを人々に思い起こさせるためでした。

「アダムは主の戒めに従順であった。

多くの日の後、主の天使がアダムに現れて言った。『あなたはなぜ主に犠牲を



ささげるのか。』そこで、アダムは彼に答えた。『わたしには分かりません。ただ、主がわたしに命じられたのです。』

すると、天使は語って言った。『これは、御父の、恵みと真理に満ちている独り子の犠牲のひながたである。』(モーセ5:5-7)

その日から救い主の時まで、天の御父の子供たちは犠牲をささげるように命じられました。それは救い主の贖いの犠牲とともに終わりました。その前夜、救い主は、主の晩餐の聖餐を定められました。わたしたちが主を覚え、主が全人類のためにしてくださる贖いを覚えるようにする

ためです。このように、古代の犠牲の律法と、その後の聖餐を通して、主の約束を覚え、主の模範に倣い、主の御心に従う必要があることを覚えられるようにしてくださったのです。

新約聖書には、主が弟子たちに聖餐を施しておられる様子が描写されています。マタイによる福音書第26章にはこうあります。

「一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、『取って食べよ、これはわたしのからだである。』

また杯さかずきを取り、感謝して彼らに与えて

言われた、『みな、この杯から飲め。』

これは、罪のゆるしを得させるようにと、多くの人のために流すわたしの契約の血である。』(26-28節)

モルモン書の第3ニーファイ第18章には、救い主がニーファイ人に聖餐を施される様子が詳しく描写されています。

「さて、イエスは弟子たちに、幾らかのパンとぶどう酒を持って来るように命じられた。

そして、彼らがパンとぶどう酒を取りに行っている間に、イエスは群衆に、地に腰を下ろすよう命じられた。

そして、弟子たちがパンとぶどう酒を持って来ると、イエスはパンを取り、それを裂いて祝福された。それからイエスは、弟子たちに与えて、食べるように命じられた。

彼らが食べて満たされると、イエスは群衆にも与えるように命じられた。

そして、群衆が食べて満たされると、イエスは弟子たちに言われた。『見よ、あなたがたの中の一人を聖任しよう。わたしはその人に力を授け、彼がパンを裂いて祝福し、わたしの教会の人々、すなわち信じてわたしの名によってバプテスマを受けるすべての人に、それを与えることができるようにしよう。』

またあなたがたは、わたしがしたように、すなわち、わたしがパンを裂いて祝福し、それをあなたがたに与えたように、いつもこれを行うように努めなさい。

あなたがたは、わたしがあなたがたに示したわたしの体を記念して、これを行いなさい。それは、あなたがたがいつもわたしを覚えているということを、父に示す証あかしとなるであろう。そして、あなたがたは、いつもわたしを覚えているならば、わたしの御霊みたまを受けるであろう。』

さて、イエスはこれらの御言葉みことばを語ると、弟子たちに、器のぶどう酒を取って飲むように告げ、さらに群衆にも与えて飲ませるように命じられた。

そこで、弟子たちはそのようにして、飲んで満たされた。また、彼らは群衆にも与え、群衆も飲んで満たされた。

弟子たちがこれをなし終えると、イエスは彼らに言われた。『あなたがたはこれを行ったので、幸いである。これはわた



テンブルスクウェアの訪問者センター北館にあるクリスタス像を見るためにスロープを歩く訪問者。

しの戒めを守ることである。またこれは、わたしの命じたことをあなたがたが喜んで行うということを、父に証明するものである。』(1-10節)

主はわたしたちに、主から命じられたことを喜んで行いなさい、と明快に指示されました。当然予測されていたとおり、わたしたちの時代にも再び聖餐を受けるように命じられました。教義と聖約にはこうあります。

「教会員は、主イエスの記念としてパンとぶどう酒を受けるために、しばしば集まる必要がある。」(教義と聖約20:75)

聖餐にあずかる目的は、もちろん、主と交わした聖約を新たにすることです。

聖約について、デルバート・L・ステープレー長老はこう述べています。

「わたしたちの主イエス・キリストの福音は、神とその民との聖約です。……権能を受けた神の僕からバプテスマを受けるとき、人は神の御心を行い、神の戒めに従うと聖約します。……聖餐にあずかる

ことによって、主と交わしたあらゆる聖約を新たにし、御子の御名を受け、いつも御子を覚え、御子が与えてくださった戒めを守ることを誓います。」(Conference Report, 1965年10月, 14)

聖餐は、教会の最も神聖な儀式の一つです。聖餐をふさわしく受けるなら、霊的に成長する機会になります。

子供のころ、聖餐が配られている間、美しい音楽が演奏されていたのを覚えています。間もなく幹部の兄弟たちから、演奏をやめるようにとの指示がありました。主と救い主の贖いの犠牲よりも音楽の方に気が向いてしまうからです。聖餐が執行されている間は、この世のことはわきに置きます。それは霊的再生の時間であり、一人一人が自ら受けるその儀式の霊的な深い意味を考えながら過ごす時間です。形式的に聖餐を取るだけだと、霊を成長させる機会を失ってしまうことでしょう。

メルビン・J・バラード長老はこう言いました。

「わたしは、聖餐が施されるとき、御霊が宿り、頭のとっぺんから足のつま先まで温かくなることを知っています。霊の傷が癒され、重荷が軽くなることを知っています。この霊の食物の祝福にふさわしい、真に望ましい平安と幸福が心に訪れるのです。」(“The Sacramental Covenant,” *Improvement Era*, 1919年10月号, 1027)

聖餐をふさわしい状態で受けるとき、わたしたちは主なる救い主の犠牲を思い出します。すなわち人が不死不滅という祝福を得られるよう、主が命を差し出し、世の罪を負われたことを思い出すのです。わたしたちは、救い主の御名を受け、主を常に忘れず、主の戒めを守ると約束します。戒めとはすなわち「神の口から出る一つ一つの言葉に従って生き[る]」ということ(教義と聖約84:44)。

親である皆さん、皆さんには、毎週聖餐会に出席することの大切さを子供に教える責任があります。それを家族の習慣にするのです。どの家族も、救い主の教

●神権部会  
2006年4月1日

# 初めから 終わりを知る

十二使徒定員会  
ディーター・F・ワークトドルフ

**主を信じ、主に従うなら、……主は皆さんの潜在能力を引き出してください……います。**



**愛**する兄弟たち、世界中の神権者と交わることができるのは、すばらしいことであり、へりくだる思いがします。皆さんを愛し、尊敬しています。わたしは皆さんの中の一人であることに誇りを感じます。皆さんを称賛します。皆さんは神の御名によって行動し、儀式を施す権能を持っています。儀式は、人類の幸福のための力と活力の永遠の源です。  
今日わたしは、世界に変化をもたらすために備えをしているすばらしい若い男性、つまりアロン神権に聖任されたばかりの皆さんと、すでにメルキゼデク神権の神聖な誓詞と聖約を受けている皆さんに向かってお話しします。皆さんの持つ神権は、驚くべき善の力です。今は、やりがいのある仕事と機会に恵まれた時代で

す。天の両親の霊の息子として、自由に正しい選択をすることができます。正しい選択をするには、努力と自制心、楽観的な考え方が必要ですが、正しい選択をするならば、現在と将来において、喜びと自由が得られるのです。

主はアブラハムにおっしゃいました。「わたしの名はエホバであり、わたしは初めから終わりを知っている。それゆえ、わたしの手はあなたのうえにある。」(アブラハム2:8)わたしの若い友である皆さん。わたしは今日、皆さんに申し上げます。主を信じ、主に従うなら、主の御手は皆さんのうえにあり、主は皆さんの潜在能力を引き出してください、皆さんが初めから終わりを知ることができるようにしてください。

わたしの少年時代の経験を紹介します。11歳のとき、家族で突然、東ドイツから西ドイツに移ることになりました。父が元の国家公務員の仕事に復帰できるまでの間、父と母は小さな町で小さなクリーニング店を営みました。わたしは洗濯物を配達しました。仕事を効率よく行うために、洗濯物を積んだ重い荷車を引く自転車が必要でした。わたしの夢は、赤く輝くスポーツタイプの自転車を持つことでした。しかし、そんな夢をかなえるお金はありません。代わりに手に入れたのは、黒くて重く、格好悪い運搬用の自転車です。何年もその自転車で、授業前と放課後に、洗濯物を配達しました。この自

えに添って福音に生きるという決意を新たにするための時間が必要です。自らをよく備えてきた家族は、敬虔な気持ちで聖餐式に出席し、神聖な象徴にあずかる機会に感謝することでしょう。

行楽地で家族と休暇を過ごしたときに記憶に残る経験をしました。滞在期間に日曜日も入っていたので、家族で最寄りの礼拝堂に行き、聖餐会に出席することにしました。同じように行楽に来ていた家族がたくさんいて、礼拝堂はいっぱいになりました。聖餐会が始まる前に、監督は、出席者の中で、ふさわしく、適切な服装をしている執事は皆、聖餐を配るのを助けてほしいと呼びかけました。白いワイシャツにネクタイ姿の執事がたくさん前を進み出て、大勢の出席者に配る方法について説明を受けました。儀式は敬虔に、またスムーズに行われました。出席者の様子を見ると、多くの人がその聖餐会の御霊に深く感動しているのが分かりました。

行楽地に戻ってみると、平日とはまったく違う雰囲気でした。ボートは係留され、湖で泳ぐ人はほとんどいません。安息日の服装がとてもふさわしく感じられました。その場にいた家族は、主の約束が果たされるのを見ました。すなわち、主の聖なる日に祈りの家に行き、戒めに従う聖約を新たにしたので、世の汚れに染まらず、自らをさらに清く保つことができていたのです(教義と聖約59:9参照)。

一人一人が安息日をさらに敬虔に過ごしたいという思いを持てますように。聖餐にあずかることができるという特別な祝福と、聖餐が人生に及ぼす意義をさらに深く認識できますように。また、人生の目的を達成し、来るべき永遠への希望を満たすために、いつも主を覚え、主の戒めを守れますように。わたしたちが携わっているこの業は主の業です。神は生きておられます。イエスはキリストであり、世の救い主であります。わたしたちはこの偉大な福音の計画に携わることを許されており、聖餐はこの計画の中できわめて重要な位置を占めています。イエス・キリストの御名により、アーメン。

転車にしる、荷車や仕事にしる、うれしいと思ったことはあまりありませんでした。荷車がとても重く、重労働なので、肺が破裂するのではないかと思ったことが何度もありました。しょっちゅう止まって呼吸を整えなければなりません。それでも義務を果たしました。家計が苦しいのを知っていたからです。このようにして、わたしは家族に貢献したのです。

何年も後に分かったことを、あのとき知っていれば、——もし、初めから終わりを知ることができていたら、あの経験をもっと感謝できたでしょうし、仕事もずっと楽しかったことでしょう。

時が流れ、徴兵年齢に近づいたわたしは、令状を待つよりも、空軍に志願してパイロットになることに決めました。飛行機が大好きだし、性に合うだろうと思ったのです。

入隊前に、数々の検査にパスする必要があります。入念な健康診断もありました。医師たちは、わたしの健康診断の結果に多少疑問を感じ、再検査を行いました。そしてこう言ったのです。「肺に傷跡があるね。10代前半に何か肺の病気をしたようだが、見たところ今は何の問題もないよ。」医師たちは、どんな治療を受けて病気が治ったのか知りたがりました。わたしの方では、肺に病気があったことは、検査を受けるまで知りませんでした。そのとき突然思い当たったのです。病気が治ったのは、洗濯物の配達で、新鮮な空気を吸いながら常に体を動かしていたからだ。毎日毎日、重い荷車をつないだ自転車をこいで、坂を上ったり下ったりしていたからこそ、ジェット戦闘機のパイロットや、後にボーイング747旅客機の機長になることができたのです。

自分の将来を詳細に知っている人はいません。未来に何があるか分からないのです。今は不確実な時代です。生活のあらゆる面に困難な問題があります。いつの間にか自信を失うこともあるでしょう。欲求不満を感じることもあるでしょう。していることが無駄だと思ふかもしれません。そのように気持ちが暗くなる時、サタンが耳もとでささやきます。「成功するわけがない。」「そんなに頑張る価値があ



るのか。」「それくらいのことで、何も変わるわけがない。」あらゆる偽りの父である悪魔は、わたしたちが初めから終わりを知るのを阻もうとします。

幸いなことに、末日聖徒イエス・キリスト教会の若い神権者の皆さんは、現代の

預言者、聖見者、啓示者から教えを受けています。大管長会は言っています。「わたしたちは皆さんに大きな信頼を寄せています。皆さんは優れた霊の持ち主であり……皆さんは現世の旅にたつ、出発地点にいます。天の御父は皆さんが喜びに

満ちた生涯を送り、みもとに戻って来ることを望んでいらっしゃいます。ここで下す決断は今後の人生に起きる多くの出来事や永遠の行く末を決めていくでしょう。』(『若人の強さのために』2)「あなたは、天の御父が行うよう望んでおられることを学び、その後、天の御父の御心みこころに従うために全力を尽くす責任があります。』(『アロン神権——神への務めを果たす』4)

現代の神の預言者である、わたしたちの愛するゴードン・B・ヒンクレー大管長と気高い副管長たちの靈感あふれる指導に、わたしはどれほど深く感謝していることでしょうか。預言者のこの言葉は、初めから終わりを知る助けになります。

主は皆さんを愛しておられます。ですから主は、戒めと預言者の言葉を与え、皆さんの人生の旅を導いておられるのです。皆さんの人生にとって最も重要な指針となる教えが、『若人の強さのために』に書かれています。見かけは小さいですが、この冊子には次の聖句がよく当てはまります。「小さなことから大いなることが生じるのである。」(教義と聖約64:33)冊子そのものは恐らくほんのわずかな金額で手に入ります。しかし、そこに書かれた教義や原則には無限の価値があります。18歳以上の若い兄弟の皆さん、今この小冊子を持っていなければ、必ずもう一度手に入れて、手もとに置き、活用してください。これは、あらゆる年代の人にとって宝です。そこに記されている標準は、教会員であることを示す神聖な象徴となるものです。

『若人の強さのために』と、それに付随する『青少年に関する両親と指導者のためのガイド』、そして神殿推薦状には、表にソルトレーク神殿の絵が印刷されている点に注目してください。神殿は、この世でも永遠の世でも、世代をつなぎ合わせます。どの神殿も、同じ目的で奉獻されています。すなわち「人の不死不滅と永遠の命をもたらす」という(モーセ1:39)、永遠の父なる神の聖なる業と栄光を成就するという目的です。神殿は神聖な建物です。神殿では永遠に関する疑問が解け、真理を学び、儀式を受けます。神の子として神聖な受け

継ぎを理解し、永遠の存在としての可能性を自覚しながら生活できるようになります。主の宮は、初めから終わりを知ることができるよう助けてくれます。

神の神殿が神聖であると同様に、肉体も神聖です。使徒パウロは言いました。

「あなたがたは知らないのか。自分のからだは、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であって、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。

あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。それだから、自分のからだを霊をもって、神の栄光をあらわしなさい。それらは神のものである。」(欽定訳1コリント6:19-20から和訳)

世界のあらゆる所に住む、あらゆる年齢の、わたしと同じ僕である愛する神権者の皆さん。わたしたちの思いや心を、そして体を、天の御父から頂いた神聖な宮にふさわしく、尊敬と敬意をもって活用しましょう。

友である皆さん。現代の預言者たちが約束しています。『若人の強さのために』に書かれている標準に従い「聖文にある真理を守って生活するなら、人生の務めに知恵をもって巧みに対処することができます、また、これまで以上の勇気を得て試練に耐える力が与えられるでしょう。聖霊の助けが得られるでしょう。……神殿に参入して聖なる儀式を受けるふさわしさも身に付くでしょう。そのほかにも数々の祝福が与えられるでしょう。』(『若人の強さのために』2)

わたしたちは、神が約束を守られることを知っています。神の祝福を受けるには、義務を果たす必要があります。預言者ジョセフ・スミスは教えました。「神から祝福を受けるときは、それが基づく律法に従うことによるのである。」(教義と聖約130:21)

神殿に参入したいと願う教会員は皆、年齢を問わず、神殿の神聖な経験かきに備える必要があります。神権の権能の鍵かぎを持ち、教会の一般判士を務める監督とステーク会長から、一定の質問を受けることとなります。以下のようなきわめて大切な質問です。「あなたは正直ですか。」「道徳的に清いですか。」「知恵の言葉を守っ

ていますか。」「<sup>じょうぶん</sup>自分の一の律法に従っていますか。」「教会の指導者を支持していますか。」こうした質問への答えには、皆さんの考え方や行動が表れます。

若い皆さんは、神殿推薦状の質問の中に主が定めておられる標準と、『若人の強さのために』の中にある標準がよく似ていることに、気づいていないかもしれません。平穏なときも、大きな誘惑に遭うときにも、これらの標準と聖霊の導きに従うことにより、正しい選択をすることができます。教育、友人、服装と外観、娯楽、メディアやインターネット、言葉遣い、適切なデート、性的な清さ、正直、安息日を守ること、人々への奉仕について、正しく選択できるよう助けが得られます。標準の守り方を見れば、皆さんが何者で、どのような人になろうとしているかが分かります。

若い友人の皆さん、主は皆さんに、そうした標準を守り、聖文にある福音の真理に従って生きることを心から望むよう期待しておられます。そのように生きるなら、皆さんは将来を知ることができるでしょう。偉大な機会と責任に恵まれた輝かしい未来の自分を知ることができるのです。皆さんは、忍耐強く熱心に働くことをいとわないでしょう。また、楽観的であることでしょうか。自分の道がまず主の宮へと通じていて、それから、救い主を代表して主がお遣わしになる所へはどこへでも行き専任宣教師として奉仕するという道に通じていることが分かるでしょう。伝道が終わっても、同じ標準に基づいて、人生を計画することでしょうか。そして、永遠の結婚と永遠の家族のために主の宮に参入する姿が、心の目に浮かんでくることでしょうか。皆さんの人生の優先順位は、救い主から頂いた優先順位と一致するようになります。神が皆さんを祝福し、理解の目を開き、初めから終わりを知ることができるようになってくださいます。

『若人の強さのために』の標準に従うと、自分自身に対して良い思いを抱くようになります。標準を頭と心に刻み込み、標準に従って生活してください。一つ一つの標準を、今の自分と比べてください。御霊に耳を傾けてください。御霊は、イエスに似



た者となるためにすべきことを教えてください。改めるべき点があると分かっているなら、引き延ばさずに、すぐに改めてください。真心からの悔い改めと、イエス・キリストの贖いの賜物と力によって、真の潜在能力を発揮できなくしている事柄を取り除いてください。苦しい道なりに見えても、あきらめないでください。努力するだけの価値があります。主は、預言者ジョセフと同様、皆さんにも約束しておられます。「息子よ、あなたはこのことを知りなさい。すなわち、これらのことはすべて、あなたに経験を与え、あなたの益となるであろう。」(教義と聖約122:7)

さて、若人の祖父、父親、おじ、兄、友である皆さん。わたしは皆さんを愛しています。わたしたちは、この道を歩む若

人を大いに助けることができます。ベニヤミン王はこう教えました。すなわち、親が真に改心するならば、親は「[子供に]真理の道をまじめに歩むように教えるであろう。[そして]互いに愛し合い、互いに仕え合うように教えるであろう。」(モーサヤ4:15)「模範は一つの教え方」という言葉がありますが、わたしなら「模範は最高の教え方」と言うでしょう。

どうか、神殿にふさわしい神権者という模範によって、若人を教えてください。皆さんが忠実に生き、神と隣人を愛し、イエス・キリストの回復された福音への証を行いで示すなら、若人は確信を強めることでしょう。そうすれば、彼らは初めから終わりを知ることでしょう。

若い友人の皆さん。現代の預言者たち

が教えた標準に従って、生活を整えてください。毎日着実に努力するならば、皆さんは神権を尊び、世界に変化をもたらす備えをしていることとなります。また、天の御父のみもとに戻る道を立派に歩んでいることになるのです。

わたしと同じ僕である愛する神権者の皆さん、今日皆さんに約束します。この規範に従うなら、主は、自分の力でできる以上のことを達成させてくださるでしょう。主は常に初めから終わりを知ることでできるようにしてくさるのです。

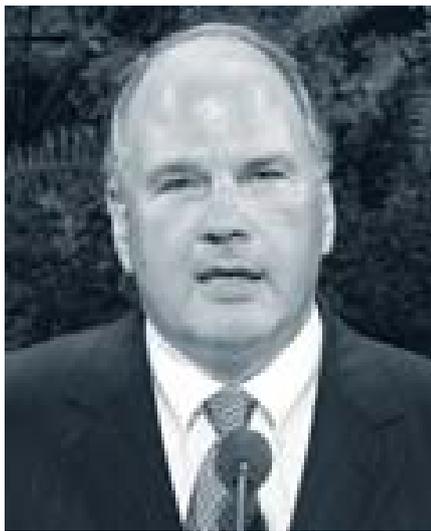
以上を、主の使徒として、わたしたちの救い主、イエス・キリストの聖なる御名により証します。アーメン。

# 教会の若者たち

七十人会長会

ロナルド・A・ラズバンド

**大人になる旅路を歩む若者は、わたしたちが最善の努力を払って支援し強めるに値する人々です。**



**愛**する神権者の兄弟の皆さん、こんばんは。今晚、世界中で人類史上かつてなかったほど多くの人が主の神殿の近くに集っています。救い主の愛にあふれた優しさに包まれ、主の預言者の指示の下に、現在122の神殿で主の聖約の民が神殿の祝福を受け、亡くなった先祖のための儀式を行っています。さらに多くの神殿の建設が発表されていますし、これからも多くの発表があることでしょう。わたしたちは、この大いなる働きにおいて靈感に満ちた指導をしてくれるヒンクレイ大管長に感謝しています。

モルモン書の初期の時代の教会員も、預言者であり指導者である人から指示を受けるために神殿の近くに集まりました。ベニヤミン王は晩年、勧告と訓戒を与えるため、父親たちに家族とともに集まるよう命じたのです。モーサヤ書第2章から読んでみましょう。

「さて、彼らは神殿に来ると、その周りに天幕を張った。男たちは皆、……各々の家族に応じて……場所を取った。

彼らは……天幕の中にいながらベニヤミン王の語る言葉を聞けるように、すべての者がその天幕の入り口を神殿の方へ向けていた。」(モーサヤ2:5-6)

わたしはこの光景を想像するのが好きです。比喩的な言い方ですが、兄弟の皆さん、わたしたちの家庭の扉は、こよなく愛する神殿に向いているのでしょうか。これらの神聖で特別な場所の大切さを模範によって子供に教え、できるだけ頻繁に参入しているのでしょうか。

モーサヤ書によれば、そこに集った家族は主の御言葉を預言者から熱心に注意深く学びました。民はベニヤミン王の教えに深く感銘し、主イエス・キリストの教えに従うという新しい聖約を受け入れました。

しかし、この物語には悲しい結末があります。モーサヤ書の第26章には、ベニヤミン王が説教をしたときに天幕にいた幼い子供たちの様子が書いてあります。

「さて、当時の若者の中には、ベニヤミン王が民に語ったときにまだ幼い子供であったために、彼の言葉を理解できなかった者が大勢いた。彼らは、自分たちの先祖の言い伝えを信じなかった。」(モーサヤ26:1)

これらの若者に何が起きたのでしょうか。なぜ先祖の義にかなった言い伝えを受け入れなかったのでしょうか。さらに重要なことは、それから何世紀も経過した現在、たくさんの神殿と預言者の絶えざる導きを受けられるこの時代に、教会の

若者たちはどうしているのでしょうか。わたしたちは彼らに心を向ける理由があるのでしょうか。確かにあります。

今晚この会場をはじめ世界中にいる若い男性と、同じく若い女性の皆さんは、特別な存在です。ヒンクレイ大管長は彼らについてこのように話しました。

「これまで何度も繰り返してきたことですが、わたしはこの教会の歴史が始まって以来最も優れた世代の若者が今の世に与えられていると信じています。彼らは……正しいことを行おうと努力しています。優秀で有能であり、清らかでいきいきとしており、魅力的で聡明です。……福音の何たるかを知り、福音に従った生活をし、主の導きと助けを求め、主に頼っています。」(ゴードン・B・ヒンクレイ「母親としての最も大きなチャレンジ」『リアホナ』2001年1月号, 112-113)

このような若人にかかわりを持つわたしたちは皆、ヒンクレイ大管長の言葉が真実であることを知っています。

しかし、十二使徒定員会のヘンリー・B・アイリング長老は、若人について憂いを帯びた警告を与えています。

「彼らの多くは霊的な成熟度と信仰においてはずばらしい人々です。しかし、最も優れた人でさえも、厳しい試しを受けるでしょう。そして、試しはさらに激しくなるでしょう。」(ヘンリー・B・アイリング「We Must Raise Our Sights,」 *Ensign*, 2004年9月号, 14)





「試しはさらに激しくなるでしょう」という警告に、わたしは注意を引かれました。大人になる旅路を歩む若者は、わたしたちが最善の努力を払って支援し強めるに値する人々です。

この危険な時代にあって、教会の若人はますます難しい状況に直面していますが、同時にわたしたちは、ほかの人々から学ぶことができます。軍隊では、特に海軍では、世界中どの国の海軍でも、すべての水兵は、何をしても、船のどこにいても、直ちに支援体制に入らなければならない明快な指令の言葉を理解しています。その言葉とは、「全員持ち場につけ」です。海上での戦いの多くは、この指令への反応次第で、勝ち負けが決まります。

教会の会員として、若人の指導者として、彼らを気遣う父親、心にかける祖父として、わたしたちは皆、青少年やヤングシングルアダルトとかかわっていくときに「全員持ち場につけ」という指令に応じる必要があります。青少年を祝福する機会を逃さないようにしなければなりません。今、彼らと親しく交わっているかどうかにかかわりなくです。わたしたちは、子供たちに対する家庭での親の神聖で明確な役割を、引き続

き父親と母親に教え、彼らを強めていかなければなりません。スポーツ行事や臨時の活動、家庭外での用事が、家族が家庭で一緒に過ごすことよりも重要かどうかを絶えず自問しなければなりません。

兄弟たち、今こそ、何を行うときも、どこへ行くときも、出会う末日聖徒の若人すべてを強め、養い、その生活に良い影響を与える必要性を、さらに強く自覚すべき時です。

わたしたちの家族は、思いやり深いすばらしい神権指導者のおかげでそのような経験をしました。数年前、七十人に召されたばかりのとき、イギリスのソリフルに移り、地域会長会で働くよう割り当てを受けました。ラズバンド姉妹とわたしは、下の二人の子を連れて任地に向かいました。娘はヤングシングルアダルトでした。17歳の息子はアメリカンフットボールが好きで、得意でした。妻もわたしも子供たちのことがとても心配でした。友達も親戚しんせきもいませんし、アメリカンフットボールもできません。わたしは考えました。「この新しい胸躍る経験は、家族にとって難しい試練となってしまうのだろうか。」

その答えは、間もなく受けた責任を通して与えられました。イギリスのプレスト

ンにある宣教師訓練センターで宣教師に話すよう依頼されたのです。センターのホワイト所長に電話をしたところ、ありがたいことに彼はすでに家族の状況をよく知っていて、子供たちもプレストンに連れて来てはどうですか、と提案してくれました。センターに着くとすぐ、彼は娘と息子にも宣教師に向けて話すよう勧めました。自分たちも参加していると感じ、主の業への証あかしを分かち合えたことは、子供たちにとってすばらしい経験となりました。

話の責任を終え、宣教師に愛を込めて別れを告げてから、宣教師訓練センターの近くにある美しいイギリス・プレストン神殿を訪ねました。正面の扉近くを歩いていると、スワニー神殿長とメイトロンのスワニー姉妹に会いました。あいさつを交わし、神殿の中に招かれると夫妻はこう言いました。「ラズバンド長老、ご家族で死者のためのバプテスマをされてはいかがでしょうか。」何とすばらしいアイデアでしょうか。わたしたちは互いに目で合図すると、ありがたく引き受けました。儀式の執行を終え、息子と喜びの涙を浮かべながらフォントの中にたたずんでいたときのことで。息子はわたしの肩に手を置

いてこう言いました。「父さん、どうしてぼくたちは今までこういうことをしなかったんだろう。」

わたしは、一緒に行ったフットボールの試合や映画など、ともに過ごした楽しい時間をすべて思い出しました。確かにそれらは幸せな記憶であり、家族の伝統を築くためには重要でした。

しかし、その日プレストンで経験したようなもっと意義深い、霊的な経験を子供たちと一緒に積むことだってできるのではないかと思いました。こうして、思いやりと気配りに満ちた神権指導者のおかげで、子供たちがヨーロッパで立派に生活できることを、わたしは確信できました。いつもわたしたちや皆さんの子供たちを見守り、愛してくれる多くの神権指導者と若い女性の指導者に心から感謝しています。

モルモン書のほかの時代を見ると、ニーファイは、家族の一部の者が従順、協調、忠実さの面で苦しんでいる状況の中で暮らしていました。そのような状況の中で若者への思いやりで満ちた献身の必要性をだれよりもはっきりと理解するようになりました。彼は晩年こう述べています。

「わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し、また、どこに罪の赦しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせるために、自分たちの預言したことを書き記すのである。」(2ニーファイ25:26)

神の神権を持つ者として、わたしたち一人一人が若人に、どこに罪の赦しを求めればよいかについて、すなわち主イエス・キリストについて教えるに当たり、持てる力を尽くすことができるように祈っています。若者を救うことにかかわっている各自が、最善の努力をし、「全員持ち場につけ」という呼びかけに対応できますように。確かに彼らはわたしたちが最大の努力を払うに値する人々です。

この教会が主のまことの生ける教会であり、愛し支持する預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長を通して、主によって導かれていることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

# 悔い改め—— 会員であることの祝福

七十人  
リチャード・G・ヒンクレー

**悔い改め……は……厳しい原則ではありません。思いやりと憐れみに満ちた原則なのです。**



**愛**する兄弟たち、ここに立つことは、誉れでもあり、畏れ多いことでもあります。理由は皆さんにも明白ですが、まさか自分がこのような召しを受けるとは思いませんでした。ヒンクレー大管長は、1年前、わたしが支持を受けたときに、「自分は息子を召すよう働きかけはしなかった」と全教会に明言しました。後日わたしは大管長に言いました。「預言者が召しへの関与を辞退しながらも会員の支持を受けた中央幹部は、恐らく教会歴史上わたしだけでしょう」と。

いずれにせよ、皆さんの支持に感謝しています。この偉大な大義に心のすべてを注ぐことを約束します。わたしは、自分の家族、妻子、また善い両親に、言葉で表せないほど感謝しています。母は2年前、4月

の大会が終わってちょうど2日後に他界しました。小柄な母でしたが、それでもわたしは毎日、母の背に負われているのです。母の影響はいつまでも消えないでしょう。母への敬意は言葉では言い尽くせません。母を称賛する唯一の方法は、わたしがふさわしい生活をするることなのです。

わたしは父を愛し、支持しています。それ以外にどう言えば、父に気恥ずかしい思いをさせずに済むのか分かりません。非常に個人的なことだと承知のうえで申し上げますが、徐々に老いていく父を見ると、昔のことが思い出されます。小さいころ、父はよく床に寝転がって、じゃれつくわたしたちと遊んでくれました。抱き上げ、抱き締め、くすぐり、病気のときや夜が怖いときには、父と母のベッドに入れて添い寝をしてくれました。わたしの記憶の中の父は、いつも笑い、愛にあふれ、堅実で、証があり、休む間もなく熱心に働く、信仰の篤い、忠実な人であり続けるでしょう。父は優しく、賢い人です。わたしは計り知れないほど祝福されています。人生の一時期に父を自分の預言者として支持できるうえに、現在と永遠において彼に自分の父親でいてもらえるのです。

数週間前、定員会の集会で七十人のダグラス・L・カリスター長老が、母方の祖父であるリグランド・リチャーズ長老の略歴を紹介するのを聞いて、感銘を受けました。とりわけ興味深かったのは次のことです。リチャーズ長老は、若いころ監督を



務めていたとき、あまり教会に来ていない会員たちを訪れました。そして大胆にも「末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることは、わたしにとってどのような意味があるか」というテーマで、聖餐会で話すよう依頼したのです。驚くべきことに、数人が話の割り当てを積極的に受け入れ、それを機に、教会に完全に活発になる道を歩み始めたということです。

わたしは今夜、この同じテーマについて話します。年齢を問わず、皆さん一人一人に、このテーマのためだけの小さなノートを持つようお勧めします。最初のページのいちばん上に、こう書いてください。「末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることは、わたしにとってどのような意味があるか。」それから、思いつくことを箇条書きしてください。時がたつとさらに書くことは増えていくでしょう。やがてどんどん項目が増えていき、主の教会の会員であることへの感謝の念に満たされるでしょう。将来、話を割り当てられたときには、そこから話

の題材も見つかるでしょう。

わたしはすでにたくさんのお話をしましたが、今夜はその中から一つだけお話ししましょう。ほかのテーマについては、別の機会に譲ることにします。

悔い改めの原則について手短かに話します。このすばらしい原則が知らされていることに心から感謝しています。これは、子供のころにわたしが思っていたような、厳しい原則ではありません。思いやりと憐れみに満ちた原則なのです。この言葉の元になるヘブライ語は、ただ神の方に「向く」<sup>1</sup>あるいは「向き直す」という意味です。エホバはイスラエルの子らに次のように懇願なさいました。「……帰れ。わたしは怒りの顔をあなたがたに向けない、わたしはいつくしみ深い者である。いつまでも怒ることはしない……ただあなたは自分の罪を認め、あなたの神、主にそむい……たことを言いあらわせ。」<sup>2</sup>

罪を認め、告白し、その罪を捨て、「神の方に向く」なら、神は赦して下さいます。

しばらく前に伝道部長をしていたときに、二人の長老から、翌日バプテスマを受ける予定の人に会ってほしいという依頼を受けました。長老たちには答えられない疑問があるということでした。わたしたちは車でその家に向かい、20代後半の女性とその子供に会いました。彼女のご主人は、数年前、悲惨な事故で亡くなっていました。彼女は深く考えて幾つか質問をし、素直に耳を傾けました。疑問が解けた後で、ほかに気になることはないか尋ねました。すると「ある」しかも「わたしと二人だけで話したい」というそぶりを見せました。長老たちには、外に出て、この女性とわたしが大きな窓からはっきりと見える芝生のところで待つようにと言いました。長老たちが退出すると同時に、彼女は泣きだしました。悲嘆と孤独の中で、何年も独りで苦しんだことを振り返り話してくれました。その年月の間に、重大な過ちを犯していました。悪いことなどは知っていても、宣教師に会うま

では、正しい道を選ぶ力に欠けていた、と彼女は言いました。宣教師から教えを受けたこの数週間、主に赦しを求め懇願し続けました。自分の悔い改めを通して、またバプテスマと聖霊を受ける儀式を通して、清められ、教会員としてふさわしくなれるのだという確信を、わたしから得たかったです。わたしは彼女に聖文から教え、悔い改めの原則と贖いについて証しました。

翌日、妻と一緒に、彼女と小さな娘さんのバプテスマ会に出席しました。その部屋は、新しい会員である彼女を支えたいと心から願う、ワードの友人でいっぱいでした。バプテスマ会から帰るとき、わたしの胸は感謝でいっぱいになりました。このすばらしい悔い改めの原則、それを可能にした贖いの業、改心という奇跡、この偉大な教会とその会員たち、教会の宣教師たちに対する感謝です。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることは、わたしにとってどのような意味があるでしょうか。それはすべてを意味します。それは、人生で大切なすべてのことに影響し、目的と意味をもたらし、永遠の父なる神と、その聖なる御子、主イエス・キリストと自分との関係に命を吹き込んでくれます。それはこう教えてくれます。すなわち、福音の原則と儀式に従うなら、この世では平安と幸福を得、この世の後に必ず訪れる次の世では、家族とともに神の御前に住むように招かれる——そして神の御前では、主の憐れみが正義の要求を満たすので、わたしとわたしの家族、あなたとあなたの家族は、腕に包まれ、守られるのです。<sup>3</sup> そのことを、イエス・キリストの御名によって証します。アーメン。

注

1. ジョセフ・P・ヒーリー “Repentance” *The Anchor Bible Dictionary*, デビッド・ノエル・フリードマン編, 全6巻 (1992年), 第5巻, 671
2. エレミヤ3: 12-13
3. アルマ34: 16参照

# 王国の神権者

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

**神権を持つことで、偉大な祝福を受けることは確かですが、同時に神権には偉大な義務が伴います。**



**愛**する兄弟たち、教会の神権者に話すということは、いつも偉大な特権であり、大きな責任でもあります。恐らく、この集会は世界史上最大の神権者の集まりだと思われます。今日は、若い男性に向けて、アロン神権を持つことがどれほど祝福であるか話します。この神権は「小神権」とも呼ばれています。「小」が付くからといって、その重要性が損なわれることはありません。小さいことなどないのです。体格のいい若人を見ると、特にそれがよく分かります。

皆さんは初めて聖餐を配った日の高揚感をよく覚えていることと思います。アロン神権者である皆さんは、聖餐を準備し、祝福し、執行し、配るときに、聖餐を取るすべての会員が、主に従う決意を新たに、救い主の贖いの犠牲を信じる信仰を再び新たなものとするのを助けています。聖餐を取る会員は、御子の御名を受け、

いつも御子を覚え、御子の戒めを守り、いつも御子の御霊を受けられるように努める、ということをお思い起こします。皆さんが自分の持つ神権を重んじ、神権にかかわる自分の義務を常に尊ぶように願っています。

最近ある記事を読みました。聖餐を配るときに態度にいささか問題のある執事たちについて書かれていました。彼らは、聖餐のパスを、だれもしたがない雑用のように考え始めました。度々遅刻し、時には適切な服装をしていないもありました。ある日曜日、神権アドバイザーが言いました。「今日は、聖餐のことは心配しなくていいよ。ほかの人がするから。」

もちろん、これを聞いて彼らは驚きましたが、いつもと同じように、聖餐会に遅れて来ました。開会の賛美歌の最中に、何食わぬ顔で入って来て、会衆に紛れて座りました。そのとき、いつも執事が座る席にだれが座っているのかが分かりました。彼らのアドバイザーやワードの大祭司たちです。その中には、かつて監督やステーク会長を務めた人もいます。皆、濃い色のスーツに白いワイシャツ、ネクタイをしています。列から列へと聖餐のトレイを持って移動する彼らの姿は、敬虔そのものでした。その日の聖餐は、どこか深遠で、意義深いもののように感じられました。それまで義務を機械的に果たしていた執事たちは、聖餐を配ることは神聖な信頼の証であり、最大の名誉の一つなのだということを、模範によって学びました。<sup>1</sup> 神権者とは、使徒ペテロが呼んだように「王国の神権者」<sup>2</sup> であるということを理解し始めました。

一般的に、アロン神権には、監督会の指示の下に、聖餐を執行し、配るという責任があります。ソルトレーク・シティーのわたしの所属ワードには、忠実な年配の会員は多いのですが、アロン神権の年齢の人はわずかです。わたしはもう何年も、こうした大祭司や長老たち、忠実で、偉大な事柄を成し遂げてきた彼らが、主の晩餐の聖餐を、謙遜に、敬虔に配る姿を見てきました。ある時期、これらの神権者の中には、連邦裁判所の上級判事や、ユタ州知事の候補者、その他の要職を務めた著名な人々が含まれていました。それでも、その神聖な神権の義務を果たすことを、名誉と思い、明らかに特権と感じているようでした。

アロン神権は、霊的な力を持つ偉大な賜物として、主がアロンとその子孫に授けられたものです。<sup>3</sup> この神権には「天使の働きと備えの福音の鍵」<sup>4</sup>があり、また「悔い改めの福音の鍵と、罪の赦しのために水に沈めるバプテスマの鍵」<sup>5</sup>があります。

この天使の働きについて一言申し上げます。古代でも現代でも、天使は人を訪れて、指導や警告や指示を授けてきました。訪れを受けた人はそれによって恩恵を受けます。わたしたちは天使の働きが生活にどれだけ影響しているか、普段はそれほど認識していません。ジョセフ・F・スミス大管長は言いました。「これと同じように、この地上を去り、忠実であってこの権利と特権を享受するにふさわしいわたしたちの父親、母親、兄弟姉妹、友人は、肉体に宿っていたときに愛を培った人々に対し、神の御前より、愛、警告または叱責、教えの言葉をもたらすために、再び地上に来てその親戚や友人を訪れる使命を受けるかもしれません。」<sup>6</sup> そのような経験をしたことがあると感じている教会員は大勢います。天使の働きは、昔も今も、福音に欠かせない重要なものです。ジョセフ・スミスが完全な福音を回復したときも、天使が働きました。

息子アルマも、仕える天使と直接交わる経験をしました。若いころのアルマは、不信仰な者たちの中に数えられており、「多くの者に自分と同じような罪悪を犯さ



せ」していました。ある日、モーサヤの息子たちと連れ立って「神の教会を滅ぼそうとして歩き回っていたときに……主の天使が彼らに現れ[まし]た。その天使は、まるで雲に包まれて来たかのように降って来て、さながら雷のような声で語り、その声は……大地を震わせ[まし]た。」そして、その天使は大声で言いました。「アルマよ、起き上がって立ちなさい。あなたはなぜ神の教会を迫害するのか。」

この経験に圧倒されたアルマは、気を失い、父のもとに運ばれました。父アルマやほかの者たちが2日間断食し、祈った後で、やっとアルマは健康と力を取り戻しました。そして立ち上がって、こう宣言します。「わたしは自分の罪を悔い改め、主に贖われました。まことに、わたしは御霊によって生まれました。」<sup>7</sup> やがて、アルマはモルモン書の中でも最も偉大な宣教師の一人となります。しかし、長年の伝道の



中で、アルマは天使の訪れについて一度も語りませんでした。むしろ、神の聖なる御霊によって真理を知るようになったと証する方を選んだのです。

天使から教えを受けることは偉大な祝福です。しかし、アルマ自身が教えたように、彼の究極の永続的な改心は「幾日もの間、断食をして祈る」<sup>8</sup>後で初めて得られました。アルマの完全な改心は聖霊によるものです。それは、ふさわしければ、だれもが経験できます。

奇跡的な出来事は、必ずしも改心につながるわけではありません。例えば、レーマンとレムエルが弟たちを虐待したとき、一人の天使が現れて、やめるようにと警告しました。この天使はまた兄弟全員に向かい、ラバンは彼らの手に渡されるであろうと言いました。ニーファイはそれを信じて、ラバンから真鍮しんちゆうの版を手に入れます。しかしレーマンとレムエルは、天使の訪れを受けたにもかかわらず、信じもせず、行いを改めもしませんでした。ニーファイは兄たちにこう言います。「主の

天使に会ったことを忘れたのは、どういうわけですか。』<sup>9</sup>

若人の皆さんは、自分の証を築いている最中です。証というものは、日常生活の中で、聖霊を通じて霊的な確認を受けることで強められます。偉大な現れが証を強めることもあるでしょうが、そのようなことはめったに起きません。

神権を持つことで、偉大な祝福を受けることは確かですが、同時に神権には偉大な義務が伴います。

1. 神権者はすべて、職と召しの範囲内で主の御名によって行動することで、召しを尊んで大いなるものとします。定員会会長会、監督、定員会アドバイザーの指示に従うことによって、召しを尊んで大いなるものとします。つまり、依頼を受けたら、聖餐を準備し、執行し、配るということです。同時に、アロン神権のほかの責任を果たすということでもあります。例えば、教会の集会所を清掃し、ステーキ大会や教会のほかの集会のためにいすを並べ、割り当てに従ってそのほかの義務を

果たすのです。

2. アロン神権、つまり備えの神権を持つ者には、大神権を受ける資格を満たすために備える義務があります。また、教会の奉仕においてさらに大きな責任を果たすために訓練を受ける義務もあります。

3. アロン神権を持つことには、模範になり、清い思いを持ち、適切な行動を取るといった義務が含まれています。こうした属性を、神権の義務を果たしながら身に付けていくのです。

4. 皆さんは、定員会やほかの活動を通じて、同じ標準を持つ若人との友好を深めることとなります。互いに強め合ってください。

5. 聖文を研究し、福音の原則を学ぶことで、伝道に出る備えをします。

6. 祈ることを学び、祈りの答えを認識します。

教義と聖約には、アロン神権の様々な権威が説明されています。第1に、神権に聖任されるということは、儀式を執り行う権威を授かり、アロン神権の権能を授かるということです。ワードでは監督会がアロン神権の会長会を務めます。<sup>10</sup> 第2に、この神権には幾つかの職があり、それぞれ異なる責任と特権があります。執事には、常任教導者として教会員を見守る責任があります。<sup>11</sup> 教師には、教会員を見守ることに加えて「彼らとともにいて彼らを強める」責任があります。<sup>12</sup> 祭司の務めは「説き、教え、説き明かし、勧め、バプテスマを施し、聖餐を執行することであり、また各会員の家を訪れ」ることです。<sup>13</sup> 監督は、大祭司の職を持っていますが、祭司定員会の会長でもあり、祭司定員会の働きを指導します。

これらのアロン神権の職の一つずつ昇進していく際に、前の職に伴う権威を引き続き持つこととなります。例えば、祭司の皆さんには、執事や教師のときに行ったことをすべて行う権威が備わっています。実際、皆さんは最終的にメルキゼデク神権に聖任されたとしても、アロン神権のそれぞれの職を持ち続け、その職にかかわる業を行い続けるのです。長年にわたり十二使徒定員会の会員であった、故

リグランド・リチャーズ長老は、この原則をよく理解していました。彼はよく「わたしは、執事が大人になったにすぎません」と言っていました。

先ほど話したように、教えることはアロン神権の重要な義務の一つです。10代の皆さんにとって、教える機会が訪れるのは、父親やほかのメルキゼデク神権者とホームティーチングの同僚となって奉仕するときです。物質的にも霊的にも会員の必要を世話することは「教会員を見守る」責任として非常に重要な役割です。

預言者ジョセフ・スミスは、ホームティーチングを大変重要視していました。オークリー兄弟という人が預言者のホームティーチャーでしたが、オークリー兄弟がスミス家へホームティーチングに行く度に、「預言者は家族を呼び集め、自分のいすをオークリー兄弟に勧めて」彼の話をよく聞くよう「家族に言いました。」<sup>14</sup>

アロン神権の若い男性は、私生活でも、ホームティーチングのときも、聖餐を準備し、配るときも、神権者としてほかの務めを果たすときも、いつも御霊とともにある必要があります。つまずきの石を避けなければなりません。つまずきの最たるものは、悪い習慣に染まることです。

すべての兄弟に、何であれ習慣性のあるものを避けるよう勧告します。現在、教会のえり抜きの若人の中には、アルコール、様々な麻薬、ポルノグラフィ、たばこ、ギャンブル、その他の習慣性のあるものによって、サタンとその手下の奴隷になっている人がいます。こうしたものに生まれつき弱い人の場合は、1回経験しただけで、手に負えない依存症に陥ってしまうこともあるようです。実際に精神が変わってしまい、理性や分別では抑制できない衝動に駆られる症状もあります。こうした依存症は、本人の生活だけでなく、両親、伴侶、子供の生活さえ破壊してしまいます。預言者エレミヤは嘆きました。「地の王たちも、世の民らもみな、……門に、あだや敵が、討ち入ろうとは信じなかった。」<sup>15</sup>

主は無限の知恵をもって、わたしたちにとって益にならないものに決して触れてはならないと警告しておられます。わ



たしたちは、最初の1杯を飲まず、最初の1本を吸わず、最初の麻薬を試さないよう警告されてきました。好奇心や仲間からの圧力で試してみるというのは、ただの言い訳にすぎません。自分と自分の将来だけでなく、愛する人たちのためにも、立ち止まって、結果をよく考えてみてください。その結果は肉体にかかわるだけでなく、御霊を失う恐れもあり、サタンのえじきになってしまうのです。

神権はわたしを精練し、霊的にし、慰め、強め、自分を律する力を与えてくれました。そのことを証します。わたしは、祖父の家庭、父の家庭、わたし自身の家庭で、一生を通じて、神権の霊的な影響の下で生きてきました。神権という無限の権威と権能を用いて、人々を強め、癒し、祝福することを思うと、へりくだらずにはいられません。神の御名によって行動するために、わたしたちが神権の権能を持つ者としてふさわしく生活できますよう、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

#### 注

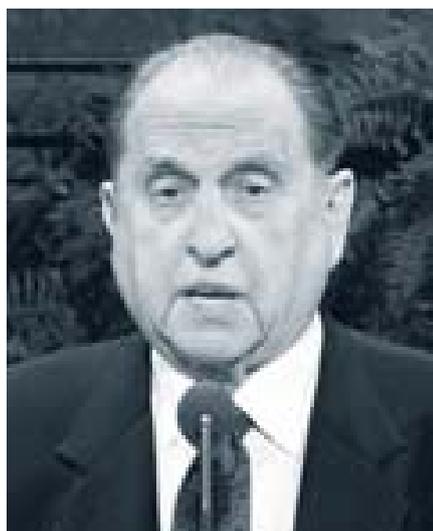
1. レアード・ロバーツ「水とパンに」『聖徒の道』1984年11月号、40-41から翻案
2. 欽定訳1ペテロ2:9から和訳
3. 教義と聖約84:18参照
4. 教義と聖約84:26
5. 教義と聖約13:1
6. *Gospel Doctrine*, 第5版(1939年), 436
7. モーサヤ27:8-24参照
8. アルマ5:46
9. 1ニーファイ7:10
10. 教義と聖約107:15参照
11. 教義と聖約84:111参照。教義と聖約20:57-59も参照
12. 教義と聖約20:53参照
13. 教義と聖約20:46-47
14. ウィリアム・G・ハートレー "Ordained and Acting Teachers in the Lesser Priesthood, 1851-1883," *Brigham Young University Studies*, 1976年春 384
15. 哀歌4:12

# 聖なる神権の義務

第一副管長

トーマス・S・モンソン

**神権は、実際のところ、<sup>たまもの</sup>賜物というよりもむしろ、委託された奉仕の務め、支え励ます特権、人の生活を祝福する機会です。**



**何**年も前、末の息子のクラークが12歳の誕生日を間近に控えていたところのことです。ある日、クラークとわたしは教会本部ビルを出たところで、ハロルド・B・リー大管長に会いました。リー大管長はわたしたちの方へ来て、声をかけてくれました。クラークが間もなく12歳になることをわたしが話すと、リー大管長はクラークの方を向いて、こう尋ねました。「12歳になったら、どんなことがありますか。」

このようなとき父親は、息子が導きを受けて正しく答えられるように祈るものです。クラークは何のためらいもなく、リー大管長にこう答えました。「執事に聖任されます。」

これは、わたしが祈っていた答えでした。また、リー大管長が期待していた答えでもありました。そこで大管長は息子にこう助言してくれました。「神権を持つ

はとても大きな祝福です。そのことを忘れないでください。」

わたしが心の底から望むのは、神権を受けるすべての若人が神権を尊び、神権を授与されたときに託された義務を忠実に果たすことです。わたしたち神の神権を持つ者が皆、自分が信じているものをはっきりと理解することができますように。使徒ペテロが教えているように、わたしたちの「うちにある望みについて説明を求める人には、いつでも弁明のできる用意」ができていますように。<sup>1</sup> わたしたち一人一人の人生には、自分の信仰について説明したり、擁護したりするよう求められる機会が訪れます。そのような機会が来たときには、用意する時期は過ぎ去っているのです。

ここにいる若人の大部分は宣教師となって全世界に出て行き、自分の証を人に伝える機会にあずかるでしょう。このすばらしい特権にあずかるための、今、用意をしてください。

わたしは、福音を分かち合う機会を数多く経験しています。そのうちの一つは、21年前に訪れました。ドイツ民主共和国、つまり一般に東ドイツとして知られていた国が、共産主義の支配から解放される以前のことで、わたしは東ドイツのギーゼン国务大臣と話していました。当時東ドイツでは、フライベルクで神殿が建設中であり、集会所の建設も2、3か所まで進められていました。ギーゼン大臣とわたしは、全世界に建物を建設する教会の計画など、多くのことについて話していました。大臣はこう尋ねました。「あなたの教会で

はこの国を含め、全世界に建物を建設していますが、どうして、そんなことができるほど裕福なのですか。どうやって資金を調達しているのですか。」

わたしは、教会が裕福だというわけではなく、わたしたち教会員が什分の一という古代から存在する聖書の原則で、現代の聖典でも再度強調されている原則に従っているからだと答えました。この教会には有償で働く聖職者がいないことも説明しました。そして、この二つが、フライベルクの美しい神殿を含む、当時建設中の建物を建てられる理由だと話したのです。

ギーゼン大臣はわたしの説明に深い感銘を受けていました。わたしは、大臣の質問に答えられたことにとても感謝しました。

真理を述べる機会はあると思ってもいないときに訪れることがあります。用意をしておきましょう。

あるとき、デビッド・O・マッケイ大管長は教会員ではない男性から、末日聖徒イエス・キリスト教会がほかの宗教と一線を画している教えは具体的に何かと尋ねられました。この経験について後にマッケイ大管長は、こう答えるよう御霊に促されたと語っています。「わたしたちの教会とほかの教会で際立って違うのは、直接の啓示により神の権能が与えられているという教えです。」<sup>2</sup>

「1820年の早春、美しい晴れた日の朝」に起きたあの出来事ほど、直接の啓示によって神の権能が現されたことの意義深い例はほかにないでしょう。その日、少年ジョセフ・スミスは森に入って行って祈りました。そのときの様子を描いたジョセフの言葉には、圧倒的な力があります。「わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がわたしの上空に立っておられるのを見た。すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた。」<sup>3</sup>

ここでわたしたちの思いを、1829年5月15日に、天の使者、バプテスマのヨハネが地上を訪れたときのことにとりかえてみましょう。ペンシルベニア州ハーモニー近

郊を流れるサスケハナ川の岸辺で、ヨハネはジョセフ・スミスとオリバー・カウドリの頭に手を置いて二人に神権を授け、次のように言いました。「わたしと同じ僕であるあなたがたに、メシヤの御名によって、わたしはアロンの神権を授ける。これは天使の働きの鍵と、悔い改めの福音の鍵と、罪の赦しのために水に沈めるバプテスマの鍵を持つ。」<sup>4</sup> この使者は、自分はメルキゼデク神権の鍵を持つペテロ、ヤコブ、ヨハネの指示の下に働いている者であると告げました。この後に、聖任とバプテスマの儀式が行われました。これもまた、直接の啓示により神の権能が与えられた例です。

それからしばらくして、ペテロ、ヤコブ、ヨハネが、メルキゼデク神権の祝福を与えるために地上に遣わされました。主から遣わされたこの3人の使徒は、ジョセフとオリバーを使徒として、また主の御名を証する特別な証人として聖任し、確認しました。この神聖な天からの訪れも、直接の啓示により与えられた神聖な権能が特徴となっています。

こうした一連の出来事の結果として、わたしたちは皆、自分に託された義務を忠実に果たすという責任を負っています。この責任は祝福された機会であり、厳粛な務めでもあります。

ブリガム・ヤングは次のように言っています。「神の御子の神権とは……律法であり、もろもろの世界はこの律法によって昔も今も成り立ち、これからも永遠にわたって存在し続けていくのです。」<sup>5</sup> ジョセフ・F・スミス大管長は神権についてさらに詳しく説明して、このように述べました。「神権は人に委任された神の力であって、それ以上のものでも、それ以下のものでもない。人が御父と御子と聖霊の御名によって、人類家族の救いのため地上で正当に行動することができるのはこの神権によるのである。神権を持っているかのように見せかけているのでもないし、死んだ過去の世代から借用しているのでもない。この神権は、わたしたちが生きているこの現代に天から、全能の神の前から直接仕える天使や霊が訪れて与えられ



たのである。」<sup>6</sup>

わたしは、18歳の誕生日を控え、第二次世界大戦で軍務に就く準備をしていたとき、メルキゼデク神権を受けるよう推薦されました。そして、ステーキ会長のポール・C・チャイルド兄弟に電話して面接の約束をするよう言われました。チャイルド兄弟は聖文を愛し、よく理解している人でした。彼は、ほかのだれもが自分と同じように聖文を愛し、理解すべきだと考えていました。彼が詳細で綿密な面接をすることを人から聞いて知っていたので、電話での会話は次のようなものとなりました。

「もしもし、チャイルド会長ですか。モンソン兄弟です。監督から、長老への聖任に関して会長と話をするように言われました。」

「それはいいですね、モンソン兄弟。い

つ会えますか。」

彼の聖餐会が4時に始まることを知っていたので、わたしの聖文の知識を試される時間を最小限にできればと思い、「3時はいかがでしょう」と提案しました。

チャイルド兄弟はこう返事しました。「モンソン兄弟、それだと聖文をじっくり読む十分な時間が取れませんね。2時に、自分で印を付けている聖典を持って来ていただけませんか。」

ついに日曜日となり、わたしはチャイルド兄弟のお宅を訪ねました。温かく迎えられ、面接が始まりました。彼はこう言いました。「モンソン兄弟、あなたはアロン神権を授かっていますね。」もちろん、そのとおりです。彼は続けました。「天使の働きを経験したことがありますか。」

「よく分かりません。」と答えました。

彼は言いました。「あなたはそれを経験する資格があることを知っていますか。」

「いいえ」と答えました。

すると、こう指示されました。「モンソン兄弟、教義と聖約第13章を暗唱してください。」

わたしは暗唱を始めました。「わたしと同じ僕であるあなたがたに、メシヤの御名によって、わたしはアロンの神権を授ける。これは天使の働きの鍵……を持つ。……」

「そこまで」とチャイルド会長は言いました。そして穏やかで親切な口調で続けました。「モンソン兄弟、アロン神権者としてあなたには天使の働きの経験する資格があるということを決して忘れないでください。では、節の続きを言ってください。」

わたしが章の残りを暗唱し終えると、チャイルド会長は言いました。「大変よくできました。」その後、教義と聖約から神権に関するほかの幾つかの章について話し合いました。長い面接でしたが、そのときのことを忘れたことは一度もありません。最後にチャイルド会長はわたしの肩に手を回してこう言いました。「あなたは今、メルキゼデク神権を受ける備えができています。主は御自分に仕える人を祝福されるということを忘れないでください。」

それから長い年月が過ぎて、わたしは、当時神権福祉委員会の一員だったポール・C・チャイルド兄弟と一緒に、あるステーキ大会に参加しました。神権指導者会で、チャイルド兄弟の話す番になりました。彼は聖典を手にとると、壇上から会衆の中に降りて行きました。わたしはステーキ会長時代の彼を知っていたので、彼が何をしようとしているの分かりました。彼は教義と聖約から、人の価値に関する第18章も含めて、聖句を幾つか引用し、人々を主のみもとに導けるよう生涯働かなければならないことを述べました。そして、ある長老定員会会長の方を向くとこう尋ねました。「人の価値とは何でしょうか。」

突然の質問に驚いた長老定員会会長は、どう答えたらよいか戸惑っていました。わたしは心の中で彼が質問に答えられるよう祈りました。そしてついに彼はこう答

えました。「人の価値とは、神となる力を秘めているということです。」

チャイルド兄弟は聖典を閉じると、厳肅な面持ちで通路を歩き、壇上に戻りました。そしてわたしの前を通り過ぎるときにこう言いました。「とても深遠な答えですね。」

わたしたちは、神権の誓詞と聖約についてよく知る必要があります。それがわたしたちすべてに関係するものだからです。メルキゼデク神権を持つ者にとって、それは神の律法に忠実かつ従順であり、与えられる召しを尊んで大いなるものとしなければならないというわたしたちの務めに関する宣言です。アロン神権を持つ者にとっては、将来の義務と責任に関する宣言であり、今この瞬間からその義務と責任に備えられるようにするという意思表示明なのです。

神権の誓詞と聖約については、主から次のように定められています。

「だれでも忠実であって、わたしが語ったこれら二つの神権を得て、自分の召しを尊んで大いなるものとする者は、御靈により<sup>まよ</sup>められてその体が更新される。

これらの者は、モーセの息子たち、またアロンの息子たちとなり、アブラハムの子孫となり、神の教会となり、神の王国となり、神の選民となる。

主は言う。この神権を受けるすべての者は、わたしを受け入れるのである。

わたしの僕たちを受け入れる者は、わたしを受け入れるからである。

また、わたしを受け入れる者は、わたしの父を受け入れる。

そして、わたしの父を受け入れる者は、わたしの父の王国を受けるのである。それゆえ、わたしの父が持つておられるすべてが、彼に与えられるであろう。」<sup>7</sup>

十二使徒定員会の会員であった故デルパート・L・ステーブレイ長老は、かつてこのように述べました。「神権の誓詞と聖約では、二つの大切なことが求められています。まずは忠実さです。これは、神の律法に従順になるということの意味しており、福音のすべての標準を完全に守ることです。……

第2に求められているのは、……召しを

尊んで大いなるものとするということです。尊んで大いなるものとするとは、誇りとし、敬い、尊び、さらに高い評価や評判を得られるようにするということです。またこれは、いっそう大切なものと考え、広い視野でとらえ、より崇高なものに高めるという意味でもあります。」<sup>8</sup>

預言者ジョセフ・スミスは、あるとき、次のような質問を受けました。「ジョセフ兄弟、あなたはよく、自分の召しを尊んで大いなるものとしなさいと言いますが、それはどういう意味ですか。」これに対して、ジョセフはこう答えたと言われています。「召しを尊んで大いなるものとするとは、自分の働きを通して人々に天の光を輝かせるために、召しを尊び敬うことです。長老としての義務を学び、それを実行する人こそ、召しを尊んで大いなるものとしている人なのです。」

アロン神権を持つ人には、アロン神権の召しを尊んで大いなるものとする機会が与えられるはずで

2年前のある日曜日のことです。わたしは自分が所属するワードの聖餐会に出席していました。それは、めったにないことです。聖餐の台には3人の祭司がいました。真ん中の一人は、動作からして何らかの障害を負っているようでしたが、特に言語の障害は顕著でした。2度にわたりパンの祝福をしようとしたのですが、どうしてもうまくできませんでした。祈りの言葉を完全に言えなかったことで、明らかに動揺しているようでした。そこで、そこにいた別の祭司が、代わってパンの祝福を行いました。

パンが配られている間、わたしは考えました。「あの少年を、聖餐の台で失敗したままにしておくわけにはいかない。」わたしが疑いさえしなければ、この少年は水の祝福ならきちんとできるに違いないという確信がありました。わたしは壇上でも聖餐の台に近い位置にいたので、そばにいた祭司に顔を近づけ、言葉がうまく言えなかった少年を指してこう言いました。「あの子に水の祝福をさせてくれませんか。水の方の祈りは短いですから。」それからわたしは祈りました。また失敗させたくな

かったからです。わたしは、疑わず信じるべきであるという聖句が大好きです。<sup>9</sup>

水を祝福する段になり、あの少年が再びひざまずいて祈りました。多少途切れ途切れではあったものの、一言も間違えずに祈りの言葉が言えました。わたしはひそかに喜びました。執事たちがトレイを持って配っているとき、わたしはその少年を見詰めて、親指を上げました。よくできたね、という合図です。少年はわたしに満面の笑みを見せました。聖餐のパスが終わって少年たちが両親とともに座るため席に戻ったとき、この少年も父親と母親の間に座りました。母親はにこやかに息子を抱き締め、父親は息子の肩を抱いて褒めました。何ともうれしい光景でした。この3人はそろってわたしの方を見ました。わたしは彼らに、再び親指の合図をしました。母親と父親が目から涙をぬぐっているのが見えました。この少年はこれから先も大丈夫だろう、とわたしは感じました。

神権は、実際のところ、賜物というよりもむしろ、委託された奉仕の務め、支え励ます特権、人の生活を祝福する機会です。

最近、アイザック・ライターというすばらしい執事の少年についてつづった手紙を受け取りました。アイザックのために奉仕し、彼と自分たち自身の生活を高め、祝福した執事や教師、祭司たちのことも書かれていました。

アイザックは、生後7か月から亡くなる13歳まで、<sup>がん</sup>癌と闘いました。最善の治療を受けられるようアイザックが家族ぐるみで病院に近い家に引っ越して来たとき、近くのワードのアロン神権者たちは、アイザックとその家族のために毎週聖餐式を行うようにという依頼を受けました。この毎週の儀式は、かかわっていたアロン神権者たちにとって大好きな行事になりました。アロン神権者たちは指導者やアイザックの家族とともに病院のアイザックのベッドの周りに集まり、賛美歌を歌って証を述べ合います。次に聖餐が祝福されると、アイザックはいつも、自分は執事なのだから、家族と、聖餐を持って来てくれた人たちに自分で聖餐を配るのだと言って譲りませんでした。



ベッドで横になりながら、祝福されたパンや水の入ったトレイを、力を振り絞って持つのでした。出席者は全員、アイザックのところへ行って彼の持つトレイから聖餐を取りました。看護師や病院の職員も、すぐにこの集会に参加するようになりました。アイザックが天の御父に近く、いつでも御父を敬っていることが見て取れたからです。衰弱した体で苦しみながらも、アイザックは、尊い神権を持つ者として自分を大切にしていたのです。

アイザックは、ワードの若い男性にとつて偉大な模範でした。死の床にありながらも義務を果たそうとするアイザックの願いを、若い男性たちはひしひしと感じ、神権の務めがまさに特権であることを悟りました。彼らは聖餐の準備のために早く教会に来るようになり、時間どおりに席に着くようになりました。敬虔な態度が培われました。

アイザック・ライターは神権を敬うことに関して、生きた手本となりました。葬儀では、アイザックは生涯を通じて半天に籍を置いていたと言われました。きっとアイザックは、今でも幕の向こうで自分の義務を尊んで大いなるものとしており、御業を助けていることでしょう。

メルキゼデク神権者の皆さんには、召しを尊んで大いなるものとする特権が常

にあります。わたしたちはイスラエルを見守る羊飼いです。飢えた羊たちが目を上げて、命のパンを待っています。兄弟の皆さん、わたしたちは神の羊の群れを養う準備ができていますでしょうか。人の価値を覚えて、大切な神の息子を一人たりともあきらめないことが、ぜひとも必要なのです。

失敗を恐れる不安というものは最も多くのしかかるものです。もしもその不安のために、自分はいくらにも弱くてこれ以上うまくできないと感じている人がいるならば、主の次の御言葉ほど、確かな慰めとなるものはないでしょう。「わたしの前にへりくだるすべての者に対して、わたしの恵みは十分である。もし彼らがわたしの前にへりくだり、わたしを信じるならば、そのとき、わたしは彼らの弱さを強さに変えよう。」<sup>10</sup>

神権の召しを尊んで大いなるものとするなら、奇跡はどこにでも起きます。疑いが信仰に変わり、利己心が無私の奉仕に変わるとき、神の力が現れて、神の目的が達成されます。神は、召す人をふさわしくされるのです。

天の御父が、貴い神権を持つすべての人々に、絶えず祝福と靈感と導きを与えてくださいますよう、主イエス・キリストの御名によって、心から祈ります、アーメン。

注

1. ペテロ3:15
2. デビッド・O・マッケイ, *Stepping Stones to an Abundant Life* (1971年), 375参照
3. ジョセフ・スミス歴史1:14, 17
4. 教義と聖約13:1
5. *Discourses of Brigham Young*, ジョン・A・ウィットナー選, (1954年), 130
6. *Gospel Doctrine*, 第5版, (1939年), 139-140
7. 教義と聖約84:33-38
8. Conference Report, 1957年4月, 76-77
9. モルモン9:27参照
10. エテル12:27

# さらに親切になる 必要性

大管長  
ゴードン・B・ヒンクレー

**人に対して意地悪くしたり、不親切にしたりする理由がどこにあるでしょうか。  
なぜわたしたちすべてが周囲の人に友情の手を差し伸べられないのでしょうか。**



**モ**ンソン兄弟の後で話すのはとても難しいです。彼はユーモアに満ちている一方で、実に誠実な人です。

兄弟たち、皆さんの信仰と祈りに感謝します。心から感謝しています。

人は年を重ねると、角が取れて、物腰がより柔らかくなります。最近、このことについてよく考えます。

世の中になぜこれほど憎しみがあるのか、不思議に思ったことがあります。人命が奪われ、多くの人がひどい傷を負う恐ろしい戦争が各地で起きています。身近なところでは、嫉妬、高慢、傲慢、口うるさい批判があふれており、父親たちはささいな、つまらないことで怒り、妻たちを泣かせ、子供たちをおびえさせています。

民族間の紛争は今も醜い様相を呈しています。民族や人種の問題はこの教会の中にもあると聞いています。どうしてそのようなことが起きるのか、わたしには理解できません。1978年にキンボール大管長によって与えられた啓示を聞いたとき、だれもが喜んだように見えました。神殿でその啓示が与えられたとき、わたしはその場にいました。わたしや同僚たちの心の中では、明らかにされた啓示が主の思いと御心であることに一点の疑いもありませんでした。

しかし現在、民族や人種について侮辱する言葉や名誉を傷つける言葉が時折会員の間で聞かれるという報告が入っています。皆さんに申し上げますが、自分と異なる民族や人種をけなすような話をする人は、キリストのまことの弟子とは言えません。そのような人はキリストの教会の教えに従っていると言うこともできません。どうしてメルキゼデク神権を持つ男性が、自分は神権を持つにふさわしいけれど、肌の色が異なる男性は、たとえ義にかなった生活を送っていたとしてもふさわしくない、と傲慢にも言えるのでしょうか。

大管長会の一員として奉仕してきた間、社会の中で見られる多様性について何度も採り上げて話してきました。わたしたちの周囲には様々な民族や人種の人々がいます。わたしたちはその多様性に順応するよう努めなければなりません。

わたしたち一人一人が天の御父の息子

娘であり、御父は御自身のすべての子供たちを愛しておられることを心に留めましょう。

兄弟の皆さん、この教会の神権組織の中に、異なる民族や人種に対して嫌悪感を抱くような根拠はどこにもありません。もしわたしの言葉を今聞いている皆さんの中にこの問題にかかわっている人がいるなら、主のみもとへ行って赦しを請い、今後は二度とかかわらないようにしてください。

わたしが受け取る手紙の中に、差出人が大会で採り上げてほしいと思うテーマを提案してくれるものが時々あります。先日そのような手紙が一通届きました。最初の結婚が離婚に終わってしまったという女性からでした。彼女はその後に、一見とても親切で思いやり深い男性と出会いました。しかし、再婚後間もなく分かったのですが、その男性は金銭にだらしない人でした。彼はお金がないにもかかわらず、仕事を辞めてしまい、働くことを拒みました。そして、今度は奥さんが家族を養うために働きに出されたのです。

何年も過ぎ、その男性は今もお仕事に就いていません。手紙をくれた女性は、同じように仕事に就かず、家族を養うために妻を長時間働かせている別の二人の男性についてもつづっています。

パウロはテモテに次のように言いました。「もしある人が、その親族を、ことに自分の家族をかえりみない場合には、その信仰を捨てたことになるのであって、不信者以上にわるい。」(1テモテ5:8) これはとても強く印象に残る言葉です。

主は現代の啓示でこのように語られました。「女たちは夫が取り去られるまで、夫に扶養を要求する権利がある。……

すべての子供たちは成人になるまで、その親に扶養を求める権利がある。」(教義と聖約83:2, 4)

この教会の初期のころから、夫は一家の稼ぎ手であると見なされてきました。肉体的には能力があるのに、家族を支えるために働くことを拒む人は、決して良い会員とは呼べないと思います。

わたしは先ほど、なぜ世の中にこれほど多くの争いや憎しみ、辛らつな態度がはびこるのか分からないと言いました。



もちろん、これはすべてサタンの仕業であることを知っています。サタンはわたしたちを個別に攻撃します。サタンは強い男性を倒します。教会が組織された当時からそのようにしてきました。ウィルフォード・ウッドラフ大管長はこう述べています。

「わたしはオリバー・カウドリの足もとで地が震えているのではないかと思えるほど彼が力強く見える場面に居合わせたことがあります。御霊の影響を受けているときの彼ほどに、人が力強く証を述べるのを聞いたことはありません。しかし神の王国を去った瞬間に、オリバーは力を失いました。……デリラのひざの上のサムソンのように、力をそぎ落とされてしまいました。享受していた力と証を失いました。教会〔員〕として世を去ったものの、肉にある間に以前のような力と証を再び完全に取り戻すことはありませんでした。」  
〔『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』105〕

許可を得て、末日聖徒の多い地域に育った、ある青年の話を書きます。彼は教会の会員ではありませんでした。両親とともに、別の教会に熱心に集っていました。

彼の話では、子供のころ、数人の末日聖徒の知り合いが彼をけなしたり、のけ者にしたり、からかったりしたそうです。

彼はこの教会と教会員を文字どおり憎むようになりました。教会に良いところは何一つないと思いました。

その後、彼の父親が失業し、引っ越さなければならなくなりました。新しく住んだ地で、17歳のときに大学に入学しました。大学に入って、生まれて初めて友達の温かさを知りました。友人の一人のリチャードから、自分が会長をしているクラブに入らないかと誘われました。青年はこう書いています。「生まれて初めてわたしと行動を共にしたいと思ってくれる友達ができました。どう反応してよいか分かりませんでした。ありがたく思っただけで入会しました。……友人がいるという気分は素晴らしいものでした。わたしは生まれてからずっと友人ができるように祈ってきました。そして、17年間待った末、神はその祈りにこたえてくださったのです。」

19歳のとき、夏のアルバイトの期間中、彼はリチャードと同じtentで生活しました。そして、リチャードが毎晩、ある本を読んでいることに気づきました。青年は何を読んでいるのか尋ねました。すると、モルモン書を読んでいると言われました。彼はこう言っています。「わたしは慌てて話題を変え、寝床に就きました。何しろわたしの子供時代を台なしにした本です

から。その本のことは忘れようとしたが、1週間が過ぎててもよく眠れませんでした。なぜリチャードは毎晩モルモン書を読んでいるのだろうか。頭の中を巡っている、答えの出ない疑問に次第に耐えられなくなりました。そこで、ある晩、その本の何がそんなに大切なのか尋ねてみました。一体何が書かれているのか、と。彼はわたしに本を渡そうとしました。わたしは慌てて、その本には触れたくない、と告げました。中に何が書かれているのかだけ知りたい、と言いました。彼は自分の読んでいたところの続きから読み聞かせてくれました。イエスについて、そしてイエスがアメリカ大陸に御姿を現されたことについて読んでくれました。わたしはショックを受けました。モルモン教徒がイエスを信じているなんて思ってもみませんでした。」

やがてリチャードと一緒にステーキ大会の聖歌隊で歌わないかと誘われました。その日がやって来て、大会が始まりました。「七十人第一定員会のゲーリー・J・コールマン長老が来て、話をしました。大会の中で、コールマン長老も〔改宗者〕であることを知りました。大会が終わると、リチャードはわたしの腕を取り、コールマン長老と話しに行こうと言いました。」



わたしはようやく了解しました。そうしてコールマン長老のところへ近づいて行くと、長老が振り向いてほほえんでくれました。わたしは自己紹介し、自分は会員ではないこと、そしてただ聖歌隊で歌うためだけに来たことを告げました。コールマン長老はほほえみ、わたしが来てうれしい、そして音楽はすばらしかったと言ってくれました。わたしは長老に、どうして教会が真実であることが分かるのかと尋ねました。すると、長老は短く証を述べ、モルモン書を読んだことがあるかと尋ねました。わたしは、いいえ、と答えました。長老は、わたしが初めて読むときに御霊を感じることを約束しました。」

この青年と友人は後に、旅行に出かけました。そのとき、リチャードは青年にモルモン書を渡し、声に出して読むように求めました。青年が言われたとおりにすると、突然聖なる御霊による霊感が彼の心に注がれました。

時が過ぎ、青年の信仰は強まりました。彼はバプテスマを受けることに同意しました。両親から反対されましたが、彼は話を進め、バプテスマを受けてこの教会の会員になりました。

彼の証は今現在も絶えず強まっています。つい数週間前、彼はソルトレーク神殿で美しい末日聖徒の女性と、この世と永

遠にわたって結婚しました。ゲリー・J・コールマン長老が結び固めの儀式を執り行いました。

話はこのような結末を迎えたわけですが、この話には学ぶべき事柄があります。一つ目は、若いモルモン<sup>ほうとう</sup>の友人たちが行った、恥ずべき振る舞いです。

二つ目は、新しく見いだした友人のリチャードの彼に対する振る舞いです。これは以前に彼が経験したこととまったく逆でした。この振る舞いは、見込みがほとんどなかったにもかかわらず、彼を改宗とバプテスマへと導きました。

このような奇跡は、親切な心、敬意、愛があれば、起こり得ますし、今後もきっと起きるでしょう。人に対して意地悪くしたり、不親切にしたりする理由がどこにあるのでしょうか。なぜわたしたちすべてが周囲の人に友情の手を差し伸べられないのでしょうか。なぜこれほど憎悪や敵意があるのでしょうか。これらはイエス・キリストの福音とは相いれないものです。

わたしたちは皆、つまずくことがあります。だれもが間違いを犯します。主の祈りの中でのイエスの言葉はこう言い換えられます。「わたしたちに対して罪のある者をわたしたちが赦しましたように、わたしたちの罪をもお赦しください。」(マタイ6:12参照)

預言者ジョセフと親しかったウィリアム・W・フェルプスは、1838年にジョセフを裏切り、そのためにジョセフはミズーリで投獄されることになりました。自分の悪事の大きさに気づいたフェルプス兄弟は、預言者に赦しを求める手紙を出しました。預言者は次のような返事をしました。

「わたしたちがあなたの行為によって非常な苦しみを被ったことは事実です。苦き杯<sup>さかすき</sup>はすでに人が飲み干せないほどに満ちており、あなたがわたしたちに敵対したときには、まったくあふれるばかりでした。……

しかし、杯は飲み干され、御父の御心が行われました。そしてわたしたちは今なお、生きています。そしてそのことを神に感謝しています。……

わたしはあなたが真実を告白し、心から悔い改めていることを信じて、再び友情の右手を差し出せることをうれしく思い、帰って来た放蕩息子に喜んでいました。

先の日曜日に、あなたの手紙が聖徒たちの前で読み上げられました。そして、W・W・フェルプスが再び会員になることが、聖徒たちの気持ちを表すかのように、全会一致で可決されました。

愛する兄弟、戻って来てください。争いは終わったのです。

最初の友は最後も友ですから。」  
(*Teachings of the Prophet Joseph Smith*, ジョセフ・フィールディング・スミス選〔1976年〕, 165-166)

兄弟の皆さん、預言者が示したこの精神こそ、わたしたちが生活の中ではなくむべき精神です。このことに無関心であることはできません。わたしたちは主の教会の会員です。自分や人に対してだけでなく、主に対しても義務を負っています。この罪深い世は、強い男性、徳高い男性、信仰深い、義にかなった男性、進んで赦し、忘れる男性をととも必要としています。

最後に断っておきますが、これまで話してきた例は、大半の教会員の行動や態度を代表するものではありません。そのことをうれしく思います。わたしの周囲には、人に愛と関心を豊かに示している会員が大勢います。

# 万物の回復

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

**わたしたちは、末日聖徒イエス・キリスト教会が、イエス・キリストによって組織された本来の教会が回復されたものであると信じています。**



**わ**たしたちは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、現在と過去を問わず、この地上に生を受けた人々を気にかけています。1978年に大管長会が出したこの声明にあるとおりです。「わたしたちのメッセージは……宗教的信条や人種、国籍にかかわらず、すべての男女の永遠の福利に特別な愛と関心を寄せるといふものです。なぜなら、わたしたちは同じ永遠の御父の息子、娘であって、真の兄弟姉妹であることを知っているからです。」<sup>1</sup> また、ダリン・H・オークス長老は数年前にこのように述べました。

「末日聖徒イエス・キリスト教会の教えには、ほかのキリスト教会の教えと共通したものが数多くあります。しかし違いもあります。わたしたちがほかのクリスチャンに向けて宣教師を派遣したり、教会堂以外に神殿を建てたりする理由は、その違いの中にあります。またわたしたちの信仰が、

人生の数々の問題や死に立ち向かう力や大きな喜びをもたらしてくれる理由も、この違いの中にあります。」<sup>2</sup>

今日わたしが証<sup>あかし</sup>したいのは、回復された完全なイエス・キリストの福音が、他の教派の信条に付け加えられていることです。それはキリスト教であっても、それ以外の宗教であっても変わりありません。この完全な福音は、もともとは救い主が地上で務めを果たされたときに確立されたものです。しかしその後、背教が起りました。

初期の使徒の何人かは、主イエス・キリストの再臨に先立って背教があることを知っていました。パウロは、それについてテサロニケ人にこう伝えました。「だれがどんな事をして、それにだまされてはならない。まず背教のことが起<sup>おこ</sup>……るにちがいない。」<sup>3</sup>

この背教の結果、神権の鍵が失われ、救い主が組織された教会の貴い教えの一部が変えられてしまいました。変えられた教えには次のものがあります。水に沈めるバプテスマ、<sup>4</sup> 按手により聖霊を授けられること、<sup>5</sup> 御三方がそれぞれ独立した御方であるという神会の性質、<sup>6</sup> 「正しい者も正しくない者も」皆キリストの贖いによって復活すること、<sup>7</sup> 天が開かれ、継続して与えられる啓示、<sup>8</sup> 生者と死者のための神殿の業。<sup>9</sup>

背教に続く時期は、暗黒時代として知られています。使徒ペテロは背教をこのように予見して、宣言しています。「このイエスは、神が聖なる預言者たちの口をとおして、昔から預言しておられた万物更新の時まで、天にとどめておかれねばならなかつ

先週、このホールは福音に従って生活しようとする、美しい若い女性でいっぱいになりました。彼女たちは互いに対して寛容です。互いに強め合おうとしています。彼女たちは、両親や育てている家庭の誇りです。彼女たちは一人前の女性になりつつあり、今自分たちを動機づけている理想を生涯にわたって抱き続けることでしよう。

扶助協会の姉妹たちが続けてきた、数多くの善い行いについて考えてください。彼女たちの慈善活動の影響は世界中に及んでいます。女性たちは手を差し伸べ、病人や貧しい人々のために自分たちの時間、愛情、そのほかの持てるものをささげています。

福祉プログラムでは、ボランティアが手を差し伸べ、食糧、衣服、そのほかの必要な物資を、困窮している人々のもとに届けています。

人道支援活動では、教会の枠を超えて、世界の貧しい国々を援助しています。この教会の貢献により、はしかの脅威が多くの地域から根絶されつつあります。

永代教育基金は、何千もの人々を貧困の泥沼から救い、知識と繁栄の明るい未来へと押し上げています。

この教会の善良な会員たちが、互いに互いの生活を祝福するために多大な努力を払い、互いに世界中の貧窮している人々を支援しているかについては、語り尽くすことができません。

わたしたちが行える善や人に与えられる影響力に、限りはありません。批判や否定的な言葉を心に留めず、強さと人を助ける能力と望みを求めて祈りましょう。福音の光を常にどこにあっても輝かし、贖い主の御霊がわたしたちから発せられるようにしましょう。

主はヨシュアにこう言われました。「強く、また雄々しくあれ。あなたがどこへ行くにも、あなたの神、主が共におられるゆえ、恐れてはならない、おののいてはならない。」(ヨシュア1:9)

主イエス・キリストの御名によって、アーメン。



大会の衛星放送に出席するメキシコ・チワワの会員。

た。]<sup>10</sup> 更新は、これらの貴いものが失われて初めて必要になります。

その後の数世紀の間に、イエス・キリストの組織された教会が少しずつ本質から離れていることに気づく宗教家が何人もいました。一部の宗教家は自身の信条に大いに悩み、それがやがては、ヨーロッパにおけるキリスト教の宗教改革を目的とした16世紀の宗教革命へとつながりました。その結果として、主流のキリスト教会からプロテスタント教会が分かれました。

ジョン・ラスロップ牧師はこのような改革者の一人で、イギリスのケント州にあるエジャートン教会の教区牧師でした。ちなみに預言者ジョセフ・スミスの先祖に当たる人もあります。1623年、ラスロップ牧師は、英国国教会が神の御名によって行う権能に対して疑問を投げかけ、聖職を奪われてしまいます。彼は聖書を読んで、使徒の鍵が地上には存在しないことを悟りました。1632年にはどの派にも属さない非合法的な教会の牧師となり、投獄されます。投獄中に妻はこの世を去り、母親を亡くした子供たちは主教に父親の釈放を求めます。主教は、国に戻って来ないことを条件に釈放に同意します。ラスロップ牧師はそのとおりにし、32人の信徒を連れてアメリカ

へと旅立ちました。<sup>11</sup>

ロードアイランド州の創始者で、17世紀の聖職者であったロジャー・ウィリアムズは、ロードアイランド州プロビデンスの聖職者を続けることを拒否しました。彼はその理由をこう言っています。「この地上には正しく設立された教会はないし、主の教会の儀式を執行する権能を持つ者もない。それらが実現するのは、教会の偉大な管理者である御方から新しい使徒たちが遣わされる時であろう。わたしはその訪れを待ち望んでいる。」<sup>12</sup>

イエス・キリストによって組織された教会の背教と、失われた神権の鍵の回復が必要であることに気づいた宗教学者は、この二人以外にもたくさんいます。使徒ヨハネは示現で、「もうひとりの御使が中空を飛〔び〕地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえて」<sup>13</sup> 来るのを見ました。この預言は成就しました。わたしたちは完全なイエス・キリストの福音が、預言者ジョセフ・スミスによってこの時代に回復されたと信じており、そのために、すべての人々がこの教えを聞いて、受け入れる機会があるよう望んでいます。

回復された教会には現在、パウロがエ

ペソ人に述べた使徒、預言者、牧師、教師、伝道者がいます。<sup>14</sup> これらの神権の職は、時の中間に救い主が教会を組織されたときに確立されたものです。また、わたしたちは神権に二つの位があり、それぞれに複数の職があることを理解しています。アロンの名を取った小神権であるアロン神権、そしてアブラハムが自分の一を納めたメルキゼデクの名前を取った、大神権であるメルキゼデク神権です。アロン神権は1829年5月15日にバプテスマのヨハネによって回復され、メルキゼデク神権はそれから1か月のうちに古代の使徒ペテロ、ヤコブ、ヨハネによってジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに回復されました。したがって、今日神権を授かっている人々は、「天においても地においても効力を持つ力」<sup>15</sup> である神権を通して、神の御名によって行動する権能を有しているのです。

1836年4月3日、カートランド神殿で、預言者ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリにモーセが現れ、イスラエルの集合の鍵を受けました。その後、エライアスが現れ、「わたしたちの後の時代のすべての者が祝福を受けるであろう」<sup>16</sup> と述べ、アブラハムの福音をゆだねました。この後、預言者エリヤが現れて、神殿において地上でつなぐことを天でもつなぐ結び固めの力を含む、この神権時代の鍵をゆだねました。<sup>17</sup> このように、使徒パウロがエペソ人に語ったこの最後の「時の満ちる」神権時代に、過去の福音の神権時代の預言者たちが預言者ジョセフ・スミスに鍵を受けました。<sup>18</sup>

主が、再びこの民に自分の一とささげ物の律法を確立するにふさわしいと判断されたことに感謝しています。自分の一の律法を守ると、天の窓がわたしたちに開かれます。すばらしいことに、自分の一を守る信仰を持つ人々には、天からあふれんばかりに祝福が注がれます。

地上の長い歴史を通して、神殿での礼拝は聖徒にとって重要な意味を持っていました。この礼拝によって、創造主に少しでも近くありたいと願う気持ちを表します。救い主が地上におられたとき、神殿は主にとって学びの場所でした。主の生活とは切っても切れないものだったのです。現在



# 末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

## 大管長会

2006年4月現在



第一副管長  
トーマス・S・モンソン



大管長  
ゴードン・B・ヒンクレー



第二副管長  
ジェームズ・E・ファウスト

## 十二使徒定員会



ボイド・K・バックナー



L・トム・ペリー



ラッセル・M・ネルソン



ダリン・H・オークス



M・ラッセル・バラード



ジョセフ・B・ワースリン



リチャード・G・スコット



ロバート・D・ヘイルズ



ジェフリー・R・ホランド



ヘンリー・B・アイリング

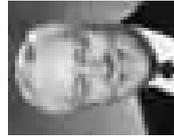


ディーター・F・ウーグトルド



デビッド・A・ベドナー

## 七十人会長会



アール・C・



ティンキー



D・トッド・



クリストファーソン



チャールズ・



ディティエ



メリル・J・

七十人第一定員会



カロス・H・アマード



デビッド・S・バウスター



シエーン・M・ボーン



モンテイ・J・ブラフ



シェルドン・F・チャイルド



L・ホイットニー・クレートン



ゲリー・J・コールマン



スペンサー・J・コンディー



ロバート・J・デウィット



ジョン・B・デウィット



ロバート・K・デウィット



ジェームズ・L・デウィット



ウィリアム・J・デウィット



ウィリアム・J・デウィット



ウィリアム・J・デウィット



ジョン・R・クック



ロバート・L・クック



ロバート・M・コスト



ベンハミン・D・オクス



ロバート・K・デウィット



ジョン・B・デウィット



ロバート・F・デウィット



ロバート・K・デウィット



ロバート・K・デウィット



ロバート・K・デウィット



ロバート・K・デウィット



ロバート・K・デウィット



ロバート・K・デウィット



ロバート・K・デウィット



ロバート・K・デウィット



ワルター・F・コンラース



C・スロット・クロケット



ポール・C・ヘーゲン



ドナルド・L・ホルムストロム



キース・K・ヘルウィグ



リチャード・G・ヒンクレ



ジョン・E・ジョンソン



ジョン・E・ジョンソン



ジョン・E・ジョンソン



ジョン・E・ジョンソン



ジョン・E・ジョンソン



ジョン・E・ジョンソン



ジョン・E・ジョンソン



ジョン・E・ジョンソン



ジョン・E・ジョンソン



ダニエル・L・ジョンソン



ケネス・ジョンソン



ポール・V・ジョンソン



ウィリアム・C・ジョンソン



ウィリアム・C・ジョンソン



ウィリアム・C・ジョンソン



ウィリアム・C・ジョンソン



ウィリアム・C・ジョンソン



ウィリアム・C・ジョンソン



ウィリアム・C・ジョンソン



ウィリアム・C・ジョンソン



ウィリアム・C・ジョンソン



ウィリアム・C・ジョンソン



ウィリアム・C・ジョンソン



ウィリアム・C・ジョンソン



リン・A・ミケルセン



マーク・B・ナッシュ



デニス・B・ナッシュ



グレン・L・ペイス



アンドリュー・D・パーキンス



ロバート・B・ペイン



ブルース・D・ポッツ



ロバート・M・マドセン



リチャード・J・メイズ



ロバート・F・オーントン



ウィリアム・W・オーニール



ウィリアム・W・オーニール



ウィリアム・W・オーニール



ウィリアム・W・オーニール



ウィリアム・W・オーニール



ロバート・G・リン



ロバート・G・リン



ロバート・G・リン



ロバート・G・リン



ロバート・G・リン



ロバート・G・リン



ロバート・G・リン



ロバート・G・リン



ロバート・G・リン



ロバート・G・リン



ロバート・G・リン



ロバート・G・リン



ロバート・G・リン



ロバート・G・リン



ロバート・G・リン

管理監督会



第一副監督  
リチャード・C・エッツェリ



第二副監督  
ロバート・H・デウィット



第三副監督  
ロバート・H・デウィット



大会の衛星放送会場に到着したフィリピン(上段),  
ウルグアイ(中段右)およびブラジル(左下)の会員。  
教会指導者を支持する韓国の会員(中段左)。

のわたしたちにも神殿の祝福に浴する機会が与えられています。神殿に関する教えと、神殿で行われるあらゆる事柄の永遠にわたる意味は、末日聖徒イエス・キリスト教会に特有のものであります。今日、荘厳で美しい神殿は、世界の多くに存在しています。そこでは最も神聖な業が行われています。神殿についてゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう述べています。「人生についての疑問に不変の答えを与えてくれる場所は、この世にわずかしかなかった。」<sup>19</sup> わたしたちはどこから来たのか、なぜここにいるのか、そしてどこに行くのかという厳粛な疑問は、神殿においてさらに深い答えを得ることができます。わたしたちは神のみもとから来て、みもとへ帰るためにこの地上で備えをしています。

神殿の重要な意義の一つは、その神聖な場所で夫と妻が永遠の聖約を交わすことです。この聖約は神権の権能により結び固められます。このような聖約の下に生まれる子供たちは、ふさわしさを保つなら、自分の家族と、また神の子供として、永遠の関係を維持することができます。使徒ヨハネはこう書いています。「この白い衣を身にまとっている人々は、だれか。……それだから彼らは、神の御座の前におり、昼も夜もその聖所で神に仕えているのである。」<sup>20</sup>

主は、御自身の業は「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと」だとおっしゃいました。<sup>21</sup> これは、生者も死者も、すべての人がこの地上かあるいは霊界において、福音を聞く機会が与えられなければならないことを意味します。パウロはコリント人にこう語っています。「そうでないとすれば、死者のためにバプテスマを受ける人々は、なぜそれをするのだろうか。もし死者が全くよみがえらなるとすれば、なぜ人々が死者のためにバプテスマを受けるのか。」<sup>22</sup> これこそが、すでに亡くなった先祖のためにわたしたちが神殿の儀式を行う理由なのです。自分で選ぶ機会や選択の自由はだれからも取り上げられません。儀式を授けられた本人が、受け入れるかどうかを自分で選ぶのです。

使徒ヨハネは、福音の回復の一部とし



て、天使が地上に降<sup>くだ</sup>って来る時代を示現で見ました。この天使は預言者ジョセフ・スミスに現れたモロナイです。モロナイは、古代の記録が刻まれた金版が埋めてある場所をジョセフに示しました。金版を受け取ったジョセフ・スミスは、神の力と賜物<sup>たまもの</sup>によって翻訳し、モルモン書として出版しました。この書物は、アメリカ大陸に何世紀も前に存在した二つの民に関する記録です。モルモン書が世に出るまで、これらの民についてはほとんど知られていませんでした。しかし、もっと重要なのは、モルモン書がキリストについてのもう一つの証<sup>しるし</sup>だということです。この書物を通して、墮落<sup>しよくざい</sup>や贖罪、復活や死後の生活について貴い真理が回復されました。

回復以前は、何世紀にもわたって天が閉じられていました。しかし、地上に再び

預言者と使徒が与えられ、示現と啓示により天が開かれました。預言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示の多くが書き記されて、教義と聖約としてまとめられました。ここには、原則と儀式についてさらに深い教えが記録されており、神権組織についても貴重な情報が含まれています。さらに、わたしたちには高価な真珠というもう一つの聖典が与えられています。預言者ジョセフ・スミスに啓示されたモーセ書、そしてジョセフが購入したエジプトの巻き物を翻訳したアブラハム書から構成されています。これらの記録から、モーセやアブラハム、エノクなどの預言者について多くのことを学べますが、それだけではなく、創造についてもさらに詳しく知ることができます。イエス・キリストの福音は最初から、つまりアダムの時代から、すべての預言者に



教えられてきたことが分かります。<sup>23</sup>

わたしたちは、末日聖徒イエス・キリスト教会が、イエス・キリストによって組織された本来の教会が回復されたものであると信じています。それは「使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石」です。<sup>24</sup> どこかの教会から分派したものではありません。

キリストの完全な福音は回復されましたが、それは神のほかの子供たちに対して優越感を抱く理由にはなりません。むしろわたしたちは、キリストの福音に従って生活する大きな責任を負っています。人を愛し、仕え、祝福をもたらす必要があります。わたしたちは、大管長会が1978年に出した声明に書かれている事柄を信じていま

す。「マホメットや孔子、宗教改革者など世界の偉大な宗教指導者や、ソクラテス、プラトンなどの哲学者たちは、神の光の幾分かを受けました。国々を啓蒙し、個々の理解をより高い水準に引き上げるために、倫理的真理が神から彼らに与えられました。」<sup>25</sup> したがって、わたしたちはほかの人々が心から信じている宗教的信条を尊重し、わたしたちが大切にしている教えに人が示してくれる同様の敬意に対して、感謝の思いを持っています。

わたしは預言者ジョセフ・スミスを通して回復された聖約、教え、そして権能が真実であることについて、個人的な証があります。この確信は、人生を通して常に心の中にありました。わたしたちの時代に、完全な福音が回復されたことを感謝していま

す。それは永遠の命へと続く道です。父なる神の力と平安と思いが、また、主イエス・キリストの変わらぬ愛と恵みとがともにありますように、イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。

注

1. 人類に対する神の愛に関する大管長会の声明、1978年2月15日付
2. 「背教と回復」『聖徒の道』1995年7月号、90
3. 2テサロニケ2:3、強調付加
4. マルコ1:9-10参照
5. 使徒8:14-17; 19:3-6参照
6. マタイ3:17; 使徒7:55; 教義と聖約130:22参照
7. 使徒24:15
8. ダニエル2:28; アモス3:7; 教義と聖約121:26参照
9. オバデヤ1:21; マラキ4:6; 1コリント15:29; 黙示7:15参照
10. 使徒3:20-21
11. マーク・E・ピーターセン *The Great Prologue* (1975年), 34-35
12. ウィリアム・カレン・ブライアント編 *Picturesque America; or, the Land We Live In*, 第2巻(1872年), 1:502; リグランド・リチャーズ「不思議な驚くべきわざ」29も参照
13. 黙示14:6
14. エペソ4:11参照
15. ジェームズ・E・タルメージ *Articles of Faith*, 第12版(1924年), 204
16. 教義と聖約110:12
17. 教義と聖約110:13-16
18. エペソ1:10
19. 「なぜ神殿を」『末日聖徒イエス・キリスト教会の神殿』14
20. 黙示7:13, 15
21. モーセ1:39
22. 1コリント15:29
23. モーセ5:58; 8:19; アブラハム2:10-11参照
24. エペソ2:20
25. 大管長会の声明、1978年2月15日付

# 壊れたものを 元どおりに

十二使徒定員会

ジェフリー・R・ホランド

**心の貧しい人々に向けて言われた「わたしのもとにきなさい」という主の御言葉は、  
苦しみから人を救い、さらに成長させる方法を主は御存じだということを意味  
しています。**



**大**いる山上の垂訓でイエスが最初に語られた言葉は、悩んでいる人や落胆している人、意気消沈している人に向けたものでした。「このころの貧しい人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである」とおっしゃったのです。<sup>1</sup> わたしは、個人的な試練に直面している人や、家庭内の問題で苦しんでいる人たちに向かって話します。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員か、それとも今朝わたしの話を聞いてくださっている、会員でない大勢の人たちの一人であるかにかかわらず話します。心の内の葛藤に独りで耐えている人、洪水のように押し寄せて来る絶望の波を、時には押し流されそうになりながら、必死でせき止めようと努めている人に向かって話します。特に、自分の人生

が崩壊してしまって、もはや取り返しがつかないと感じている人たちに向けて話したいと思います。

そのような人すべてに、わたしの知っている、慰めに満ちた確かな解決策を教えましょう。それは、世の救い主御自身が与えてくださった明確な教えの中にあります。これについて救い主は、教え導く業を始めたときに語っておられますし、業を終えるときにも話しておられます。信者に対しても、確かな信仰を持っていない人に対しても言われました。個人的な問題がどのようなものであれ、すべての人に向けて、次のように言われたのです。

「すべて重荷を負って苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負って、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。」<sup>2</sup>

この約束の最初の部分にある、「わたしのもとにきなさい」という言葉は非常に大切です。この言葉は、わたしたちが求めている平安と休息を得るための鍵<sup>かぎ</sup>です。しかも、復活された後に救い主は、アメリカ大陸の神殿でニーファイ人たちに向かって、このような言葉で説教を始められました。「わたしのもとに来る心の貧しい人々は、さいわいである。天の王国は彼らのものだからである。」<sup>3</sup>

アンデレとヨハネは、初めてキリストの

話を聞いたときに大きく心を動かされ、群集から離れて歩いて行かれるイエスの後を付いて行きました。だれかが付いて来るのを感じ取られたイエスは振り向き、二人に向かって、「何か願いがいいのか」とお尋ねになりました。二人は、「どこにおとまりなのですか」と尋ねました。するとキリストはこうお答えになりました。「きてごらんなさい。そうしたらわかるだろう。」翌日イエスは、もう一人の弟子となるゼリボに出会い、彼にも、「わたしに従ってきなさい」という簡単な言葉をおかけになりました。<sup>4</sup> 程なくイエスは、ペテロをはじめほかの新たな使徒たちを召されましたが、そのときも同じように「わたしについてきなさい」とお招きになりました。<sup>5</sup>

わたしたちの務めに欠かすことのできないもの、この世での生活の根本にある義務が、この短い言葉に集約されていることは明らかです。地上での務めを果たしておられたとき、救い主は様々な場面での言葉をおっしゃいました。主はわたしたちにごう言っておられるのです。「わたしを信頼して、わたしから学び、わたしが行うように行きなさい。そうすれば、わたしが行くようとしている場所に向かって歩きながら、あなたが行くようとしている場所や、あなたが直面している問題、抱えている悩みについて、ともに話すことができます。わたしに従って来るなら、あなたを暗闇から連れ出しましょう。」そしてこう約束しておられます。「祈りに答えを与えましょう。また、あなたの魂に休みを与えましょう。」

愛する友人の皆さん、思いがけない困難や問題が山積した人生の中で、道を誤らずに安全に生きる方法は、これ以外にありません。重荷を負うことのできる方法や、モルモン書の中でヤコブが述べている「聖徒たちのために用意されているあの幸福」を見いだす方法は、これ以外にありません。<sup>6</sup>

では、どうすればこの変わることのない招きに従って「キリストのもとに来」ることができるのでしょうか。聖文の中には数多くの実例や方法が挙げられています。皆さんはその中の最も基本的なものをよく知っているでしょう。最も簡単に第1に



行う必要があるのは、心から願うことです。これは、わたしたちが知る最も基本的な信仰の形です。アルマは、「たとえ信じようと望みを持つだけでもよい」と言っています。「ごくわずかな信仰でも働かせようと」努め、神の約束「の一部分でも受け入れることができる」ようになれば、第一歩としては十分です。<sup>7</sup>「ごくわずかな」信仰であろうと、ただ信じ続けてください。まだ見てはいないけれども人生で確かに与えられるはずのものを待ち望むのです。<sup>8</sup>この簡単なステップを、主イエス・キリストを中心に据えて行うことこそが、主の永遠の福音の第一原則なのです。この原則は過去も将来も変わることがありません。これこそが、絶望の淵から這い上がる第一歩なのです。

第2に、問題の一部かもしれないことで、自分で変えられることがあれば変えなければなりません。端的に言えば、悔い改めるのです。これはキリスト教関係の用語の中でいちばん希望と勇気を与えてくれる言葉かもしれません。わたしたちは変わることができます。そのことを天の御父に感謝しましょう。変わる力があることをイエスに感謝しましょう。変わることは、結局は御二方の助けがあって初めて可能なのです。もちろん、わたしたちが格闘している問題がすべて、自分が原因で起こるというわけではありません。ほかの人が原因となって起こる問題もあれば、現世では避けて通れない問題もあります。しかし、自分で変えられる部分があれば、変えるべきです。力が及ばない部分については、自分を責めてはなりません。このようにするとき、不完全なわたしたちに、救い主の贖いの効力が確実に及びます。できない部分は主が引き受けてくださるからです。

第3に、あらゆる点で可能なかぎり救い主の特性を身に付けるよう努力することです。これは救い主の御名を受けることに始まります。主の御名は、福音の救いの儀式に含まれる聖約によって正式に与えられます。聖約はバプテスマのときに始まり、神殿での聖約に至ります。そのほかにも、聖餐にあずかることなど、生涯を通じていろいろな場面でわたしたちは聖約を交わします。それぞれの機会に祝福が増し、主を思い起こすことができます。ニーファイは、今朝わたしが話しているメッセージを当時の民に次のように教えました。「十分に固い決意をもって御子に従い、……誠意をもって行動し、……キリストの名を……受け[なさい。]わたしがあなたがたの主であり贖い主である御方の行われることを先見して、これまで語ってきたことを、あなたがたも行いなさい。」<sup>9</sup>

これらの最も基本的な教えに従うようになると、様々な面でキリストとすばらしい関係が築けるようになります。キリストの御心について祈りや断食、瞑想をするようになります。聖文を深く味わい、人々に奉仕するようになります。「弱い者を助け、垂れている手を上げ、弱くなったひざを強め」るようになります。<sup>10</sup>そして何よりも、「キリストの純粋な愛」をもって人々を愛するようになります。この愛は賜物であって「いつまでも絶えることがなく、]すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える」のです。<sup>11</sup>間もなくわたしたちは、そのような愛を抱く人々の生活には、主に至る道がたくさんあることに気づきます。わたしたちが手を伸ばせば、たとえほんの少しであろうと主に求めるならば、主はいつでもわたしたちに手を差し伸べようとしていたことが分かります。ですから、前に進

みましょう。努力し、求め、決してくじけないことです。<sup>12</sup>

今日わたしが願うのは、「心の貧しい人々」だけではなく、すべての人が、救い主の模範を自分で直接実践することです。時々わたしたちは、あまりに遠回りな方法で天に帰ろうとしています。プログラムや歴史、人の経験に振り回されているのです。これらは大切ではありますが、自分自身で経験することや主の真の弟子になること、主の愛のすばらしさを自分で味わうことから生まれる強さに比べたら、さほど重要ではありません。

たばこや麻薬、ギャンブル、または人を滅ぼす現代の疫病であるボルノグラフィーなど、中毒という魔物と闘っている人はいませんか。結婚生活がうまくいっていない人、子供が危険にさらされている人はいないでしょうか。性同一性の問題で悩んでいる人はいませんか。自分に自信が持てなくて困っている人はいませんか。病気やうつ状態、死に直面している人はいないでしょうか。あるいは皆さんの愛する人の中にそのような状況に直面している人はいないでしょうか。こうした悩みにとどのような解決策を取る必要があるにせよ、まず最初に、キリストの福音に照らして考えてください。天との約束を信頼してください。この点に関してアルマの次の証はわたしの証でもあります。「神に頼る者はだれであろうと、試練や災難や苦難の中にあっても支えられ……ということをわたしは知っている……。」<sup>13</sup>

このように神の憐れみ深い属性を信頼することは、キリストが説かれた福音の核となるものです。救い主の贖いはわたしたちから罪の重荷だけではなく、落胆と悲しみの重荷、心痛と絶望をも取り去ってくれることを証します。<sup>14</sup>創世の始めから、神の助けに頼ることは、わたしたちに、より善い人になろうとする理由と、そうなるための方法、そして、罪の重荷を降ろして救いを達成しようとする動機を与えてきました。人生にはたくさんの苦勞が付き物です。しかし、キリストのみもとに来る人、キリストの御声を知っている人、キリストが行われたように行おうと努める人には、英語の賛美

歌にあるように、「自分を越えた」力が与えられるのです。<sup>15</sup> 救い主は「[あなたがたを]わたしの手のひらに彫り刻んだ」ことを忘れてはならないとおっしゃっています。<sup>16</sup> 十字架上での苦しみと贖罪の計り知れない犠牲を思うと、主がわたしたちに背を向けて助けてくださらないはずはないと皆さんに約束できます。心の貧しい人々に向けて言われた「わたしのもとにきなさい」という主の御言葉は、苦しみから人を救い、さらに成長させる方法を主は御存じだということの意味しています。主が救いへの道を御存じなのは、主御自身がそこを歩まれたからであり、主は道そのものだからです。

兄弟、姉妹の皆さん、どのような悩みを持っていようと、どうかあきらめないでください。どうか恐れに屈しないでください。わたしはヒンクレイ大管長の父、ブライアント・S・ヒンクレイ兄弟の話の思い出すといつも胸がいっぱいになります。彼は、息子のゴードンがイギリスへの伝道に旅立つ際に別れの抱擁をした後で、マルコによる福音書の第5章にある次の短い言葉を書いた手書きのメモを渡しました。「恐れることはない。ただ信じなさい。」<sup>17</sup> 主は水の上を歩いて来られたあの夜、恐れる弟子のもとに急いでやって来るとおっしゃいました。「わたしである。恐れることはない。」ペテロは叫びました。「主よ、あなたでしたか。では、わたしに命じて、水の上を渡ってみもとに行かせてください。」キリストは、いつものようにこう答えられました。「おいでなさい。」ペテロはその性分から、即座に舟から飛び出し、荒れ狂う海に足を踏み出しました。主を仰ぎ見ていた間は、風が髪を巻き上げようと、波のしぶきが衣服のすそをぬらそうと、何の問題にもならず、ペテロは主の方へ歩くことができました。信仰が揺らぎ、恐怖にとらわれたのは、主から目を離して荒れ狂う波と足もとの暗黒の淵を見たときです。このときに初めて、ペテロは海に沈み始めました。恐ろしくなったペテロは叫びました。「主よ、お助けください。」

あらゆる問題や恐れを収め、落胆している人すべてに解決策をお与えになる主

は、明らかにやや悲しみを感じて、おぼれかけている弟子に手を伸ばし、その手をしっかりと握ると、優しくたしなめてこうおっしゃいました。「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか。」<sup>18</sup>

孤独を感じたら、慰めが得られることを思い出してください。落胆したら、望みが得られることを思い出してください。心が貧しいならば、力が得られることを思い出してください。もうだめだと感じたら、元どおりになれることを思い出してください。

ナザレには、狭い道がある  
歩く者の足は疲れ、その息は切れる  
通りかかったこの場所には、  
あのナザレの大工が  
かつて住んでいた

砂ぼこりの舞い上がる道を歩き  
村人たちは、しばしば訪ねて行く  
そして彼の傍らの長いすに、  
壊れた物を置く  
彼に直してもらうために

壊してしまった人形を携えた少女  
壊れたいすを持って来た女性  
壊れた鋤やくびきを携えて来た男が言う  
「大工よ、直してもらえませんか。」

そして、すべての人が、  
自分の求めていたものを受け取る  
くびきであれ、鋤であれ、  
いすであれ、人形であれ  
一人一人が携えて来たものは、  
壊れていたのだが  
完全に元どおりに直って返って来るのだ

長い年月、坂を上り続け  
重い足取りと、思い悩んだ目で  
重荷を背負って上り続け  
だれもが悲しげに叫ぶ

「ああ、ナザレの大工よ、  
わたしの心は、壊れてしまい、  
直しようがない  
わたしの人生には救いがなく、  
もう死にそうだ

ああ、大工よ、  
元どおりにできるでしょうか」

すると優しい手が、  
待ち構えていたかのように差し伸べられ  
わたしたちの壊れた人生が、  
愛に満ちた大工の人生に  
織り込まれて溶け合い、  
新たな人生が始まる——こうして、  
「すべてのものは、新たにされた」

「壊れてしまったわたしの心と願い、  
志、望み、そして信仰。  
それらを完全なものとしてください  
ああ、ナザレの大工よ！」<sup>19</sup>

わたしたちすべて、特に心の貧しい人が、  
主のみもとに来て完全な者となれますよう、  
ナザレのイエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

注

1. マタイ5:3
2. マタイ11:28-29
3. 3ニーファイ12:3, 強調付加
4. ヨハネ1:35-39, 43
5. マタイ4:19参照
6. 2ニーファイ9:43参照
7. アルマ32:27参照, 強調付加
8. アルマ32:21参照
9. 2ニーファイ31:13, 17
10. 教義と聖約81:5
11. モロナイ7:47, 46, 45
12. アルフレッド・ロード・テニソン "Ulysses" *The Complete Poetical Works of Tennyson* (1898年), 89参照
13. アルマ36:3
14. アルマ7:11-12参照
15. "Lord, I Would Follow Thee," Hymns, 220番
16. 1ニーファイ21:16
17. マルコ5:36
18. マタイ14:27-31, 強調付加
19. ジョージ・ブレアー "The Carpenter of Nazareth," オバート・C・タナー, *Christ's Ideals for Living* (日曜学校手引き, 1955年), 22

# 偉大な幸福の計画

七十人会長会

アール・C・ティンギー

神は無限の贖罪しよくざいを通じ、罪に打ち勝ち再び完全に清くなる方法を備えてくださいました。



**預**言者ヤコブはこう尋ねました。「キリストの贖罪について語るのに、また……キリストについて完全な知識を得るのに、何の差し支えがあるだろうか。」<sup>1</sup>

わたしは贖罪について話します。イエス・キリストの贖罪について語るのに、何の差し支えがあるでしょうか。

アルマは贖罪を「偉大な幸福の計画」と呼んでいます。<sup>2</sup> わたしはこの言葉を、イエス・キリストの贖罪として知られる美しい教義を述べるのに使いたいと思います。

ヒュー・B・ブラウン副管長はかつて次のように宣言しました。「人は皆、遅かれ早かれ、人生の浮き沈みを通じて、魂の不滅や人間と神との関係などの重要な事柄を理解するようになります。また人種や信条、国籍を問わず、いわゆる死を経験するのです。」<sup>3</sup>

たいていの人が、悲しみと喪失感をもつ

て愛する人の墓前に恭しく立ち、次のように問いかけたことがあるでしょう。「死んだ後にも幸福はあるのだろうか」と。

モルモン書のある預言者がこの問いに答え、イエス・キリストの贖罪により死から贖われる感謝を、喜びをもって表現しています。「おお、神の知恵、神の憐れみと思ひよ。……おお、わたしたちの神の偉大で公正なことよ。」<sup>4</sup>

今日は偉大な幸福の計画について5つの真理を話します。この真理によってわたしはこの預言者と同じ喜びを感じてきました。

第1に、この計画を知ることで、神とその御子イエス・キリストが確かにいらっしゃるかと分かります。御父と御子は完全な御方で、天に住み、霊と骨肉から成る、栄光を受けた肉体をお持ちになっています。

この真理が現在の神権時代に啓示されたのは、少年ジョセフ・スミスがひざまずいて謙遜な祈りをささげたときでした。ジョセフは後にこう語りました。「わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がわたしの上の空中に立っておられるのを見た。すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた。」<sup>5</sup>

第2に、御父と御子がどのような御方かを知ると、わたしたちが地上にいるのは、肉体を受け、経験を得て、天の御父のもとに帰るふさわしさを証明するためであることが分かります。現世の生涯は律法により治められています。律法に背けば罪を犯し、罪を犯せば永遠の律法を破ること

になり、正義の律法による罰か代価が要求されます。

罪とそれに対する悔い改めの必要性は、ある旅人の話にたとえられます。その旅人は大きな空の袋を背負い、時折石を拾います。この石は律法への背きを表しています。旅人は石を背中の袋に入れながら進みます。やがて袋はいっぱいになり、重くて旅が続けられなくなります。何としても石を捨て袋を空にする方法が必要です。けれどもそれは、救い主というただ御一方の贖罪がなければできないことです。イエス・キリストを信じる信仰を働かせ、罪を捨て、福音の儀式を通して聖約を交わすときに、可能になるものなのです。最後まで忠実に堪え忍ぶなら、天の御父と御子イエス・キリストのみもとに帰り、御二方とともに住むことができます。

第3に、神は無限の贖罪を通じ、罪に打ち勝ち再び完全に清くなる方法を備えてくださいました。それができたのは、永遠の憐れみの律法のおかげです。憐れみが正義の要求を満たすには、人が悔い改め、贖罪の力が及ばなければなりません。贖罪の力と完全な悔い改めがなければ、正義の律法に従うほかありません。

アルマは「憐れみは悔い改める者について権利を主張」し、<sup>6</sup> 「贖いの計画は……人々が悔い改めるといふ条件がなければ成し遂げられない」<sup>7</sup> と教えています。

偉大な預言者アミュレクは語りました。「このように、憐れみは正義の要求を満たし、これらの人々を腕に包み込んで保護する。一方、悔い改めを生じる信仰を少しも働かせない人は、正義を要求するすべての律法に答えなければならない。したがって、偉大な永遠の贖いの計画は、悔い改めを生じる信仰のある人のためにだけ備えられている。」<sup>8</sup>

始祖アダムとエバは、律法に背いたために美しいエデンの園を追放されました。二人はこの世で幸福を得るために、偉大な救いの計画についての教えを受けました。<sup>9</sup>

アダムは言いました。「わたしの背きのゆえに、わたしの目は開かれた。わたしはこの世で喜びを受け、再び肉体にあって

神にまみえるであろう。」<sup>10</sup>

エバも喜んで同じように言いました。「わたしたちの背きがなかったならば、わたしたちは決して子孫を持つことはなく、また善悪も、贖いの喜びも……決して知ることはなかったでしょう。」<sup>11</sup>

第4に、アダムとエバの墮落は二つの死をもたらしました。わたしたちはこの二つの死を受けます。

肉体の死とは霊が肉体から離れることです。アダムの墮落の結果、すべての人は肉体の死を受けることになりました。

第2の死は霊的なもので、神のみもとから離されることです。アダムとエバはエデンの園で神と自由に言葉を交わしていましたが、背いた結果、この特権を失いました。以来、人が信仰を表して犠牲を払い、心から嘆願するときのみ、神は語られるようになりました。

今日わたしたちは皆、霊的に死んだ状態、つまり神から離れた状態にあります。神は天に住んでおられます。わたしたちは地上に住み、神のみもとに戻りたいと望んでいます。神は清く完全です。しかしわたしたちは汚れていて不完全です。

キリストの贖罪の力はこの二つの死に打ち勝ちました。

十字架上で亡くなり、借りた墓に葬られた後、キリストは3日目に復活されました。復活によってキリストの体と霊は再び一つとなったのです。

死からの復活は贖罪の最も美しい側面であり、幸福の計画に不可欠な要素です。復活は普遍的なものであり、全人類に及びます。人は皆復活します。わたしはこれが事実であり真理であることを証します。復活は神から無条件に与えられる賜物なのです。

しかし復活は第2の死に打ち勝つものではありません。永遠の命を得て御父と御子のみもとに住むためには、悔い改めて憐れみを受けられる者となり、正義を満たさなければなりません。

啓示ではこのように教えられています。

「現世は人が神にお会いする用意をする時期である。」<sup>12</sup>

「悔い改めの日を引き延ばし」してはなら



ない。<sup>13</sup>

「現世を去るときにあなたがたの肉体を所有しているその同じ霊が、あの永遠の世で、あなたがたの肉体を所有する力を持つからである。」<sup>14</sup>

第5に、イエス・キリストはこの世における母であるマリヤからお生まれになりました。イエスはマリヤから肉体を受け、死に支配される者になられました。

ヨセフはイエスのこの世での教師であり、天の御父こそがイエスの父親でした。そして主は御父から不死不滅、すなわち肉体の死に打ち勝つ力を受け継がれたのです。

贖罪の要求を満たすために選ばれた者として、イエス・キリストは自らを低くして地上に来て、無力な赤子としてマリヤのもとにお生まれになりました。イエスは避ける力も権威もお持ちであったにもかかわらず、自らを低くして誘惑や試しを受け、あざけられ、裁かれ、十字架につけられたのです。

ジョン・テラー大管長はキリストが自らを低くされたことを次のような美しい言葉で描写しています。「人を万物の上に引き上げるためには、主が万物の下に身を落

とされることが必要でした。なぜなら、もし、贖罪によって成し遂げられた原則に従って、主が御自身を引き上げて昇栄を得ることができないのであれば、他人を引き上げることはおできにならないからです。御自身のためにできないことを、人のために行うことはおできにならないのです。」<sup>15</sup>

ゲツセマネの園におけるキリストの苦しみは、キリストの最も高貴な属性である主の完全な愛の縮図です。ここに、すべての人に対する主のまことの愛を見ることができます。

あるイギリスの神学者は19世紀に、園で起こったことについてこう書いています。「人の肉体が経験するあらゆる苦しみが、おののく主の体へのしかりました。……最も激しい苦痛、堪え難いほどの蛮行による屈辱、……罪のあらゆる重荷、……主はこれらのものに耐えられなければならなかったのです。」<sup>16</sup>

その苦しみについて、主は現代の啓示の中で次のように言っておられます。「その苦しみは、神であって、しかもすべての中で最も大なる者であるわたし自身が、苦痛のためにおののき、あらゆる毛穴から

血を流し、体と霊の両方に苦しみを受けたほどのものであった。」<sup>17</sup>

贖罪のおかげでわたしたちは神と和解することができます。「贖罪」を意味する英語“atonement”すなわち“at-one-ment”という言葉は「元に戻す」または「回復する」という意味です。家族に置き換えるならば、神と御子イエス・キリストとともに、そして家族が互いに再び一つになることです。つまり、別れによる悲しみが、再会による幸福に代わるのです。

最後にボイド・K・パッカー長老の言葉を引用します。

「皆さんが偉大な幸福の計画を理解して実践するなら、皆さんの幸せは、世の中で起きることに左右されません。」<sup>18</sup>

それが真実であることを証します。そして、すべての人に備えてくださった贖罪と偉大な幸福の計画は、主なる救い主イエス・キリストの愛の表れであることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. モルモン書ヤコブ4:12
2. アルマ42:8。2ニーファイ9:13;アルマ12:32;34:9, 16;41:2;42:15;モーセ6:62も参照
3. Conference Report, 1967年4月, 48:段落修正
4. 2ニーファイ9:8, 17
5. ジョセフ・スミス―歴史1:17
6. アルマ42:23
7. アルマ42:13
8. アルマ34:16
9. アルマ12:32参照
10. モーセ5:10
11. モーセ5:11
12. アルマ34:32
13. アルマ34:33
14. アルマ34:34
15. *The Mediation and Atonement* (1882年), 144
16. フレデリック・W・ファーラー, *The Life of Christ* (1994年), 575
17. 教義と聖約19:18
18. 「父親と家族」「聖徒の道」1994年7月号, 22参照

# 成長して主の役に立つ

中央扶助協会第二副会長  
アン・C・ピングリー

**「成長して主の役に立つ」ことを心から望む人々には、困難な状況にあっても人のためにひたむきに奉仕を行うように求められています。**



**数** か月前、わたしは二人の勇敢な年輩の姉妹宣教師と一緒に車に乗っていました。二人はアメリカ東部の大都市の中心地で、ワードの会員の住むアパートを探そうと固く心に決めていました。後部座席で固唾<sup>かたず</sup>を飲んでいたわたしの耳に、「逆方向です、逆方向です」というカーナビゲーションの声が何度も聞こえてきました。地図を見ていた宣教師はひるみもせず、街の込み入った道路を右へ左へと誘導し、ついに、読み書きを教えると約束した姉妹の家へたどり着くことができました。

このすばらしい姉妹たちの行動と態度には、長年の人生経験にも勝る大きな力が満ちあふれていました。真の成熟した霊性を、身をもって示したのです。

モルモン書の偉大な預言者ヒラマンは、息子を先祖の名にちなんでニーファイとリーハイと名付けました。「二人は成長して主

の役に立つように」になりました。<sup>1</sup> わたしたちも皆、年齢に関係なく同じようにならなくてはなりません。

成長して主の役に立つというのは、人を突き動かさずにはおかない力強い思いのことです。肉体的に成長する過程とは異なり、霊的に成長するには、使徒パウロが述べたように、「幼な子らしいことを捨て」<sup>2</sup>る選択をしなければなりません。

日々の祈りと聖文の研究、また忠実に戒めを守り、バプテスマのときと神殿で交わした聖約を守ることは、成長して主の役に立つための根本です。わたしたちは天の御父に近づけることを行い、子供たちやほかの人にも同じことをするように教えるときに、主の道を歩むことを学びます。キリストのようになり、主に望まれている奉仕を行うことを選ぶときに、わたしたちは「幼な子らしいことを捨て」<sup>3</sup>るのです。

現在の神権時代に教会が組織されたとき、「バプテスマによってキリストの教会に受け入れられる」人は、「最後までイエス・キリストに仕える決心をして進んでイエス・キリストの名を受ける」<sup>4</sup>人でもあると、主は説明されました。それはすなわち、生活の中で毎日「確固として揺らぐことなく、いつも多くの善い行いをし」<sup>4</sup>続けることです。教会が世界の170か国で発展する<sup>こんにち</sup>今日、「成長して主の役に立つ」ことを心から望む人々には、困難な状況にあっても人のためにひたむきに奉仕を行うように求められています。これほど教会が発展するということは、とりもなおさず、わたしたちの多くが新しく教会に加入する人に奉仕する機会があるということなのです。

冒頭で話した熱心な姉妹宣教師たちに同伴したときに見た模範は、忘れられるものではありません。二人は、福音を受け入れたばかりの人に固い決意をもって奉仕していました。宣教師の一人は夫を亡くした80歳になる姉妹で、もう一人は自分だけで子供を育てた60代の姉妹でした。二人は道を間違えても断固として進み続けたのです。このワードではほかにも模範を見ました。

このワードの会員は年齢層や国籍が様々で、経済状況や教会での経験もまちまちです。教会での経験が最も豊かな人はほとんど、大学院で研究する忙しい夫婦や幼い子供のいる家族でした。

そのような中で目に入ってきたのは、ワードで改宗したばかりの新しい会員に訪問教師の責任を果たすことについて教えている若い母親でした。ご主人が赤ちゃんの世話をし、その間に二人のアフリカ人の姉妹に熱心に愛情のこもった世話をしていました。新しい国での生活だけでなく、新しい宗教にもなじめるように二人の姉妹を教えていたのです。

この姉妹は、お互いに奉仕し合うように主から望まれていることを、模範によってアフリカ人の姉妹たちに教えました。この姉妹が新会員に訪問教師について教える様子は、使徒パウロが優しく描写した次の言葉を実践するものでした。「[わたしたちは]あなたがたの間で……やさしくふるまった。……あなたがたを慕わしく思っていたので、ただ神の福音ばかりではなく、自分のいのちまでもあなたがたと与えたいと願ったほどに、あなたがたを愛したのである。』<sup>5</sup> 訪問教師について教えていた若い姉妹は、訪問の度に明るく励ましと優しく助ける手をもって、家庭訪問メッセージを携えて訪れたのです。

やがてこの3人は、訪問先の姉妹に伝える家庭訪問メッセージを一緒に準備するようになりました。訪問の度に必要を見定め、即座に奉仕の手を差し伸べることで、全力を尽くして互いに高め、慰め、励まし合う、真の扶助協会の姉妹になったのです。わたしは「互いに和合し、愛し合って結ばれた心」<sup>6</sup> という言葉を聞くときには必



ず、この3人の幸福で愛情に満ちた女性を思い浮かべることでしよう。彼女たちは揺るぎない奉仕を通して「成長して主の役に立つ」という言葉の意味を実践していたのです。

確固とした熱心な奉仕のほかに、成長して主の役に立つためにわたしたちが選ぶもう一つの方法があります。どうすればよいか分からないときにも、**信仰**をもって「力強く進[む]」<sup>7</sup> 積極的な意志です。船を造るように命じられたニーファイの話を考えてみてください。ニーファイはそのときの状況をこのように語っています。

「そこで主は、わたしに言われた。『わたしがこれから示す方法に従って、<sup>8</sup>一隻の

船を造りなさい。』……

それでわたしは、『主よ……道具を造るには、どこへ行ってあらがねを見つけたらよろしいでしょうか』と言った。<sup>8</sup>

ニーファイは行うべき務めに疑問を持つことはありませんでした。むしろ、このような状況にあっても、ほかのときと同じように、成熟した霊的な洞察力を示しました。「このように、神の命令は必ず成し遂げなければならないことが分かる。もし人の子らが神の戒めを守るならば、神は彼らを養い、強くし、また御自分が命じられたことを成し遂げる手段を与えられる。……」<sup>9</sup> つまり、ニーファイは障害物を見るよりも、むしろ解決策を探し求めたのです。なぜな



ら、成長して主の役に立つ過程にあって、与えられたすべての戒めを守れるように助けてくださる力と意志が神にはあると、ニーファイははっきり知っていたからです。

あのとき大都市の中心にあるワードで、優しく愛に満ちた世話をする監督に同じような信仰があるのに気づきました。監督は、ますます増え続ける新会員の途方もない必要に圧倒されて、無駄な時間を使うことはありませんでした。それどころか監督は力強く前進し続け、アフリカや中南米から来た新しい会員が神権者として責任を果たす備えができるように、もっと経験のあるアロン神権定員会やメルキゼデク神権定員会の会員たちを奮い立たせたのです。改宗したばかりの兄弟たちは、聖餐を配る方法や、ひざまずいて敬虔にパンと水を祝福する方法を教わりました。年齢が若くても経験のある兄弟たちが一緒に聖餐の祈りの言葉を練習し、自信をもって行えるまで助けてくれました。そして、この大切な神権の儀式の持つ神聖さについて、兄弟たちは全員で一緒に話し合いました。

わたしたちには皆、人に奉仕する決意

と、信仰をもって力強く進む積極的な意志とを示さなくてはならなかった経験があります。夫から電話があり、わたしたちの伝道地が変更になり、アフリカでとてもやりがいのある割り当てを果たすことになったと知らせを受けたとき、わたしはこう返事しました。「大丈夫よ。わたしにはできると思うわ。」このときもわたしは主が助けてくださることを信頼して、信仰をもって前進する決意を言葉で示しました。「成長して主の役に立つ」積極的な意志を示したのです。

あの忠実な監督や熱心な姉妹たち、それにわたしが証明したように、成長して主の役に立つというこの前進し続ける過程にあっては、できることはすべて、時には行う方法が分からないことでさえ、行うように求められます。試しはあまりにも大きく、進むべき道が見えないときもあります。しかし、間違った方向へ行くようなことがあったとしても、真にキリストのようになろうと努める人たちは、確固とした決意をもって奉仕し、積極的な意志を示して信仰をもって力強く進み、この偉大で霊的な真

理を証できるのです。その証は、ニーファイが船を造り続けたときにしたのと同じ証なのです。「わたし……は……度々主に祈った。それで、主はわたしに大いなることを示してくださいました。」<sup>10</sup>「大いなること」を示されるのは何という賜物であり祝福でしょうか。それは「成長して主の役に立つ」ことを選んだ人に与えられるものなのです。わたしたちの生活が優しい愛と、成熟した揺るぎない霊性に満ちたものとなりますよう、へりくだり、イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。

注

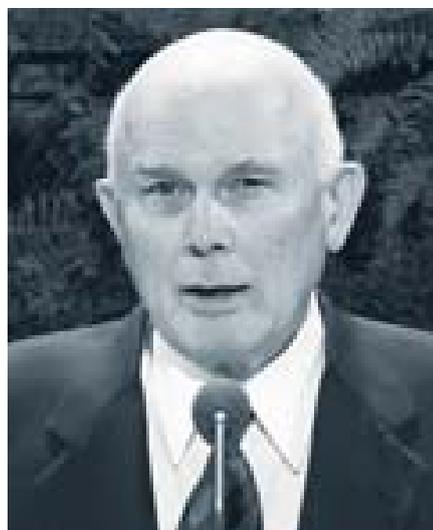
1. ヒラマン3:21
2. 1コリント13:11
3. 教義と聖約20:37
4. モーサヤ5:15
5. 1テサロニケ2:7-8, 強調付加
6. モーサヤ18:21
7. 2ニーファイ31:20, 強調付加
8. 1ニーファイ17:8-9
9. 1ニーファイ17:3
10. 1ニーファイ18:3

# どこにいる人でも すべての人に

十二使徒定員会

ダリン・H・オークス

**モルモン書は、イエス・キリストの福音がその約束と効力において普遍であることを繰り返し教えています。**



昨年、預言者の勧めに従って、実に多くの人々がモルモン書を読み、益を受けました。各自に従順の祝福が与えられ、大部分の人々はこの書物が証する主イエス・キリストについて知識と証を増し加えました。

わたしたちは、ほかにも多くの事柄を学びましたが、何を学んだかは読み手によって異なりました。1冊の書物から、とりわけ神聖な書物から何を学ぶかは、読む前にどのような備えができていてからで違ってきます。学ぶ意欲、学ぶ姿勢、そして主の御霊から受ける光にどれほど心を開いているかです。

I.

今回モルモン書を読んでわたしが学ん

だことの一つは、神があらゆる国々に住む御自身の子供たちをどれほど愛しておられるかということです。モルモン書の最初の章で父リーハイは、主の「力と慈しみと憐れみは地に住むすべての者に及んでい[る]」と主をほめたたえました(1ニーファイ1:14)。モルモン書は、イエス・キリストの福音がその約束と効力において普遍であり、地上に住む万民に及ぶことを繰り返し教えています。幾つかの例をそのまま引用しましょう。

- 贖罪は「アダムの墮落以来この世に住んだ、……あるいは世の終わりまでに住む全人類のために、世の初めから備えられていた(モーサヤ4:7)。
- 「そして、イエス・キリストにより人にもたらされた贖いのおかげで、……すべての人[が]贖われる。」(モルモン9:13)
- 「神はすべての人……まことに男、女、子供の区別なく、……すべての苦痛を受けられる。神がこれを受けられるのは、復活がすべての人に及[ぶ]ためである。」(2ニーファイ9:21-22)
- 「主がだれかに、主の救いにあずかってはならないと命じられたことがあるだろうか。……そのようなことはない。むしろ主は、すべての人に救いを無料で授けてこられた。そして、……すべての人に、ほかの人と同様の者となる特権が与えられており、それを禁じられる者はだれ一人いない。」(2ニーファイ26:27-28)

モルモン書にはまた、「この御方の血は、……自分たちに関する神の御心<sup>みこころ</sup>を知らずに死んだ者たち、あるいは気づかないで罪を犯した者たちの罪も贖う」と記されています(モーサヤ3:11)。同様に、「キリストの血は[幼い子供たち]の罪を贖う」のです(モーサヤ3:16)。贖罪を通して得られる復活と清めの力が全人類に及ぶというこの教えは、神の恵みが選ばれた少数の人々だけを救うという主張をきっぱり否定します。神の恵みはすべての人に与えられるものです。モルモン書のこれらの教えは視野を広げ、すべてを包み込む神の愛と、どこにいる人でもすべての人のために行われた、贖罪の普遍的効力に対する理解を深めてくれます。

II.

モルモン書は救い主について次のように教えています。「主は、御自分のもとに来て主の慈しみにあずかるように、すべての人を招かれる。したがって主は、黒人も白人も、束縛された者も自由な者も、男も女も、主のもとに来る者を決して拒まれない。主は異教徒さえも心にかけてくれる。ユダヤ人も異邦人も、すべての人が神にとって等しい存在なのである。」(2ニーファイ26:33。アルマ5:49も参照)

「主は……すべての人を招かれ[ます。]」「男も女も」です。また、「黒人も白人も」、すなわちすべての人種を招かれます。しかし、「束縛された者も自由な者も」とはどのような意味でしょうか。「自由」の対義語である「束縛」とは、単なる隷属以上の意味があります。それは逃げるのが難しい何かに縛りつけられているという意味であり、心身の苦悩によって自由を制限されている人を含みます。また、何らかの物質または行為を常習する人も含みます。もちろん、罪に縛られている人々、すなわちモルモン書の別の聖句で「地獄の鎖」と呼ばれるものに「縛られ」ている人々も指します(アルマ5:7)。また、神の戒めに反する伝統や習慣に抑えつけられている人々も含みます(マタイ15:3-6;マルコ7:7-9;教義と聖約74:4-7;93:39参照)。そして最後に、「束縛された者」はそのほかの間違った考



えから抜け出せない人々を含みます。預言者ジョセフ・スミスは「束縛されている者を自由にする」<sup>1</sup> ために宣べ伝えると教えました。救い主は「御自分のもとに来て主の慈しみにあずかるように、すべての人を招かれ」、「主のもとに来る者を決して拒まれ」ません。「すべての人が神にとって等しい存在」なのです。

### III.

どの国に住む神の子供たちも、主が彼らに御姿を現されるといふ主の約束をえています。モルモン書にはこうあります。

「イエスは御自分を信じるすべての人、まことにあらゆる国民、部族、国語の民、民族に聖霊の力によって御自身を現され、人の子らの中で、彼らの信仰に応じて大きな奇跡としるしと不思議を行われる。」(2ニーファイ26:13)

主の現れが「あらゆる国民、部族、国語の民、民族」に約束されている点に着目してください。今日、教会の宣教師たちが働くことを許されているすべての国で、わたしたちはその約束が成就するのを目の当たりにしています。以前はキリスト教にゆ

かりのなかった民族の間でも成就しているのです。

例えば、神を否定する共産主義の手から解放されたばかりのロシアで、主が男女に御自身を現されている例が数多くあります。ある二人のロシア人男性は、それぞれが違うときにモルモンを批判または嘲笑する記事を読み、この教会の集会所を探した方がよいという強い気持ちを抱きました。彼らは二人とも宣教師に会って教会に加入しました。<sup>2</sup>

ナイジェリアの村で働く医師は、仲の良い友人が会衆の前で話をする夢を見ました。不思議に思ったこの男性は、日曜日にその友人が住む村を訪れ驚きました。夢で見たのとまったく同じ光景があったからです。友人がワードと呼ばれる会衆を監督として教えていました。この男性は何度も訪問する中で聞いた教えに感銘を受け、伴侶とともに福音を学び、バプテスマを受けました。2か月後、同じ村に住む30人も教会に加入し、この男性の診療所が集会所となりました。

わたしが出会ったインド北部出身の男性は、靴屋にかけてあるカレンダーを見る

までイエス・キリストという名すら知りませんでした。彼は御霊に導かれ、あるプロテスタントの教会に加わりました。そして後に、遠い学生街を訪れたとき、「BYUヤングアンバサダーズ」というアメリカ人グループの舞台広告を見たのです。公演の最中、「プログラム終了後にロビーに行けば、青いブレザーを着た男性がどうすべきかを教えてくれる」という声が心に聞こえました。彼はこうしてモルモン書を手に入れ、それを読み、回復された福音に帰依しました。その後、彼は宣教師や監督として奉仕しました。

タイに住むある少女は、愛にあふれる天の御父の面影をずっと心の中に秘めていました。成人するまで、彼女は心の中で度々御父に祈り、相談しました。そして20代の初めに教会の宣教師に出会ったとき、彼らの教えを通して、幼いころから抱いてきた神に対する愛に満ちた思いを確かなものとなりました。彼女はバプテスマを受け、タイで専任宣教師として奉仕しました。

カンボジアでは全人口のわずか5パーセントしかクリスチャンがいません。カンボジアに住むある家族は真理を探し求めて

いました。ある日、11歳の息子が自転車に乗っていると、ワイシャツを着てネクタイを締めた数人の男性がある人に絵を見せながら、それがだれであるかを質問しているのを見ました。息子は止まるべきだと感じました。その光景を見ていると、こう言うように促されました。「その人はイエス・キリスト、神の御子で、人を救うために来られました。」そして自転車で行ったのです。宣教師たちが彼と家族を見つけるまでに1か月かかりました。今日、父親は伝道部の副部長をしています。

去年の6月、ある5人家族がモンゴルに新しく建てられた礼拝堂のオープンハウスに訪れました。父親は建物に入ると強い力が体中を走り、かつて経験したことのない安らぎを感じました。そして涙があふれてきました。父親は宣教師たちに、そのすばらしい気持ちは何なのか、どうすればまた感じられるかを尋ねました。程なくその家族は全員バプテスマを受けました。<sup>3</sup>

これはほんの一例であり、もっと多くの人が福音を見いだしています。

#### IV.

モルモン書はまた、主は「すべての人が大いなる創造主に従うようになるために……すべての人のために」亡くなられたと教えています(2ニーファイ9:5)。救い主に従うとは、主の贖罪を通して罪を赦されるために、信仰、悔い改め、バプテスマを含め、主が指定された条件を満たさなければならぬということです。これらの条件を満たせるかどうかは、わたしたちの願望、選択、行動にかかっています。「神は、神の声に聞き従うすべての人を救うために、この世に来られる」のです(2ニーファイ9:21)。

主は御自分のすべての子供たちのために道を備え、わたしたちがみもとに来ることを望んでおられます。モルモン書の最後の章でモロナイはこう懇願します。

「キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい。神の御心に添わないものをすべて拒みなさい。もしあなたがたが神の御心に添わないものをすべて拒み、勢力と思いと力を尽くして神を愛する



ならば、神の恵みはあなたがたに十分であり、あなたがたは神の恵みにより、キリストによって完全になることができる。」(モロナイ10:32)

#### V.

聖書には、神がアブラハムと聖約を交わし、アブラハムを通して地のすべての「やから」すなわち「国民」が祝福されると約束されたことが記されています(創世12:3; 22:18参照)。いわゆるアブラハムの聖約は、あらゆる地にいる神のすべての子供たちに、神のえり抜き祝福を授けるための扉を開きます。聖書にはこう記されています。「もしキリストのものであるなら、あなたがたはアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのである。」(ガラテヤ3:29。アブラハム2:10も参照)モルモン書には、「悔い改めて……御子を信じる」という主の招きを受け入れて実践するすべての人は、「主の聖約の民」となると約束されています(2ニーファイ30:2)。これは富も、血統も、そのほかの生特権も、わたしたちが「自分はほかの者よりも優れている」(アルマ5:54。モルモン書ヤコブ3:9も参照)と思ひ込む理由になつてはならないことを改めて強調しています。実に、モルモン書ではこう戒められています。「あなたがたは、ある人をほかの人よりも優れていると思つてはならない。すなわち、人は自分自身を

ほかの人よりも優れていると考えてはならない。」(モーサヤ23:7)

聖書は、アブラハムの子孫の中に、「地のもろもろの国」に、「もろもろの民」に、そして「地のこのはてから、かのはてまで」(申命28:25, 37, 64節)散らされる者が出ると教えています。モルモン書は、アブラハムの子孫が「地の全面に、またすべての国民の中に散らされる」と宣言して(1ニーファイ22:3)、聖書の教えを確かなものとしています。

モルモン書は、地上における救い主の務めが、散らされた主のすべての羊の群れに及んだことを教えてくれます。今日、中東と呼ばれる地域における主の業に加えて、モルモン書にはアメリカ大陸のニーファイ人に主が御姿を現されたこと、およびそのときに授けられた教えが記録されています(3ニーファイ11-28章参照)。そこで主は、御父がエルサレムの地にいない他の羊を訪れるように命じられたことを再び語られました(3ニーファイ16:1; ヨハネ10:16参照)。また、「まだ〔主〕の声を聞いたことがない」(3ニーファイ16:2-3参照)ほかの人々を訪れるとも言われました。数世紀前に預言されていたとおり(2ニーファイ29:12参照)、救い主はアメリカ大陸の弟子たちにこうおっしゃいました。「わたしは……イスラエルの行方の知れない部族にもわたし自身を現そう。彼らは父にとっては行方知れずではない。父は彼らを導いた先を御存じだからである。」(3ニーファイ17:4)

モルモン書は、主があらゆる国家の人々を愛しておられることの重要な証です。モルモン書は「この御方が、すべての国民……に御姿を現される」と宣言しています(1ニーファイ13:42)。「あなたがたは、国民は数多くあることを知らないのか。」主は預言者ニーファイを通してそうおっしゃいました。

「主であり、あなたがたの神であるわたしがすべての人を造ったこと、またわたしが海の島々にいる者たちを覚えていることを知らないのか。またわたしが上は天で治め、下は地で治めていること、そしてわたしの言葉を人の子ら、すなわち地のす



すべての国民にもたらすことを知らないのか。」(2ニーファイ29:7)

同様に、預言者アルマはこう教えました。「主はすべての国民に、その国民を使い、その国民の言葉を使って主の御言葉を教えることを許されるからである。まことに、主は賢明にも、御自分が彼らにとってふさわしいと思われるすべての事柄を教えることを許される。」(アルマ29:8)

## VI.

主はあらゆる国民に御自身を現されるだけでなく、その国民に御言葉を書き記すようにも命じられます。

「あなたがたは、……二つの国民の証が、わたしが神であることと、一つの国民をも

う一つの国民と同じように覚えていること、あなたがたへの証拠となることを知らないのか。わたしは一つの国民に語るのと同じ言葉を別の国民にも語る。……

わたしは、……すべての者に、わたしの語る言葉を書き記すように命じるからである。……

見よ、わたしがユダヤ人に語れば、彼らはそれを書き記し、ニーファイ人に語れば、彼らはそれを書き記す。また、わたしが連れ出したイスラエルの家のほかの部族に語れば、彼らもそれを書き記す。さらにわたしが地のすべての国民に語れば、彼らはそれを書き記す。」(2ニーファイ29:8, 11-12。1ニーファイ13:38-39も参照)

モルモン書はさらに、これらの国民はそ

れぞれが記録した御言葉を得ると教えています(2ニーファイ29:13参照)。

主は最終的に、様々な国で御自身の子供たちに授けてきた靈感による教えを、全人類の益のために世に現されるでしょう。その中には、復活された主がいわゆるイスラエルの行方の知れない部族に御姿を現された出来事や、アブラハムのすべての子孫にあてられた啓示も含まれるでしょう。死海写本の発見はこれが実現する一つの方法を示しています。

新しい書物が出現するときには——預言によれば出現するのですが——すでに聖書があるという理由で一部の人がモルモン書に対して見せたような拒絶をされないように願っています(2ニーファイ29:3-10参照)。「したがってわたしが一言語ったので、もう一言も語れないと思っはならない。わたしの業はまだ終わっていないからである。わたしの業は人の存在が尽きるまで終わらない……。」(2ニーファイ29:9)

福音は実にどこにいる人でもすべての人、すべての国家、すべての国民のためのものです。だれもが招かれています。

わたしたちは、天から義が下り、地から真理が出てくると預言された時代に生きています。そして義と真理は「洪水のごとくに地を満たし」、「地の四方から」(モーセ7:62)選民を集めるのです。モルモン書は主の聖約をわたしたちに思い起こさせ、「イエスがキリストであり、永遠の神であり、すべての国民に御自身を現されることを」全人類に確信させるために世に現されました(モルモン書、タイトルページ)。主と主の使命に対するこの証を付け加えます。イエス・キリストの御名により、アーメン。

## 注

1. *History of the Church*, 第2巻, 229
2. ゲーリー・ブラウニング, *Russia and the Restored Gospel* (1997年) 200-201, 220-221参照
3. ナイジェリア, タイ, カンボジア, モンゴルの例は、それぞれの国で奉仕した伝道部長から聞いたものである

# 「神の王国を求めなさい」

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

この業が神の神聖な業であるという証を、この安息日にわたしが述べ、皆さんが聞いたということを、記憶にとどめていただきますように。



**愛**する兄弟姉妹、わたしのために祈ってください感謝します。今わたしは、皆さんが信仰を固く保つことができるようにお祈りしています。

わたしぐらいの年齢になると、人は時折立ち止まり、何が自分をここまで導いてきたのかを考えるようになります。

今日は、皆さんの時間を頂いて、個人的な事柄についてお話ししたいと思います。なぜなら、教会の大管長の人生は教会全体に属するものだからです。大管長にはプライバシーはほとんどなく、秘密もありません。わたしが思うには、今朝のわたしの話は、皆さんが過去に教会の総大会で耳にした、どの話とも異なるものとなるでしょう。

わたしは今、人生の晩年に差しかかっています。人は皆、完全に主の御手に抱かれています。多くの人が御存じのように、わたしは最近大きな手術を受けました。95

年の人生の中で、入院したのは初めてのことでした。そのような経験はだれにもお勧めしません。医師たちは少し後遺症が残るだろうと言いました。

わたしは間もなく96回目の誕生日を迎えます。この機会に、主が豊かに注いでくださった、驚くべき祝福に対する感謝を述べたいと思います。

わたしたちはだれもが人生で選択に迫られます。富と繁栄へといざなう魅力的な機会もあれば、そうでないものもあります。その場では気づかないこともありますが、主は陰ながらにわたしの選択を見守り、導いてくださっていました。

詩人ロバート・フロストは、「人の行かぬ道」(The Road Not Taken)という詩の最後をこのように締めくくっています。

森の中、道が二手に分かれていた。

そしてわたしは……

わたしはあまり

人が通っていなさそうな道を進んだ

そしてそれが、

大きな違いを生んだのだ

(The Poetry of Robert Frost,

エドワード・コネリー・レーセム編

[1969年], 105)

次のような主の御言葉を思い出します。「御国を求めなさい。そうすれば、これらのものは添えて与えられるであろう。」(ルカ12:31)

わたしが中央幹部として初めて支持を受けたのは、48年前のこの4月の総大会のときでした。あれ以来、教会のすべての

総大会で話をしてきました。説教の数は優に200を超えます。いろいろなテーマを採り上げてきましたが、すべての話の根底に共通して流れるのは、この偉大な末日の業に対する強い証です。

物事は常に移りゆくものです。67年間連れ添った、愛する伴侶は2年前に他界しました。その寂しさは何とも表現のしようがありません。彼女はほんとうにすばらしい女性でした。3分の2世紀以上、互いにこの上ない連れ合いとして、ともに寄り添って歩いてきました。人生を振り返ると、大きな喜びと畏敬の念に満たされます。結婚を含め、わたしの人生で起きたすべての良いことは、教会での営みのおかげです。

先日の晩、これまでわたしを表彰してくださった団体や組織の未完成のリストを見ていました。教会でのわたしの働きを評価してくださったのです。たくさんの方々の合衆国大統領が、大管長会の執務室を訪れてくださいました。わたしの執務室の壁には、ロナルド・レーガン大統領にモルモン書をお渡ししたときの写真がかかっています。本棚には、ブッシュ大統領から頂いた自由勲章が飾ってあります。ホワイトハウスには何度も足を運びました。また、たくさんの方々の国の首相や大使をお迎えし、交流を図ったこともあります。その中には、イギリスのマーガレット・サッチャー首相やハロルド・マクミラン首相もいらっしやいます。

そして、グラント大管長からハワード・W・ハンター大管長までの、すべての大管長と知己になり、ともに働いてきました。長い、長い期間に知り合ったすべての中央幹部を愛しています。

今わたしは、長い歳月の間に集めてきた書籍や品物の整理をしています。そうしているうちに、1951年から1954年の間にわたしが不定期で書いた日記を見つけました。この当時、わたしはステーキの副会長で、まだ中央幹部としては召されていませんでした。

この昔の日記を読みながら、わたしがどのようにして主の導きによって大管長会と十二使徒定員会の会員たちと親交を深めるようになったのかを感謝の気持ちで思い出しました。教会が大きくなった今日で

は、このような機会をだれも持つことができないでしょう。

日記にはこのように書いてあります。

「1953年3月11日——4月の伝道部長大会のプログラムをマッケイ大管長と話し合う。」

「3月19日木曜日——ジョセフ・フィールディング・スミスから、一人の兄弟を選び、土曜の夜の宣教師大会をどのように管理するか説明させるように依頼された。……スペンサー・W・キンボールか、マーク・E・ピーターセンが適任だと思う。」

「3月26日木曜日——マッケイ大管長が興味深い話をした。こうだ。『農夫が広大な土地を所有していた。年を取り、仕事が手に負えないと感じるようになった。彼には息子が何人かいた。年を取った農夫は、息子たちを集め、手を貸すように言った。父親は休息を取ったが、ある日農地に行ってみた。息子たちは父親に、助けは要らないから家に戻るようにと言った。父親はこう言った。「わたしの存在は、おまえたちすべての働きよりもっと価値がある。』」マッケイ大管長によると、この父親はスティーブン・L・リチャーズ副管長だそう。副管長は病気だが、マッケイ大管長は彼の働きと友情を非常に価値のあるものだと感じている。」

「1953年4月3日金曜日——午前9時から午後3時30分まで、中央幹部や伝道部長たちと一緒に神殿での集会に参加した。30人以上の伝道部長が話をした。だれもがもっと宣教師を必要としている。どこも大きく発展している。」

「4月14日火曜日——リチャーズ副管長のオフィスでよい時間を過ごした。とても疲れて、力を失っているように見える。主が偉大な目的のために彼を支えておられるのだと感じた。」

「1953年4月20日月曜日——十二使徒評議会のヘンリー・D・モイルの訪問を受けた。楽しかった。」

「1953年7月15日——十二使徒評議会のアルバート・E・ポーエン長老が1年以上の闘病生活の後、亡くなった。また一人、わたしの友人が逝ってしまった。……良い友達だったのに。彼は賢く、堅固な人だった。」



決してあわてることなく、周りをせかすこともなかった。きわめて慎重な人だった。並外れて聡明<sup>そうめい</sup>だったし、偉大で純粋な信仰の持ち主だった。年を取った偉大な指導者が亡くなっていく。彼らはわたしの友人だ。わたしの知る短い間にも、教会の偉大な人物たちが入れ替わっていくの目にしてきた。そのほとんどの人たちとともに働き、親しくなった。時が彼らの思い出を消していく。あと5年もたてば、メリル、ウイツォー、ポーエンといった力強い人々の名前も、ほとんどの人は忘れてしまうだろう。人は毎日の働きから満足感を得るべきだ。家族は覚えていてくれるだろうし、主にとってはだれもが重要な存在であろう。しかしそれ以外では、後の世代に残せる足跡は小さいものだと心得るべきだ。」

このような感じです。若いときに大管長会や十二使徒定員会の人たちとすばらしい関係を築けたということをお伝えするために引用しました。

わたしは長年、貧困にあえぐ世界中の人々のところにも訪問し、愛と関心と信仰を伝えてきました。そして、世界の多くの地域の特権階級や地位の高い男性女性とも交わってきました。そのような機会を通じて、たとえ少しでも影響を与えられるようにと願っていました。

まだ11歳の少年だったとき、後にも先にも会ったことのない人から祝福師の祝福を受けました。それは驚くべき文書であり、預言の言葉です。個人的なものですので、多くは読みませんが、そこにはこう書いてあります。「地球上の国々はあなたの声を聞き、あなたが述べるすばらしい証により、真理の知識へと導かれる。」

イギリスでの伝道を終えてから、少しだけヨーロッパを旅行しました。ロンドンで、ベルリンで、パリで、さらに、ワシントンD.C.でも証を述べました。これら世界の首都で証を述べることで、わたしは祝福文にある預言を成就したのだと思いました。

しかし、それは単に預言の成就の始まりにすぎませんでした。それ以来、わたしはすべての大陸の大小の町々で証を述べ、この広い世界の隅から隅まで、東西南北に駆け回りました。ケープタウン、ストックホルム、モスクワ、東京、モントリオールなど、世界の大都市で証を述べました。これはまったくの奇跡です。

昨年わたしは、全世界の教会員に、モルモン書を再度読み直すようお願いしました。何千の、いいえ、何十万もの人々が、このチャレンジにこたえてくれました。1841年に預言者ジョセフはこう語っています。「わたしは兄弟たちに言った。モルモン書はこの世で最も正確な書物であり、わたしたちの宗教のかなめ石である。そして、人はその教えを守ることにより、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる。」(History of the Church, 第4巻, 461)

この記述は真実です。ですから、この教会の民は何か驚くべきことを経験したはずです。皆さんは、バスに乗っているときや、昼食のとき、病院の待合室や、そのほかのいろいろな場所で、モルモン書を読んでいます。この書物を読んだことで、皆さんがさらに神に近づいたことを確信し、またそう願っています。

昨年の12月には、皆さんの多くとともに、預言者ジョセフの生誕200年を祝う特権にあずかりました。バラード長老とわたしは、ジョセフの生誕の地であるパーモント州を訪問しました。そして、この偉大な末日の

業に召された敬愛する預言者を記念するために、この大きなカンファレンスセンターに末日聖徒が集い、話者の言葉が衛星放送で全世界に届けられました。

数え上げればきりがありません。個人的な話をしたことをお喜びします。しかしながら、末日聖徒イエス・キリスト教会に対する心からの感謝の気持ちを述べるためにそうしました。これらすべては、主が導いてくださったために経験できたのです。わたしの心は感謝と愛ではち切れんばかりです。

再度繰り返します。

森の中、道が二手に分かれていた。

そしてわたしは……

わたしはあまり

人が通っていなさそうな道を進んだ

そしてそれが、

大きな違いを生んだのだ

この話をわたしの死亡記事と考えるではないと思います。わたしは、10月にまた皆さんに話す機会を楽しみにしています。

結びに当たり、この業が神の神聖な業であるという証を、この安息日にわたしが述べ、皆さんが聞いたということを、記憶にとどめていただきますように。パルマイラの森で預言者ジョセフに与えられた示現は夢や幻ではありません。実際に起きたことなのです。それは明るい光の下での出来事でした。御父と御子が少年に語りかけられたのです。少年は、御二方が彼の上の空中に立っておられるのを見ました。御二方の御声みこえを聞き、注意深く耳を傾けました。

それは復活された主でした。その主を紹介されたのは、万物の偉大な神である御父でした。この最後の神権時代、すなわちこの時満ちる神権時代の幕を開けるために、記録に残っている歴史の中で初めて、御父と御子がそろって御姿みすがたを現されたのです。

モルモン書は、それ自体が主張しているとおり、古代に生きた預言者によって記録されたものであり、「ユダヤ人と異邦人に、



部会の後でカンファレンスセンターの聴衆に手を振るゴードン・B・ヒンクレイ大管長。

イエスがキリストであり、永遠の神であり、すべての国民に御自身を現されることを確信させる」ために与えられたものです(モルモン書、タイトルページ)。

神権の回復は、バプテスマのヨハネと、ペテロ、ヤコブ、ヨハネの手によってなされました。永遠の命を得るためのすべての鍵かぎと権能がこの教会の中で行使されてい

ます。

ジョセフ・スミスは過去も現在も預言者です。この神権時代の偉大なる預言者です。贖い主の御名あがなを冠するこの教会は、真実です。

わたしの証と愛を皆さん一人一人にお伝えします。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

# 福音を伝える 家庭を築く

十二使徒定員会  
M・ラッセル・バラード

**福音を伝える家庭を築くことは、人に福音を伝えられる最も簡単で効果的な方法です。**



**兄** 弟姉妹の皆さん、ほんの数週間前、わたしは両方のひざを手術しました。ですから、今日、こうして皆さんの前に文字どおり立てることに感謝しています。療養している間、わたしは、主イエス・キリストの贖いについて知っているということがいかに大きな祝福かを改めて思い起こしました。ゲツセマネや十字架上で、主がわたしたちのために受けられた痛みや苦しみを思うと、身が縮み上がります。どうやって耐えられたのか、わたしには理解できません。しかし、わたしは主に感謝し、言葉では表しようのないほど、主を深く愛しています。

ヒンクレー大管長とともに預言者ジョセフ・スミス生誕の地を訪れる特権にあずかれたことにも感謝しています。ジョセフ・ス

ミスのおかげで、わたしたちは多くを与えられています。回復がなければ、天の御父である神の真の性質も、その子供であるわたしたちが神の特質を備えていることも、知ることがなかったでしょう。人の存在が永遠であることも、家族が永遠に一緒に暮らせることも理解しなかったでしょう。

神が今も預言者に語りかけておられることも知らなかったでしょう。それは御父と御子が預言者ジョセフに御姿を現された、驚くべき最初の示現から始まりました。また預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長に導かれているという安心感を得ることもなかったでしょう。

回復がなければ、神の御言葉はすべて聖書に記されていると信じていたでしょう。聖書と同様に貴く、すばらしい聖典であるモルモン書やその他の末日聖典が永遠の真理を教え、天の御父と救い主に近づく助けとなることも知らなかったでしょう。

回復がなければ、この世と永遠にわたって効力のある神権の儀式的祝福にあずかることはなかったでしょう。悔い改めの条件を知ることなく、人が実際に復活することも理解していなかったでしょう。聖霊を常に伴侶とするともなかったでしょう。

イエス・キリストの福音がいかに大きな祝福を人生にもたらすかを真に理解し、この永遠の真理を受け入れ、慈しみ、心の奥深く魂の底にまで真理に貫かれるとき、人は心の「大きな変化」を経験します(アルマ5:14参照)。愛と感謝の念に満たされ

ます。預言者アルマが書いているように、耳を傾けるすべての人に「贖いをもたらす愛の歌を歌おう」と感じるようになるのです(アルマ5:26)。

アルマは言いました。「おお、わたしが天使であって、わたしの心の願いを遂げることができればよいものを。わたしの心の願いとは、出て行って、神のラッパのように地を震わせる声で語り、すべての民に悔い改めを叫ぶことである。

まことに、わたしは……あらゆる人に……贖いの計画を告げ知らせ、もはや地の全面に悲しみのないよう、悔い改めて神のみもとに来ることを彼らに勧めたい。」(アルマ29:1-2)

兄弟姉妹、わたしたちもそうあるべきです。大きな喜びと幸せを与えてくれるこの福音を伝えるために必要なのは、主への愛と、福音が回復されたことに対する感謝の気持ちだけです。福音を伝えることは、わたしたち教会員がこの世で行う最も自然な行為であるにもかかわらず、あまりに多くの人が証を伝えることに消極的です。

宣教師は世界中で、証に駆り立てられ、福音を伝えるというこの喜びの業に携わっています。その多くは、よく研究し、重要な箇所<sup>の</sup>に印を付けてきた宣教師ガイド『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を携えて宣教師訓練センターに入ります。うれしいことに、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を使用するようになってから、宣教師は御霊の力を受けて自分の言葉で教え、相手の必要に合わせたレッスンを行うことができるようになりました。その結果、宣教師は多くの人の生活に確かな影響を与えています。

しかし、正直なところ、宣教師はもっと教える人を必要としています。経験から明らかなのは、見つけ、教える過程に教会員が参加するなら、教えるのに最適な環境が整うということです。耳新しいことではありません。何度も聞いていることです。皆さんの中には、あまり宣教師の役に立っていないと、後ろめたさを感じている人さえいるでしょう。

今日わたしは、皆さんに肩の力を抜き、あれこれ心配するのをやめて、主への愛



アメリカ合衆国ミズーリ州スプリングフィールドの自宅で子供たちと大会の放送を視聴する、ライアン・ニコルズと奥さんのアンジー。

と主が永遠に実在する御方であることに  
対する証、主から受けたすべての恵みに  
対する感謝の気持ちに心を向けてほしい  
のです。愛と証、感謝の気持ちに真に駆  
られるなら、きわめて自然に、御父の子供  
たちの「不死不滅と永遠の命をもたらす」  
主の業を支えるために最善を尽くすはず  
です(モーセ1:39)。実際、そうせずには  
いられなくなるのです。

救い主御自身、弟子たちを招いて言わ  
れた次の御言葉の中で、方法を示してお  
られます。「『きてごらん下さい。そうした  
らわかるだろう。』……そこで彼らは……イ  
エスの泊まっておられる所を見た。そして、  
……イエスのところに泊まった。』(ヨハネ  
1:39)なぜそうなさったのでしょうか。主の  
考えは聖文には記されていませんが、弟  
子をねぎらい、便宜を図るためではなかっ  
たでしょう。いつものように、教えておられ  
たのです。従う者たちを教えるのに、御自  
分のみもとに招くこと以上に優れた教授法  
があるのでしょうか。主の驚くべきメッセー

ジを直接心で理解できるのです。

同様に、わたしたちの家庭も、福音を伝  
える場とすることができます。知人や愛す  
る人が家庭に来て、言葉と行いを通して福  
音をじかに体験するのです。改まって話し  
合いの場を設けなくても福音を伝えること  
ができます。家族そのものが教えとなり、  
家庭からあふれ出る御霊がメッセージとな  
ります。

福音を伝える家庭を築くことは、招かれ  
るだけでなく、そこに住む家族も祝福を  
受けます。福音を伝える家庭で生活する  
なら、証は強まり、福音への理解は深まり  
ます。教義と聖約には、人を悔い改めに  
導くときわたしたちの罪は赦されると記さ  
れています(教義と聖約62:3参照)。人が  
キリストのみもとに来られるよう助けるこ  
とで喜びを見だし、主の愛の内にある贖  
いの力を感じることができます(教義と聖  
約18:14-16)。親と子供の証と信仰がと  
もに強まることで、家族は祝福を受けます。

福音を伝える家庭で、わたしたちは家

族に必要な導きと、周りの人の物心両面に  
わたる福利を祈り求めます。宣教師が教  
えている人や知人、信仰が異なる人たちの  
ためにも祈ります。アルマの時代、福音を  
伝える家庭では、「神を知らない者たちの  
幸いのためにともに断食し、熱烈に祈り」  
しました(アルマ6:6)。

福音を伝える家庭を築くことは、人に福  
音を伝えられる最も簡単で効果的な方法  
です。しかも、これは両親と子供が一緒  
に暮らす典型的な家庭に限定されているわ  
けではありません。大学生も福音を伝え  
る家庭を築けます。アパートの壁に、この  
世のものではなく、霊的な祝福を求めて  
いることを表すような絵を飾ってください。  
年配の夫婦や独身の会員は、近所に引  
越して来た人を迎え入れ、教会に誘い、  
相手の家庭を訪問することで、福音を伝え  
る家庭とすることができます。

福音を伝える家庭では、近所の子供た  
ちも喜んで遊び、そこでその子供たちや家  
族を教会や家庭の夕べ、その他の活動に



自然に誘うことができます。10代の子供たちは、福音を伝える家庭に来ると、気がねなく質問ができ、家族の祈りに喜んで参加します。

福音を伝える家庭とは、ごく普通の家庭です。いつもちり一つ落ちていないようなきれいな家でもなければ、行儀の良い子供たちしかない家でもありません。しかし、そこでは家族が確かに愛し合っていて、訪れる人は主の御霊を感じます。

福音を伝える家庭がどんなところかについて話してきましたが、福音を伝える家庭に該当しない事柄を挙げてみることも役に立つかもしれません。

福音を伝える家庭はプログラム化されたものではありません。生活の一部です。福音を伝える家庭を築くとは、家庭生活

や教会活動の普段の流れに友人や近所の人を招き入れることです。これらの活動に友人を招待すれば、彼らも御霊を感じることでしょう。

福音を伝える家庭を築くとは、福音を伝える友人に会い、備えさせるために莫大な時間をささげなくてはならないということではありません。友人たちは自然にわたしたちの生活に入って来ます。そして、ごく早い時期からわたしたちが教会員であることを伝えていれば、ほとんど誤解されることなく、交友関係の中で簡単に福音を話題にすることができるようになります。友人や知人は、わたしたちの一部として福音を受け入れ、気楽に質問してくるようになるでしょう。

福音を伝える家庭かどうかは、交流の

あった人が教会に入ったかどうかで測るのではありません。わたしたちに与えられているのは、心を配り、伝え、証し、招く機会であり責任です。あとは個人の意思に任せます。結果はどうあれ、回復について考える機会をだれかに提供するとき、わたしたちは祝福を受けます。少なくとも、信仰の異なる友と実り多い関係を築くことができ、交友を引き続き楽しむことができるのです。

福音を伝える家庭では、全世界で働く宣教師の健康や安全、成功を祈るだけではありません。自分が伝道の経験や機会にあずかれるよう、導きを受けたときに従う備えができるよう祈ります。その導きは必ずあると皆さんに約束します。

20年以上前、実りある会員伝道の鍵は信仰を働かせることだと勧告しました。主と主の約束に対して信仰を示す一つの方法は、祈りによって日付を設定し、備えられた人を宣教師に紹介することです。信仰を働かせてこの簡単な方法を実践した教会員から、何百通もの手紙を受け取りました。だれに福音を伝えればいいのか見当がつかなくても、日付を設定し、祈り、できるだけ多くの人に話しかけた家族もあります。主は良い羊飼いですから、御自身の御声を聞く備えのできている羊を御存じです。主の福音を伝えるうえで助けを求めらるなら、主は導いてくださいます。

フランスに住むある姉妹は、成功の秘訣を尋ねられてこう答えました。「ただ喜びを伝えているだけです。わたしは、だれに対しても、その人が教会員であるかのように接します。列に並んでいて、そばにいればかたかた会話が始まれば、日曜日の教会の集会在どんなに楽しいか話します。『週末は何をしたの』と職場の人に聞かれれば、日曜にしたことを省くことはしません。教会に行ってどんな話を聞いたか、聖徒たちとどんなことをしたか話します。自分の生き方、考え、感じていることを話します。」

福音を伝える家庭では、個人でどのように伝道しているかが、家族会議や家族の会話で話題になります。ある忠実な家族は、家族一人一人が模範となることの必要性について話し合いました。後に、息子

の高校で働くコーチが、教会員ではないのに献金を送ってきました。なぜでしょうか。若いコーチは、この生徒が勇気をもって声を上げ、きれいな言葉を使うようチームメートに伝える姿を見て感心したからです。そのような話はたくさんあります。多くの人が福音を伝える家庭を持つ教会員の姿を見て、その精神と振る舞いに心を打たれて教会に入っています。

教会の書籍やDVDも、友人に教会を紹介するのに役立てることができます。家族が聖餐会で話すときに誘うこともできますし、家族のバプテスマ会に招待することもできます。集会所の中を案内することも、教会員でない人たちに喜ばれてきました。けれども、伝道に役立つことの中で、「来て見てください」と言って友人を聖餐会に誘うことほど、だれにでもできてしかも効果的なものはありません。一緒に礼拝行事に参加できることを知らない人があまりに多いのです。

もちろん、わたしたちは皆、ワードの指導者を支持し、ワードの伝道計画が円滑に進むよう助けます。教会でどんな責任を受けていようと、神権指導者や補助組織の指導者が宣教師の働きを支援できるよう助け、訪問者を歓迎して教会員の輪の中に招き、新会員に友情を示します。宣教師の予定表を見せてもらって、彼らの目標達成を助ける最も良い方法は何か考えることもできます。ともに働くならば、福音を伝える家庭の御霊が礼拝堂や教室、ホールに満ちあふれるでしょう。

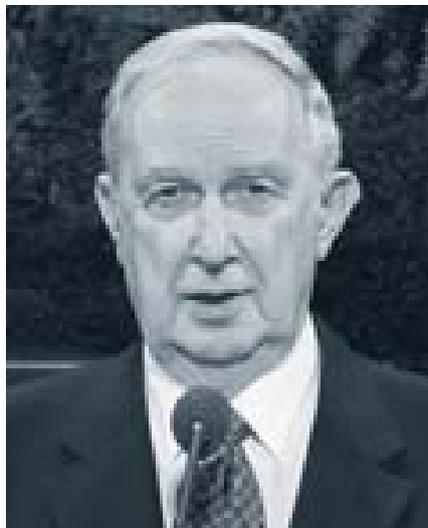
これまで述べた簡単な事柄を少しでも行うなら、福音を学ぶ用意のできている御父の子供たちを、何千、何万と見つけられるよう主が導いてくださいます。主への愛と贖いの犠牲に対する感謝の念、そして、御自身のもとにすべての人を招くという主の使命は、伝道活動を成功させるために必要な動機を与えてくれます。

兄弟姉妹の皆さん、世の人々に手を差し伸べて、回復されたイエス・キリストの福音を伝えるとき、祝福されて主への信仰が増し、主への信頼が深まりますように。イエス・キリストの御名によってへりくだり祈ります。アーメン。

# 今こそ 伝道に出る時です

十二使徒定員会  
リチャード・G・スコット

**世界中に様々な種類の胸躍る奉仕の場があり、主の靈感によって若い兄弟姉妹、献身的な夫婦が、……取り組みがいのある責任に召されています。**



**若**い男性や女性、それに夫婦にとつて、末日聖徒イエス・キリスト教会の専任宣教師となること以上に胸躍る経験がこの世にあるとは、わたしには想像し難いことです。教会が宣べ伝えている回復された福音のメッセージは絶対に必要です。それは、永遠の父なる神から、地上に住む一人一人の神の子供に向けられたもので、神の愛される御子イエス・キリストを中心としています。メッセージを理解し、それに従って生きるなら、混乱は平安に、悲しみは幸福に変わり、人生の様々な問題に対する答えを得ることができます。

教会には今、伝道を成功させる非常に明確な指針があります。その指針は『わたしの福音を宣べ伝えなさい』とそれに付随

する資料の中にあります。新しい宣教師のレッスンは非常に効果的で、暗記に頼って教えるのではなく、御霊によって教えることが基本になっています。おかげで、福音を分かち合う働きが世界中で大幅に進歩しました。伝道部長は皆、この新しい資料を導入する方法について詳しく教えられています。その結果、非常に有能で、献身的で、熱心な伝道部長たちは、宣教師を鼓舞し、力強く啓発しています。

世界中のすべての宣教師が『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の中にある概念を研究し、実践しています。それにより、回復のメッセージを宣言し、救いの計画と福音のそのほかの原則を教える能力が増しています。ふさわしさの基準を上げたことは、大きな成果を生みました。伝道地で宣教師は皆これまでも増して熱心に働き、同僚同士のきずなが強まり、教え方はずっと効果的になり、新会員はさらに定着するようになりました。

伝道活動を監督するための指導は、全般的に改善されました。世界中のすべての伝道活動は、地域会長会、七十人定員会の7人の会長、十二使徒定員会、そして、個人的に特に関心を寄せている大管長会を通じて支援されています。

世界中に様々な種類の胸躍る奉仕の場があり、主の靈感によって若い兄弟姉妹、献身的な夫婦が、それぞれの必要と能力に合った、取り組みがいのある責任に召されています。わたしもこの業に携われ



ブラジルで大会の衛星放送に出席した宣教師たち。

てうれしく思います。世界中の多くの人々を力強く祝福するこの業には、まさに胸が高鳴ります。

M・ラッセル・バラード長老は、福音を伝える家庭を築くことについて話しました。わたしは、長老、姉妹、夫婦が、専任宣教師になるにはどのように備えたらよいかについて話します。

この準備は宣教師の年齢になるずっと前に家庭で始まります。親は幼い息子の頭と心に「ほくが伝道に出るとしたら」ではなく「ほくが伝道に出るときには」という思いを育てます。子供に福音の真理を教える最高の場所は家庭です。家庭では、子供の年齢と能力に合わせて教えることができます。家庭では、真理の武具を、それぞれの子供の性格にぴったり合わせて作ることができます。親の教えを通して、子供は人生に備え、ふさわしい若い男性は伝道の喜びに備えることができます。幼い娘は、妻となり母となることが第一の責任であると、家庭の中で学びます。しかし、大管長会の最近の勧告によれば、自らを備える若い女性には、将来専任宣教師になる道も開かれています。大管長会はこう述べています。「21歳以上で……ふさわしい独身の女性は、専任宣教師と

しての推薦を受けることができます。……これらの姉妹たちは……貴重な貢献をすることができますが、それを強要してはなりません。伝道に出ることで、目前に控えた結婚に支障を来すような場合には、監督は宣教師として推薦すべきではありません。」<sup>1</sup>

多くの親が『わたしの福音を宣べ伝えなさい』を使い、将来の祝福につながる概念を教えています。子供は家庭でそのような養いを受けつつ、証を強めています。少年の皆さん、将来の神権者として義務を果たす方法を学んでください。皆さんは、主の大切な教えを理解し実行できるように助けを受けられます。ふさわしく生きる強さを身に付けて、神殿の神聖な儀式を受け、専任宣教師として仕えることができます。そのような経験を通じて、皆さんは立派な夫、父親になるという、将来受ける祝福の土台を作ります。

『わたしの福音を宣べ伝えなさい』は、若い女性が妻や母親の役割に関する教義を理解し、応用できるよう備えてくれます。専任宣教師になることを選択するなら、妻や母となる土台が築かれます。セミナーは、若い男性と女性が、幸福で満ち足りた人生の土台を築けるように助けてくれ

ます。インスティテュートとブリガム・ヤング大学の3つのキャンパスでは、宣教師になる備えをする特別コースが設けられています。コースの内容は『わたしの福音を宣べ伝えなさい』の原則に基づいており、その力強い教えと一致しています。つまり、宣教師に召される前に準備を始められるのです。

宣教師や指導者、会員、両親にとって『わたしの福音を宣べ伝えなさい』が力強く、効果的であることは、これまで100万部近くが配られたという事実からも分かります。皆さんは、すでにこの資料を入手し、この資料から恩恵を受けていますか。

監督や支部長である皆さんは、面接によって意欲を高め、ほかならぬ皆さんのワードの若い男性とふさわしい夫婦に、専任宣教師になる備えをするよう励まし、彼らの人生を祝福することができます。未来の宣教師を祝福するだけではありません。伝道に出る望みを持つように励まそうと親が努力しているにもかかわらず、息子が伝道に出られる年代になっても決意していない場合、皆さんは親にとって祈りの答えとなるかもしれません。例えば、わたしたちの娘、メアリー・リーは、妻とわたしが大切にしている宣教師時代の経験を子供のころから聞いて育ちました。わたしたちは伝道というやりがいのある経験が人生を豊かにしたこと、その経験が人生で大切なすべてのことの土台となっていることを教えました。しかし、伝道に出るかどうかは自分で決めることだとも教えました。子供のころからずっと、娘は明らかに宣教師になりたがっていました。しかし、宣教師になる年齢に近づいた娘は、大学での勉強がおもしろく、迷いが生じていました。そこであるとき決心できずに悩んでいることを人に話すと、娘は監督に相談してみてもどうかと勧められました。娘は監督と会うことにしました。娘は監督の前に座り、尋ねました。「わたしが専任宣教師になることをどう思いますか。」すると監督はいすから飛び上がり、両手で机をたたいて言いました。「それはあなたにとって最高のことですよ。」その言葉で娘の心は決まりました。

メアリー・リーはスペインで立派に伝道しました。伝道中、隠れた才能を発見し、霊的に成長した娘は、そこで培った能力のおかげで、妻となり母親となった現在も、祝福を受けています。娘の人生にこの大きな影響を及ぼした監督は、J・ウィラード・マリOTT・ジュニア兄弟です。彼は現在地域七十人です。しかし、わたしたちにとって彼は、娘メアリー・リーの人生を祝福してくれたすばらしい監督なのです。娘の家庭では、同じく帰還宣教師である夫と娘の力強い模範の下で育った彼らの息子と娘が、立派に伝道の務めを果たしました。残る一人の息子も間違いなく宣教師になるでしょうし、末の娘も時が来れば適切な選択をするでしょう。もう一人の孫も父親の足跡に倣い、つい最近、メキシコ・クエルナバカ伝道部で仕える召しを受けました。

監督そして支部長の皆さん。皆さんは、宣教師になるために今励まし備えている人の人生だけではなく、その子孫の人生にも力強い影響を与えることができます。アロン神権定員会の指導者とアドバイザー、さらに大祭司、長老、女性の指導者の力を借りて、できるだけ多くのふさわしい宣教師が召されるように備えてください。新しい宣教師用資料を使うなら、皆さんが推薦する大勢の宣教師は、よく準備され、意欲に満ちて、任地に到着することでしょう。ほとんどの候補者は、少し努力すれば準備ができるでしょうが、かなり生活を変える必要のある人も多少います。親の支援を受けて、標準が満たせるよう助けてあげてください。

どの夫婦に、専任宣教師となるための志願書を出すように勧めるべきか、祈ってください。夫婦宣教師は今すぐ必要なのです。

世界中の伝道活動は様々な状況の中で行われていますが、それぞれの宣教師や夫婦の特質や必要に応じて、召される場所を聖霊が配慮しておられるのにはいつも驚かされます。非常に力強く有能な長老や姉妹が、合衆国やカナダに召されて、その地の教会の土台を強く保つために働いているのを目にしています。太平洋の



孤島や、モンゴル、あるいはグアテマラの高地の文化に溶け込むといった特殊な任務、あるいは伝道部長と個人的に接する機会がほとんどない特殊な任務を受けた宣教師が、以前には思いも寄らなかった大変すばらしい能力を身に付けて帰還しているのを目にしています。

栄えある専任宣教師の務めが、わたし個人にどのような意味を持っているか、心を込めて話します。わたしはすばらしい両親に育てられましたが、父は会員ではなく、母もあまり教会に行っていませんでした。でもそれは、わたしの伝道の後になりました。二人とも信仰篤い会員となり、父は結び固めの執行者、母は儀式執行者として神殿で献身的に奉仕するようになったのです。若いころのわたしは、今日話を聞いている皆さんの多くと同じように、伝道の重要性を判断することができませんでした。わたしはひときわすばらしい若い女性と恋愛をしました。求婚期間の大事な時期に、彼女は、帰還宣教師と神殿で結婚する以外に考えていないと、はっきり言いました。大きな動機に励まされ、わたしはウルグアイで伝道しました。

それは簡単なことではありませんでした。わたしの成長のためになる難しい課題を主がたくさん与えてくださったので

す。わたしは伝道を通じて自分の証を得ました。父なる神とその愛される御子イエス・キリストは、実際にジョセフ・スミスを訪れ、真理と、神権の権能と、真の教会を回復する業を地上に始められたのです。ジョセフ・スミスは比類ない預言者であるという証を得ました。根本となる教義を学びました。御霊に導かれるとはどのようなことかを見いだしました。同僚が眠っている間に起きて、導きと教えを得るために主に心を注ぎ出した夜が幾晩もありました。任地で愛するようになった人々に、自分の証と、学んでいる真理をスペイン語でうまく伝えられるようにと、願い求めました。そのような祈りは、まさにこたえられました。同じころ、わたしの未来の伴侶となるジェニーンも伝道に出て、ひときわすばらしい妻、母親になるために鍛えられていました。

何にも増して、わたしの人生で大事なものは全部、伝道中に実り始めました。宣教師になるよう励まされていなかったら、心から愛する永遠の伴侶も、大切な家族も得ていなかったでしょう。自分の能力を広げてくれるすばらしい職業も決して得ていなかったでしょう。数々の神聖な召しと、わたしが永遠に感謝するであろう奉仕の機会を受けることもなかったはずです。伝道に出たおかげでわたし

の人生は計り知れないほど豊かに祝福されました。

若い男性の皆さん、皆さん一人一人が立派な宣教師になることを、なぜわたしがこれほど切望するのか理解できますか。成熟した夫婦に、健康であるならば宣教師として主に仕えるよう計画してくださいと励ます理由が理解できますか。若い女性の皆さん、皆さんが望んでいて、間近に迫った結婚に影響しないのなら、宣教師として主に仕えることを真剣に考えてくださいと、わたしが提案する理由が分かりますか。わたしの家庭が大いに祝福されたのは、わたしの伝道中に専任宣教師となることを選んだ女性が妻となり母親となったからです。

もし若い男性の皆さんが、専任宣教師となるべきか迷っているなら、自分の知恵だけでこのきわめて重大な決断を下そうとしてはいけません。両親と監督またはステーク会長の助言を求めてください。主の御心が知らされるように、祈り求めてください。伝道が、現在と生涯を通じて、並々ならぬ祝福を皆さんにもたらすことをわたしは知っています。出るべきかどうか知るために祈らないでください。そうではなく、立派で有能な専任宣教師となるために必要なすべてのことについて、主に導きを願い求めるのです。伝道したことを後悔することは決してないでしょうが、もしも自分の選択で伝道に出なかったならばきっと後悔するでしょう。

イエスがキリストであられること、主の教会と完全な福音が、特に重要な預言者ジョセフ・スミスによって地上に回復されたことを知っています。専任宣教師の献身的な働きが、メッセージを聞く人にとってだけではなく、御霊の導きを受けてメッセージを伝える人にとっても大いなる幸福と豊かな祝福の源であることを証します。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. 大管長会からの手紙、未刊

# シオンをバビロンのうちに得る

七十人  
デビッド・R・ストーン

**わたしたちはバビロンの標準やしきたり、道徳を取り入れる必要はありません。  
わたしたちはバビロンのうちにシオンを造ることができるのです。**



去 年の夏、妻とカリフォルニア州サンディエゴに行き、オールドグローブ劇場でシェクスピアの「マクベス」を見る機会がありました。娘のキャロリンが3人の魔女の1人を演じていたので、公演を2回見ました。演じる娘を見るだけでもうれしいものですが、劇的な場面であの有名なせりふを娘が言ったときには、もっとうれしくなりました。「親指がびくびく動く、何か悪いものがこっちに近づいて来るな。」(『マクベス』第4幕第1場、福田恒存訳、新潮文庫、77)

これを聞いて思ったのは、悪の接近を早い段階で告げる警報装置があって、悪に備えることができたならどれほど重宝するだろうということでした。警報装置があるとなかろうと、悪は近づいて来るので

すから。

後になって、妻と車で地方を旅行していた夜のことで、間もなく大きな町に入ろうとする辺りで丘を登ると、地平線に明るい光が見えました。わたしは妻をつついて起こし、言いました。「バビロンの町を見よ!」

もちろん、今日、バビロンを象徴する町が特にあるわけではありません。バビロンとは古代イスラエルの時代にあった、肉欲に満ち、退廃的で腐敗した町です。その町の重要な建物は、ベル、あるいは、バアルとしばしば呼ばれる、偽りの神を祭った神殿でした。

しかし程度の差はあるものの、肉欲も腐敗も退廃も、そして、偽りの神を礼拝することも、世界中の多くの町で見られます。主は言われました。「彼らは主の義を打ち立てるために主を求めようとせず、すべての人が自分の道を、自分の神の像を求めて歩む。その像は俗世の形である。」(教義と聖約1:16)

世界では多くの人が昔のバビロンに似てきており、自分の道を歩み、その従う神の「像は俗世の形」をしています。

将来克服すべき大きな課題は、そうした世にあって、どうにかして世の者とならないことです。バビロンのうちにシオンを造らなくてはならないのです。

「シオンをバビロンのうちに得る。」何と明るい輝きを持った言葉でしょうか。ちょうど、霊の暗黒のうちに輝く光のようです。

バビロンがさらにはびこる中、心にしっかりとどめておくべき考えです。バビロンはわたしたちの町の中に、また、地域社会の中にあります。バビロンはどこにもあるのです。

拡大するバビロンに対し、わたしたちはその中にシオンを造る必要があります。取り巻かれている文化にのみ込まれてはなりません。自分が生活する場所と時代の文化からどれほど影響を受けているかは、めったに気がつかないのです。

古代イスラエルの時代には、主の民は、偶像礼拝という大海に浮かぶ唯一まことの神のみを信じる島のような存在でした。大海の波は途切れることなくイスラエルの岸に打ちつけました。刻んだ像を造りそれを拝んではならないと戒められていたにもかかわらず、土地と時代の文化に影響を受けて、イスラエルはどうすることもできなかったようです。主から戒められても、預言者や祭司から勧告を受けても、イスラエルは何度も異なる神々を求めて拝んだのです。

イスラエルは自分たちをエジプトから導き出してくださった主を、どうして忘れることができたのでしょうか。当時彼らは、住んでいた社会の中で広まっていたものから常に圧力を受けていました。

生活に根付く文化とは、何と油断のないものなのでしょうか。文化は社会に染み渡り、一方、人は分別があり、論理的だと自負しています。しかし非常に多くの場合、人を形成してきたのはエートス、ドイツ語で言うツァイトガイスト、つまりその場所と時代の文化です。

これまで10の異なる国に住んできた妻とわたしは、社会の風潮が行動に及ぼす影響を見てきました。ある文化では完全に受け入れられている習慣が、別の文化では受け入れられないものと見なされます。ある所では丁寧な言葉も、別の所では嫌がられます。どの文化でも、人は幻想と自己満足という保護膜の内側で行動し、自分の考え方こそ物事の道理だと固く信じているのです。

食べ物の好み、服の着方、礼儀、好きなスポーツ、音楽の好み、教育の重要性、



正直さに対する姿勢。これらは文化によって決まる傾向にあります。また、文化の影響を受けて、男性は娯楽や宗教の重要度を決め、女性は仕事と出産のどちらを優先するかを判断します。生殖や道徳の問題に対する取り組み方に強い影響力を持っているのも文化です。文化が「かっこよさ」を左右するために、わたしたちが

操り人形のようになってしまうことがあまりにも多すぎます。

当然、注意を払うべきツァイトガイスト、つまりその場所と時代の文化もあります。それは主のエートス、すなわち、神の民の文化です。ペテロは言いました。「しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王国の神権者、聖なる国民、神につける民である。

それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。」(欽定訳1ペテロ2:9から和訳)

これが、主の戒めを守り、主の道歩み、「神の口から出る一つ一つの言葉に従って生き[る]」人々の文化です(教義と聖約84:44)。これによって「神につける民」になれるのなら、そうなりましょう。

マンハッタン神殿の建設にかかわっていたわたしは、奉献される前に神殿の中に入る機会が頻繁にありました。外のにぎやかなニューヨークの通りからまったく音の入らない日の栄えの部屋に座り、完全な静けさの中にいるのは、すばらしいことでした。ほんの数メートル離れた所では都会の喧噪が渦巻いているというのに、なぜ神殿にこれほどの静けさと敬虔さがあるのでしょうか。

答えは神殿の構造にありました。この神殿は既存の建物の中に建てられており、神殿の壁に当たる内側の壁は、わずか数か所の連結点で外側の壁とつながっているだけなのです。それでこの神殿(シオン)では、バビロンつまり外の世界からの影響が制限されていたのです。

ここに教訓があるようです。バビロンから生活に受ける影響に限界を設けるなら、自分たちの中にほんとうのシオンを造ることができます。

紀元前600年、ネブカデネザルはバビロンからやって来てユダを征服し、主の民を連れ去って、その中から数人の若者を選び、特別な教育と訓練を施しました。

彼らのうちに、ダニエル、ハナニヤ、ミシャエル、アザリヤがいました。彼らはバビロンから連れて来られた若者の中でも特に優遇され、王の僕は彼らに王の食物を食べ、王の酒を飲むようにと言いました。

この4人の若者にどのような圧力がかかっていたか、はっきりと理解しておきましょう。彼らは征服者の力によって捕虜として連れ去られ、王の家に属し、生きるも死ぬも王の手の内にありました。しかし、それでもなお……バビロンの文化がどれほど正しいと信じられていても、ダニエルと仲間、自分たちが正しくないと



信じていることを行うのを拒否しました。そして、その忠実さと勇気のために、主は彼らを祝福し「知識を与え、すべての文学と知恵にさとい者とされ」ました(ダニエル1:17)。

わたしたちは今の文化に迷い、バビロンの世界にはびこるものに操られて、自分の偶像礼拝に気づかないことがよくあります。「浮世の瑣事(うきよのざじ)があまりにも多し」と詩人ワーズワースが詠んだとおりです。(ウィリアム・ワーズワース、田部重治選訳『浮世の瑣事が余りにも多し』『ワーズワース詩集』岩波文庫、160)

ヨハネは第一の手紙の中でこう書いています。

「あなたがたに書きおくれたのは、あなたがたが強い者であり、神の言(ことば)があなたがたに宿り、そして、あなたがたが悪しき

者にうち勝ったからである。

世と世にあるもの(もの)を、愛してはいけない。」(1ヨハネ2:14-15)

わたしたちはバビロンの標準やしきたり、道徳を取り入れる必要はありません。わたしたちはバビロンのうちにシオンを造ることができるのです。音楽や文学、ダンス、映画、言葉について、独自の標準を持つことができるのです。服装と行動、礼儀正しさと敬意も、独自の標準を持つことができます。主の道徳の律法に従って生活し、メディアを通して家庭に入り込むバビロンの多くを制限することができるのです。

自分が望むなら、わたしたちはシオンの民として生活することができます。それは難しいことでしょうか。もちろん難しいことです。バビロンの文化という波が途切れることなくわたしたちの岸に打ちつけているからです。勇気が必要でしょうか。もちろん必要です。

およそあり得ないような苦難に直面してもそれを克服する勇気ある人の話は、いつでも人の心を魅了します。勇気は、あらゆる徳の基礎であり土台です。反対に、勇気の欠如はわたしたちが持つほかのすべての徳を損なってしまいます。バビロンのうちにシオンを持つとすると、勇気が必要です。

試しを受けて、勇敢に行動する自分の姿を想像したことがありますか。わたしは子供のころ想像しました。危険が迫っている人を命がけで救い出す自分を想像しました。あるいは、恐ろしい敵との危険な戦いに、勇気をもって勝利する光景を想像しました。子供はそのような空想をするものです。

70年近く生きてみると、そうした英雄になるような機会は、たとえあったとしてもごくまれだと分かります。

しかし、圧力が知らず知らず迫ってきて、友人からその時々(ときどき)に広まる偶像礼拝を勧められるときには、義を守る機会があります。しかも、頻繁に(しばしば)あります。そこには、英雄的な行為(ことば)を撮るカメラマンもいなければ、新聞の一面を飾る記事を書く記者もいません。ただ、静かに良心に照

らし合わせて、シオンを選ぶかバビロンを選ぶかという勇気が試されていることを知るのです。

欺かれないでください。ほとんどではないにしても、バビロンの多くは悪です。わたしたちにはびくびく動いて警告を發する親指はありません。しかも、波は次から次へと岸に打ちつけてきます。シオンを選びますか、それとも、バビロンを選びますか。

バビロンが俗世の町なら、シオンは神の町です。主がシオンについて「日の栄えの王国の律法の諸原則によらなければ、シオンを築き上げることはでき[ず]」（教義と聖約105:5）、また「心の清い者、これこそシオンである」（教義と聖約97:21）と言われました。

どこにいても、何という町に住んでいても、日の栄えの王国の諸原則に従って自分たちのシオンを建設し、いつも心の清い者になる努力をすることはできるので、シオンは美しいものです。そして、主御自身の御手の中にあります。シオンがそうであるように、家庭を避け所や保護地にすることができます。

わたしたちは、場所や時代の文化に操られる人形になる必要はありません。勇敢になって、主の道を歩み、主の足跡をたどることができるのです。そうするならば、わたしたちはシオンと呼ばれ、主の民となるのです。

わたしたちが強められてバビロンの攻撃にもくじけず、家庭と地域社会の中にシオンを造ることができるように祈っています。実際に「シオンをバビロンのうちに得る」ことができますように。

わたしたちがシオンを求めるのは、それが主であるイエス・キリスト、わたしたちの救い主、贖い主のお住まいになる所だからです。シオンの中で、そして、シオンの中から、主の明るい光は輝き渡り、主の統治は永遠に続きます。主が生きてわたしたちを愛し、これからも見守ってくださることを証します。

イエス・キリストの御名により、アーメン。

# 主の平安を広める器

七十人

ロバート・S・ウッド

**わたしたちはキリストの御名を受けているにもかかわらず、知らず知らずのうちに、人を中傷し、悪口を言い、思い込みで好き嫌いを決めてしまう傾向に陥っていないでしょうか。**



友人に、全国放送のテレビ番組で毎週政治討論に加わっている人がいます。彼女は自分の役割についてこう話しています。「わたしたちは考えるよりまずしゃべるようになっていまして。」わたしたちは、多くの人が考えずに物を言う時代、すなわちじっくり考えてから答えるよりも感情の赴くままに対応することがもてはやされている時代に生きているようです。国内であれ国際間であれ、人間関係であれ、政治問題であれ、家庭内であれ、公の場であれ、当事者同士の話し声は耳障りなほどますます荒くなり、人々は、不注意からではなく故意に相手を傷つけたり、不必要に騒ぎ立てたりするようになっていまして。

主は時の初めから現在に至るまで、サタンが人の心をあおり立てて怒らせることについて警告してこられました。<sup>1</sup> モルモン書には、レーマンがある一連のパタ

ーンを繰り返していたことが記されています。あまりにつぶやくことが多かったため、自らの内に怒りをかき立て、それを激しい憎悪へと発展させ、ついには殺人を犯そうとするパターンです。<sup>2</sup> ほかにモルモン書には、欺かれた邪悪な人々が怒りを募らせ、争いにまで発展したことが随所に記されています。司令官モロナイの時代に、背教者アマリキヤは「ニーファイの民に反感を抱くようにレーマン人の心を」<sup>3</sup> あおりました。アミュロンとノア王の邪悪な祭司たち、ニーホル、コリホル、背教者ゾーラム（こうした不埒な人々はモルモン書を通じて繰り返し出て来ます）は人々の心に不信感を植え付け、論争をあおり、憎しみを募らせました。

主はエノクに対して、御自身の降誕の時代と再臨に先立つ時代が「悪事と報復の時代」<sup>4</sup> となるであろうと言われました。またこの終わりの時に、激しい怒りが全地にありのままに注がれると言われました。<sup>5</sup> 「激しい怒り」を表す英語の“wrath”という語には、神の義憤という意味と、人の激情や心に深く根ざした怒り、過激な憤りという意味があります。前者は、しばしば「愛情がなく、自分の血族を憎んでいる」<sup>6</sup> 子らに向けられた、御父の愛にあふれる心遣いから生まれるものであるのに対して、後者の激しい怒りは、「秩序もなく、情けもない……邪悪の度を増し」<sup>7</sup> ている人々から生じるものです。わたしは地には両方の怒りが注がれているのではないかと思います。神の怒りを買っているのはおもに、邪悪と中傷、過激な憎しみへと人々をあおり立てている者たちが



原因となっているのではないのでしょうか。

怒ることによって人が最初に失うのは真理と理解力です。ヤコブは「人はすべて、聞くに早く、語るにおそく、怒るにおそくあるべきである。人の怒りは、神の義を全うするものではないからである」<sup>8</sup>と勧告しました。エノクが述べたように、神は平安と公正と真理の御座に座しておられます。<sup>9</sup>それが偽りの友であれ、不義の教師、芸術家、芸能人であれ、地方新聞の論説員や投稿者であれ、権力や富を求める人であれ、怒りをかき立てる人に気をつけましょう。そのような怒りは、静かに考える態度や慈愛に満ちた気持ちを失わせてしまうのです。

アルマは、神の証人となり、互いに重荷を負い合うことを神と聖約したいと願う人々をモルモン<sup>10</sup>の泉に招きました。この神聖な聖約を実際に交わした者として、わたしたちは道であり、真理であり、命であるイエス・キリストに忠実でなければなりません。

わたしたちはキリストの御名を受けているにもかかわらず、知らず知らずのうちに、人を中傷し、悪口を言い、思い込みで好き嫌いを決めてしまう傾向に陥っていないのでしょうか。互いの考え方や支持政党、あるいは仕事や宗教が違うからと

いて他人を悪者扱いしていないのでしょうか。異なるように思える相手の見解を、時間をかけて理解し、できるかぎり共通の視点に立とうとしているのでしょうか。

大学院時代に、わたしは政治哲学のある著名な学者について論評を書きました。わたしがその学者の考えに同意していないことは、一読すれば明らかでした。指導教授の女性から、論評は悪くはないが、及第点は上げられないと言われました。そして、批判する前にはっきりとした根拠、政治哲学者本人も納得するような根拠を提示しなければならぬと指摘を受けました。このため論評を書き直しました。その哲学者との間で重要な相違点はまだありましたが、彼を以前よりもよく理解し、彼の論拠の弱点とともに長所や優れた面も見つけることができました。このときに学んだ教訓はわたしの人生の様々な面で生かされてきました。

アンドリュー・ジャクソン将軍(訳注——第7代合衆国大統領。元合衆国陸軍大将)はニューオーリンズの戦いのときに、兵士を前にしてこう言いました。「諸君、銃口をもう少し下げて構えようではないか。」わたしたちの中にも、「銃口」をもう少し下げて構える必要のある人が大勢いると思います。これに対して、個人的な、また公の

場での発言は「銃口」を上げて礼儀を正す必要があります。他人の意見を皮肉ったり、他人の考えを誤って伝えたり、他人の動機や人格を不当に非難したりしてはなりません。わたしたちは、主が命じておられるように、正直な人々と賢明な人々、そして善良な人々を、彼らがどこにいても支援する必要があります。そして、「すべての教派や宗派、門派」の人々の中には、「見いだす場所を知らないということだけで〔福音の〕真理を得られずにいる」人々がいることを心に留めなければなりません。<sup>11</sup>中傷し、型にはめ込み、好戦的な文化のただ中にいるからといって、わたしたちは福音の光を隠してよいものでしょうか。

相いれない見解を持つ人々と接するときに、嘲笑したり、皮肉な態度で接したりすることがよくあります。その人自身や考え方を軽蔑するために、当惑させたり傷つけたりします。父リーハイが示現で見た大きく広々とした建物にいた人々の取った典型的な手段です。<sup>12</sup>キリストの兄弟ユダは「『終りの時に、あざける者たちがあらわれて、自分の不信心な欲のままに生活するであろう。』彼らは分派をつくる者、肉に属する者、御霊を持たない者たちである」と言って、警告しました。<sup>13</sup>

嘲笑とよく似ているのが皮肉な態度です。欠点を見つけて暴くときに皮肉な態度がにじみ出ます。そのような態度の人々は、誠実さや正直という美德を疑い、あざ笑うような表情を、それとなく、あるいは公然と浮かべます。イザヤは「悪を行おうと、おりをうかが[い]」、「言葉によって人を罪に定め、町の門でいさめる者をわなにおとしいれ、むなしい言葉をかまえて正しい者をしりぞける」者たちについて述べています。<sup>14</sup> 主は終わりの時に、この点について次のように勧告しておられます。「互いに非難し合うのをやめなさい。……何よりも、完全な平和のきずなである慈愛のきずなを、外套のように身にまといなさい。」<sup>15</sup>

ジョージ・アルバート・スミス大管長はこう述べています。「憎しみ、偏見、不信心、また一部の人が隣人に向ける不親切な態度ほど人類家族にとって有害なものはこの世にありません。」<sup>16</sup> 政治に関してスミス大管長はこう警告しました。「自らの政治上の見解のゆえに、兄弟たちに対して思いやりのない言葉を語っている人がいるとしたら、このことを知っておください。あなたは危険な状況にあります。」<sup>17</sup> 末日の王国の大いなる使命について、スミス大管長はこう勧告しました。「わたしたちが所属している教会は争いを好む教会ではありません。世界に平和を差し出す教会です。世に出て行って他人のあら探しをしたり、理解しないからと言って人々を批判したりするのはわたしたちの本分ではありません。わたしたちの務めは、思いやりと愛の精神をもって、人々の間に出て行き、主がこの終わりの時に明らかにされた真理を伝えることです。」<sup>18</sup>

主はわたしたちに一つの民として特別な使命を課しておられます。いにしえの時代、エノクに言われたように、わたしたちが生きる時代は暗闇の時代であり、義が天から下され、キリストとその贖いの使命について再び証するために真理が地から出て来る時代です。そのメッセージは洪水が押し寄せるように世界に広がり、主の選民は地の四方から集められます。<sup>19</sup> 世界のどこに住んでいても、わたしたち



は主の平安を広める器となるのです。ペテロが述べたように、わたしたちは、神につける民であって、「暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかた」の勝利を宣言することを求められているのです。「あなたがたは、以前は神の民でなかったが、いまは神の民であ[る。]」<sup>20</sup> わたしたちは、攻撃したり、不必要に事を荒立てたりするのが日常化している世に染まってはなりません。主がパウロとモロナイに言われたように、ねたんだり、高慢になったりしてはなりません。すぐにかつとったり、みともない振る舞いをしたりしてはなりません。邪悪でなく、真理を喜びとしてください。わたしたちが示すのはキリストの純粋な愛でなければならないのです。<sup>21</sup>

激しい怒りに満ちあふれる世界にあって、現代の預言者ゴードン・B・ヒンクレイ大管長はこう勧告しています。「さて、これらの危険な時期にあってわたしたちにできること、しなければならないことはたくさんあります。自分たちの理解するままにこの状況が持つ様々な側面について意見を述べることができますが、決して両方の側の様々な国にいる兄弟姉妹に関して、非合法なまたは不適切なことを言ったり行ったりすることのないようにしましょう。政治的な違いによって憎しみや敵意が正当化されることは決してありません。異なる政府や団体に対してどのような忠誠心を持って

いようと、主の民が困難のときにあって互いに友好関係を保つことができるよう、わたしは願っています。」<sup>22</sup>

末日におけるキリストのまことの証人であるわたしたちは、不用意に暗黒に足を踏み入れるのではなく、またペテロの述べた「近視の者」になるのではなく、思いと言葉と行いにおいてキリストと回復された福音の証の実を結ばせましょう。<sup>23</sup> 神は生きておられます。イエス・キリストは道であり、真理であり、命です。回復の偉大な預言者ジョセフ・スミスは、わたしたちを一個の民として確立し、現在もなお神の預言者ゴードン・B・ヒンクレイ大管長によって導かれるように道を備えた器となりました。キリストの純粋な愛を日々新たに、主とともに世の暗黒を乗り越えようではありませんか。

イエス・キリストの御名によって、アーメン。

#### 注

1. 2ニーファイ28:20; 教義と聖約10:24参照
2. 1ニーファイ16:37-38参照
3. アルマ48:1
4. モーセ7:46, 60
5. 教義と聖約115:6参照
6. モーセ7:33
7. モロナイ9:18-19
8. ヤコブの手紙1:19-20
9. モーセ7:31参照
10. モーサヤ18:8-10参照
11. 教義と聖約123:12。98:10も参照
12. 1ニーファイ8:26-33; 11:36参照
13. ユダ1:18-19
14. イザヤ29:20-21
15. 教義と聖約88:124-125
16. *Sayings of a Saint*, アリス・K・チェース(1952年), 30
17. Conference Report, 1914年4月, 12
18. Conference Report, 1935年4月, 44
19. モーセ7:62参照
20. 1ペテロ2:9-10
21. 1コリント13:4-6; モロナイ7:45-47
22. 「戦争と平和」『リアホナ』2003年5月号, 80
23. 2ペテロ1:8-9参照

# 祈りと信仰, 家族—— 永遠の幸福への 踏み石

七十人  
H・ブルース・ストゥーキ

**天の御父はわたしたちの謙虚な祈りを聞いて、わたしたちが求める慰めと導きを与えてくださいます。**



**19**46年のクリスマスの翌日、ユタ州サンタクララでのことです。9歳の幼いわたしは、クリスマスにもらった新しい弓矢のセットを持って家の裏にある丘に行き、ウサギ狩りをしてもらいたいかと母に聞きました。もう午後遅い時間でしたが、わたしはうまく説き伏せ、母はしぶしぶながら、暗くなる前には帰るという条件で行くのを許してくれました。

わたしは丘の頂上に着くと矢を弓につがえ、ウサギが、やぶの根元に生えているまだ青く柔らかい草を食べているのが見えないかと、セージや低木の中を足音を忍ばせて歩き始めました。

大きな野ウサギがセージの茂みから目

の前に飛び出して来たときはびっくりしました。弓を引いて急いでねらいを定め、素早く逃げて行くウサギを目がけて矢を放ちました。けれども矢は外れ、ウサギは前方にあるやぶの中に消えてしまいました。

わたしは矢を拾おうと、矢が落ちたと思われる所に行ってみました。弓に5本しか付いていなかった矢をなくしたくなかったのです。矢があると思った所を探しましたが、ありませんでした。この辺りに落ちたに違いないという場所をくまなく探しましたが、見つかりません。

太陽は西に沈もうとしていました。あと30分もすれば暗くなることは分かっていました。家に帰るのに遅れたくはありませんでした。茂みの下を丹念に見て、矢が落ちたはずの場所をもう一度探しました。でも、見つかりません。

時間はなくなっていく。暗くなるまでに家に着くにはもう帰らなくてはなりません。矢が見つかるよう助けを求めて天の御父に祈ることにしました。ひざまずいて、目を閉じ、天の御父に祈りました。新しい矢をなくしたくないことを伝え、矢を見つけれられる所を示してください、と願いました。

ひざまずいたまま目を開けました。すると、すぐ前にあるセージの茂みの、ちょうど目の高さにある枝の陰から、矢の羽の

色が見えています。わたしは矢をつかむと、家に向かって走りだしました。そして、暗くなる直前に家に着いたのです。

この特別な経験は決して忘れないでしょう。天の御父はわたしの祈りにこたえてくださったのです。自分のために助けを求めて御父に祈った初めての経験でした。そして、御父は助けてくださいました。あの夕方、天の御父に信仰を持ち、御父を信頼することを学びました。

助けが必要なときには、たとえそれが幼い世間知らずの少年にとっての一大事であっても、天の御父は祈りを聞いて、愛をもってわたしたちが求める導きを与えてくださるのです。

救い主イエス・キリストは言われました。「あなたは謙遜けんそんでありなさい。そうすれば、主なるあなたの神は手を引いてあなたを導き、あなたの祈りに答えを与えるであろう。」<sup>1</sup>

ヤコブは聖文で次のように教えています。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず、惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。

ただ、疑わないで、信仰をもって願い求めなさい。」<sup>2</sup>

ジェームズ・E・ファウスト副管長はこう教えました。「心からの熱い祈りは双方向のコミュニケーションです。人を癒す水のように流れて主の御霊みたまをもたらし、試練や艱難かんなん、痛み、苦しみに直面するすべての人を助ける大きな働きをなすのです。」<sup>3</sup>

祈りは、道に置いてある踏み石の一つで、その道を進むと永遠の命に導かれて天の御父と一緒になれます。

永遠の救いの鍵かぎを握るもう一つの踏み石は信仰です。

救い主はまた言われました。「与えられると信じて、わたしの名によって父に求めるものは、正当であれば、見よ、何でもあなたがたに与えられる。」<sup>4</sup>

30年前、ニュージーランドのへき地で実際にあった話です。風の吹きすさぶチャタム諸島は、クライストチャーチから東に800キロほど離れた南太平洋上に位置し

ています。当時そこは人口650人で、孤立した厳しい環境に、何事にもへこたれないで工夫をする人々が暮らしていました。地域医療の責任を担っていたのは、資格を取ったばかりで経験のない若い医師でした。

65キロ離れた島の反対側で、シェーンという8歳の男の子が頭に重傷を負いました。シェーンはおんぼろ車の後部座席に乗せられ、沼地を渡り、海岸沿いの道を通って、ベッドが4床しかない診療所へ運び込まれました。意識はありません。

若い医師には経験もなく、手術道具も最低限しかない状態で、こうした場合の治療の準備はできていませんでした。シェーンは危篤でした。明らかに頭蓋骨が骨折して内部が出血しています。血が固まって脳を圧迫すればもはや致命的です。医師は脳の手術を見たことさえありませんでした。しかし、早急にこの難しい手術をしなければ、少年が死ぬのを見守るしかないと分かっていました。

血液の提供者を呼び集め、血液型を調べ、麻酔の準備をしなければなりません。旧式のレントゲン機は壊れていたため、レントゲン写真も撮れません。

ウェリントンと電話のやり取りが始まりました。心配でたまらない若い医師に向けて、ウェリントンにいる神経外科医が、現場の状況を推測しながら非常に細かな手術の手順を指示しようというのです。

シェーンの母親が祈りました。医師が祈り、看護師が祈り、医師の妻が祈りました。

一刻を争う中、責任の分担が必要でした。警察官が麻酔を担当し、看護師が手術助手となりました。辺りが暗くなり、電気スタンドの明かりの下で手術は始まりました。

緊張の中で行われた最初の切開では出血は認められず、出血箇所を突き止めるためにシェーンの小さな頭蓋骨を何か所か切開する必要がありました。指示と確認を求める電話を何度も神経外科医にかけ、その助言どおり正確に執刀されていきました。不安と緊迫のうちに6時間が過ぎて手術は終了し、脳の透き間へ流れてい



た大量の出血は止まりました。手術は成功でした。混乱に代わって平安が訪れたのです。すでに真夜中になっていました。

その若い医師には子供がいました。彼

は自分の家族や享受している祝福に思いをはせました。人生で受けた主のたくさんの<sup>あな</sup>憐れみを感謝し、特にこの半日ずっと、慰め主がいてくださったことを感謝し

ました。切羽詰ったときに、人知をはるかに超えた主の知識を惜しみなく与えてくださった、目に見えない専門家である御方に感謝しました。

絶望的な状況で生死を分けるときに、若く未熟な医師が奇跡を起こして、主の御前に貴い少年の命を保つことができるように、主は導きと力を与えられたのです。

助けを求めて祈り、主と神経外科医に頼るという信仰をもって、最も困難な状況の下で奇跡を起こしたその若い医師は、ニール・ハチソンといます。彼は現在、ニュージーランドのオークランドにあるイーストコースト・バイズワードで監督として奉仕しています。

ハチソン監督はわたしにこう話してくれました。「2年前クライストチャーチで、シェーンとその父親に久々に会うという、すばらしい機会がありました。1976年のあの日以来です。シェーンは電気技師として独立しており、長時間に及んだ手術の後遺症はまったくありませんでした。大変好感の持てる若者で、この世と次の世を隔てる幕がいかに薄いかを考えないではいられません。」

「キリストは言われた。『あなたがたはわたしを信じるならば、わたしの心になうことを何事でも行う力を持つてであろう』と。」<sup>5</sup>

リチャード・G・スコット長老はこう教えました。「信仰を使うために神が定められた原則に従えば、信仰の実を集められることでしょう。その原則[の一つ]は、神を信頼する[ことです]。どんなに難しい状況でも、必要なときには神が喜んで助けてくださることを信頼[します]。』<sup>6</sup>

ロバート・D・ヘイルズ長老はこう証しました。ジョセフ・スミスは、「14歳のときに揺るぎない信仰をもって『神に、願い求めるがよい』という預言者ヤコブの勧めに従いました。ジョセフは将来預言者になる器であったため、父なる神とその御子イエス・キリストが御姿を現し、指示をお与えになりました。』<sup>7</sup>

トーマス・S・モンソン副管長はこう勧めました。「家族でまた個人で主に祈りをさ



さげるとき、主に信仰を持ち、信頼を置くことができますように。……常に祈るよ  
うにという勧告になかなか聞き従えない人が  
いれば、始めるには今が最高の時で  
す。』<sup>8</sup>

単純な願い事をする少年であろうと、  
命の存続にかかわる難題を前にした医師  
であろうと、変わりはありません。天の御  
父はわたしたちの謙虚な祈りを聞いて、  
わたしたちが求める慰めと導きを与えて  
くださいます。

天の御父のおられる家に至る安全な道  
の3番目の踏み石であり、欠かせないもの  
は家族です。

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は次のよ  
うに教えました。「家族は神聖です。家族  
は天の御父によって定められました。家  
族はすべての関係の中で最も神聖なもの  
です。家族という組織を通してのみ、主  
の目的は達成できるのです。』<sup>9</sup>

ヒンクレイ大管長はこう続けています。  
「家庭とは、妻を何にも勝る祝福と考え、  
そのように妻と接する夫がいる場である

と、わたしは考えています。同様に、夫を  
自分の心のよりどころ、励み、慰め、そし  
て守り手と考える妻がいる場であり、ま  
た、父母に対して尊敬と感謝の気持ちを  
抱く子供たちがいて、子供を祝福と考え、  
子供の養育が真剣に取り組むべき偉大な  
責任であることを理解する親がいる場  
であると考えています。』<sup>10</sup>

家族の神聖さの中でも互いに抱く愛と  
忠誠心、尊敬、支えは、悪魔が放つ火の  
矢からわたしたちを守る神聖な盾とな  
ると、わたしは心から信じています。キリス  
トの愛に満ちた家族の輪の中では平安と  
幸福が見いだされ、取り巻かれているこ  
の世の悪から守られます。

家族はともに結び固められて、家族とし  
て天の両親のみもとへ帰ることのできる  
単位であり、媒体であると証します。みも  
とではわたしたちは永遠の喜びと幸福を  
身をもって知るのです。

祈りと信仰、家族という踏み石を使っ  
て、天の御父のみもとに帰って永遠の命  
を得るための備えができ、またそのため  
の助けが得られるように、そして、わた  
したちがこの地上にいる目的が首尾よく達  
成されるようにと、心から祈っています。  
イエス・キリストの御名により、アーメン。

#### 注

1. 教義と聖約112:10
2. ヤコブの手紙1:5-6
3. Conference Report, 1976年10月, 83
4. 3ニーファイ18:20
5. モロナイ7:33
6. 「不確かで困難な時代に支えとなる信仰の力」『リアホナ』2003年5月号, 76 参照
7. 「主イエス・キリストへの信仰を見いだす」『リアホナ』2004年11月号, 73 参照
8. Conference Report, 1964年, 130
9. Teachings of Gordon B. Hinckley [1997年], 206
10. Teachings of Gordon B. Hinckley, 205

# 豊かな人生

十二使徒定員会

ジョセフ・B・ワースリン

**生ける水を心ゆくまで飲み、心を愛で満たして、人生を最高傑作にすれば、豊かな人生を手に入れることができます。**



1956年のある雪の多い日、ハリー・レイヤーは馬の競りに遅れて到着しました。良い馬には皆買手が付いていました。売れ残った馬は、どれもくたびれた年寄り馬で、企業が引き取って屠殺することになっていました。

ハリーはニューヨークの女子校の馬術教師でした。帰ろうとしたハリーの目が1頭の馬に引き付けられました。それは、脚にひどい傷がある、みすばらしい<sup>あしげ</sup>葦毛の去勢馬でした。重い馬具で擦れてできた傷跡は、この馬のそれまでの生活の厳しさを物語っていました。しかし、ハリーはこの馬に何か引かれるものを感じ、80ドルで買うことにしたのです。

ハリーの子供たちが初めてこの馬を見た日は雪が降っていて、馬の背中ら積もった雪を見た子供たちは、この馬をスノーマンと名付けました。

丹精込めて世話をすると、おとなしくて

信頼の置ける馬となりました。安定していて、ほかの馬とは違って物に動じない性格のスノーマンは生徒に人気がありました。このように急成長を遂げたスノーマンは、元値の倍の値段で近所の人に買取られました。

しかし、スノーマンは何度も飼い主の牧場を逃げ出しては、隣のジャガイモ畑に入り込んだり、ハリーの家に戻ったりしました。境にある柵を飛び越えて逃げているようなのですが、とても信じられませんでした。スノーマンが<sup>さく</sup>倒木より高いものを飛び越える姿をハリーは見たことがなかったからです。

そのうち、我慢し切れなくなった飼い主が、ハリーに馬を引き取るよう求めました。

ハリーの長年の夢は、障害競技の優勝馬を育てることでした。ある程度の成功は収めましたが、最高レベルの競技で競うには、競技用に交配した血統書付きの馬を買わなければなりません。しかし、血統の良い馬を買うなど、ハリーにはとうてい望めないことでした。

スノーマンはすでに年老いていました。ハリーが買ったときにはすでに8歳で、しかもひどい扱いを受けていました。しかし、どうもスノーマンは跳躍好きのようなので、ハリーはスノーマンの能力を試してみることになりました。

その結果、ハリーはスノーマンを競技に出すことも夢ではないと思うようになりました。

1958年、ハリーはスノーマンを初めて競技に出場させました。すばらしい血統の優勝馬に交じたスノーマンは、かな

り場違いに見えました。ほかの畜産家たちはスノーマンを「ノミのたかった葦毛」と呼びました。

しかしその日、信じられない、すばらしいことが起こりました。

スノーマンが優勝したのです!

その後、スノーマンは出場する競技という競技に優勝していきました。

競技で優勝する度に、観衆はスノーマンに喝采を送りました。スノーマンは、平凡な馬も非凡であり得るという象徴になりました。テレビにも出ました。スノーマンの話は童話や本にもなりました。

スノーマンが優勝記録を伸ばしているとき、ある買い手が元農耕馬のこの老馬に10万ドルの高値を付けましたが、ハリーは売ろうとはしませんでした。そして、1958年と1959年には「最優秀馬」に選ばれ、一時は安値で売られそうになったこの葦毛の去勢馬は、障害競技の殿堂入りを果たしたのです。<sup>1</sup>

多くの人にとって、スノーマンは単なる馬以上の存在でした。わたしたち一人一人の内にある、未開発の隠れた可能性を象徴していたからです。

わたしは今まで、様々な階層のすばらしい人々に出会ってきました。その中には、富める人も貧しい人も、有名な人も無名の人、賢明な人もそうでない人もいました。

深い悲しみを抱えて苦しんでいる人もいれば、自信に満ちた内なる平安にあふれている人もいました。どうしてもぬぐい切れないつらさに押しつぶされそうな人もいれば、喜びに満ちあふれ輝いている人もいました。また、挫折しているように見える人もいれば、困難に直面しつつも落胆と絶望を乗り越えた人もいました。

自分は幸福だと言う人は現実をよく把握していない人だと、冗談混じりに言う人たちがいます。

わたしはそうは思いません。

生きることに喜びを感じ、幸福に満ちている人を大勢知っています。

豊かな人生を送っている人を大勢知っています。

その理由も知っています。



今日は、わたしの知っている最も幸福な人たちに共通する特質を幾つか挙げます。これらの特質には平凡な暮らしを、豊かですばらしいものに変える力があるからです。

第1に、彼らは生ける水を満ちるほど飲んでます。

救い主はこう教えられました。「わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、……永遠の命に至る水が、わきあがるであろう。」<sup>2</sup>

イエス・キリストの福音は、それを完全に理解し受け入れたときに、打ち砕かれた心を癒し、人生に意義を与え、愛する人たちを永遠に結び固め、崇高な喜びをもたらしてくれます。

ロレンゾ・スノー大管長はこう言いました。「主が福音を賜ったのは、わたしたちが生涯嘆き悲しんで日々を過ごすためではありません。」<sup>3</sup>

イエス・キリストの福音は、嘆きと憂うつ宗教ではありません。先祖から受け継いだのは、希望と喜びの宗教です。束縛の福音でなく、自由の福音なのです。

福音を完全に受け入れるとは、驚異の念で満たされ、強く啓発されて生きること

です。「わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである」と主は明言されました。<sup>4</sup>

皆さんは平安を求めていますか。

生ける水を満ちるほど飲んでください。

皆さんは救いを求めていますか。平安、理解、喜びを求めていますか。

それなら生ける水を満ちるほど飲んでください。

豊かな人生とは霊的なものです。イエス・キリストの福音に接しながら、それを豊かに味わおうとせず、わずかに口を付けるだけの人が多すぎます。そういう人たちは、集会に出席したり、聖文を少し読んでみたり、決まり切った祈りを繰り返して形を取り繕っていますが、心は福音から遠く離れています。正直になれば、自分が聖霊の驚異的で心地よい訪れより、近所のうわさ話や株式の動向、そして好きなテレビ番組のストーリー展開の方に興味があることを認めざるを得ないでしょう。

この生ける水を飲み、心の内で永遠の命に至る泉がわき上がるのを経験したいと思いませんか。

そう望むなら、恐れることはありません。

心から信じてください。神の御子に対する揺るぎない信仰を育て、熱心に祈り求めてください。いつでも主について考えてください。弱さを捨ててください。聖さと調和をもって、戒めに従って生きてください。

イエス・キリストの福音という生ける水を満ちるまで飲んでください。

豊かな人生を送っている人に共通する第2の特質は、心が愛で満ちていることです。

愛は福音の本質であり、すべての戒めの中で最も大切なものです。救い主は、すべての戒めと預言者の教えは愛に懸かっていると教えられました。<sup>5</sup> 使徒パウロは、「律法の全体は、『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ』というこの一句に尽きる」と書いています。<sup>6</sup>

小さな親切にどれほどの力があるかを知ることはほとんどありません。預言者ジョセフ・スミスは思いやりと愛の模範でした。ある日、8人のアフリカ系アメリカ人がノーブーの預言者の家を訪れました。神の預言者や聖徒たちと合流するために、ニューヨーク州バッファローから1,300キロも旅をして来た人たちでした。彼ら

は自由な身でしたが、脱走した奴隷と間違えられないように身を隠しながら旅を続けなければなりません。寒さと困難に耐え、靴も靴下も履きつぶして、ついにはジョセフの市ノブーまで素足で歩いてきたのです。預言者は、ようやく到着した彼らを招き入れ、一人一人に落ち着き先を見つけてやりました。

しかし、ジェーンという名の少女だけは行く当てがなく、どうしたらいいかわからずに泣いていました。

「泣いてはいけないよ」とジョセフは言いました。そしてエマの方に目をやると、「この子は家がないって言うけれど、ここを自分の家にしたらいいと思わないかい?」と言いました。

エマは賛成し、その日からジェーンはジョセフの家族の一員となったのです。

ジョセフの殉教後、ジェーンは開拓者の一団に加わってユタへの長い道のりを旅し、何年もしてからこう語りました。今でも時々「夜中に目が覚めると、ジョセフ兄弟とエマ姉妹がどれほど優しくしてくれたかを思い出すことがあります。ジョセフ・スミスほど立派な人に会ったことはありません。」<sup>7</sup>

ゴードン・B・シンクレイ大管長は言いました。人を高め奉仕するために手を差し伸べる人は「それまで知らなかった……幸せを味わうようになるでしょう。この世には助けを必要としている人が、実に、実に、実に大勢います。ほんとうに大勢いるのです。兄弟姉妹の皆さん、人をむしばむ利己的な態度を改め、人々に奉仕するために、今よりも少し努力しようではありませんか。」<sup>8</sup>

皆が忙しく過ごしています。人に手を差し伸べられない言い訳を見つけるのは簡単ですが、そのような言い訳は、次のようなその欠席願いを出した少年のように、天の御父にはむなしく響くでしょう。「先生、3月30日から34日まで息子を休ませてください。」

他人はどうなろうと自分の利己的な願望を追及することに専念する人たちは、最後には、そうした喜びが浅はかで、人生はむなしいものだったと気づくはずで



そうしたある人物の墓石に次のような言葉が刻まれていました。

「自らのためにだけ生き、何も思いやることなく、不浄の財をなした守銭奴、ここに眠る。今彼がどこで、どうしているのか、知る者も気にかける者もない。」<sup>9</sup>

人が最も幸福を感じるのは、無私のおと奉仕で人とつながっているときです。J・ルーベン・クラーク副管長はこう教えました。「人の苦しみを軽くすることほど、祝福と喜びと幸福感をもたらすものではありません。」<sup>10</sup>

豊かな人生を送る人に共通する第3の特質は、天の御父の助けを得て、人生を最高傑作にすることです。

年齢や状況あるいは能力に関係なく、わたしたちは皆、非凡な人生を歩むことができます。

ダビデは自分を羊飼いと見ていましたが、主はイスラエルの王として見ておられました。エジプトに売られたヨセフは奴隷の身でしたが、主は聖見者として見ておられました。モルモンは兵士の武具を

身に着けていましたが、主は預言者として見ておられたのです。

わたしたちは、不死不滅で愛に満ちた全能の御父の息子と娘です。わたしたちは地のちりから造られただけでなく、永遠に生きる要素も受け継いでいるのです。皆が自分には想像もつかない可能性を秘めています。

使徒パウロはこう書いています。「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮うかびもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた。」<sup>11</sup>

それでは、これほど多くの人が自分を役立たずで年を取った葦毛の馬としか見ないのはなぜでしょうか。わたしたちは皆、自分の中に大きな可能性を秘めています。愛に満ちた永遠の御父が下さった賜物たまものです。その賜物をどうするかは自分次第なのです。

心を尽くし、勢力と思いと力を尽くして、主を愛してください。偉大で高潔な大義に名を連ねてください。家庭を神聖で堅固な避難所にしてください。教会の召しを尊んで大なるものとし、福音の教あかしえで思いを満たしてください。証を強め、人々に手を差し伸べてください。

自分の人生を最高傑作にしてください。

兄弟姉妹の皆さん、豊かな人生はだれかが作ってくれるものではありません。注文したら午後には配達されるというたぐいのものではないのです。困難や悲しみなしには得られません。

豊かな人生は信仰、希望、慈愛を通して得られます。そして困難や悲しみにあっても、「苦しみのだん底そこにあって、ついに自分の中に不屈の精神を見いだした」<sup>12</sup>と言った作家の言葉を理解できる人に与えられます。

豊かな人生はゴールではありません。むしろ、ずっと昔に始まり、決して終わることのないすばらしい旅だと言った方がよいでしょう。

イエス・キリストの福音が与える大きな慰めの一つは、この地上の生活が永遠の観点から見てほんの一瞬にすぎないという知識です。この世の旅路の始まりにいても終わりにいても、この生涯はほんの一步、

それも小さな一歩にすぎないのです。

豊かな人生の追求は、死すべきこの世に限られたものではありません。この先に無限に続く永遠の観点からしか、ほんとうの目的を完全に理解することはできないのです。

兄弟姉妹の皆さん、豊かな人生を追い求めるときに、わたしたちは自分の行く末を見いだします。

優勝馬の素質を持ちながら、年老いて売りに出された馬の物語から分かるように、わたしたちには神から授かった偉大な賜物があります。試してみなければ、どうしてその能力が分かるでしょう。生ける水を心ゆくまで飲み、心を愛で満たして、人生を最高傑作にすれば、豊かな人生を手に入れることができます。

それが実現することをイエス・キリストの御名によってへりくだり祈ります。アーメン。

注

1. ラザフォード・ジョージ・モントゴメリー、*Snowman* (1962年)
2. ヨハネ4:14
3. *The Teachings of Lorenzo Snow*, クライド・J・ウィリアムズ(1996年), 61
4. ヨハネ10:10
5. マタイ22:40
6. ガラテヤ5:14
7. ニール・K・ニューエル, "Joseph Smith Moments: Stranger in Nauvoo," *Church News*, 2005年12月31日付, 16
8. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年), 597
9. オバート・C・タナー, *Christ's Ideals for Living* (Sunday School manual, 1955年), 266で引用
10. "Fundamentals of the Church Welfare Plan," *Church News*, 1946年3月2日付, 9
11. 1コリント2:9
12. アルバート・カマス, ジョン・パーレット編, *Familiar Quotations*, 第16版(1980年), 732

# また会う日まで

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

**受けた勧めを心に留め、生活の中で常に実践できますように。**



神を高揚し、信仰を強めてくれました。

これから、それぞれの家に帰り、仕事に戻るとき、わたしたちが受けた勧めを心に留め、生活の中で常に実践できますように。敵対する者の策略に対抗して堅く立つことができますように。教会で様々な責任を果たすことが重荷とならず、むしろそこから喜びと満足を得られますように。夫と妻、親と子として、互いに愛と親切、尊敬の念をもってともに暮らしていくことができますように。

神の祝福がわたしの愛する兄弟姉妹である皆さんのうえにありますように。わたしの愛と証、そして祝福を皆さんに残すとともに、また会う日まで主がわたしたち一人一人とともにいてくださるよう祈ります。天の祝福が皆さんのうえに注がれますように、イエス・キリストの聖なる御名により、へりくだり祈ります。アーメン。

**兄** 兄弟姉妹の皆さん、この偉大な大会を閉じるに当たり、最後に一言お伝えます。音楽は崇高で、祈りは靈感に満ちていました。説教と証はわたしたちの心に感動を与え、精



# 「あなたがたの掲げる光とは、わたしである。」

中央若い女性会長  
スーザン・W・タナー

**わたしたち一人一人の(キリストのような)小さな行いはかすかな光であっても、ともに光を放つとき、際立った影響を周囲に与えることができます。**



初等協会のころに作ったクロスステッチ刺しゅうのデザインに「わたしは家庭に福音の光を輝かせます」という言葉がありました。わたしは「その光とは何だろう」と考えました。その最良の答えは、イエス・キリスト御自身がニーファイ人に教えられた言葉の中にあります。「あなたがたの光を掲げて、世の人々に輝き渡るようにしなさい。」そしてこう説かれました。「あなたがたの掲げる光とは、わたしである。すなわち、わたしが行うのをあなたがたが見た、その行いである。」(3ニーファイ18:24, 強調付加)

ニーファイの民は、キリストのどのような行

いを見たのでしょうか。同じことをわたしも家庭で行えるでしょうか。もう少しとどまっていたきたいと民が願ったとき、キリストは哀れみに満たされ、少しの間そこにとどまられました。そして彼らを癒し、ともに祈り、教え、涙を流し、幼い子供たちを一人一人祝福し、食べ物を与え、導きを与え、いつも主を覚えることを聖約できるように聖餐を分け与えられました。民の中で主が教え導かれたのは、互いに教え合い、思いやること、また天の御父が御自分に命じられた業を成し遂げることについてでした。御自分のことはまったく考えておられませんでした。このことを学んだときから、キリストのような無私の行いを通して家庭に主の光を輝かせるための、わたしの生涯にわたる努力が始まりました。

それは決して容易ではありません。家庭や家族を立派に整えても褒めてくれる人はだれもいません。「立って光を放ち……あなたがたの光[を]もろもろの国民のための旗と」する方が、あなたの光をあなた自身の家族のための旗とするよりも、むしろ簡単かもしれません(教義と聖約115:5, 強調付加)。家庭で善い行いをして光を輝かせても、ほかの人の目には留まらないこともあるでしょう。褒められたい、注目を浴びたいと望むのは、人として自然なことです。ヒラマンは息子のニーファイとリーハイ

に、その名前の由来である祖先のなした善い行いをするようにと教えました。しかし、「誇るためにこれらのことを行うのではなく、……宝を自分自身のために天に蓄えるため」でなければならないと教えました(ヒラマン5:8)。人から称賛されようとして、善い行いをするべきではありません。

チャールズ・ディケンズの小説『荒涼館』に登場するジェリビー夫人には、ディケンズの言葉を借りれば、「望遠鏡的博愛」という欠点があります。遠い地で苦しむ部族を助けるのに夢中なあまり、慰めを求めて母親のもとに来る、みすばらしい格好をした、傷だらけの我が子をないがしろにしていました。ジェリビー夫人は、偉大なことを行って人の目に留まりたかったのです(チャールズ・ディケンズ『荒涼館』筑摩世界文学大系、青木雄三、小池滋訳、26-34参照)。家族を助けるよりも、ハリケーン被災者を助けたいと思う人もいるかもしれませんが、どちらも大切ですが、家族を助けることはわたしたちの第一の、そして永遠の責任です。「両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも霊的にも必要なものを与え……るといふ神聖な義務があります。」(『家族——世界への宣言』『リアホナ』2004年10月号、49)

わたしの心に浮かぶもう一人の登場人物は、ディケンズのジェリビー夫人とは対照的なドロシアという女性です。わたしの好きな『ミドルマーチ』という小説の主人公ですが、小説の最後で、家族や友人に対する目立たない無私の行いのゆえに人々の心に刻まれます。小説にはこう書かれています。「彼女の豊かなひととなりは、……この地上にはほとんど名をとどめない幾つもの小さな流れとなって終った。しかし彼女の存在が周囲の者に与えた影響は、数えきれぬほど広くゆきわたっている。なぜなら、この世界の善が増大するのは、一部は歴史に記録をとどめない行為によるからである。そして世の中が、お互いにとって、思ったほど悪くないのは、その半ばは、人目につかないところで誠実な一生を送り、死後は訪れる人もない墓に眠る人が少なくないからである。」(ジョージ・エリオット『ミドルマーチ』講談社世界文学全集、工



藤好美, 淀川郁子訳, 446)

この備えの時期に、若い女性の皆さんは、多くの時間を学校や仕事で費やし、栄誉や賞、メダルやトロフィーを受けるでしょう。そのような時期から若い母親としての務めに移行すると、人から称賛を受けることはほとんどなくなります。しかしこのときほど、家族の肉体的、精神的、霊的な多くの必要を日々満たすために、キリストのような無私の心で日々仕えられる機会はありません。皆さんは人から見られるためではなく、力と光に満ちた男性や女性を育てるために、福音の光を家庭に輝かせるのです。

家庭は人から見えない場所であるため、残念ながら、ないがしろにされがちです。家庭にあってわたしたちは、いちばん大切な存在である家族に対して、最低の自分をさらけ出してしまふことがあります。14歳のときの、ある朝の出来事を今でもはっきり覚えています。登校前、機嫌が悪かったわたしは、両親と兄弟たちに対してひどい態度を執りました。それなのに、いっ

たん家を出ると、バスの運転手には丁寧な言葉遣いをし、周りの友達には愛想よく接していたのです。自分の行いに裏表があるのを痛感し、良心がひどく痛みました。先生に、家に電話したいので少し席を外してもよいか尋ねてから、わたしは母に電話し、自分のしたことを謝りました。そして、どんなに愛し、感謝しているかを告げ、それを示すためにもっと努力すると約束しました。

家庭においてたった1日でも争わずに過ごすというのは、ほとんどの人にとって難しいことです。ニーファイ人の国では、200年の間、完全な社会が続きました。「地の面にはまったく争いがなく、]また、ねたみや紛争、騒動、みだらな行い、偽り、殺人もなく、どのような好色もなく、神の手によって造られたすべての人の中で、彼ら以上に幸せな民は確かにあり得ない」いほどでした(4ニーファイ1:15-16)。

大変難しい問題を抱えた家族に生まれてくる人もいますし、たとえ良い家庭であっても、様々な困難は付き物です。わたした

ちは家庭にあって、キリストがニーファイの民に対してされた行いをしなければなりません。家族への宣言で教えられているように「家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。」(「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 49)ですから皆さんは、家族が罪や怒り、ねたみや争いを克服できるように、光となって助けなければならないのです。わたしたちは、ともに祈り、互いのために涙を流し、傷を癒し合い、無私の愛を注ぎ、仕え合うことができます。

今、若い女性の皆さんは、現在の家庭や家族に福音の光を輝かせることによって、将来の家庭や家族を強める備えをしているのです。小さく、取るに足りないと思える事柄を行うことによって、大きな違いを生み出せるのです。ニュージーランドの洞窟に住むツチボタルという羽虫の幼虫について読んだことがあります。一匹一匹の光はかすかなものですが、何百万という数のツチボタルが洞窟内に光を放つとき、文

字が読めるほどの明るさになるそうです。同様に、わたしたち一人一人の小さな行いはかすかな光であっても、ともに光を放つとき、際立った影響を周囲に与えることができるのです。今晚、聖歌隊の歌う「もっとかがやこう」という次の歌を聞くと、皆さんは自分たちの小さな光を輝かせる大切さを思い出すことでしょう。

「わたしの光は信仰と祈り  
小さいけれども明るく光る

『光を隠すな』主の戒め  
世の光となれ 光り輝け

もっともっと輝こう  
信仰、祈り、世に輝こう  
（「もっとかがやこう」『子供の歌集』96）

わたしたちは様々な方法で光り輝くことができます。幼い弟をあやしたり、妹と一緒に学校のカフェテリアで食事をしたり、家の仕事を手伝ったり、けんかをしないようにしたり、お互いの成功を喜んだり、おやつを分け合ったり、病気の家族を世話したり、夜、「ありがとう」と書いたメモを親の枕もとに置いたり、嫌な思いをさせられても赦したり、証をしたりなど、いろいろなことができるのです。

ルーマニアで、最近教会に入ったばかりのラルカという17歳の若い女性に会いました。彼女のバプテスマはとても幸福な時間となりました。何よりも、家族全員が出席してくれたからです。そのとき、母親と妹は御霊を感じ、宣教師から福音を学びたいと願いました。しかし、父親はこのなじみのない宗教に家族全員を取られてしまうのではないかと心配し、許可を与えてくれませんでした。しばらくの間、家族の関係はぎくしゃくしていました。でもラルカは自分がイエス・キリストの御名を受けるといふバプテスマの聖約を交わしたことをいつも覚えていて、イエスならされるだろうと思うことを家庭の中で行い、キリストの光を掲げる努力をしました。平和を作り出す人になり、模範を示し、教師となり、癒す人となったのです。



最終的に、父親は心を和らげ、家族が福音を学ぶのを許し、家族はバプテスマを受けました。そしてついに、父親自身がバプテスマを受け、家族全員が喜びに包まれました。彼は自分のバプテスマ会で、しばらくの間、家族の中で二つの心臓が別々のリズムで動いているような時期があったけれども、今では互いに和合し、愛し合って結ばれた心を持ち、一つの信仰と一つのバプテスマの下にありますと語りました。そして、それまで助けてくれた宣教師や会員への感謝を伝えた後、娘のラルカに特別な感謝を述べました。困難な時期にあっても、彼女がキリストに似た者として、平和を作り出す人、癒す人、教師、模範、そして光であり続けてくれたおかげで、家族全員がイエス・キリストの教会に入ることができたと結びました。

皆さんはそれぞれ光を持っています。今晚こうして皆さんの顔を見ると、また世界各地で出会った皆さんの顔を思い出すと、「天使の顔のように」光り輝いて見えます（ヒラマン5:36）。ニーファイとリーハイ、そしてヒラマンの息子たちの顔は、罪の暗闇に覆われた世にあって、「非常に輝いて」いました（ヒラマン5:36）。二人と同じ光を

得たいと思った周りの人々は「我々を覆っているこの暗黒の雲が離れ去るようにするには、我々はどうすればよいのか」と尋ねました（ヒラマン5:40）。彼らは、悔い改めてイエス・キリストに信仰を持つように教えられました。そのとおりにすると、暗黒の雲は離れ去り、火の柱に包み込まれ、聖なる御霊による言いようのない喜びに満たされました（ヒラマン5:43-45参照）。

皆さんがだれかの前で光を輝かせれば、その人もさらに大きな光を見いだすことでしょう。家族以上に、皆さんの光を必要としている人がいるでしょうか。皆さんはすばらしい若い女性であり、顔は光り輝いています。皆さんは家庭にあっても教会にあっても現在の力であり、未来の希望なのです。

イエス・キリストはわたしたちが掲げるべき光です。「イエス・キリストは世の光、命、そして希望です。イエス・キリストの道は、この世においては幸福に、後の世においては永遠の命に至る道です。」（「生けるキリスト——使徒たちの証」『リアホナ』2000年4月号、2-3）わたしたち一人一人が主の光によって輝くことができますように、イエス・キリストの御名によって、アーメン。

# 高貴な生得権

中央若い女性第一副会長  
ジュリー・B・ベック

**祝福師の祝福を受けるために備え、祝福文を学ぶことで、自分の人生と地上での使命をさらに知ることができます。**



この1年、若い女性の顔に神の光が輝いているのを何度も見ました。ブラジルからドミニカ共和国までの各地で行われた大きなディボーションでその光を見ました。開拓者の道で手車を引いた若い女性にも光を見ました。キャンプでともに歌い、ゲームをしたときにも、皆さんの光を見ました。メキシコからユタ州までの神殿のバプテスマ室にいた少女たちの顔にも、神の輝く光を見ました。その光はわたしや多くの人に、影響を与えてくれました。皆さんに光があるのは、皆さんが文字どおり神の霊の娘であり、「昇栄した両親の子供」<sup>1</sup>、神の属性と永遠の行く末を持つ存在<sup>2</sup>だからです。皆さんは霊の世界で、天の両親から最初の教えを受けました。<sup>3</sup>そして「試し」を受けるために地上へ送られて来たのです。<sup>4</sup>

皆さんは今、人生で最も重要な事柄の幾つかについて決断をする年齢に達して

います。自分が何者であるかについて、あまりに多くの誤ったメッセージを浴びせられているので、皆さんにはもっと導きが必要です。祝福師の祝福を受けるために備え、祝福文を学ぶことで、自分の人生と地上での使命、そして皆さんの内にある光についてさらに知ることができます。

祝福師の祝福について学び始めるのに若すぎるといことはありません。<sup>5</sup>わたしは、人を混乱させる、誤った世の教えにひどく影響される前に祝福師の祝福を受けることができ、よかったと思います。その経験から、主がわたしを御存じで、愛しておられるという慰めと確信を得ました。その日以来、人に好かれることよりも、永遠についてもっと考えるようになりました。

若い女性の時期は、よく備えて祝福師の祝福を受ける時期です。監督と両親は、受ける時期を決めるのを助けてくれます。受ける年齢も、準備の度合いも、個人によって違うからです。<sup>6</sup>祝福師の祝福の意味と目的を理解し、主の業を行いたいと心から望むようになったとき、皆さんは祝福を受けるのに十分成熟しているはずですが、<sup>7</sup>何か特別な方法で資格を満たさなければならぬと考えて、祝福を受ける機会を必要以上に延ばす人もいます。神殿のバプテスマの推薦状を受ける資格を備えているのであれば、祝福師の祝福を受ける資格があると言えます。祝福を受けるに当たって断食と祈りによって祝福師の祝福に備えるのは大切なことです。そうすることにより、霊がへりくだり、素直になります。個人的な備えはとても大切です。

祝福を受けることは、永遠をかいま見る

ことです。祝福には皆さんの永遠の目的と旅路が述べられるので、将来経験することを思い描くことができます。祝福師は、祝福を与える瞬間まで、皆さんにどのような祝福が授けられるのか知りません。祝福師は語るべきことを知るために御霊に頼るのです。祝福の中で、イスラエルの家における自分の先祖が告げられます。それは皆さんが属する家系です。この皆さんの家系は、部族と呼ばれることもあります。どの部族をさかのぼっても、偉大な族長アブラハムにたどり着きます。皆さんの血統は重要です。アブラハムを通して世のすべての国民が祝福されるという約束を、アブラハムと同様に、皆さんも受けていることを意味するからです。<sup>8</sup>

皆さんの血統は「血縁関係」です。<sup>9</sup>血統により、皆さんは文字どおり、高貴な生得権を持った「預言者たちの子孫」<sup>10</sup>となります。そういう理由で、皆さんはよく、高貴な生得権を持つ若人<sup>11</sup>、「選ばれた種族」<sup>12</sup>と呼ばれるのです。

ある友人がこう言いました。「16歳で教会に入ってから、自分が何者であるか分かり始めました。祝福師の祝福を受け、イスラエルの家に属していると告げられました。当時はその意味が分かりませんでした。何年もして、預言者の血統を直接引くという大きな特権が理解できるようになりました。それは貴い受け継ぎであり、最高の境遇なのです。」

アブラハムと同様に、祝福を求めるなら、大いなる知識を得、主から導きを受けることができます。<sup>13</sup>祝福師の祝福を受けると、主が皆さんの名前を知っておられることが理解できます。教会初期の多くの人はジョセフ・スミスに、自分の人生に対する明確な指針を主に伺ってほしいと頼みました。そのような啓示の幾つかが現在、教義と聖約に収められています。初期の聖徒たちのように、祝福師の祝福を自分の「個人の聖典」<sup>14</sup>と考えるとよいでしょう。祝福文を神聖に保ち、身近な家族以外には公表しないようにするのです。<sup>15</sup>

祝福師は、皆さんの人生がどのようなもので、どのように展開していくのかをあらかじめ見て、それに関連する祝福を与えるこ

とができます。ある若い女性が次のように言ったとおりです。「祝福文には、わたしについて、両親さえ知らない事柄が述べられているんです。」ジェームズ・E・ファウスト副管長は、祝福師の祝福はすべて、神から靈感された個人的な啓示であると言いました。祝福師の祝福は、導く星、心の錨（いかり）です。能力や可能性を明らかにしてくれます。<sup>16</sup>

パッカー長老は、祝福文は「[わたしたちの]可能性という本から取った一節」<sup>17</sup>であると述べています。モンソン副管長は、「光の羅針盤」<sup>18</sup>であると述べています。

祝福師の祝福は、人生で起こることすべてを預言するものではありません。行くべき道について深い理解を得るためには、聖霊の導きを求め、その導きに従う必要があります。福音の教えは、進むべき道と、与えられている特権を完全に理解できるようにいつも助けてくれます。例えば、結婚するとか、子供を持つといったことが祝福師の祝福に述べられていなくても、福音の教えから、神殿で結婚し、子供をもうけるべきだということが分かります。個人的に道が示されなくても、自分で福音の教えに従うことができます。

高校生のとき、テストの結果を見た進路指導の先生から、わたしは大学の勉強に付いていけないだろうと言われました。でも、よく祈って祝福師の祝福を深く読むと、生涯の目標をあきらめてはいけなと感じました。自分に対する主の計画を知っていたおかげで、心に希望を抱き、自信をもって進むことができました。結局、大学でも良い成績を修め、卒業証書を取得しました。自分が何者で、何をなすべきか知っていると、教育、就職、結婚という大切な決断がより簡単にできるようになります。家族、友人、そのほかあらゆる場面で、光を輝かすことがいっそうたやすくなります。

救い主はおっしゃいました。「まことに、まことに、あなたがたに言う。わたしはあなたがたをこの民の光とする。丘の上にある町は隠れることができない。

見よ、人はろうそくに火をつけて灯の下に置くだろうか。そのようなことはせず、燭台（しょくたい）に立てて、家の中のすべてのものを



フィリピンで大会の衛星放送を視聴する4人の若い女性。

照らす。

だから、あなたがたの光をこの民の前に輝かせて、この民があなたがたの善い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」<sup>19</sup>

自分が何者であり、人生で何をすべきかが分かると、自分の光を隠したいとは思わないはずです。

例えば、日の栄えの可能性を持つ自分の価値を下げるような服を着て、「自分の光を隠し」たいとは思わないでしょう。日の栄えの両親の娘として、ふさわしくない下品な言葉遣いや話はせず、入れ墨（タトゥー）やその他の方法で体を傷つけることもしないはずです。有害物質や中毒を引き起こすような物質を体に取り入れて、自分の生得権を軽んじたくはないでしょう。品格を下げるような不道徳な行為を見たり、行ったりしたくないでしょう。高貴な受け継ぎを持つという自覚をもって、すべて称賛に値すること、徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあること<sup>20</sup>を求めてください。

皆さんは、約束された大切な子供です。主の律法と戒めを守り、主の御声に耳を傾けるなら、主は皆さんに誉れと良き名と栄えとを与えて、すべての国民に勝るものとする約束されました。<sup>21</sup> 祝福師の祝福は、必要なときには、生活を変えるように

鼓舞してくれます。その中には、忠実さを通してのみ受けられる約束もあります。忠実でなければ、祝福を当てにすることはできません。

時々、自分は間違いを犯してしまったので、祝福師の祝福を受けるにふさわしくない、とか、約束された祝福を得る資格を失った、などと考えてしまう若い女性がいます。忘れないでください。主イエス・キリストの教えの土台は、主御自身と、罪を贖（あがな）う主の力を信じることです。「サタンはあなたが悔い改めはできないと考えるように望んでいますが、それは絶対に真実ではありません。」<sup>22</sup> 毎週、聖餐（せいさん）を受けるとき、わたしたちは生活を改善しようと決意します。わたしたちの救い主イエス・キリストにさらに似た、新しい人になるように、常に努力しなければなりません。使徒パウロはそれを「新しいのちに生きる」<sup>23</sup> ことだと言っています。高貴な生得権を失いかねない深刻な過ちを犯してしまったら、進んで監督のところに行き、悲しみの涙を流してください。監督は悔い改めを助けてくれる友であり、永遠の裁き主である救い主の代わりに地上で裁きを行うために任命されています。悔い改めは、インクの跡さえ消せる強力な消しゴムです。簡単ではありませんが、可能なのです。<sup>24</sup> 主は言っ



ておられます。「自分の罪を悔い改めた者は赦され、主なるわたしはもうそれを思い起こさない。」<sup>25</sup>

若い女性の皆さん、祝福師の祝福は皆さんに高貴な生得権があることを教えてくれます。年を取るとともに、祝福文の中の預言が人生を形作っていることに気づくでしょう。主は重要で胸躍ることを皆さんにさせようとしておられます。今こそ「あなたがたの光がもろもろの国民のための旗となるために、立って光を放つ」<sup>26</sup> 時です。「だから、あなたがたの光をこの民の前に輝かせて、この民があなたがたの善い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」<sup>27</sup> イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. ブルース・R・マッコンキー, *Mormon Doctrine*, 第2版(1966年), 589
2. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 49参照
3. 教義と聖約138:56参照
4. アブラハム 3:25。『聖句ガイド』「選び

の項, 54参照

5. “Teaching Children about Patriarchal Blessings.” *Ensign*, 1987年10月号, 54参照。スペンサー・W・キンボール大管長は以下のように教えている。「皆さんは子供たちを〔祝福師の祝福を受けるために〕備えさせていますか。それとも、何の備えもなしにただ受けさせますか。……どの母親も、子供が2、3歳になったら祝福師の祝福について教え始めてください。そうすれば子供たちはその時が来たときに備えができていることでしょう。」(Conference Report, イギリス・マンチェスター地域大会, 1976年6月, 23)
6. エズラ・タフト・ベンソン, *Sermons and Writings of President Ezra Taft Benson* (2003), 149参照
7. *Ensign*, 1987年10月号, 55参照
8. 創世26:4;アブラハム2:9参照
9. ジョセフ・フィールディング・スミス『救いの教義』ブルース・R・マッコンキー編, 全3巻, 第3巻, 222, 223参照
10. 3 ニーファイ20:25

11. 「山のごとく強く」『賛美歌』167番(訳注——「わが受けし権利よ」の部分に相当する英語の歌詞の直訳は「高貴な生得権を持つ若人よ」となる)
12. 1ペテロ2:9
13. アブラハム1:2-3参照
14. *Sermons and Writings of President Ezra Taft Benson*, 149
15. 『真理を守る——福音の参考資料』96
16. ジェームズ・E・ファウスト「神権の祝福」『聖徒の道』1996年1月号, 67-68参照
17. 「ステーク祝福師」『リアホナ』2002年11月号, 44
18. 「祝福師の祝福は光の羅針盤」『聖徒の道』1987年1月号, 70
19. 3 ニーファイ12:14-16
20. 信仰箇条1:13参照
21. 申命26:17-19参照
22. 『若人の強さのために』30
23. ローマ6:4
24. 『真理を守る』63-67参照
25. 教義と聖約 58:42
26. 教義と聖約115:5
27. 3 ニーファイ12:16

# 顔に表れてくる

中央若い女性第二副会長  
イレイン・S・ダルトン

**皆さんは主の光を映し出すのです。皆さんの模範には地上で強力な善の影響があるでしょう。**



今日ほど地上に住むのに良い時代はありません。今の「日々は、決して忘れられないもの」<sup>1</sup>です。今は皆さんのすばらしい時代です。皆さんはすばらしいです。皆さんの目をのぞいて輝く表情を見ると、これほど困難に満ちた世の中にあっても皆さんがとても善良で、力強く、純粋であることに驚きます。わたしが皆さんと同じ年のころに祖父が聞かせてくれたある詩を思い出します。このような詩です。

毎日をどう過ごしているのか、  
口で伝える必要はない  
働いているのか遊んでいるのか、  
口で伝える必要はない  
信頼できる確かなしるしが告げている——  
口で伝える必要はない、  
顔に表れてくるのだから……

神とその無限の恵みに近くあるなら  
口で伝える必要はない、  
顔に表れてくるのだから<sup>2</sup>

この簡単な詩を決して忘れたことはありません。そして、自分も顔に表れるような生活をしようと常に努めてきました。皆さんも同じように努力していることが分かります。皆さんの顔に光があるのは、天の御父と御子イエス・キリストと聖約を交わし、その聖約を守り、聖霊を常に伴侶とするのにふさわしい選択をしてきたからです。皆さん一人一人を称賛します。

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は皆さんについてこのように語っています。「皆さんは、教会の歴史上最も優れた[そして最も力強い]世代です」<sup>3</sup> 皆さんは問題も機会もいばばん大きい今の時代に地上に来るために取っておかれました。皆さんが義の指導者となり、「いつでも、どのようなことについても、どのような所においても」<sup>4</sup> 証人として立つことを、主は確信しておられたと思います。実際、皆さんは未来の「明るく輝く希望」<sup>5</sup> であると言えるでしょう。

使徒ペテロが語った次の言葉は皆さんにも当てはまると思います。「あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである」<sup>6</sup>

この光は、救い主の光です。イエス・キリストの回復された福音の光です。皆さんは福音に従って生活する様子を通して主の光を映し出すのです。皆さんの模範に

は地上で強力な善の影響があるでしょう。「立って光を放ちなさい。それは、あなたがたの光がもろもろの国民のための旗となるためであ[る。]」<sup>7</sup> この召しは皆さん一人一人に向けられたものです。より高い標準に従って生活するという召しです。指導者になる、つまり品位や純潔、慎み深さ、聖さの面で先に立つ者になるという召しです。この光を人々に伝えるという召しです。今こそ「立って光を放[つ]」時なのです。

一人の義にかなった若い女性が世界を変えることができるでしょうか。「できます」と響き渡る声がその答えです。聖霊は皆さんの導き手であり、「あなたがたがなすべきことをすべてあなたがたに示される」でしょう。<sup>8</sup> 毎日の祈り、毎日の聖文研究、毎日の従順な行い、毎日の奉仕など、毎日変わらず行う事柄によって皆さんは先に立つ者になり、模範になるのです。これらを行うなら、救い主に近づき、ますます救い主のようになることができます。モーセやアピナダイなどの忠実な指導者と同様に、<sup>9</sup> 皆さんの顔は信仰の輝きを放つでしょう。皆さんは「あなたがたの顔に神の面影を受けていますか」<sup>10</sup> 「立って光を放ちなさい。」

1856年に、メアリーはイギリスで家族と一緒に13歳で教会に加わり、アメリカへ渡って、マーティン手車隊に入りました。メアリーは個人の記録の中で困難な旅についてつづっています。幼い弟と兄を亡くしたこと、自分の足が凍傷になったこと、そして最終的には幼い妹と母親が死んだことです。メアリーがソルトレーク盆地に着くと、医師に足の指を切断されましたが、預言者ブリガム・ヤングからは、それ以上足は切断されないという約束を受けました。メアリーはこうつづいています。「ある日、わたしは座って……泣いていました。足の痛みに悩まされていると、小柄な老婦人が扉をたたきました。ここ数日間、自分を必要としている人がここにいると感じていたのです。……わたしは老婦人に足を見せました。……老婦人はこう言いました。『そうね。主の助けがあれば、きっと切断せずに済むでしょう。』老婦人は湿布



を作ったわたしの足にはり、毎日医者が帰った後に来ては湿布を換えてくれました。3か月後に、足はよくなりました。』<sup>11</sup>

しかし、メアリーはあまりにも長い間いすに座っていたために、足の<sup>じんたい</sup>靭帯が固くなり、両足とも伸ばすことができなくなっていました。父親は娘の姿を見て、涙を流しました。油を塗り込んで足を伸ばそうとしましたが、無駄でした。ある日、父親はこう言いました。「メアリー、おまえのためになる計画を思いついたよ。壁に柵を取り付けるから、父さんが仕事に行っている間、その柵に届くように背伸びをしてみてください。」メアリーはそれから数日間、朝から晩まで努力して、ついに柵に手が届くようになったと記しています。すると、父親は柵を少し高くしました。この繰り返しから3か月続き、メアリーは日々の熱意によって足がまっすぐになり、再び歩けるようになりました。<sup>12</sup>

皆さんもメアリー・ゴープルのように、指導者がわたしたちのためにわずかに高く取り付けてくれた柵に届くように背伸びをしていると思います。理想の掲げられた高さまで手が届くなら、自信をもって将来に向かって歩んで行けるでしょう。

西アフリカの若い女性は、聖霊の輝く光を顔から放っています。そして『若人の強

さのために』の冊子にある標準に添って生活し、聖霊に導かれ、指導者になる準備をしています。主を愛し、生活に主の光があることに感謝しています。この若い女性の中には、証をわたしに伝えるために3時間歩いて来てくれた人もいました。彼女たちのおかげで、わたしの人生は変わりました。

南アメリカを訪れたときには、若い女性と指導者が「イエス様のように」<sup>13</sup>を歌ってくれました。ただ言葉どおりに歌っただけではなく、イエスになることを心から願っていました。アジアやインドでは、若い女性は信仰や慎み深い服装、純潔の模範です。目は輝き、幸福にあふれています。イギリスのイングランドやアイルランド、ウェールズに住む若い女性は、学校で真理と義を守っています。ますます暗くなる世の中であって、彼女たちは重要な存在です。皆さんの中には家族や学校で自分一人が会員の人もいるでしょう。皆さんは重要な存在です。皆さんは義にかなった道にあって先に立って歩んでいるのです。

最近のことですが、青少年の人たちとエンサインピークの頂上に登りました。そこからソルトレークの町並みと神殿を眺めながら、大勢の人が福音のために払った犠牲について語りました。それから一人一

人の青少年が旗を広げました。それぞれの旗には世界に向けて自分が語りたい事柄の象徴、すなわちこの末日において自分が支持したいものが描かれていました。一人一人の決意と証を聞いて、胸が高鳴りました。それから全員で「山の上に」<sup>14</sup>を歌い、青少年は一斉に歓声を上げました。「イスラエル、万歳!」<sup>15</sup> 今日、同じ言葉を繰り返します。皆さん、万歳! 皆さんが躊躇せず「あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるように」<sup>16</sup>なることを願っています。今後、皆さんにも高く自分の旗を掲げてほしいと思います。皆さんが義にあって先に立つなら、イザヤ書のこの聖句が成就するでしょう。「見よ、……あなたの上には主が……のぼられ、主の栄光があなたの上にあられる。」<sup>17</sup> 主の栄光は識別され、「もろもろの国は、あなたの光に來、もろもろの王は、のぼるあなたの輝きに來る」でしょう。<sup>18</sup>

世の人が皆さんを見て、このように聞く目が目に浮かんできます。「あなたは何者なのですか。光を放っているこの若い女性はだれですか。なぜそれほど幸せなのですか。これほど混乱している世の中であって、なぜ進むべき方向が分かるのですか。」すると、皆さんは立ち上がって確信をもってこう言うでしょう。「わたしたちは天父の娘です。天父はわたしたちを愛し、わたしたちも天父を愛しています。……わたしたちは『いつでも、どのようなことについても、どのような所においても、……神の証人になることを望んで』います。』<sup>19</sup>

わたしもモロナイの呼びかけと同じ呼びかけを皆さんにします。「目を覚まして……立ち上がりなさい。おお、シオンの娘よ。」<sup>20</sup> モロナイは皆さんを見ました。この時代を見ました。今は皆さんの時代です。「立って光を放[つ]」という決心は皆さんに任されています。皆さんが目覚まして立ち上がる時、皆さんの光が国々の標準になるだけでなく、皆さんの標準が国々の光になることを信じています。皆さんは任命されています。前世で卓越した者となったのです。皆さんの血統には聖約と約束が伴って

います。忠実な者、すなわちアブラハム、イサク、ヤコブの霊的な特質を受け継いでいます。皆さんの性質そのものが神聖な受け継ぎと行く末を表しています。女性に生まれたのは偶然ではありません。人々の先に立ち、自分の神聖な可能性に応じて立ち上がるときに、皆さんの神聖な性質は高められるでしょう。救い主に近づいてください。主は生きておられます。主は光であり、命であり、世の希望です。主は皆さんを導き、皆さんに光を放つ勇気を与えてくださるでしょう。祖父から教わったように、「神とその無限の恵みに近くあるなら、口で伝える必要はない、顔に表れてくるの」です。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. ジョセフ・スミス—歴史1:58, 章末の注, 78-80
2. 作者不詳
3. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年), 714
4. モーサヤ18:9
5. ゴードン・B・ヒンクレー「力強く確固として立つ」『世界指導者訓練集会』2004年1月10日, 20参照
6. 1ペテロ2:9
7. 教義と聖約115:5
8. 2ニーファイ32:5
9. 出エジプト34:30; モーサヤ13:5; マタイ17:1-2参照
10. アルマ5:14
11. ユージン・イングランド, "Utah, a Centennial Celebration," *This People*, 1996年春号, 21
12. イングランド, *This People*, 21-22参照
13. 『子供の歌集』40-41
14. 『賛美歌』2番
15. オーソン・F・ホイットニー, *Life of Heber C. Kimball* (1945年), 266参照
16. マタイ5:16
17. イザヤ60:2
18. イザヤ60:3
19. 若い女性のテーマ; モーサヤ18:9も参照
20. モロナイ10:31

# あなたがたの光—— もろもろの 国民のための旗

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

**今、皆さんの顔に光が輝いています。この光は主から来るものであり、皆さんがその光を放つことで、周囲の人々とともに皆さんも祝福を得ることができます。**



**今**夜、親愛なる預言者、ゴードン・B・ヒンクレー大管長、そして敬愛するトーマス・S・モンソン副管長とともに参加でき、大変光栄です。そして、若い女性の皆さんやすばらしい指導者の方々と時間を共にできる特権をうれしく思います。

若い女性の皆さんは偉大な約束を受けています。皆さんには、人生において成し遂げるべきことがたくさんあります。家庭、教会、地域社会において、偉大な働きをすることでしょう。これらすべてを行うためには、キリストへの証と信仰とを培い、この世

のものではなく、キリストに思いを向ける必要があります。皆さんは神の義にかなった娘であり、神は皆さんを愛し、助けたいと思っておられます。

この大会のテーマはとても皆さんに似つかわしいものです。「立てて光を放ちなさい。それは、あなたがたの光がもろもろの国民のための旗となるためであ[る。]」<sup>1</sup>今、皆さんの顔に光が輝いています。この光は主から来るものであり、皆さんがその光を放つことで、周囲の人々とともに皆さんも祝福を得ることができます。

この同じ光が、ミズーリ州インディペンデンスで、暗く寒々とした日に、15歳の少女メアリー・エリザベス・ロリンズと、13歳の妹キャロラインを導きました。1833年のこと、怒り狂った暴徒たちが、インディペンデンスの通りを叫びながら進み、家々を焼き払い、破壊行為を繰り返していました。やがて、印刷機の置いてあるウィリアム・W・フェルプス兄弟の家へと向かいました。フェルプス兄弟は預言者ジョセフ・スミスが受けた啓示を印刷していました。暴徒は印刷機を破壊し、残骸を通りに投げ捨てました。そして、刷り上がった紙を後で燃やそうと、外に積み上げておきました。

メアリー・エリザベスとキャロラインは、この暴挙に震えながら柵のそばでじっと身

を潜めていました。しかし、メアリー・エリザベスは恐れながらも、この貴重な印刷物をじっと見詰めていました。二人は、隠れていた場所から駆け出すと、積まれた聖文をかき集め、一心に走りました。暴徒の何人かが気づき、止まれと叫びました。しかし、勇敢な少女たちは広いトウモロコシ畑に飛び込み、息を切らしながら地面に倒れ込みました。そして、背の高いトウモロコシの間に印刷物を注意深く置き、その上に覆いかぶさりました。無慈悲な暴徒の一团は、必死になって少女たちを捜しました。すぐそばまで来たりもしましたが、結局見つけれませんでした。ついに捜すのをあきらめ、再び町を荒らしに戻って行きました。

わたしは主の光が、メアリー・エリザベスとキャロラインのすべきことや、安全に隠れる場所を指し示したと信じています。姉妹たち、その光は皆さんを照らし、ロリンズ家の姉と妹と同じように、皆さんを導いてくれます。そして、危険が迫ったときに、皆さんを安全に守ってくれます。主はこのように約束なさいました。「わたしはまた、……あなたがたの光となろう。あなたがたがわたしの命を守るならば、わたしはあなたがたの前に道を備えよう。……そして、あなたがたを導いているのがわたしであることを知るであろう。」<sup>2</sup>

愛する若い友人の皆さん、救い主への証を培うなら、二人のロリンズ姉妹と同様、皆さんも悪を断ち切ることができます。そして、そうすることによって、霊的な強さが増し加えられます。霊性を養って、その甘い実を味わってください。

皆さんは、自分のすることは自分で決めたいと感じることでしょ。しかし、そうするときには永遠の見地から選択するようにしてください。皆さんは年を重ね、経験や信仰によって、良い選択、そして正しい選択をすることができるようになるでしょう。若い皆さんが、どこで正しい答えを見いだせばよいのかを理解しているとわたしは信じています。モルモンはこう言っています。「あなたがたは判断する際に用いる光、すなわちキリストの光について知っている。」<sup>3</sup>

数年前、わたしはジャンヌ・ダルクが1431



年に火あぶりの刑に処せられた場所を訪れました。歴史上の偉大な英雄の一人に数えられる若きジャンヌ・ダルクは、福音が回復されるずっと以前の暗黒時代にあつて、フランス軍の旗頭となりました。ジャンヌにはキリストの光がともにあり、その促しに従って世を変えていく勇気が備わっていたのです。ジャンヌは貧しい農家の少女で読み書きができませんでしたが、聡明な女性でした。長きにわたるイギリスとの戦争により、国は疲弊し、分断されていました。彼女は17歳にして自分の人生に目的があることに気づき、虐げられた祖国の解放に力を尽くそうと決意して、家を後にしました。もちろん多くの人は彼女の考えを鼻で笑い、少し気が変になっていると考えました。しかし、やがて彼女は人々の心を動かしました。人々は彼女に馬を用意し、随行して、王と謁見させたのです。

若きフランスの王、シャルル7世はジャンヌのうわさを耳にし、彼女を試すことにしました。王は兵士の間に紛れ込み、自分の王座には信頼の置ける仲間を座らせました。ジャンヌは部屋に入ると、王座に座る男にはほとんど目もくれず、すぐにシャルル本人の方へと歩み寄り、ひざまずいて王としてあがめました。王は深い感銘を受け、彼女に1万2,000人の兵士の指揮権を授けました。しばらくの間、フランス兵は従

うことを拒みましたが、彼女に従う人が皆手柄を立て、従わない人がことごとく失敗するのを目の当たりにするうちに、ジャンヌを指揮官として受け入れるようになりました。

白いよろいに身を包み、自分の旗をためかせたジャンヌ・ダルクは、それまで攻撃されていたオルレアンオルレアンの町を1429年に解放し、その他4つの戦いでイギリスを打ち破ります。2度まで負傷しましたが、ともに回復し、戦闘へと戻って行きました。彼女は、戦いにあつてあたかも軍事の天才のような采配をふるいました。彼女はランスの町へと行進し、シャルルの戴冠式が行われている間、手に剣と旗を持ってその場に立ちました。ジャンヌはパリの戦いで戦いましたが、コンピエーニュでイギリスの同盟軍に捕縛されてしまいます。その後、1万6,000フランでイギリスに売り渡され、監禁され異端者として裁判を受けます。そして1431年、火あぶりの刑に処せられました。

悲しい終わりを迎えましたが、それはジャンヌの偉大さを損なうものではありません。彼女は、わたしたちが個人として同じように受けている導きに従う強さを持っていました。主は、預言者ジョセフ・スミスに次のように告げておられました。「わたし〔は〕世に来るすべての人を照らすまことの光である。」<sup>4</sup>

15世紀の若い女性から見ると、ジャンヌ・ダルクは随分と違っていました。姉妹の皆さん、この時代にあつてほかの人たちと違うことを恥ずかしいと思わないでください。教会の標準を守るために人と違っていなければならないこともあるでしょう。もう一度言います。ほかの人たちと違うことを恥ずかしいと思わないでください。できるかぎり善い者となりましょう。大抵の女の子は、友達のすることや服装が気になるものです。仲間を受け入れてもらいたいという気持ちがあるからでしょう。ジャンヌ・ダルクは自分の友達が何をするかには気を留めませんでした。そうではなく、自分が何をすべきかを考えていました。

今日の社会では、多くの人が自分の失敗を人のせいにしがちです。しかし、自分



韓国で大会の衛星放送に出席した若い女性。

の行動の責任を引き受ける人たちが、自分の欠点や失敗をほかの人のせいにする人たちよりも成功していることを、わたしは目にしてきました。

わたしたちの内にある光を輝かせる方法は幾らでもあります。単にほほえむことですらそうです。最近、アメリカの北西部に住んでいる男性の記事を読みました。彼はかつて、あるバス停の前を通過して車で通勤していました。そこでスクールバスを待つ子供たちの中で、一人の女の子が目にとまるようになりました。雨が降っていても、彼の車が近づくと、女の子はいつも笑顔で手を振りました。そこにはこう書いてありました。「その女の子はすわりと背が高く、見たところ13歳ぐらいでした。歯の矯正用のブリッジが、車のライトに反射してきらきらしていました。」彼女の親しみを込めた行いは、彼の一日に力を与えるもので、彼はそれを楽しみにするようになりました。

男性の名前はハンキンズさんといいます。シェリルという、バス停の女の子と同じぐらいの年齢の娘がいました。ある日シェリルは、地元の教会の活動に参加してもいいかと両親に尋ねました。近所のビッキーが誘ってくれたのです。活動はMIAでした。若い女性の活動の前身です。シェリル

はMIAに喜んで参加し、その後しばらくして両親に、ビッキーがモルモン教徒だと告げました。それから間もなく、シェリルは学校から帰ると、ビッキーが教会の話をするために二人の男性、要するに宣教師を家に派遣したと両親に伝えました。

長老たちが到着し、モルモン書とジョセフ・スミスについて教えました。そして福音の回復について証を述べました。ハンキンズ家族はみんなでこの新しい聖典を読むようになり、すぐにこの書物に夢中になりました。やがてハンキンズさんはビッキーに直面しました。何と、バス停で何度も見かけた女の子、あのほほえんでいた女の子だったのです。こうして、彼と家族二人のバプテスマ会に、ビッキーも参加しました。

ビッキーの行いや、ほかの若人たちの行いから、ハンキンズ兄弟姉妹は「伝道の最大の可能性は教会の青少年にある」と確信するようになりました。ハンキンズ兄弟姉妹はその後、宣教師として奉仕をしました。青少年からの紹介と、良い模範を頼りにしていました。雨が降ってしようとバス停で毎日ほほえみかけてくれたビッキーが、彼らの生活を永遠に変えたのです。<sup>5</sup>

皆さん一人一人は、たとえばほほえみかけるだけであっても、だれかの友達になる

ことができます。ビッキーのように、心の中の太陽のような光を顔に輝かせることができます。使徒ヨハネはこう書いています。「一人の女が太陽を着て、足の下に月を踏[む。]」<sup>6</sup> 同じように、若い女性の皆さんも、光を放つ人になることができます。救い主の10人のおとめのたとえで、<sup>7</sup> 若い女性それぞれが明かりを手にしていました。このたとえが、現世的なものどと靈的なものの両面を指していることは明らかです。油は店で買えますが、買うことのできない靈的な油は、日々の善い行いを通してしか手に入られません。

このたとえには、花婿を待つ10人の若い女性に起きたことが書かれています。花婿は、だれも予想しなかった、夜も遅い時間に到着します。それは真夜中で、思慮の浅い5人は油を切らしてしまっていました。皆さんは、思慮深い5人のおとめがほかの5人になぜ油を分け与えなかったのかと疑問に思うかもしれませんが。これは自己中心的ということではありません。靈的な備えは、簡単に分かち合えないのです。なぜなら、わたしたちは毎日の生活で一滴ずつランプを満たしていくからです。

故スパンサー・W・キンボール大管長は何年前に、この油の滴しぼくについてこう述べました。



「福音を明るく燃やし続ける油があります。一つは家族の祈りという油です。わたしたちを明るく照らし、元気づけてくれるものですが、真夜中に手に入れることはできません。1滴や2滴では、明かりを長く燃やせません。……

もう一つの油は、断食という油です。主の大なる日のために、前日の夜半から生活を整え始めるのではもう遅いのです。

夜中に手に入れられないもう一つの油は、絶対に欠かせない奉仕という油です。この貴重な油は、病気の人を見舞い、助けの手を差し伸べることでたまっていきます。……

お金持ちも貧乏な人も、病人も健康な人も、すべての人が必要とする油があります。それで燃える光は明るく、使う度に勢いを増します。使うほどに大きくなるのです。日中には簡単に買えますが、夜中には買えません。それは什分の一<sup>じゅうぶん</sup>という油です。

もう一つ……とても大切な油があります。それをほかの油に加えないことには、どのような<sup>しん</sup>芯を燃やすこともできません。それがなければ、明かりは暗くなり、やがては消えてしまいます。それは純潔という油です。』<sup>8</sup>

愛する若い友人の皆さん、モルモン書を読むようにというヒンクレー大管長の勧告に従って、昨年は多くの人が明かりに油を注ぎました。引き続き油をためていくこともできます。聖文を読み、<sup>まいきん</sup>聖餐を取り、毎日祈ることによってです。そのように、ランプに油を注ぐことによって、皆さんの光が「もろもろの国民のための旗」になります。

「立って光を放ちなさい。それは、あなたがたの光がもろもろの国民のための旗となるためである」という主の勧告が、わたしたちの励みになるようにと願っています。愛する姉妹たち、皆さんには大きな機会が待ちうけています。テクノロジーは

さらに進歩していきます。才能を発揮する方法は、自分の期待や想像を超えるほどかもしれません。だれにも試練はやって来ますが、皆さんが正しいと知っていることを行えば、幸福を見いだせます。この世界で自分の居場所を見つけるためには、信仰と決意が必要です。しかし、忍耐強さと主の助けにより、皆さんはそうすることができます。

天の御父の娘である皆さんは、神の神聖な特質を身に付けることができます。<sup>9</sup> その可能性を皆さんは自らの内に生まれながらに持っているのです。皆さん一人一人が、天の御父から特別な賜物<sup>たまもの</sup>を受けていることを証します。この賜物のうち幾つかは、女性特有のもので、賜物をはぐむときに、力が増し加わり、目的が明確になり、そして高潔さが培われます。

この業は神の業です。わたしたちは皆、主の僕<sup>しもべ</sup>です。主はわたしたちを見守っておられます。わたしたちの成功を望んでおられます。たとえ自分の役目がはっきりとは分からず、取るに足りないように思えたとしても、わたしたちには神聖な業の一部が託されているのです。

主のえり抜きの祝福が気高い若い女性のうえにあり、それによって皆さんが支えられ、見守られるようにと願い、祈っています。皆さんが強められ、大いなる者となるように、また、幸福と充足感が与えられるように祝福いたします。これらのことを主イエス・キリストの御名<sup>みな</sup>によって祈ります。アーメン。

#### 注

1. 教義と聖約 115:5
2. 1ニーファイ 17:13
3. モロナイ7:18
4. 教義と聖約93:2
5. C・S・ハンキングズ, "The Bus Stop," *New Era*, 1991年4月号, 26参照
6. ジョセフ・スミス訳黙示12:1
7. マタイ25:1-13参照
8. "Gospel's Rare Oils Difficult to Obtain 'at Midnight,'" *Church News*, 1995年5月13日付, 14.
9. 2ペテロ1:4参照

## わたしたちの時代のための教え

メルキゼデク神権と扶助協会の第4日曜日のレッスンに関する以下の指示は、『教科課程に関する神権指導者と補助組織指導者への情報—2005年—2008年』にある指示に取って代わるものです。

毎月の第4日曜日のメルキゼデク神権と扶助協会の集会は、「わたしたちの時代のための教え」を学ぶ時間です。「わたしたちの時代のための教え」のレッスンは、すべて最新の『リアホナ』

総大会特集号の説教から教えることになります。総大会特集号は毎年5月と11月に出版されています。また、大会の説教は、[www.lds.org](http://www.lds.org) にアクセスすることにより、(多くの言語で)インターネット上で視聴および閲覧することができます。(訳注——日本語版の文字データを閲覧するには [www.ldschurch.jp](http://www.ldschurch.jp) にアクセスし、「ライブラリー」「大会説教」の順にクリックしてください。)

各レッスンは一つまたは複数

の説教を基に準備します。ステーク会長および地方部長は、レッスンに用いる説教を指定することができます。または、この責任を監督および支部長に委任することもできます。これらの神権指導者は、メルキゼデク神権者の兄弟と扶助協会の姉妹が同じ日に同じ説教を学ぶことの意義を強調してください。教師はレッスンの力点をどこに置くかについて指導者に助言を求めてください。

第4日曜日の集会の出席者は、最新の教会機関誌の総大会特集号をよく研究し、クラスに持参するよう奨励されています。ワードおよび支部の指導者は、すべての会員が教会機関誌を読めるよう手配してください。

### 説教に基づいてレッスンを準備する際の提案

- 説教を研究し教えるに当たり、聖なる御霊がともにあるよう祈ってください。教師は時折、大会説教を用いずに、ほかの資料を使ってレッスンを準備したくなることもあるかもしれませんが、しかし、大会説教は承認された教科課程用資料です。教師の務めは、人々が最新の総大会で教えられた福音を学び、それに従って生活できるよう助けることです。
- クラスの生徒の必要に合った原則と教義を探しながら、説

教の内容を検討してください。また、原則と教義を教えるのに役立つ説教から、物語や参照聖句、声明を探してください。

- 原則と教義を教えるための大まかな計画を立ててください。計画には、クラスの生徒が以下のことを行ううえで役立つ質問を取り入れてください。
  - 教えている説教に含まれる原則と教義を探す。
  - その原則と教義の意味について考える。
  - その原則と教義に関する理解や考え、経験、証を分かち合う。
  - その原則と教義を実生活に応用する。
- 『教師、その大いなる召し』の31-32章を復習する。

「何よりも大切なことは、生徒が御霊の影響を受け、福音をいっそうよく理解し、福音の原則を生活の中で応用することを学び、福音に従って生活しようとする決意を強めることです。」(『教師ガイドブック』12)

「わたしたちの時代のための教え」に関するご意見をお寄せください。

あて先——Curriculum Development, 50 East North Temple Street, Room 2420, Salt Lake City, UT 84150-3220, USA  
電子メール——[cur-development@ldschurch.org](mailto:cur-development@ldschurch.org) ■



月	第4日曜日のレッスン教材
2006年5月—10月	『リアホナ』2006年5月号掲載の説教*
2006年11月— 2007年4月	『リアホナ』2006年11月号掲載の説教*

\*これらの説教は、[www.lds.org](http://www.lds.org) にアクセスすることにより、(多くの言語で)インターネット上で視聴および閲覧することができます。(訳注——日本語版の文字データを閲覧するには、[www.ldschurch.jp](http://www.ldschurch.jp) にアクセスし、「ライブラリー」「大会説教」の順にクリックしてください。)

# 指導者の言葉

大会の教えを生活に取り入れるために



部会の後で聖文を研究するブラジル・サンパウロ北ステークの二人の会員。

以下の質問は、子供たち、青少年、そして成人が総大会で語られた教えについて話し合ったり、考えたりするうえで助けになります。(括弧内の番号は、お話の最初のページを表しています。)次ページの物語のリストも役に立ちます。

## 子供たちのために

1. ゴードン・B・シンクレイ大管長が中央幹部として支持されたのは、どれくらい前でしょうか？ また、これまでに総大会で何回くらいお話をしてきましたでしょうか？(ヒント——81ページのゴードン・B・シンクレイ大管長のお話を調べましょう。)
2. リーハイとその家族にとって、リアホナには二つの大切な役割がありました。それは何でしょうか？(ヒント——28ページのデビッド・A・ペドナー長老のお話を調べましょう。)

3. 最近、世界では大きな災害がたくさん起きています。教会はどの国に人道支援をしたでしょうか？(ヒント——8ページのH・デビッド・バートン監督のお話を調べましょう。)世界地図か地球儀を使って、バートン監督が話した場所を探しましょう。

## 青少年のために

4. ゴードン・B・シンクレイ大管長は、わたしたちにもっと親切になり、周りの人々を受け入れるよう教えました。(58)自分と異なる信条や背景を持つ人にどう接したらよいでしょうか？
5. わたしたちの目の前にぶらさがっている「マカフェケ」にはどのようなものがあるでしょうか？ トーマス・S・モンソン副管長は、そのような悪を生活から取り除くよう

教えています。(18)

6. 聖餐を受けることの意味についてL・トム・ベリー長老が語ったことを考えてください。(39)救い主に思いを向けることができるように、聖餐が配られている間、聖餐の賛美歌の歌詞を読むようにしてみましょう。

## 家庭の夕べと個人の学習のために

7. ジョセフ・B・ワースリン長老は、「豊かな人生」を送る人に共通する3つの特質について語りました。(99)その特質とは何でしょうか？ これらの特質によって、あなたの人生はどのように豊かになったでしょうか？ 家族がこの特質を伸ばせるように、あなたには何ができますか？

8. デイター・F・ワークトルフ長老は、初めから終わりを知ることに話しま



した。(42) 試練を通して大きな祝福を得たときのことを思い出してください。初めから終わりがどうなっているか知っていたら、違う行動を取っていたでしょうか？ このことは、今後試練に遭遇するときに、あなたの態度にどのように影響するのでしょうか？

9. H・ブルース・ストゥーキ長老は、天の御父が祈りにこたえてくださった二つの経験について話しています。(96)あなたの祈りがこたえられたときのことに考えてください。その経験を家庭の夕べで紹介するか、日記に記録してはどうでしょうか。■

## 読んで分かち合えるお話

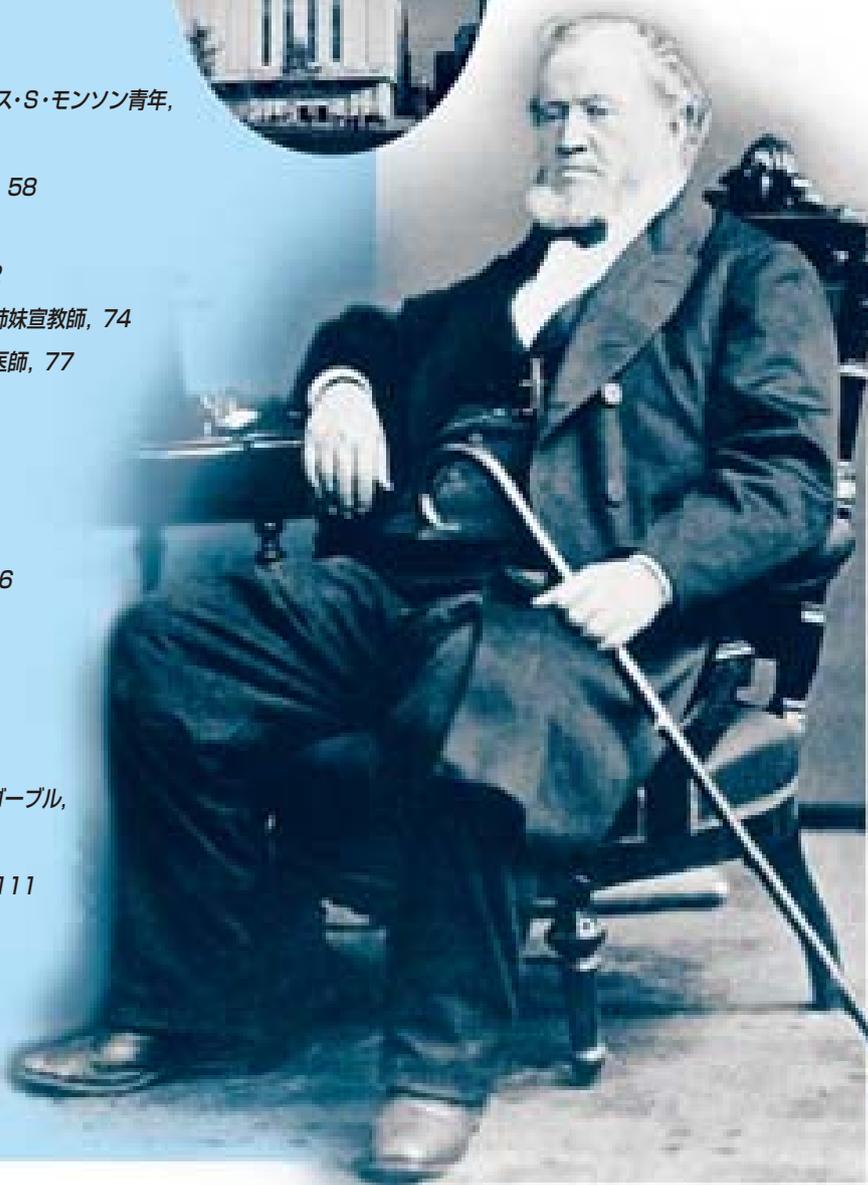
以下のページで始まるお話には、分かち合うことのできる物語や知恵が含まれています。

- タコ漁の仕掛けについて説明したトンガの教師, 18  
忠実に仕えたグスタフ・ワッカーとマルガレーテ・ワッカー夫妻, 18  
ブリガム・ヤングの夢に現れて教えを説いたジョセフ・スミス, 28  
飛行機の中で妻に関心を示さなかった夫, 36  
休暇中であっても安息日を尊んだ人々, 39  
格好悪い自転車で洗濯物を運ぶディーター・F・ウークトドルフ少年, 42  
悔い改めについて学んだ、若くして夫に先立たれた女性, 48  
教会に来ていない会員に話の割り当てを与えたリブランド・リチャーズ長老,  
48  
聖餐の神聖さについて学んだ執事たち, 50  
聖餐の祝福の言葉をうまく言えなかった祭司, 54  
臨終の床から聖餐を配った執事, 54  
メルキゼデク神権を受ける前に長い面接を受けたトーマス・S・モンソン青年,  
54  
教会員から不親切な扱いを受けたが、後に改宗した青年, 58  
W・W・フェルプスを救したジョセフ・スミス, 58  
罪とは拾った石をかばんに入れるようなものである, 72  
教えると約束した女性の家を見つけようとした、年配の姉妹宣教師, 74  
会衆の前で話をしている友人の夢を見たナイジェリアの医師, 77  
インド北部の男性の改宗, 77  
キリストについて証したカンボジアの少年, 77  
タイの女性の改宗, 77  
ニューヨーク州マンハッタン神殿の静けさ, 90  
矢が見つかるよう祈ったH・ブルース・ストゥーキ少年, 96  
脳の手術を施した経験の浅い医師, 96  
落札された馬の優勝, 99  
母親に謝るスーザン・W・タナー, 103  
家族に模範を示したルーマニアの若い女性, 103  
長い時間を経て凍傷にかかった足が癒されたメアリー・ゴープル,  
109  
初期の啓示が印刷された紙を守ったロリンズ家の姉妹, 111  
模範によって家族を改宗に導いた若い女性, 111

「リアホナ」アーノルド・フリーバーグ画。写真/ジェド・A・クラーク、  
クレーク・ダイヤモンド、ローレニ・フォチェット、マシュー・ライアー



左—ニューヨーク州マンハッタン神殿。  
下—ブリガム・ヤング大管長



# アロン神権者および若い女性用 リソースガイド

以下は「アロン神権1」および「若い女性1」のレッスンを補足するための参考資料であり、同レッスンに代わるものではありません。この参考資料の中にある「神への務め」は、小冊子「アロン神権——神への務めを果たす」を表しています。また、「成長するわたし」は、小冊子「若い女性「成長するわたし」」を表しています。本ガイドに掲載された「神への務め」および「成長するわたし」の活動の幾つかは、レッスン中に実施することもできますし、家庭で行うよう定員会の会員またはクラスの生徒に勧めることもできます。教えるためのそのほかのアイデアは「リアホナ」の1ページおよび「教師、その大いなる召し」を参照してください。

レッスンはテキストに掲載されている順番に教えてください。教師用引きには、クリスマスのための特別なレッスンは掲載されていません。クリスマスのための特別なレッスンを教えた場合は、救い主の生涯と使命に焦点を絞った聖句や大会説教、教会機関誌の記事、絵、賛美歌を活用することを検討してください。

インターネットを使用して、英語以外の幾つかの言語でこのリソースガイドを探す場合は、[www.lds.org](http://www.lds.org)にアクセスし、世界地図をクリックした後、言語を選択してください。次に「リアホナ」をクリックし、2006年5月号を選択してください。（訳注——日本語の場合は、[www.ldschurch.jp](http://www.ldschurch.jp)にアクセスし、左の欄の中から「ライブラリー」を選択してください。あとは上と同じように「リアホナ」をクリックし、2006年5月号を選択してください。）

リソースガイドの英語版を閲覧する場合は、[www.lds.org](http://www.lds.org)を開き、「Gospel Library」（「福音図書館」）をクリックしてください。右の欄に最新のリソースガイドへのリンク（「Resource Guides」）があります。

今後のリソースガイドは「リアホナ」

5月号と11月号に掲載されます。幾つかの言語では、[www.lds.org](http://www.lds.org)にアクセスすれば、教会機関誌をインターネット上で閲覧することができます。

## 『若い女性1』 用リソースガイド

2006年に第25課から第49課を教える際に用いる

### 第25課——安息日

ジェフリー・R・ホランド「若い女性の皆さんへ」『リアホナ』2005年11月号、28。テキストに出ている物語を読む代わりに、安息日の服装に関するホランド長老の話を読みます。

ヘレン・ワーカー・ジョーンズ「日曜学校を選びました」『リアホナ』2006年2月号、45。安息日の行いの項の補足として、この話を紹介します。

『成長するわたし』「徳質の体験——『信仰』」の4

### 第26課——証

ゴードン・B・シンクレイ「わたしの証」『リアホナ』2000年7月号、82。個人の証について話し合う際、シンクレイ大管長の証がどのように培われてきたかについて話し合います。

M・ラッセル・バラード「純粋な証」『リアホナ』2004年11月号、40。レッスンに出ている物語の代わりに、この説教に出てくる話から一つ選んで紹介します。

### 第27課——聖文の研究

「聖文研究について語る——ヘンリー・B・アイリング長老へのインタビュー」『リアホナ』2005年7月号、8。「聖典を喜ぶ」の項を教える際に、最後の質問に対するアイリング長老の答えを紹介します。

「質疑応答」『リアホナ』2005年6月号、22。聖文について深く考え、探求するうえで何が不可欠か話し合う際、この聖文研究に関する提案を紹介し

ます。

『成長するわたし』「徳質の体験——『知識』」の4

### 第28課——罪を逃げる

リチャード・G・スコット「邪悪がはびこる世界で正しい生活を送る方法」『リアホナ』2004年5月号、100。レッスンの補足として、この説教に出てくる聖句や物語を紹介します。

### 第29課——キリストの再臨

ダリン・H・オックス「再臨への備え」『リアホナ』2004年5月号、7。再臨のしるしについて話し合う際に、この説教を使うことができます。

### 第30課——奉仕

ジェフリー・R・ホランド「奉仕の召し」『リアホナ』2002年11月号、36。奉仕の模範として、この説教に出てくる忠実な女性の話を幾つか付け加えることを検討します。

メアリー・エレン・スムート「わたしたちは神の御手に使われる者です」『リアホナ』2001年1月号、103。「導入——主の道具」の項を教える際に、主の御手に使われる者となるためのスムート姉妹の勧めを付け加えます。

『成長するわたし』「徳質の体験——『善い行い』」の1、2、5、または6。

### 第31課——グループ活動——賢明なデートの基本

ボイド・K・バック「運転するのはあなた」『リアホナ』2004年6月号、26。キンボール大管長が勧めるデートの指針の補足として、バック長老によるデートの指針を紹介します。

『成長するわたし』「徳質の体験——『選択と責任』」の6

### 第32課——清い生活を送るための自己訓練

ジェームズ・E・ファウスト「自制の力」『リアホナ』2000年7月号、52。レッスンの導入として、ファウスト長老による「自制」の定義を紹介します。

ジェフリー・R・ホランド「個人の清さ」『リアホナ』2000年10月号、40。ホランド長老が挙げている清くあるべき3つの理由を、事例研究の代わりに紹介することを検討します。

『成長するわたし』「徳質の体験——

『誠実』」の2

### 第33課——メディアの悪影響を避ける

ダリン・H・オックス「ポルノグラフィ」『リアホナ』2005年5月号、87。ポルノグラフィについて話し合う際に、オックス長老の警告を紹介します。

M・ラッセル・バラード「声を届かせる」『リアホナ』2003年11月号、16。黒板にもう一つの欄を作り、悪いメディアに対して声を上げる方法としてバラード長老が挙げているものを書きます。

『成長するわたし』「徳質のプロジェク——『選択と責任』」の黒丸3

### 第34課——清い思い

ボイド・K・バック「啓示の霊」『リアホナ』2000年1月号、26。テキストにあるバック長老の話の補足としてこの説教を使います。

L・トム・ベリー「弟子となること」『リアホナ』2001年1月号、72。テキストにあるバック長老の話を一部割愛し、代わりに部屋の隅を掃除するというベリー長老の話を紹介します。

### 第35課——圧力に耐えて正しい生活を送る

ジョセフ・B・ワースリン「高い所へ向かう旅」『リアホナ』2005年11月号、16。デートの話の代わりに津波の話を使います。

リチャード・G・スコット「邪悪がはびこる世界で正しい生活を送る方法」『リアホナ』2004年5月号、100。レッスンの「わたしたちは不義な世の中にも正しく生活することができる」の項を教える際に、スコット長老が語っている選択について話し合います。

『成長するわたし』「徳質の体験——『選択と責任』」の2

### 第36課——徳高い生活における真理の重要性

チャールズ・デイディエ「神聖な真理の探求」『リアホナ』2005年11月号、48。聖句を使った最初の話し合いを行う際に、真理を見つけるための3つの方法を紹介します。

『成長するわたし』「徳質の体験——『誠実』」の4

### 第37課——大切な体の管理

ボイド・K・バック「あなたがたは神

の宮である』『リアホナ』2001年1月号、85。神殿の写真をみせながら、自分の体を大切にしようというパッカー長老の勧告を読みます。

スーザン・W・タナー「肉体の神聖さ」『リアホナ』2005年11月号、13。適切と思われる箇所を、レッスンを通じて使います。

『成長するわたし』「徳質のプロジェクト——『知識』」の黒丸3

#### 第38課——栄養と知恵の言葉

ボイド・K・パッカー「知恵の言葉——その原則と約束」『聖徒の道』1996年7月号、21。レッスンの2番目の項を教える際に、パッカー長老の勧告を紹介しします。

『成長するわたし』「徳質のプロジェクト——『知識』」の黒丸3

#### 第39課——薬物の乱用

コリン・ホイットリー「だれも傷つけてはいないよ」『リアホナ』2000年3月号、41。「薬物乱用の結果」の項を教える際に、ジョンの話を紹介しします。

#### 第40課——家庭での健康管理

リチャード・M・ロムニー「まずは人助け」『リアホナ』1999年11月号、44。最初の物語について話し合う際にシリーズの経験をかいつまんで紹介することを検討しします。

『成長するわたし』「徳質のプロジェクト——『善い行い』」の黒丸4

#### 第41課——成し遂げる力

リチャード・G・スコット「無限の可能性を認識する」『リアホナ』2003年11月号、41。「自分を低く評価してはいけない」の項のまとめとして、スコット長老の励ましの言葉を読みます。

『成長するわたし』「徳質の体験——『神から受け継いだ特質』」の6

#### 第42課——勇気

ゴードン・B・ヒンクレー「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001年4月号、30。レッスンに列挙されている「話し合いのテーマ」の代わりにヒンクレー大管長が勧める6つのBについて話し合います。

トーマス・S・モンソン「勇気が求められる」『リアホナ』2004年5月号、54。最初の「教師の提示」を行う際



に、モンソン長老の勇気の定義を紹介しします。

『成長するわたし』「徳質の体験——『個人の価値』」の4

#### 第43課——義にかなった生活

ラッセル・M・ネルソン「今こそ用意をする時期である」『リアホナ』2005年5月号、16。レッスンのまとめとして、今用意する方法に関するネルソン長老の勧告について話し合います。

M・ラッセル・バラード「義にかなった女性たち」『リアホナ』2002年12月号、34。「悪事は決して幸福を生じたことがない」の項を教える際の導入として、サタンによってゆがめられた考えに関するバラード長老の説明を紹介しします。

『成長するわたし』「徳質の体験——『選択と責任』」の2

#### 第44課——時間上手な使い方

ダリン・H・オークス「的を絞ること

優先順位」『リアホナ』2001年7月号、99。「時間を効果的に使うことによってもたらされる霊的、この世的な祝福」の項を教える際に、優先順位に関するオークス長老の話を紹介しします。

「時間を管理し、バランスを保つ」『リアホナ』2003年4月号、33。「時間を効果的に使うことによってもたらされる霊的、この世的な祝福」の項を教える際に、この記事で紹介されているアイデアについて話し合います。

#### 第45課——勤労の価値

ジョセフ・B・ワースリン「人生という旅の中で学んだ教訓」『リアホナ』2001年5月号、34。アン・クリニックの話の代わりにベン・カーソン博士の話を使うことを検討しします。

『成長するわたし』「徳質の体験——『知識』」の5

#### 第46課——教育の目的と価値

アール・C・ティンギー「永遠の規範を確立する」『リアホナ』2004年10月号、20。レッスンのまとめとして、教育を受けるようにというティンギー長老の勧めを紹介しします。

ジョン・K・カーマック「永代教育基金——希望に満ちた明るい光」『リアホナ』2004年1月号、32。教育を受けるようにとの預言者の勧告について教える際に、永代教育基金の影響について話し合います。

『成長するわたし』「徳質のプロジェクト——『知識』」の黒丸2

#### 第47課——才能を伸ばす

キャロル・B・トーマス「霊性という才能を伸ばす」『リアホナ』2001年7月号、106。レッスンのまとめとしてこの説教を紹介し、霊性は伸ばすべき才能のうち不可欠なものの一つだと証しします。

#### 第48課——短期目標

ダリン・H・オークス「もっと重要な事柄」『リアホナ』2000年3月号、14。永遠の目標を絶対に見失ってはならないことを思い起こさせるために、オークス長老の勧告を紹介してレッスンをまとめます。

ジョセフ・B・ワースリン「一歩ずつ」『リアホナ』2002年1月号、27。レッスン

の最後に、キンボール大管長の物語とともに全盲の登山家の話も紹介しします。

『成長するわたし』「徳質の体験——『個人の価値』」の2

#### 第49課——責任の委任

ジョセフ・B・ワースリン「主の模範的な生涯から得る導き」『リアホナ』1999年2月号、34。聖句クイズの後で、救い主の委任する能力について述べたワースリン長老の言葉を読みます。

ニール・A・マックスウェル「賢明に秩序正しく」『リアホナ』2001年12月号、18。委任についてのもう一つの説明として、モーセの事例に関するマックスウェル長老の話を、聖句クイズの前に読みます。

## 『アロン神権1』 用リソースガイド

2006年に第25課から第49課を教える際に用いる

#### 第25課——赦し

ゴードン・B・ヒンクレー「赦す」『リアホナ』2005年11月号、81。レッスンの補足としてこの説教を使います。

#### 第26課——安息日に正しいことを行う

アール・C・ティンギー「永遠の規範を確立する」『リアホナ』2004年10月号、20。安息日に関する項をレッスンの補足として使うことを考慮しします。

「河田利夫兄弟の証」『リアホナ』2006年1月号、38。レッスンに出ている物語の代わりに河田兄弟の話と証を紹介することを考慮しします。

『神への務め——教師』「霊的な面での成長」の2

#### 第27課——敬虔

デニス・B・ノイエンスワグダー「聖なる場所」『リアホナ』2003年5月号、71。この説教を使って聖なるものを敬うことについて説明し、安息日への敬虔さについて話し合います。

#### 第28課——女性を尊ぶ

ゴードン・B・ヒンクレー「人生で出会う女性たち」『リアホナ』2004年11月号、82。この説教は、レッスンを通じて補



足として使うことができます。

ジョセフ・B・ワースリン「思いやりという美德」『リアホナ』2005年5月号, 26。キリストのような人について教える前に、思いやりを示した実例を紹介します。

#### 第29課——永遠の家族

M・ラッセル・バラード「永続するものこそ最も大切なものである」『リアホナ』2005年11月号, 41。現世における家族についての話し合いの補足として、説教の冒頭部分と、「家族——世界への宣言」からの引用を使います。

「男性と女性は神の形に創造された」『リアホナ』2005年1月号, 30。クラスに出席している一人一人は神の子供だということについて話し合う際に、「神の子孫」の段落を読みます。

#### 第30課——救いの計画

リチャード・G・スコット「真理の回復」『リアホナ』2005年11月号, 78。この説教をレッスンの冒頭で使います。

「前世」『リアホナ』2006年2月号, 30。レッスンの補足としてこの記事を使います。

『神への務め——祭司』「家族の活動」の5

#### 第31課——祈りと断食を続けて行う

ジョセフ・B・ワースリン「断食の律法」『リアホナ』2001年7月号, 88。断食の律法に従うことによって得られる祝福について説明する際に、この説教を使います。

カール・B・プラット「適切な断食から得られる祝福」『リアホナ』2004年11月号, 47。この記事は、レッスンを通じ

て補足として使うことができます。

『神への務め——執事』「定員会活動」の2

#### 第32課——什分の一

ロバート・D・ヘイルズ「什分の一——永遠の祝福を伴う信仰の試し」『リアホナ』2002年11月号, 26。「神の王国の発展を助ける」の項を教える際に、什分の一の用途に関するヘイルズ長老の説明を紹介します。

#### 第33課——聖典の学習

L・トム・ペリー「モルモン書を読むことから得られる祝福」『リアホナ』2005年11月号, 6。円グラフを見せる際に、犠牲に関するペリー長老の話を紹介しします。

「聖文研究について語る——ヘンリー・B・アイリング長老へのインタビュー」『リアホナ』2005年7月号, 8。レッスンを通じて、適切な質疑応答を紹介します。

『神への務め——執事』「家族の活動」の1

#### 第34課——従順

ヘンリー・B・アイリング「霊的な備え——早くから始め、絶えず積み重ねる」『リアホナ』2005年11月号, 37。レッスンの「わたしたちも従順になることができる」の項を教える際に、アイリング長老が紹介している4つの方法について話し合います。

R・コンラッド・シュルツ「従順による信仰」『リアホナ』2002年7月号, 32。レッスンの導入で「従順による信仰」について話し合い、この言葉が何を意味するのか定義します。

#### 第35課——<sup>せいさん</sup>聖餐

トーマス・S・モンソン「最善を尽くして義務を果たす」『リアホナ』2005年11月号, 56。「証 3」として、聖餐会に関するモンソン長老の話を紹介しします。

ラッセル・M・ネルソン「聖餐会での礼拝」『リアホナ』2004年8月号, 10。事例について考えさせた後で、この記事の「聖餐の執行」の項について話し合います。

『神への務め——祭司』「定員会活動」の1

#### 第36課——証

M・ラッセル・バラード「純粋な証」『リアホナ』2004年11月号, 40。クイズの代わりに、若い男性にバラード長老の話を調べて「証」の定義を見つける活動をさせることを検討しします。

ジェイ・E・ジェンセン「証の力」2005年10月号, 10。証を定義する際に、ジェンセン長老の記事の「証ではないものとは何か」の項について話し合います。

『神への務め——執事』「霊的な面での成長」の5

#### 第37課——アロン神権

トーマス・S・モンソン「道を備える」『リアホナ』2001年2月号, 2。バプテスマのヨハネについて教える際、ヨハネに関するモンソン長老の証を紹介しします。

「神権の奇跡」『リアホナ』2004年4月号, 26。最後の質疑応答を読んでレッスンを締めくくります。

『神への務め——執事』「定員会

活動」の4

#### 第38課——アロン神権者としての召しを尊んで大いなるものとする

データー・F・ワークドルフ「最初の示現が結んだ実」『リアホナ』2005年5月号, 36。ワークドルフ長老が若いころ、アロン神権者としての割り当てを果たすことによってどのように祝福されたか話します。

デビッド・B・ヘイト「神権者として一歩ずつ成長する」『リアホナ』2003年5月号, 43。アロン神権の責任を果たすことの大切さについて話し合う際に、ヘイト長老の経験を紹介します。

『神への務め——教師』「霊的な面での成長」の1

#### 第39課——模範による伝道

トーマス・S・モンソン「預言者ジョセフ・スミス——模範による教師」『リアホナ』2005年11月号, 67。物語の一つ割愛し、代わりに預言者ジョセフ・スミスの生涯から物語の一つ紹介します。そして、ジョセフ・スミスの影響力と模範について話し合います。

M・ラッセル・バラード「会員伝道のきわめて重要な役割」『リアホナ』2003年5月号, 37。テキストにある配付資料の代わりに、良い模範となるためにバラード長老が掲げた3つの提案を簡単に書いた配付資料を配ります。

#### 第40課——主の宮

ラッセル・M・ネルソン「ヤングアダルトと神殿」『リアホナ』2006年2月号, 10。「神殿参入に備える」の項にある物語の代わりに、ネルソン長老の記事の「神殿に対して個人を備える」の項に出てくる話を紹介しします。

ハワード・W・ハンター「神殿に心を向ける民」『リアホナ』2004年3月号, 40。神殿の目的について紹介する際に、ハンター大管長の記事の「会員の偉大な象徴」の項からの引用を使います。

『神への務め——祭司』「家族の活動」の10

#### 第41課——道徳的に清い生活

ゴードン・B・ヒンクレイ「悲劇をもたらす悪」『リアホナ』2004年11月号, 59。

# 中央補助組織会長会

## 日曜学校



第一副会長  
ダニエル・K・ジャッド



会長  
A・ロジャー・メリル



第二副会長  
ウィリアム・D・オズワルド

## 扶助協会



第一副会長  
キャスリーン・H・ヒューズ



会長  
ボニー・D・パーキン



第二副会長  
アン・C・ピングリー

## 若い男性



第一副会長  
ディーン・リード・バージェス



会長  
チャールズ・W・ダールクイスト



第二副会長  
マイケル・アントン・ナイダー

## 若い女性



第一副会長  
ジュリー・B・ベック



会長  
スーザン・W・ターナー



第二副会長  
イレイン・S・ダルトン

## 初等協会



第一副会長  
マーガレット・S・リファース



会長  
シェリル・C・ラント



第二副会長  
ピッキー・F・松森

性的な罪について話し合う際に、ポルノグラフィーに対するヒンクレー大管長の警告を紹介します。

ジェフリー・R・ホランド「個人の清さ」『リアホナ』2000年10月号, 40。個人の清さがこれほど重要な理由としてホランド長老が挙げている3つの点を紹介して、レッスンを締めくります。

『神への務め——教師』「霊的な面での成長」の5

### 第42課——正直

D・レックス・ジェレット「大金を見つけました」『リアホナ』2003年9月号, 8。最初に出てくる物語の代わりに、ジェレット長老の経験を紹介しします。

『神への務め——祭司』「霊的な面での成長」の1

### 第43課——聖典研究のための資料

「聖文研究について語る——ヘンリー・B・アイリング長老へのインタビュー」『リアホナ』2005年7月号, 8。レッスンを通じて、適切な質疑応答を紹介します。

「聖文研究のための提案」『リアホナ』2001年9月号, 29。ここにある提案を、資料としてレッスンの終わりに配ります。

### 第44課——より良いホームティーチャーになる

ジョン・L・ハンター「後輩同僚」『リアホナ』2001年11月号, 28。最初に出てくる物語の代わりにこの物語を紹介し、後輩同僚の持つ影響力について話し合います。

「教師定員会」『リアホナ』2005年2月号, 44。より良いホームティーチャーになるにはどうしたらよいか話し合う際に、2番目の質問とそれに対する答えを紹介します。

『神への務め——教師』「定員会活動」の1

### 第45課——神聖な創造の力

「生殖の神聖な力」『リアホナ』2005年6月号, 38。「自分を尊重する神の息子は、自分自身と家族に祝福をもたらす」の項での話し合いをする際に、「従うべき3つの理由」を読みます。

### 第46課——決断

ジェームズ・E・ファウスト「選択」

『リアホナ』2004年5月号, 51。レッスンを通じてこの説教を補足として使います。また、レッスンに出てくる物語の代わりにこの説教にある物語を紹介しします。

### 第47課——奉献と犠牲

ステイブ・B・オープンソン、デイクシー・ランドール・オープンソン「自らをささげる」『リアホナ』2005年9月号, 16。レッスンに出てくる事例の代わりに、この記事に出てくる自らをささげた例を紹介しします。

イレイン・S・ダルトン「わたしたちはあなたのために行ったのです」『リアホナ』2004年11月号, 89。レッスンを締めくくるときに、「わたしはあなたたちのために行ったのです」という言葉の陰にある物語を紹介しします。犠牲を払うことによって人々のために大きな働きができることを証します。

### 第48課——バプテスマを施す権能

ロバート・D・ヘイルズ「バプテスマの聖約——王国にあって王国のものとなる」『リアホナ』2001年1月号, 6。ヘイルズ長老はなぜ、手術の経験を通して大胆に福音の教義を証できるようになったのかを話します。

キャロル・B・トーマス「バプテスマの偉大な力」『リアホナ』1999年7月号, 109。バプテスマの聖約について説明した後、バプテスマが人に与える影響に関するトーマス姉妹の説明を紹介しします。

『神への務め——祭司』「霊的な面での成長」の6

### 第49課——賢明な時間管理

ラッセル・M・ネルソン「今こそ用意をする時期である」『リアホナ』2005年5月号, 16。あと1週間しか生きられないとしたら何をするか生徒たちに尋ねますが、その前に、夫人の不慮の死からネルソン長老が学んだ教訓について話しします。

ダリン・H・オックス「的を絞ることと優先順位」『リアホナ』2001年7月号, 99。能率専門家話の補足として、最も重要なことに的を絞るということオックス長老の勧告を紹介しします。

## 総大会の様相が世界中の会員に届く／新たに召された七十人

**間**もなく96歳の誕生日を迎えるヒンクレー大管長は、今年初めに受けた手術後の体をおして、第176回年次総大会の土曜夜の部会と日曜午前の部会において説教をし、閉会時には聴衆を祝福した。

大管長は、大会の終わりを次のように結んだ。「神の祝福がわたしの愛する兄弟姉妹である皆さんのうえにありますように。わたしの愛と証<sup>あかし</sup>、そして祝福を皆さんに残すとともに、また会う日まで主がわたしたち一人一人とともにいてくださるよう祈ります。」

ヒンクレー大管長の言葉、ならびに副管長、十二使徒定員会会員、その他の中央幹部と指導者の教へは、通信衛星を介して、世界の83か国、5,952か所に及ぶ教会所有の受信設備がある場所で、85言語で放送された。また、インターネットでは最大61言語で配信された。教会の衛星中継ネットワークがない地域の一部の集会所では、インターネットを介して大会の様相が放映された。

英語を含む85言語は、98パーセントの教会員の母語に匹敵する。教会は、2010年までに100パーセントにすることを目標としている。今回の大会で新たに通訳された言語はエフィク語、ヒリガイノン語、イロカノ語、リンガラ語、ヨルバ語である。

土曜日の部会では、中央幹部10人と地域七十人17人が新たに召された。

今回七十人第一定員会で奉仕するために召されたのは、デビッド・S・バクスター、シェーン・M・ポーエン、ダニエル・L・ジョンソン、マーカス・B・ナッシュ、アンソニー・D・パーキンズである。七十人第二定員会に召されたのは、クレグ・A・カードン、ドン・R・クラーク、キース・R・エドワーズ、スタンレー・G・エリス、ラリー・W・ギボンズである(新しい中央幹部についての紹介は124ページ以降に掲載)。さらに、2001年から七十人第二定員会の会員であったキース・K・ヒルビッグ長老が七十人第一定員会に加わった(『リアホナ』2001年7月号、125-126の紹介記事参照)。

地域七十人は、割り当てられた地域内で非常勤の教会奉仕を行い、国際地域においては地域会長会を支援する。今回地域七十人として召されたのは、以下の各長老である。——ホセ・L・アロンソ、47歳、(メキシコ・サンニコラス);ブラジミロ・J・カンベロ、60歳、(ボリビア・サンタクルス);フアン・A・エチェガライ、61歳、(ウルグアイ・モンテビデオ);エルナン・I・エレラ、50歳、(チリ・サンティアゴ);デビッド・J・ホーア、52歳、(オーストラリア・サンベリー);セザール・H・フッカー、47歳、(ペルー・リマ);ハビエル・イバニェス、51歳、(ベネズエラ・サンクリストバル);ダニエル・M・ジョーンズ、53歳、(ユタ州シダーシティ);ステイブン・C・カー、45歳、(スコットランド・スターリング);ジョニ・L・コッホ、44歳、



説教壇を降りるゴードン・B・ヒンクレー大管長とトーマス・S・モンソン副管長。

(ブラジル・バルネアリオ・カンボリユ);ダニエル・A・モレノ、53歳、(アルゼンチン・ブエノスアイレス);ケント・H・マードック、58歳、(ユタ州ソルトレーク・シティ);J・ミシェル・パヤ、61歳、(フランス・ムージャン);ステイブン・D・ポーシー、58歳、(サウスカロライナ州ノースオーガスタ);カルロス・F・リバス、46歳、(エルサルバドル・サンサルバドル);フアン・

M・ロドリゲス、54歳、(メキシコ・メキシコシティ);カルロス・ビラノーバ、43歳、(ブラジル・ポルトアレグレ)。

2006年5月1日付けで、以下の16人の地域七十人が解任されることも発表された。——サルバドール・アグイレ、ホセ・C・アレソン、ダニエル・P・アルバレス、デビッド・S・バクスター、シェーン・M・ポーエン、ヤーティル・M・



ヒンクレー大管長は3月の中央若い女性集会で上映したビデオプレゼンテーションの中で、若い女性と指導者を次のように激励した。「愛するすばらしい若い女性の皆さん、わたしは皆さんに対する父親の愛をもって語ります。わたしは皆さんがこれまでしっかりと歩んできてくれたことに感謝します。皆さんにお願いします。決して力を抜くことなく、目標と決意をもって前進し、途中で出くわすいかなる誘惑や敵対する力にもくじけないでください。皆さんは様々な国に住んでいます。様々な言語を話します。そして皆さん一人一人の内には、神聖なものが秘められています。皆さんはだれにも劣っていません。皆さんは神の娘なのです。」

セザール、ロバート・M・コーワン、キース・R・エドワーズ、スタンレー・G・エリス、フランツ・R・ガーク、ダニエル・L・ジョンソン、ジョエル・H・マッキンノン、マーカス・B・ナッシュ、アルマンド・A・シエラ、ジェフリー・C・スウイントン、リーマ・S・G・ビラレーテ。

総大会の映像・音声・文字データによる情報は [www.lds.org/broadcast](http://www.lds.org/broadcast) で視聴・閲覧できる(訳注——日本語版の文字データを閲覧するには、[www.ldschurch.jp](http://www.ldschurch.jp) にアクセスし、「ライブラリー」「大会説教」の順にクリックしてください)。

## 世界指導者訓練集会在 全会員に

**最** 近行われた世界指導者訓練集会の全内容が、『リアホナ』および英語版機関誌『エンサイン』(Ensign) 2006年6月号に掲載されることとなった。このような訓練集会のすべての説教が教会機関誌に掲載されるのは初めてのことである。

世界指導者訓練集会の放送が神権指導者や補助組織指導者を対象としていることを考え

ると、集会のすべての説教を公表するのは異例のことである。しかし、今回のテーマは家族について採り上げているため、教会指導者はこれらの説教を全会員が入手できるようにした。

教会神権管理部の管理ディレクターを務める、七十人のデール・E・ミラー長老はこのように述べている。「訓練集会の内容を『エンサイン』と『リアホ

ナ』に掲載するように推薦したのは、家族を強めることが、大管長会や十二使徒定員会がわたしたちの時代に向けた大切なメッセージだからです。中央幹部や役員が確証をもって語る言葉があれば、会員はこれらの原則に関する地元の指導者の教えをさらによく受け入れられるでしょう。」

訓練集会の説教は [www.lds.org](http://www.lds.org) で文字・音声・映像データで閲覧できる。話者はトーマス・S・モンソン第一副管長、十二使徒定員会のL・トム・ペリー長老、デビッド・A・ベドナー長老、そして中央扶助協会会長のポニー・D・パーキン姉妹である。

モンソン副管長は放送の中でこのように述べている。「『家庭は義にかなった生活の基であり、ほかのどのような手段も、家庭に代わる役割を果たし得ませんし、……大切な役割を果たしてはくれません』という言葉を思い起こし、家庭と家族に思いを集中することができました。」

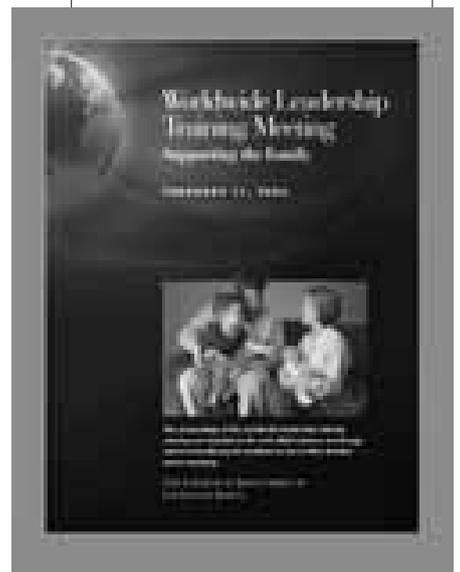
ペリー長老は主の王国で奉仕することについて会員に「率直に」語った。そして、2003年世界指導者訓練集会で語ったゴードン・B・ヒンクレー大管長の言葉を引用した。「家族を絶対にないがしろにしないでください。家族ほど大切なものはありません。」(「仕える特権を喜ぶ」『世界指導者訓練集會』2003年6月21日、23-24)

ベドナー長老は、現代はその時代にも増して、家庭における指導を必要としていると述べた。「今日わたしは、男性、

女性、夫、妻、母親、父親としての皆さんをまず念頭に置き、神権指導者、補助組織指導者としての立場は副次的に考えながら話します。」

パーキン姉妹は、子供に生活必需品を提供し、子供を守り、養い育てるという、両親に与えられた神聖な責任と、家庭で愛を示すことの大切さについて話した。「両親が子供に与えられる最も偉大な贈り物は、親が愛し合っている姿を示すことです。」

訓練集会の説教は皆、従来どおりDVDと冊子にまとめられて各ユニットに配付される。



2月の世界指導者訓練集会での説教は、『リアホナ』および『エンサイン』2006年6月号に掲載される。

インターネット上では、文字データが40言語以上で入手できるようになるほか、集会での話を収めた映像および音声データ、MP3ファイル(音声ファイル形式の一つ)がすでに11言語で用意されており、今後さらに60言語分が追加される予定である。

## デビッド・S・バクスター長老

七十人



七十人のデビッド・スチュワード・バクスター長老は、最も暗い闇のすぐ後に夜明けが訪れると信じています。1955年2月7日、スコットランドのスターリングで、困難な境遇に生を受けたバクスター長老は、家族が教会に加入するまでは生活は苦しかったと語ります。長老の母親であるエレン・スティールは、当時独りで4人の子供を養っていましたが、宣教師に会ってからは、家庭に御霊があふれ「ほとんど手で触れられるくらい」でした。

「わたしたちは即座に福音を受け入れました。」バクスター長老は、12歳だった当時をそう振り返ります。「福音によって生活の中に新たな目的を感じる事ができました。」

それから間もなく、家族でイングランドのサリー州に引っ越し、その支部の会員たちから大歓迎を受けました。「かつて経験したことのないほど歓迎されました。それまでは夕食に招かれるような境遇ではありませんでしたから。」

その地で、バクスター長老は将来の妻となるダイアン・ルウォーズに出会います。二人は一緒にミューチャルやセミナーに出席しました。二人が通った学校には、全校生徒1,200人中、バクスター長老とダイアンを含めて教員が5人いました。

バクスター長老はウェールズ大学で経営学と経済学を修了し、卒業後は、スコットランド・エジンバラ伝道部で専任宣教師として働きました。バクスター長老とダイアンは、1979年2月24日にイギリス・ロンドン神殿で結婚、イングランドに居を構え、その地で4人の子供を育てました。長老は幾つかの国際企業でコミュニケーションならびにマーケティングの仕事をしました。これまでステーキ会長、伝道部副部長、ステーキのインスティテュート・ディレクター、ステーキ広報ディレクター、監督を歴任しています。七十人第一定員会に召される前は、地域七十人としてヨーロッパ西地域第二副会長を務めていました。

バクスター長老は、家族が暗闇の中から引き上げられたのはイエス・キリストの福音のおかげだと語ります。「人生で不公平と思われることはすべて、イエス・キリストの贖いによって正されます。わたしは自分の経験から、救い主の贖いがもたらす祝福を知りました。贖いには、人を新たにし、清め、引き上げる力があります。わたしたちを癒す力があるのです。」◆

## シェーン・M・ボーエン長老

七十人



シェーン・マーテル・ボーエン長老は、自分が七十人第一定員会の召しに備えられたのは「福音のあらゆる祝福を糧とすることができたこと」と「すばらしい家族から豊かに祝福されてきたこと」によると語り、さらにこう述べました。「わたしは従順になることを学んできました。」

ボーエン長老の妻、リネット・モーテンセンはこう語ります。「わたしの知るかぎり、夫の従順ぶりはいつも徹底しています。」リネットと7人の子供は、長老の信頼に足る誠実さに感謝しています。ボーエン姉妹は、1976年12月28日、アイダホ州アイダホフォール神殿で長老と結婚したことについても、夫の従順さを称賛しています。ボーエン長老は父親の勧めでリネットをデートに誘ったのです。

1954年8月29日、合衆国アイダホ州リグビーでライル・ボーエンとジャクリーン・ボーエンのもとに生まれたボーエン長老は、父の楽器店で一緒にピアノを配達したり、教会の農場

でジャガイモを収穫したりして働きました。プリガム・ヤング大学で英語の学士号を取得した後、父親と、また後には息子とともに保険代理店を営みました。

ボーエン長老夫妻は、家族旅行や、5人の孫とともに過ごすのを楽しみにしています。ボーエン長老はまた、息子たちにアメリカンフットボールやサッカーの指導をするのも好きです。

ボーエン長老は、生後9か月の息子を亡くすなどの大きな試練に遭ってきたにもかかわらず、こう語ります。「これまでの人生はすばらしいものでした。天のお父様はわたしたちにとてもよくしてくださっています。」主の御心に従うことにより、ボーエン長老は「主を身近に感じ、主に全幅の信頼を置いてよいことを知ったのです。」

主を篤く信頼しているボーエン長老は、様々な召しを果たすうえで助けを受けてきました。最近まではアイダホ地域の地域七十人として奉仕していました。またステーキ会長、高等評議員、監督、大祭司グループ教師、長老定員会会長、スカウト指導者、スペイン・パルセロナ伝道部の部長を歴任し、さらに専任宣教師としてチリ・サンティアゴで伝道しました。◆

## ダニエル・L・ジョンソン長老

七十人



七十人第一委員会  
のダニエル・ルイ・ジョンソン長老は、神殿の儀式は福音の最高の祝福であると信じています。「神殿に参入することにより、福音に添った生活は非常に多くの面で影響を受けます。できるだけ頻繁に神殿を訪れるなら、それは生活を変える唯一にして最大の影響になり得るのです。」

ジョンソン長老は1946年12月15日、メキシコのコロニアアレスで、ルイ・ジョンソンとリタ・スカウセン・ジョンソンのもとに生まれました。ジョンソン長老はその地で育ち、1999年、その地に神殿が奉献されました。神殿が地元<sup>ミ</sup>の会員に及ぼす影響を目の当たりにした長老は、こう語っています。「今、この地域の人々の生活は神殿参入を中心に動いています。神殿が生活を変えたのです。」

ジョンソン長老は、南北アメリカの至る所で福音が生活を変えるのを目にする機会を得てきました。メキシコ北地域の

地域七十人として多くの場所を訪問しましたが、そこは1966年から1968年にかけてメキシコ西伝道部で専任宣教師として働いた場所でもあります。「1960年代に宣教師がいたすべての地に、少なくとも一つのステークがあります。これほど大勢の強い指導者がいるのは驚くべきことです。」

ジョンソン長老はブリガム・ヤング大学を、会計学と経済学の学士号を取得して卒業しました。妻のリアン・ホルマンと1970年にアイダホ州アイダホフォールズ神殿で結婚しました。

ジョンソン長老夫妻には6人の子供がいて、これまでエクアドル、ホンジュラス、メキシコ、ウルグアイ、ベネズエラ、合衆国のユタ州、ミネソタ州、テキサス州に住みました。「教会の発展を目の当たりにすることができました。これは奇跡です。」ジョンソン長老はそう語ります。

どこに住んでいても、ジョンソン家族は教会の発展に貢献しようと努力してきました。ジョンソン長老は地域七十人の召し以外にも、エクアドル・グアヤキル北伝道部の部長、副部長、ステーク副会長、監督、ワード若い男性会長、福音の教義クラスの教師を歴任しています。◆

## マーカス・B・ナッシュ長老

七十人



マーカス・ベル・ナッシュ長老は、8歳のころ、教会員でない友人の言葉に困惑しました。友人は自分の教会は真実だと信じていると言ったのです。ナッシュ長老はこう語っています。「わたしはこの教会が真実であることを知っていました。ほかの教会に属している人が、その人の教会を真実だと思っているなんて考えたことすらありませんでした。わたしは戸惑い、深く考えながら、帰宅しました。彼が彼の教会を真実だと思っていた、わたしはわたしの教会を真実だと思っているとすれば、どちらが正しいのだろう。」

玄関前の石段に座り、<sup>ほおづえ</sup> 頬杖をついて自問しました。「どうしたら分かるのだろう。」ナッシュ長老はこう語ります。「そのとき、ある声<sup>こゑ</sup>が心の中に聞こえて、こう言いました。『ジョセフ・スミスが神の預言者だったことを知っていますね?』『はい』と心の中で答えました。するとその声<sup>こゑ</sup>が言いました。『そ

れなら、この教会が真実であることを知っているのではありませんか?』わたしは答えました。『そうです!』疑問はすべて解決しました。」

その答えによって証の土台が築かれました。ナッシュ長老は預言者ジョセフ・スミスに対する深い愛をはぐくみ、そしてその土台の上にモルモン書に対する強い思いを築きました。

ナッシュ長老は1957年3月26日、合衆国ワシントン州シアトルで、ブレント・ナッシュとベバリー・ベル・ナッシュのもとに生まれました。1979年5月29日、ソルトレーク神殿でシェリー・ハッチと結婚し、5人の子供がいます。

ナッシュ長老は、国際関係学の学士号と、法学の学位を取得して、ブリガム・ヤング大学を卒業しました。この召しを受ける前は、シアトルにある大手法律事務所の共同経営者でした。教会ではこれまで、ステーク会長、監督、ワード若い男性会長、長老定員会会長、福音の教義クラスの教師を歴任し、専任宣教師としてエルサルバドル・サンサルバドル伝道部で働きました。七十人第一委員会に召される前は、地域七十人として北アメリカ北西地域で働いていました。◆

## アンソニー・D・パーキンズ長老

七十八



**ア**ンソニー・ドゥエイン・パーキンズ長老は、「あらゆる種類の奇妙な機械装置」を足に着けて少年時代の大半を過ごしました。7歳のときに片方の足の成長が止まったからです。10歳のときに、中国人医師による独創的な手術の「実験台」となりますが、結果的に手術は成功しました。

パーキンズ長老は、この出来事をきっかけとして、幾度も中国人と接するようになりました。「わたしは生涯を通じて中国の人々と交わってきました。」

1960年7月22日、合衆国コロラド州コーテズで、ラリー・ラゼル・パーキンズとサニー・キンバラ・ルター・パーキンズのもとに生まれたパーキンズ長老は、13歳になるまで家族が一つの場所にとどまることはなかったと語ります。合衆国ニューメキシコ州ファーマントンで将来の妻となるクリスティン・アボットに初めて出会いました。パーキンズ長老は生徒会選挙でク

リスティンに大敗しました。後に二人はデートをし、長老の伝道中は手紙をやりとりし、1981年11月21日にソルトレーク神殿で結婚しました。

パーキンズ長老は台湾の台北伝道部で伝道し、そこで「大の中国びいきになりました。」ブリガム・ヤング大学で財政学の学位を取得し、ペンシルベニア大学で経営学と美術の二つの修士号を取得し、その後、国際経営コンサルティング会社に入社しました。パーキンズ長老は、後に、中国に会社を構えるために共同出資者の一人となり、妻と6人の子供とともに北京に8年住みました。パーキンズ長老は、現在、台湾台北伝道部部长としての任期を終えようとしています。

「成人してからの時間の半分をアジアで過ごしました。」長老はそう語ります。「そのすばらしい祝福により、わたしの家族はイエス・キリストの回復された福音が全世界に広まっていることを目の当たりにしました。」

パーキンズ長老は、七十人第一定員会に召される以前は、地方部副部長、支部長、長老定員会会長、ワード書記、セミナー教師を歴任しました。◆

## クレグ・A・カードン長老

七十八



**聖**文を通して受ける力に匹敵するものはないと、クレグ・アレン・カードン長老は語ります。「ずっと前に自分で決まりを作りました。聖文を読まないうちは眠りに就かない、というものです。」

カードン長老は1983年から1986までイタリア・ローマ伝道部で部長を務め、伝道部長会を開く度に聖文について話し合いをするようになりました。それ以来ほかの召しでも実践しています。「聖文から学ぶことは、常に議題に入っていました。聖文で教えられている教義に集中する時間を、非常に多く取りました。貴重で大切な時間でした。」

1948年12月30日、カードン長老はアメリカのアリゾナ州メサで、ビレート・アレン・カードン、ウィルフォード・ブラット・カードン夫妻の間に生まれました。イタリアで伝道し、その後1970年11月25日にアリゾナ州メサ神殿でデボラ・デーナと結婚しました。二人の間には8人の子供

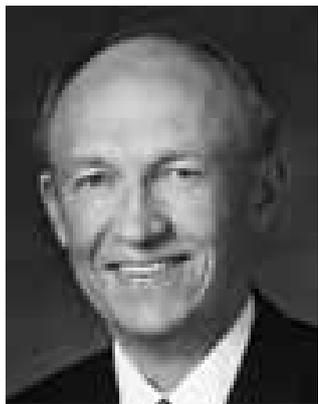
がいます。

両親の義にかなった模範と教えから影響を受けて成長したと、カードン長老は言います。「母からは祈ることを、父からは主を信頼し、主を愛することを学びました。」両親の導きのおかげで、長老は若いときから御霊を認識できるようになりました。あるとき、心配事が心に重くのしかかっていました。「受けてきた教えに従って、わたしは自宅近くの野原に行き、ひざまずいて祈りました。そして、明瞭な答えを受けたことを覚えていています。」生活の中でずっと個人的に教えを受けてきたことは、長老が七十人第二定員会の召しを受ける備えとなりました。

これまで家族経営の不動産事業で働き、アリゾナ州立大学で学士号を、ハーバード大学の政治学大学院であるケネディスクールで修士号を取得し、監督、ステーキ会長、福音の教義クラスの教師、インスティテュート講師を務めてきました。◆

## ドン・R・クラーク長老

七十人



**ド**ン・レイ・クラーク長老は、ポリビア・サンタクルス伝道部の部長を務めていたとき、一人の長老を伝道本部に転任させました。その宣教師が本部以外の場所で最後まで伝道したいと願っていたことは明らかでした。しかし程なく、その宣教師は10年前に行方不明になった娘を捜している女性に出会います。宣教師が女性から見せられた娘の写真には、以前に奉仕した場所で会った見覚えのある顔が写っていました。その宣教師は親子が再会する鍵となったのです。

こうした経験から「神がどれほど深く人を気にかけておられるかが分かるようになりました」と、クラーク長老は言います。思いがけない異動や新しい召しは、人を援助することにつながるのです。長老は喜んで受け入れます。新しい召しについても「ただ管理運営するのではなく、仕えたいと願っています」と語ります。

1945年12月11日、アメリカのアイダホ州レックスバークで、レイモンド・クラーク、グラディス・クラーク夫妻の間に生まれて良い家庭に育ち、良い友人に囲まれ、祝福師を務めていた母方の祖父が同居していたおかげで、幼いときから証を強めることができました。

リックスカレッジ（現在のブリガム・ヤング大学アイダホ校）で準学士号を、ブリガム・ヤング大学でビジネス学士号を、ワシントン州立大学で経営学修士号を取得しています。1970年6月5日に、アイダホ州アイダホフォールズ神殿でメアリー・アン・ジャクソンと結婚し、子供は6人います。

小売業での成功は華々しく、上級役員職を歴任しました。七十人第二定員会に召されるまでは、バージニア州ブエナビスタステーキの高評議員、ステーキ会長、教会案内ディレクター補佐、監督、ステーキ若い男性会長、長老定員会会長を務め、アルゼンチン南伝道部の専任宣教師として奉仕しました。

クラーク長老はこう語ります。「ここに至るまでに、非常に多くの神の子供たちが助けを必要としていることを知りました。わたしたちは、そのような人々がささげる祈りの答えとして神から遣わされ、実際に奉仕することを通して大きな祝福を頂くのです。」◆

## キース・R・エドワーズ長老

七十人



**キ**ース・リード・エドワーズ長老は、監督、ステーキ会長、ジンバブエ・ハラレ伝道部の部長、地域七十人を歴任してきました。長老には、その後の人生を左右するような瞬間がいろいろありましたが、どれも家族が核になっています。

その一例となる出来事は、長老が将来の伴侶となる女性に、初めてデートを申し込んだ後に起こりました。「わたしの双子の兄弟が『彼女は、ただデートに誘うような女の子じゃない。結婚相手にふさわしい人だよ』と言ったのですが、それは正解でした。」エドワーズ長老はエルバート・エドワーズ、メアリー・リード・エドワーズ夫妻の息子で、1964年6月20日、ジュディス・リー・ヒギンズとユタ州セントジョージ神殿で結婚しました。

エドワーズ長老は、1942年3月16日にアメリカのネバダ州ボルダーシティで生まれ、チャーチ・カレッジ・オブ・ハワイに行き、1961年から1963年にかけてフロリダ伝道部で奉仕しました。その後、ブリガ

ム・ヤング大学で政治学の学士号を、ユタ大学で法律の学位を取得しています。

エドワーズ長老は結婚後ネバダ州ラスベガスに住み、法律の仕事に携わりました。そこで、人生を左右するもう一つの出来事が起こります。エドワーズ姉妹が7番目の子供を妊娠していたとき、とても具合が悪くなり、食べることができなくなってしまいました。家族が断食し、神権の祝福を受けると具合はよくなりましたが、妊娠中期になると急変して以前よりもひどくなってしまい、医師からはその夜のうちに子供が生まれてしまうだろうと言われました。不安に駆られながらも、夫婦は一晚中熱烈な祈りをささげ、おなかのいた末娘はやがて月が満ちてから生まれてきます。

エドワーズ長老はこう話します。「あれから21年が過ぎ、娘の結婚式を翌日に控えた日のことでした。その晩、上の子供たちはそれぞれに静かな場所を見つけて主に心を注ぎ出していたことが分かったのです。」信仰のきずなで結ばれた家族がどのようなものかを語る力強い経験でした。

七十人第二定員会の召しについてエドワーズ長老はこう語ります。「わたしが今日あるのは、善良で強靱で堅実な男女が何世代にもわたって築き上げてくれたものがあるおかげです。わたしはただ、その人たちが切り開いた道を上っているだけなのです。」◆

## スタンレー・G・エリス長老

七十八



**神**に仕えることは一つの選択であると、スタンレー・ゲラルド・エリス長老はハーバード大学の学生だったころを思い出して語ります。「周囲を見渡しても、神の存在を科学的に証明する方法はまったくありませんでした。神を信じることは、わたしたちに課せられた選択です。1年生のときにこの選択をしたことを今でも覚えています。」

エリス長老はそれよりもずっと以前、幼いころに祈って御霊の確認を受けたことを覚えていています。1947年1月22日に生まれ、教会員であるステイブン・エリス、ヘイゼル・テラー・エリス夫妻という両親の模範を見ながら育ちました。家族が営むアメリカのアイダホ州パーレーにある農場で成長し、砂糖大根を抜いたり、干草を運んだり、牛の群れを集めたりしながら、一生懸命働くことの大切さを学びました。信仰の大切さを学んだのもその農場でした。

エリス長老は1966年から1968年にかけて、ブラジル伝

道部で奉仕しました。当時ブラジルには伝道部が二つしかありませんでしたが、現在では26に増えています。エリス長老がこの事実を知ったのは、近年になってブラジル・サンパウロ伝道部の部長を務めたときでした。

「わたしたちの心はブラジルと強いきずなで結ばれています」と妻のキャスリン・クレブファー・エリスは語ります。二人は現在、テキサス州ヒューストンに在住しています。

エリス長老は、ハーバード大学で行政学を学んで卒業し、ブリガム・ヤング大学で法律の学位を取得しました。エリス姉妹と出会ったのはブリガム・ヤング大学で、二人は1969年6月7日に、カリフォルニア州ロサンゼルス神殿で結婚しました。

9人の子供を育ててみて気がついたのはそれぞれが皆違うことだと、二人は言います。エリス長老はさらにこう続けます。「今回の召しについても、中央幹部の兄弟たちは一人一人が違っていますが、全員が力を合わせて、効果的に主に仕えていることが分かるでしょう。」

長老はあらゆる召しで、一つ一つのことに御霊の導きを受けてきました。それが七十八人第二定員会の召しへの備えとなっていると語ります。エリス長老は、伝道部長、ステーキ会長、高等評議員、副監督、長老定員会会長、ワード若い男性会長を務めてきました。◆

## ラリー・W・ギボンズ長老

七十八



**七**十人のラリー・ウェン・ギボンズ長老は信条をこのように述べます。「二者択一の場合は、たくさん努力をしなければならぬ難しい課題を選ぶこと。いちばん難しい試練を克服するときに証<sup>あかし</sup>がいちばん強くなる。わたしの証はこうして強くなってきました。」

ギボンズ長老は、1942年7月30日、アメリカのユタ州ローガンで、アンドリュー・H・ギボンズ、ローラ・ヒートン・ギボンズ夫妻の間に生まれ、数々の機会を通してこの信条をはぐくんできました。オランダでの伝道は、人生で成長が最も著しい時期の一つに数えられます。長老は伝道中に父親を亡くしたために、母親を助けて自宅に近い地元の大学に行くか、それとも様々な難題が待ち受けている遠方のスタンフォード大学に行くかを選ばなければなりません。家族の強い勧めがあって、長老はスタンフォード大学へ戻り、歴史を勉強しました。そして医師になろうと決めて、ユタ大学で医学

の学位を、またハーバード大学で公衆衛生学修士の学位を取得しています。

ギボンズ長老は、医学部に在学していた1967年7月21日に、ユタ州ローガン神殿でラドーン・アンダーソンと結婚しました。二人はワシントン州シアトル、テキサス州サンアントニオ、マサチューセッツ州ボストンに住み、その後テキサス州ダラスに落ち着きました。子供は二人います。

召しは自分で選ばませんが、召しを受けることを選択すれば、これも成長する経験になります。現在ギボンズ長老は七十八人第二定員会の会員ですが、最初に召された地域七十人のうちの一人でもあります。そして次のように語っています。「十二使徒定員会の方々に同行してともに学び、ともにひざまずいて新しいステーキ会長を召すための啓示を受けるとき、霊性は飛躍的に伸びました。」

ギボンズ長老は、地区代表、ステーキ会長、ステーキ副会長、セミナー教師などを務めることでも成長してきました。

ギボンズ長老はこう述べます。「良い選択をし、やりがいのある適切な仕事を引き受けるには、前もって優先順位をきちんと決めておくことが大切です。永遠にかかわる大切な事柄に時間を使い、最高の努力を払ってください。」◆



「1856年のエステルの人形」ダン・スピークマン画

1856年から1860年にかけて、3,000人近くが10隊の手車隊を編成し、ソルトレーク盆地まで移動した。そのほとんどがウェールズとスカンジナビア出身の移民だった。手車は荷車よりも安く、速く移動できることが知られていた。2006年6月9日は、最初の手車隊がアイオワ州アイオワ・シティーを発発してから150年目に当たる。



「わたしたちが受けた勧めを心に留め、生活の中で常に実践  
できますように。敵対する者の策略に対抗して堅く立つこと  
ができますように。」第176回年次総大会の閉会に当たり、ゴ  
ードン・B・ヒンクレー大管長はそう述べた。そして、次のように会衆への  
天の恵みを祈り求めた。「神の祝福がわたしの愛する兄弟姉妹である  
皆さんのうえにありますように。わたしの愛と証、そして祝福を皆さんに  
残すとともに、また会う日まで主がわたしたち一人一人とともにいてくだ  
さるように祈ります。天の祝福が皆さんのうえに注がれますように。」